日本建築協会

建築と社会

1998 3

特集

東海支部会員作品
信州―諏訪とその周辺―



都市の顔をつくる仕事。

都市の詩情をスクリーンのように映し出すカーテンウォール。
その多彩な表情のひとつひとつに私たちの技術が活かされています。
不二サッシは、都市景観を彩る、新しい建築文化
コミュニケーションスペースを創造してまいります。

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

本　　社　〒211-0012川崎市中原区中丸子135 TEL044-422-1111
東京本部　〒150-0031東京都渋谷区桜丘町9-8 TEL03-5458-7024
ホームページ http://www. fujisash. co. jp/

30's EYE- 21世紀へのエスキス 第27回
細田　みぎわ
Migiwa Hosoda Archi-Studio
建築の二面性

「30's EYE-21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会形式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。

日　時　1998年 3 月20日(金)
　　18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　細田みぎわ
定　員　30人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
　　＊学生は500円引
　　＊含、飲物・消費税
　　＊団体会員扱いは１社１名
申　込　３月13日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名：30's EYE
　　②氏名
　　③個人・団体会員、一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を３月16日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　〒530-0001
　　FAX.348-0634 TEL.348-0633
主　催　㈳日本建築協会
　　若い会員の集い小委員会
　　主担　廻　はるよ／ﾌﾘｰﾗﾝｽ


Evolving Ribbon



最近、何だかとても、新しくときすまされたモノに魅力を感じます。気になっているキーワード（不連続、反転、境界線、置換etc.）の実体を見つける作業に取り掛かり始めたからかもしれません。
リアルな建築はバランスの上に成立する、などのポピュラリティーを獲得した単なる説明に飽きてしまいました。
複数のレイヤの重なりで成立する建築について、お話しできればと思っています。　（細田みぎわ）

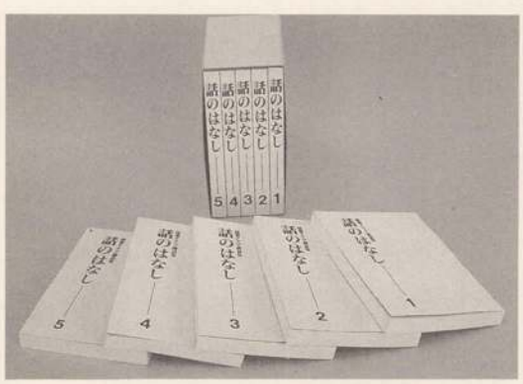
細田みぎわ（ほそだ みぎわ）
1982　大阪市立大学生活科学部卒業
1982～86　安藤忠雄建築研究所勤務
1991　大阪市HOPE計画“住まいの提案”コンペ優秀賞
1994　Migiwa Hosoda Archi-Studio設立
1989、94　SD Review入選
1995　国際女性の夢づくり住まいづくり設計競技（岐阜県）優秀賞
現在　大阪芸術大学デザイン学科、平安女学院短期大学、芦屋芸術情報専門学校の非常勤講師
主な作品
1992、93　Catastrophe－ステージセット／“KANON”in New York by Keiko Fujii Dance Company
1998　Evolving Ribbon－伏見教会／京都
1998　N-P HOUSE／奈良県月ヶ瀬村
1998　M HOUSE 増築／山梨県

'97～'98年版 日本建築協会会員名簿の頒布

'97～'98年版会員名簿が出来上がりました。この名簿は、建築界に活躍される会員の現況（出身校・現住所・勤務先・所在地）を紹介するばかりでなく、官公庁・学校・関係諸団体のほか、建築事務所、建設、建材、設備その他関係業者の主要なものを業種別に収録しており、日常業務に大いに役立つものとおもわれます。何卒お買い求め下さるようお願い致します。
なお、すでにお申し込みの方、営業案内欄掲載の各社へは、発行と同時に一部ご送付申し上げておりますので、申し添えます。
体裁　B5判275頁　本文上質紙
定価　3,000円(消費税含む)〒310円

講演記録集「話のはなし」頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月1回、大阪市内のリーガグランドホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。
この朝食会も昨年4月には第300回の記念すべき朝を迎えました。これを記念して、講演速記録を集約し、「話のはなし」という表題のもと、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本に編集いたしました。講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。



B6判　5分冊

建築クラブのご好意により、1セット・10,000円でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-348-0635
FAX06-348-0634

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈱日本建築協会事務局（TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A5判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

1 茶室の話　岡田孝男
3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
5 すまいの語録　茶谷正洋
7 構造計画とやさしい力学1　須賀好富
8 建具の知識と意匠　山片三郎
9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
10 構造計画とやさしい力学2　須賀好富
13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越輝由
14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
16 石垣と石積壁　窪田祐
17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
21 住宅の家具　光藤俊夫
23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
28 建築金物の知識　立野一郎
30 住宅三備心得帳　平田純一
31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
32 建築塗装の手引き　児島修二
33 建築式典の実際　若林嘉津雄
34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
36 日本壁　山田幸一
37 身近な耐震設計法　前川陽一
38 住宅の照明　監修　大島博
39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会
特装本 火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判2色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

TQCから見た建設業　荒木陸彦
軀体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
現場マンのアイデア発想　合原一夫
建築基準法の実際　矢吹茂郎
ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
鉄骨工事の現場学　石田満裔
建築紛争の実際　岡本辰義
仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
木づくりの常識非常識　上村　武
建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B5判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

構造コストと経済設計　須賀好富
新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
建築設備の健康診断　牧野　茂
外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
建築デザインのための構造計画　須賀好富
場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
建築と緑　瀧　光夫
入門・建築積算　生島道春
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B6判5分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　1セット10,000円（消費税含む）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款　A4判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項
1部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A5判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

今月の表紙
奈良・二月堂への道
撮影　絹巻　豊
表紙デザイン　安里俊久

建築と社会 3

1998
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第79集／通巻912号

CONTENTS

特集● **東海支部会員作品'98** 12
あいち健康の森健康科学総合センター「あいち健康プラザ」／エクシブ琵琶湖／愛知県三の丸庁舎／名古屋市立大学人文社会学部棟／名古屋市立大学芸術工学部デザイン棟／静岡県立大学短期大学部静岡校／瑞浪市立稲津中学校校舎棟／北陸アーバンビル「アーバンプレイス」／多治見市図書館・学習館「まなびパークたじみ」／福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」／いなみ交流館ラフォーレ／愛知県司法書士会館／飛騨高山美術館／医療法人静風会　大垣病院老人保健施設「セイ・ウィンド大垣」／静岡新聞社制作センター／フタバ産業㈱本社社屋／明　鋼材㈱本社ビル／愛知機械工業㈱本社ビル／丸和セラミック本社ビル／ザ・モール安城／サンクレア池下／八事紅葉園土地利用計画／日本ガイシ㈱木曽駒「望山荘」
Tokai Sketch Book 62

特集● **信州～諏訪とその周辺～—地域文化形成と施設づくり—**
[諏訪地方の文化と建築]
諏訪地方—その歴史と風土●岩波豊明 64
諏訪大社の建築●竹村美幸 66
自然環境とまちづくり・施設づくり●原　常夫 68
[地域振興と小美術館・博物館]
人づくり、まちづくりと博物館●大谷勝己 70
観光文化としての小美術館●岡本祐美 74
[作品見学談]
建築探訪Ⅰ●小宮三辰 VS 伊藤和子 76
建築探訪Ⅱ●谷淳之介 VS 伊藤和子 92
[地域の作品紹介]
八ヶ岳美術館・清水多嘉示美術館●柳　眞也 80
諏訪北澤美術館/SUWAガラスの里　ルネ・ラリック美術館●児島学敏 82
神長官守矢史料館 84
生きていた水車製材●藤森照信 85
諏訪湖博物館・赤彦記念館●宮坂　徹 86
信州高遠美術館●宮本忠長 88
アンフォルメル中川村美術館●永木靖久/毛綱毅曠建築事務所 90
[余話] 寒冷地と建築●北原賢二 95
[MAP] 長野県建築マップ（1975—1997） 96
[REPORT] マレー半島をジャラン・ジャラン●福田泰造 98

会告　30's EYE（27）細田みぎわ—建築の二面性—ほか 1
作品作風　都ホテル　チャペルグレース 4
gallery　愛宕山の家（米田　明）●増田俊哉 6
大地の呼吸　ネパール・ヒマラヤ連峰●十倉　毅 8
社会の眼　温故知新／上方文化を育てる●松本　薫 9
建築の眼　新幹線VS.飛行機●吉村英祐　平城京朱雀門の復元●竹本俊平　気候と人類の歴史●宮田照久　町を食べる—（3）にわとり福岡●井口勝文 10
書評　「現代住まい論のフロンティア」●巽　和夫 101
素材と技術が生み出すデザイン　「紙」ーダンボールから●森田　隆 102
法令コーナー　木造密集市街地における災害に強いすまいとまちづくり●松田浩三 104
構造の頁　コンピューターと構造設計—2—●大氏正嗣 106
設備の頁　大阪港咲洲トンネル道路部の換気と防災●吉澤悦男 109
読者の頁　「アルヴァ・アアルト生誕100年記念国際コンペ」●柏木浩一 110　阪神・淡路大震災の３年目報道を見て「あなたのお家は大丈夫」●稲毛政信 111
REPORT　広島の近代文化遺産　忘れられたアレ!!砲台—２—●橋本秀夫 112　近景、中景、遠景が織りなすハービスOSAKA●小笹光彦 114
基礎講座　設計図書の理解—４—●出崎　進 116
GBRCニュース　風洞実験用多点風圧計測システム 117
Sketch Book　最近竣工した新建築作品８点 118
information　重要文化財「泉布観」一般公開.ATC関西学生卒業作品展.“What is this?”道具の謎とき展.建築Next Phase研究会「インテリアのトレンドを読む作業」.スペースデザインスクール開講へ.早川邦彦「建築と色彩」を語る.日本サウンドスケープ協会.インテリアプランニング賞'98募集.トアロード地区のアーバンデザイン公募.「21世紀・京都の未来」国際コンペ優秀作品決まる.環境・省エネルギー建築賞入賞作品決定 120
月間の動き　平成9年12月分 122

■特集予告
4月号／まちなみの演出—最近の外構材料—
5月号／生活環境の安全
6月号／地球環境保全と建築

編集委員会（平成９年度）
■副会長　西岡　道雄　金多　潔　野口　太郎　薬袋　公明　堀内　一夫
■編集理事　※樹井　貴廣　荒巻　恭士　水谷　昇　井上　豊　村上幸三郎　小島　雄　谷津　和久　竹中　統一　山根　敏和　立野　一郎　★施工材料分科会　真塚　達夫　植田　実　松村　慶三　岡崎　康夫　溝神宏至朗　小椎八重猛　山田　修　太刀川丈爾　◎奥瀬野　久　※十倉　毅
■編集委員　福井　茂和
★計画分科会　米澤　秀暢
☆計画系　★法令分科会　伊鍵　憲幸　入江田吉仁　梅村　宏尚　江山　雅己　※小浦　久子　※城戸　史郎　鈴木　克彦　炭崎　勉　田中　直人　中　勝生　松川　敏正　浜野　幸雄　横関　真紀　■作品作風小委員会　吉村　英祐　赤木　隆
☆建築計画系　秋山　克彦　上杉　秀隆　秋山　茂　江副　敏史　朝倉　一晃　大村　昌聡　小笠原絵理　荻窪　伸彦　川上比奈子　菅野　忠司　倉渕奈千子　笹村　欽也　寺岡　宏治　佐藤不二男　杉原　繁　※塚本　史郎　中村　文紀　刃金　国雄　藤城　義丈　服部　光宏　前川　治彦　山本　匡　前田　幸宏
☆インテリア・住宅系　牧野　雅一　石川　佳子　増田　敬彦　加藤　力　増田　俊哉　角方　利幸　◎宮地雄一郎　北浦かほる　■会員企画小委員会　小梶　吉隆　池田　聡実　小島　保人　伊藤　郁郎　下村　陽子　◎稲木　裕子　中村　孝之　大谷由紀子　中村　雅人　糟谷　浩史　※畑　康之　小板橋鉄雄　西田　和子　高岡　伸一　渡邊　秀俊　高田　光雄
★構造分科会　高橋　麗子　大氏　正嗣　塚口　明洋　岸本　一蔵　東宮年一郎　岸本　圭暁　長友理津子　楠本　隆　花野　元一　下野　直人　増渕　昌利　鈴木　勝博　山寄　章子　田中　剛　■広告企画小委員会　※田辺　太一　池渕　俊男　野口　拓也　岩井　武夫　松村　和夫　◎小幡　義明　吉澤　幹夫　加納伸太郎
★設備分科会　勝　一弘　梶井　宏修　河原　正雄　河津　隆之　長野　洋一　田ノ畑好幸　山下　修司
◎委員長　○副委員長　※幹事

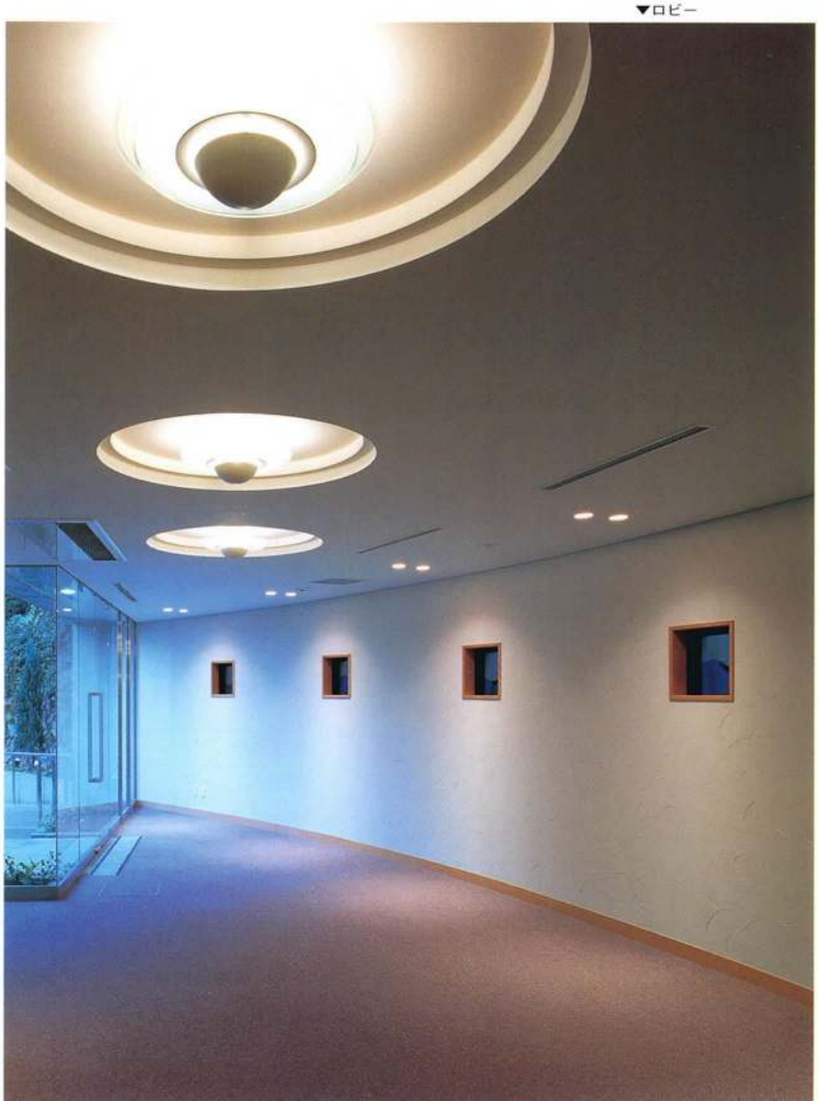
印　刷　平成10年2月25日
発　行　平成10年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

外観

▼礼拝堂



▼ロビー



作品風作

設計監理■
大林組

施工■
大林組

都ホテル　チャペルグレース

京都・蹴上に位置する都ホテルの立地は、北側が府道三条通りに顔を向ける一方で、南側にひろがる東山の山裾に面していて、京都らしい静寂と風情を残す場所となっている。

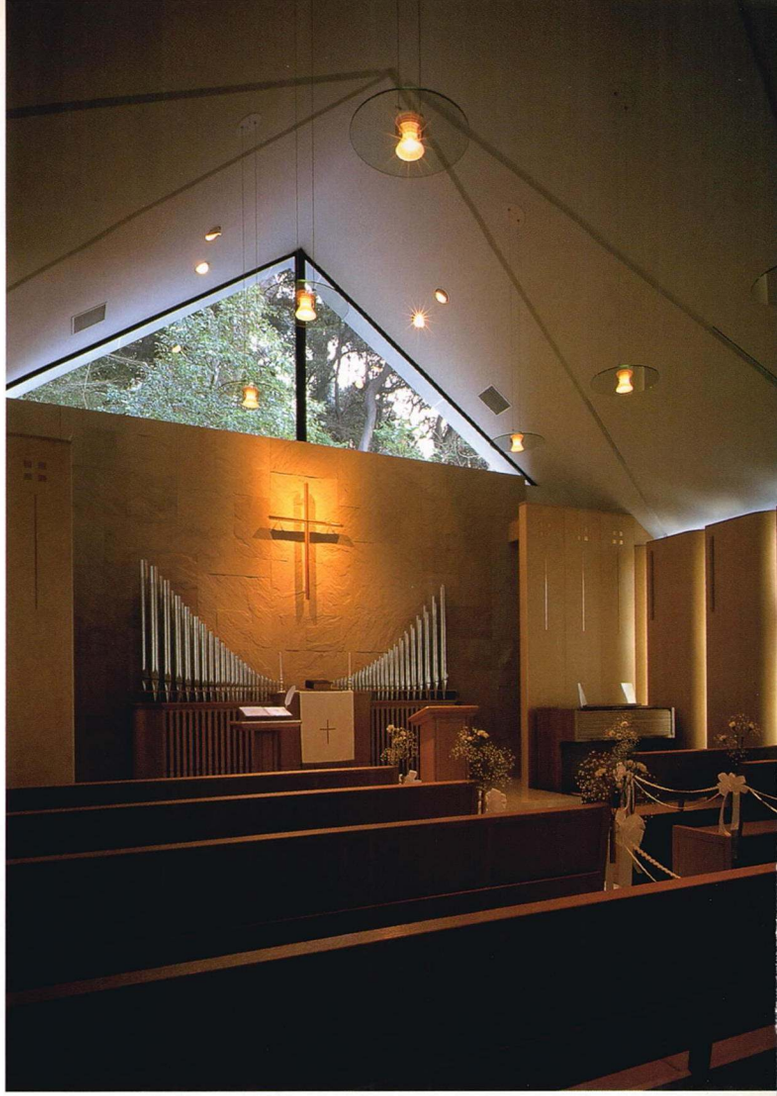
この建築は東山の深い緑を背にして建つ挙式用の教会であり、スレート葺の切妻屋根に煉瓦タイル、石貼りの壁といったオーソドックスなスタイルをもって、借景となる樹々との調和をはかっている。

建物は大きく礼拝堂とロビーとで構成されるが、重厚な外観の礼拝堂に対して、ロビー部をコンクリート打放しとガラスでシンプルに表現し、主役である礼拝堂のファサードをひきたたせた。

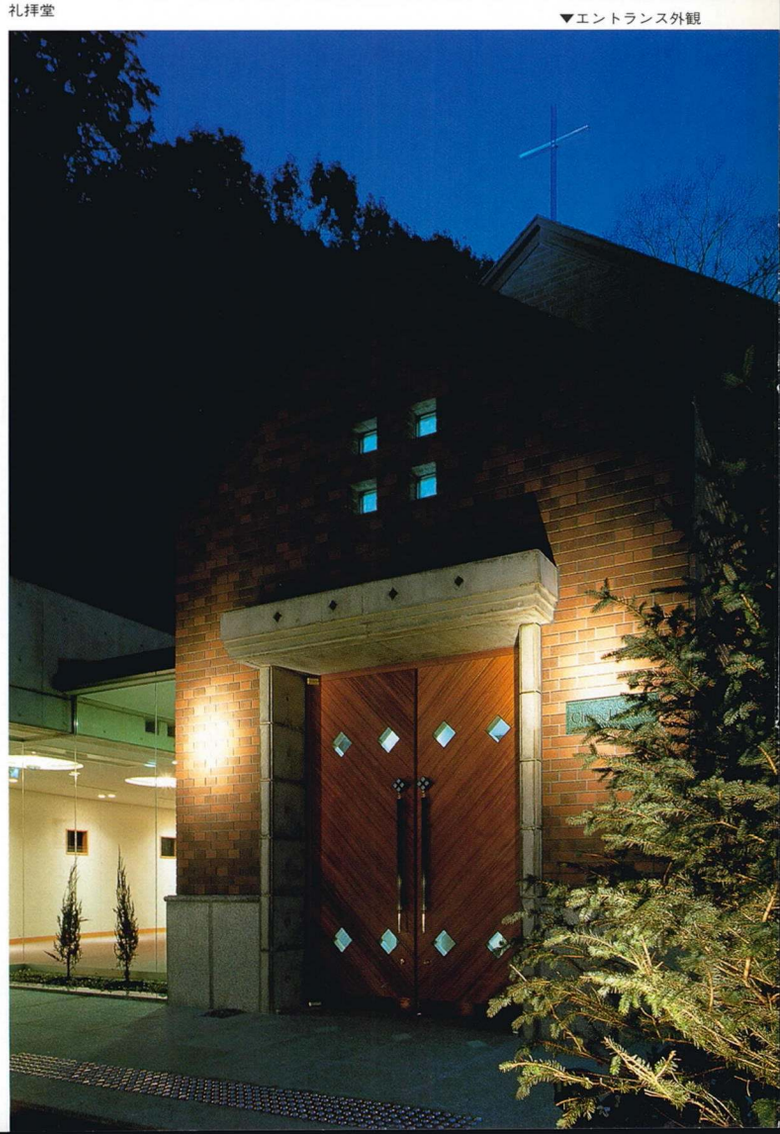
礼拝堂内部では、木立をイメージさせる間接照明入りの壁を配し、聖壇上部にガラス開口部を設けて自然光を取り入れている。参列した人々は、ガラス越しに見える樹々とその枝葉の表情によって、陽の傾きや四季のうつろいを感じ、自分たちが豊かな自然に抱かれていることをあらためて認識するであろう。

教会の外で、式を終えた人々がカリヨンの音とともに新郎新婦を迎えるとき、建物をつつむ静けさが、ふいに祝祭の華やいだ賑やかさへと転じる…、こうしたシーンが多くの人々の胸に刻まれることを願っている。

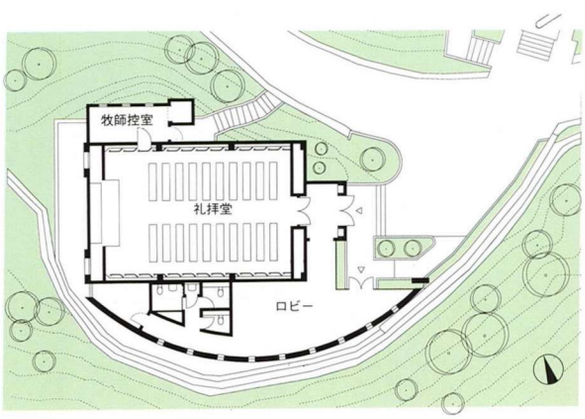
（佐藤和夫・神谷浩司／大林組）



礼拝堂



▼エントランス外観



配置図　1：500

所 在 地 ——京都市東山区三条けあげ
敷地面積 ——54,803.73㎡
建築面積 ——　252.56㎡（新築部）
延床面積 ——　252.56㎡（新築部）
構造規模 ——RC、1F
工　　期 ——1997年７月～1998年１月
最 寄 駅 ——京都市営地下鉄東西線・蹴上駅
撮　　影 ——福澤昭嘉

gallery

愛宕山の家

設計
米田　明／アーキテクトン

震災より３年近くが過ぎようとし、確かに阪神間の街の表層に直接的な爪痕を見いだすことは難しくなってきた。むしろ表情をなくしてしまったにわか造りの新しい街並みにあって、そうして微細な空虚さにこそ今や建物の欠落、人の欠落、生活の欠落、そして記憶の欠落が集中的に象徴されているのではなかろうか。かつてここにあったものは、一体どこにいってしまったのだろう？　この建物は、そのようなコンテクストを背景に建て替えられた住宅である。

地下階レベルには擁壁と一体化された駐車場が置かれ、１階に親夫婦、２階に既に成人に達した独身の息子が住む構成となっている。入口は１つながらもトップライトのもとで半外部化したエントランスホールに２つの内玄関をもつ、独立性を高めた２世帯住宅といっても過言ではない。平面形は、東南方向に開く庭を取り囲むＬ字型プランで、周辺に対して閉じながら開く形式が模索された。

１階では、横方向（東西方向）の空間の連なりがパブリックな領域を形成し、縦方向（南北方向）に展開するプライベートな領域がオーバーラップしている。２階は天井高３ｍのワンルームであり、寝室のコーナーと居間・食堂部分が家具で緩く仕切られている。将来的にはゲストルームとして使用することを想定しているが、一方で道路側の壁に梁をかけて外部デッキ部分を内部空間化する可能性をも視野に入れている。そして北側にとられた居室と一体化された中庭は、上部から来る光を壁に反射させて部屋に送り込む光の筒であり、同時に１階と２階の気配を通底させる回路となっている。

こうして建築を終えてみると外的にも内的にも何かしらとらえがたかった空虚さに輪郭を与え、そこへ光を充填する作業ではなかったかと思えてくる。



米田（よねだ）　明（あきら）
1959　兵庫県生まれ
1982　東京大学工学部建築学科卒業
1984　同大学院修士課程修了
1984　竹中工務店
1991　ハーヴァード大学大学院
　　GSD建築学科卒業
1991　アーキテクトン設立

撮　　影—奥村浩司
企画編集—増田俊哉（作品作風小委員会）





大地の呼吸



ネパールの花畑からヒマラヤ連峰を望む　　撮影　松村　芳治

30歳になった頃、歳の近い先輩と後輩とを同時に山で失った。二人とも大学の山岳部に属し、卒業後はヒマラヤの未踏峰ヤルン・カン（標高8,500m）に初登頂した経歴もある。落命の場所は木曽の山中、海抜わずか600mの山道で車の運転を誤ったのである。

カトマンズから届いた先輩の絵はがきには、ヤルン・カン下山の喜びが綴られ、一歩の登攀に10回の呼吸を要した、とある。風土の厳しさは、眉間に皺を寄せたネパール人の露天商、綿入れを纏った往来の絵柄からも想像できた。そして、背後には晴天を区切る白い「世界の屋根」が眺められた。

大自然のなかで、ひとの営みは小さくてもろい。しかし、このか弱い人間が、いまやヒマラヤ山麓をも汚染しつつあるという。

山なみは相変わらず美しく、たおやかに続く。しかし、私のなかでは、失ったものへの、またこれから失おうとするものへの思いが交錯する。

十倉　毅（編集委員）

社会の眼

温故知新
上方文化を育てる

大阪ならではの個性的な文化である上方演芸が風化することのないよう後世に引き継ぐとともに、時代にふさわしい新しい上方演芸の創造を促す。



大阪府立上方演芸資料館副館長

松本　薫（まつもと かおる）

1942年　大阪府に生まれる
1961年　大阪府に入る
水道部・府税事務所・知事室秘書課・出納室・東京事務所・知事室広報課・総務部外務課・労働部職業訓練課
1985年から現在まで文化関係に従事
企画部府民文化室主幹・㈶大阪21世紀協会へ出向・生活文化部文化課課長代理・㈶大阪府文化振興財団へ出向・堺市市長公室文化振興室長・生活文化部文化課長などを経て、現在に至る。

観光とはその地域の光、国の光を観ることだといわれている。幕末にオランダ政府が江戸幕府に蒸気汽船を寄贈し長崎の海軍伝習所に送った。幕府の威光で光を示す軍艦であるということで“観光丸”と名付けた。

大阪にも新しい観光がひとつ誕生した。落語、漫才、浪曲、講談、奇術などの上方演芸は、大阪を象徴する個性あふれる文化である。この上方演芸に関する資料等を、収集・保存・公開し後世に伝えるとともに、新しい上方演芸を産み育てる文化発信性の高い、大阪のシンボルにもなるユニークな施設として平成８年（1996年）11月15日大阪府立上方演芸資料館（ワッハ上方）をオープンした。

ワッハ上方は、多彩な展示物で構成する展示室をはじめ、寄席の雰囲気を再現した307席の演芸ホール、ミニ演芸場にもなるレッスンルームなど、訪れる方、利用される方に十分楽しんでいただけるよう工夫をこらしている。

開館以来、なみはや国体を機に秋篠宮殿下同妃殿下の御光臨をはじめ、連日全国各地から多数の来館者に楽しんでいただいている。

ワッハ上方は、平成元年（1989年）３月、故砂川捨丸師の遺族から60年間舞台で、愛用していた「鼓」をいただいたことがきっかけで、開館にむけてスタートし平成２年（1990年）２月に、桂米朝（落語家）、西川きよし（タレント）、夢路いとし・喜味こいし（漫才師）、難波利三（作家）、井上宏（関西大学教授）等により上方演芸保存振興検討委員会を設置し、平成４年（1992年）３月その具現化の第一歩となる「上方演芸保存振興事業基本構想に関する報告書」により、「上方演芸資料館」の設置の提言を受け平成６年（1994年）７月大阪府が基本計画を策定した。

その基本理念は、「庶民のいきいきとしたエネルギーの中でその時代の世相や風俗を巧みに織り込みながら社会情勢の変化とともに変遷してきた上方演芸は、大阪特有の“笑いの文化”であり、庶民文化の代表といえるものである。大阪ならではの個性的な文化である上方演芸が時代の変遷につれて風化することのないよう、上方演芸に関する資料等を収集保存して、後世に引き継ぐとともに、時代にふさわしい新しい上方演芸の創造を促し、大阪文化のより一層の振興発展に寄与しようというものである。」そして「残す」「楽しむ」「挑戦する」の３つの要素を軸に事業計画・施設計画などが示された。その後平成７年（1995年）３月、上方演芸ゆかりの地である難波千日前に上方演芸資料館入居ビルが着工され、中型のプロジェクトとしては案外短期間で完成した。

さきに述べた砂川捨丸師の鼓をいただいてから約10年間全国の皆様の善意によるご寄贈で約３万点近くの資料を収集した。今後も資料の収集に努め、保存・公開し、後世に伝えるとともに、新しい上方演芸を産み育てていくことが使命と思う。

このようなワッハ上方にたずさわった者として、建築の門外漢であるが、次のことを提言する。

大阪の町には大阪城をはじめ適塾・泉布観・中央公会堂・商家等、枚挙に暇がないほど数多くの古い重要文化財級の建物が残されている。また最近の建築物をみても大阪ドーム・梅田スカイビル・日銀大阪支店等歴史に残ると思われる風格ある建物がどんどん生れつつある。しかし、時代の変遷につれて過去の遺産である建築物は、消えていく運命にある。手をこまねいていては取り返しのつかないことになる。

千葉県佐倉市にある国立歴史民族博物館では。「日本の建築」と題し、国宝・重要文化財の建物の模型を通して日本建築の特徴を明らかにするため原則として縮尺を10分の１に統一し、外部の形式ばかりでなく内部の構造や細部の手法にいたるまで忠実に再現し、一部のものは分割して内部構造もみせている。

大阪でも、「建築に関する資料館」を社団法人日本建築協会が中心になって取り組み、その実現を図ってみてはどうか。

過去の重要文化財級の建物は勿論のこと、現在の建築でも賞を与えられた建物、ユニークな後世に残していく建物については「設計図等」をまず保存し、「模型」については徐々に製作していくのも一法だろう。

「建築に関する資料館」が完成すれば、また大阪の新しい観光名所として全国から、いや世界中から各界各層の方々に愛し親しまれる娯楽も兼ねた研究施設となるだろう。誕生する日を楽しみにしています。

新幹線 VS. 飛行機

吉村　英祐

兵庫県南部地震による新幹線の高架の崩落は、日ごろ新幹線を利用する身にとって衝撃的であった。首都圏の直下型地震や東海地震がいつ起きてもおかしくないと言われ、新幹線大量脱線の悪夢が頭をよぎる。飛行機は、空を飛んでいる限り地震の影響を受けないという単純な発想から、（わが家から）大阪空港が多少不便でも、東京に行く時はできるだけ飛行機を利用しようとも思った。しかし、果たして羽田空港の管制塔が、大地震時にも管制機能を維持できるようになっているのだろうか。停電時のバックアップ態勢は万全か、落下物により管制官が大けがをすることはないのか、もし管制塔が一時的にでも機能を失ったら、その指示に頼って飛んでいる飛行機はどうなるのか、滑走路は液状化しないのか等々。もし安全システムの盲点が原因で航空機事故が起これば、危機管理の甘さに対する国際的非難を免れないであろう。

阪神・淡路大震災を機に盛り上がった災害時の危機管理の議論はすっかり下火になり、日本建築学会がこの1月16日に発表した「建築および都市の防災性向上に関する提言」（第三次）に対する社会の関心も低調であった。危険性はますます高まり、関心は薄れていく。

大阪大学工学部建築工学科助教授

平城京朱雀門の復元

竹本　俊平

毎日の通勤途上、窓外に平城宮跡が広がる。まさに「広がる」のであり、住宅都市の近郊にこのような空間がある奈良市民の生活の豊かさが幸せである。若草山が東に迫り、日によって南方はるかに二上山と金剛葛城の山並みが遠望できる時は、今日一日が満ち足りた心で過せるような気にさせてくれる空間が広がっている。この様な風景画の世界に、昨年の12月初め頃、朱塗りの朱雀門が点景として新しく加えられた。

総額36億円の巨費を投じて復元された門であるが、その建設過程では色々と議論のあった由。まず、復元と称しても、古い門が何らかの形で残されていたのではなく、確認できたのは柱穴だけと言う事から、建築学・考古学の皆さんで甲論乙駁の議論をした結果、あのような形が考えられたと言う事である。更にまた、建築基準法の適用では新築扱いのため、目に見えないところに耐震構造の鉄骨トラスを組むなどの対策が採用されている。一方、木材加工の方法は昔ながらの道具と工法が採られている。復元プロジェクトの一つの目的に「伝統技法伝承のための実物教育」があったと聞く。うれしい話である。

「復元と言う名を持った新築」の矛盾・解決方法の結晶が、今日も朝日に映えて往時を偲ばせてくれている。

住宅・都市整備公団関西支社管理部次長

気候と人類の歴史

宮田　照久

気候変動と歴史について書かれた一冊の本を紹介したい。

この本によると、約一万年前氷河期が終わってからも寒冷期は何度もあって、地球の気候は細かく変動しているという。現在は暖期だそうな。動乱・動揺の時代と静穏な時代があるように気候変動と民族移動の間には密接な関係があって、世界的大事件はほとんど寒冷・乾燥期に起こっている。つまり寒冷化と乾燥化が飢饉や民族移動の引き金になる。世界の大きな言語群の分布はおよそ5,000年前から3,000年前にかけての気候の大変動に起因する。アーリア人や海洋民族、ゲルマン民族の大移動等もこれにより説明が出来る。万里の長城は防衛的な目的で建設されたと言うより、当時中国側以上に豊かな草原であった匈奴側への人口の流出を防ぐと言った警察的な意味のものであったという説が興味深い。倭寇も日本での低温化がもたらした現象であり、大恐慌やロシア革命も気候変動によって説明できると著者は言う。この本を読むと、自然界のスケールの大きさと、その動きに人間の歴史が密着していることを思い知らされる。気候の変動が文明にダイナミズムを与えたともいえるだろう。こうした地球の気候変動はゆっくりしたうねりであって、COP3等で議論された人為的な原因による急激な変動とは異なるのはいうまでもない。

昭和設計取締役環境設計部長

「気候の変化が言葉を変えた」＝鈴木秀夫/NHK Books

町を食べる——(3) にわとり福岡

井口　勝文

福岡（博多）へ行くとごまさばを食べる。さばの刺身をごま醤油に漬けたもので、とびきり新鮮な魚が手にはいる福岡ならではの一品である。福岡は外海、玄界灘に開いた町なのだ。その福岡で良く知られた名物に水炊きがある。福岡で水炊きと言えばにわとりの鍋料理のことと決まっている。海岸に近い老舗の水炊き屋に上る。スープが白濁している。香ばしいような、乳くさいような湯気が鼻腔を通っていく。なつかしい匂いだ。何処かで何度も嗅いでいる。…そう、それはラーメンだ。

九州ラーメンはもちろん豚骨スープだけど、実は鶏ガラスープと混ぜてある。鶏ガラスープは中華料理の基本中の基本だから、中華の流れを汲むラーメンに鶏ガラスープが使われているのは、至極当然のことではある。そして水炊きも又、もとを正せば中国伝来の料理だという。

何を食べても玄界灘、そして海の彼岸の中国大陸につながるのが福岡だ。生粋の国際都市なのだ。そのくせ（だから、と言うべきか）福岡人は自分達の食い物に、文化に愛着と自信を持っている。自分の町に腰を落ち着けている。だから、私みたいに大阪からやって来てちょいと町の仕事をしようとしても、それはなかなかモノにはならないで、結局は美味しいものを喰って帰るだけということになってしまう。

竹中工務店開発計画本部長

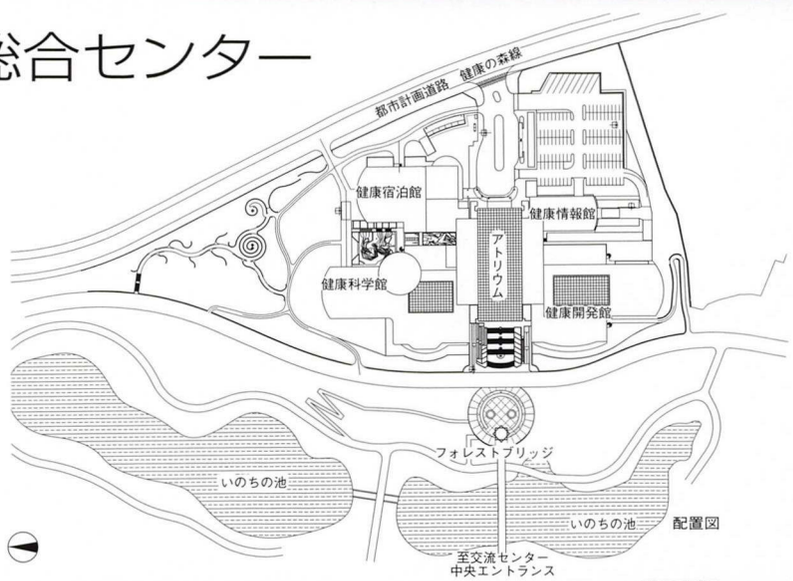
東海支部会員作品'98

あいち健康の森　健康科学総合センター「あいち健康プラザ」
エクシブ琵琶湖
愛知県三の丸庁舎
名古屋市立大学人文社会学部棟
名古屋市立大学芸術工学部デザイン棟
静岡県立大学短期大学部静岡校
瑞浪市立稲津中学校校舎棟
北陸アーバンビル「アーバンプレイス」
多治見市図書館・学習館「まなびパークたじみ」
福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」
いなみ交流館ラフォーレ
愛知県司法書士会館
飛騨高山美術館
医療法人静風会　大垣病院老人保健施設「セイ・ウインド大垣」
静岡新聞社制作センター
フタバ産業㈱本社社屋
明　鋼材㈱本社ビル
愛知機械工業㈱本社ビル
丸和セラミック本社ビル
ザ・モール安城
サンクレア池下
八事紅葉園土地利用計画
日本ガイシ㈱木曽駒「望山荘」

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　小宮三辰
特集記事担当副委員長　林　金之
作品作風担当副委員長　植田　明
デザイン広告担当副委員長　池畠佳紀
特集記事担当委員　松本壮一郎
作品作風担当委員　谷　淳之介
委員　磯村正雄　稲垣貞男　今津芳清　尾崎武寛　後藤利秋　鈴木慶智　仙田　篤　寺本英一　中村嘉男　中村哲士
野崎　勉　福田泰造　細田泰彦　武藤謙人　森口雅文　森田富士男　盛田輝勇　吉田尚道　芳山明人（50音順）

あいち健康の森　健康科学総合センター
「あいち健康プラザ」

設計監理　愛知県建築部営繕課　安井建築設計事務所
施　　工　佐藤・西松・大明・七番建設工事共同企業体



配置図

いのちの池越しに見る北側全景



南西側空撮





東側正面ロータリーより見る夜景

21世紀の本格的な長寿社会に向けて、人生80年時代を心身ともに健やかに充実して生きることのできる地域社会づくりのため、愛知県は大府市と知多郡東浦町にまたがる約100haの地域に、保健・医療・福祉・生きがいをテーマとした総合施設「あいち健康の森」の大型プロジェクトを進めてきた。敷地全体を５つのゾーン（健康、運動、研究、生きがい、福祉）に分け、そのうち健康ゾーンと運動ゾーンを都市公園「あいち健康の森公園」として整備し、豊かな緑の中に全体の中核的施設として健康づくりを総合的に推進する本施設が今回建設されたものである。

健康プラザは、健康度を評価し実践する運動施設の健康開発センター・展示施設の健康科学教育館・宿泊、国際会議等に利用できる健康宿泊館・運営、情報発信としての健康情報館の４施設を中央部で結ぶアトリウムからなりたつ複合施設である。

この施設のメインとなる健康開発館及び健康科学館は眺望の良い公園側に配置し、エスカレーターでワンフロアー下りたところに対称的にサブアトリウムを設け、有料ゾーンを明確にしてわかりやすく明快な動線計画とした。施設の中心である大きな吹抜けのあるアトリウムは公園のエントランスの軸線に合せて設け、東西よりアプローチできる。自然光あふれるガラスの大屋根を掛け亜熱帯系の樹木を植え、いのちの池へ流れ込む滝や水の流れとともに、施設全体を活気づけ生命力あふれるエントランスとした。ここは健康への思いを抱く人々と施設の出会いとなる場であり、「あいち健康の森」にとどまらず県民の全ての健康づくりのシンボルとなることを期待したものである。

外観は森と調和融合し、親しみと楽しさを感じさせる建物となるよう意図した。公園側にあたる西面は建物を低く抑え、水平方向にリズミカルに拡がったのびやかなデザインとし、施設の正面となる東面は健康宿泊館を高層化し、健康の森全体のランドマークとなるようにした。

本施設は、子どもから高齢者まで幅広い層に利用されるため、25mプールのほかに水深調整プールを設け、トイレや手摺など人に優しい配慮をし、内装も自然感のある材料を用い、天然木や木目模様のオーストラリア産砂岩をメインに使い、親しみがあり、暖かくぬくもりのあるインテリアになることを目指した。

設備面では雨水の雑用水への利用とともに、県施設では初めてのコージェネレーションシステムを採用して廃熱利用による省エネルギーを図っている。　（鈴木紘成,伊藤僖朗／安井建築設計事務所）

公園側フォレストブリッジより見るアトリウム外観



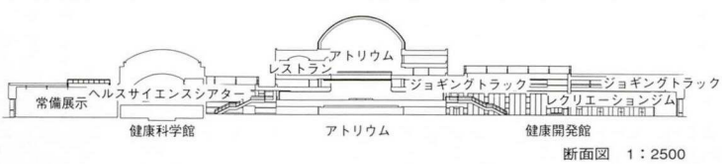
駐車場より見る健康宿泊館



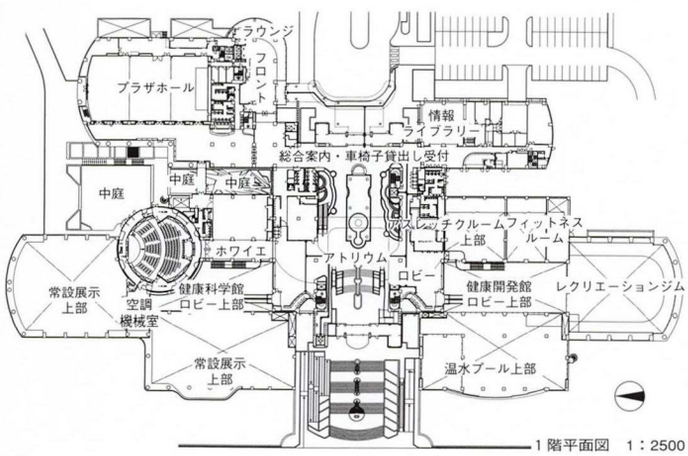




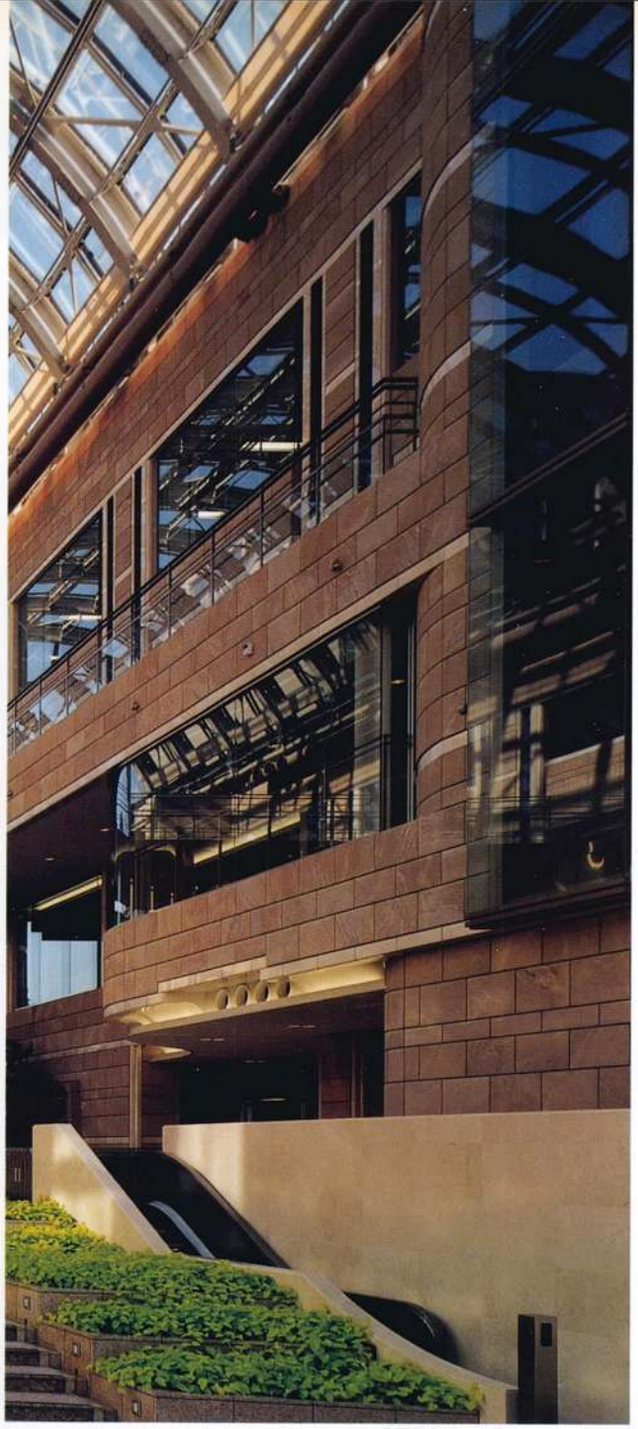
プラザホールホワイエ前の中庭



断面図　1：2500



1階平面図　1：2500



公園側入口より見るアトリウム内観



健康開発館ロビー



健康宿泊館プラザホールホワイエ



▲健康科学館ヘルスサイエンスシアター

健康開発館温水プール▼



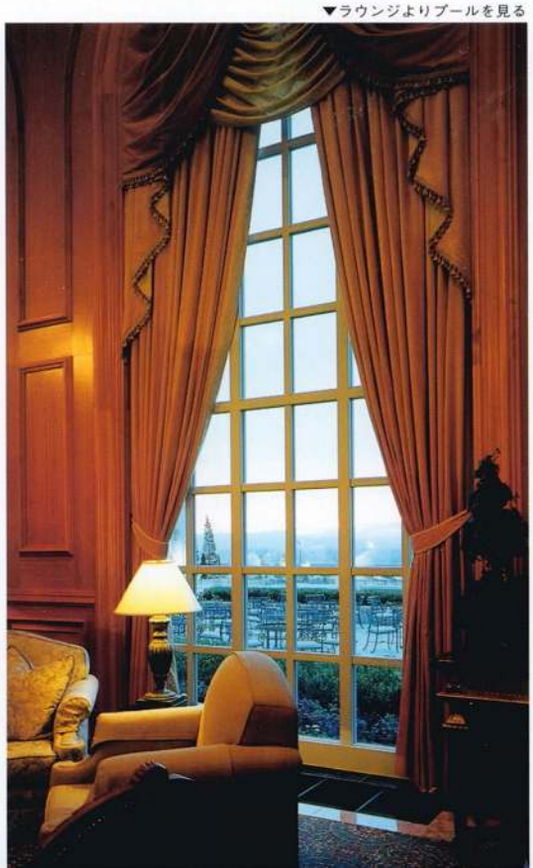
所 在 地　愛知県知多郡東浦町大字森岡地内
敷地面積　52,568.14㎡
建築面積　16,389.34㎡
延床面積　40,300.51㎡
構造規模　SRC、B1F、11F
工　　期　1994年10月～1997年９月
最 寄 駅　東海道本線大府駅
撮　　影　SS名古屋

▲琵琶湖より見る外観西面

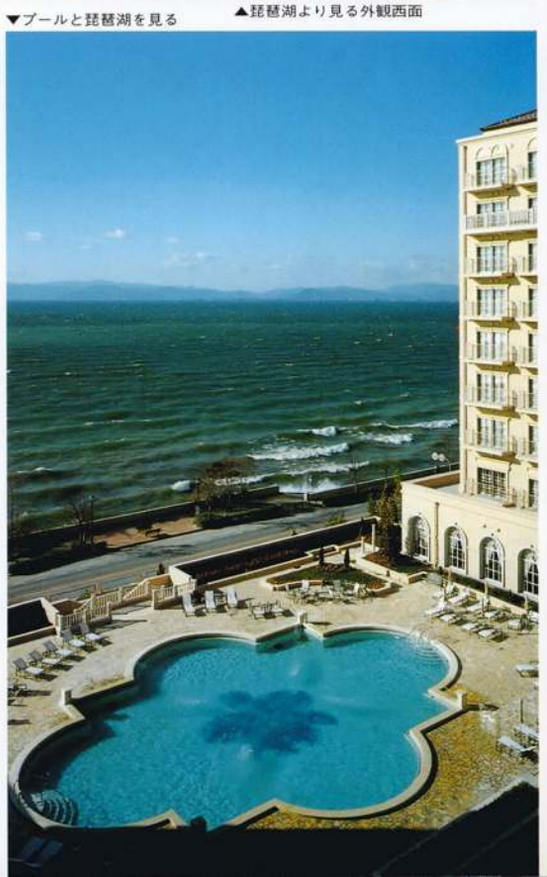
▼サンデッキより南面を見る



▼ラウンジよりプールを見る



▼プールと琵琶湖を見る

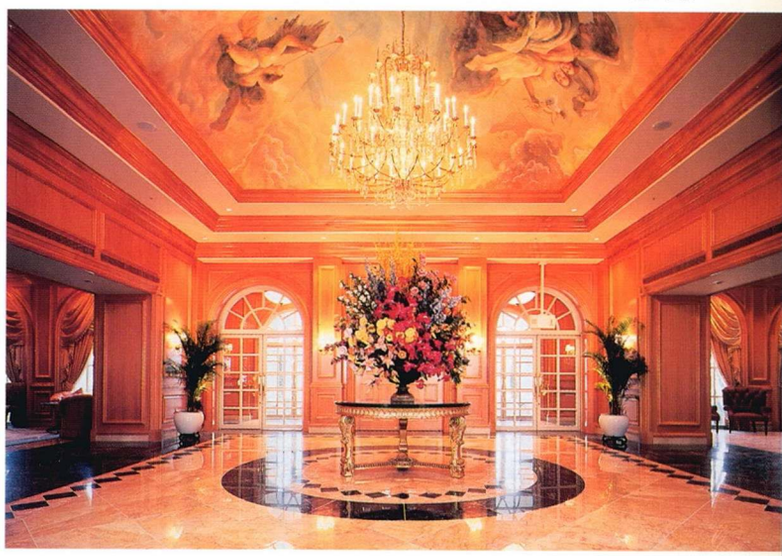


エクシブ琵琶湖

設計　安井建築設計事務所 ハッシュ＆ベドナーアソシエイツ
監理　安井建築設計事務所 オリバー企画設計事務所
施工　熊谷組



エントランス廻り夕景

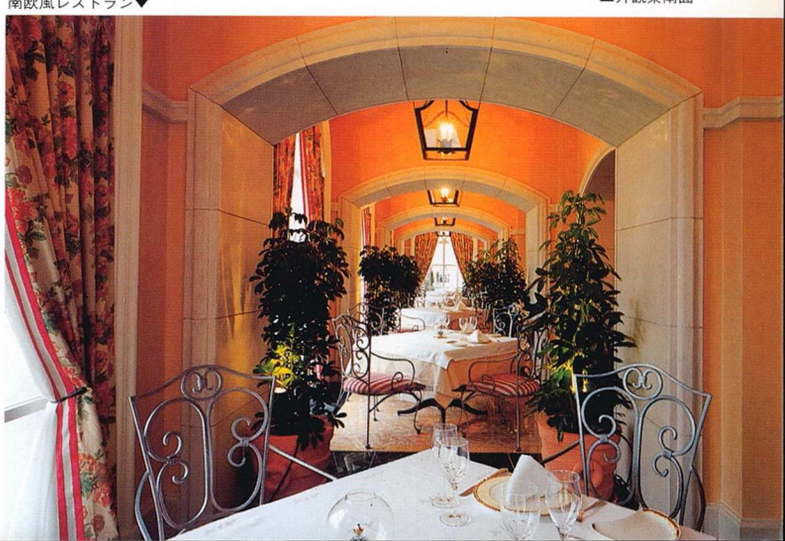


エントランスホール



▲外観東南面

南欧風レストラン▼



エクシブ琵琶湖はリゾートトラスト社がタイムシェアリングシステムを採用した会員制ホテルである。ホテルの一室を14人のオーナーで共有し、１年365日（タイム）を各オーナーの持分比に分割し（シェア）その日数分だけの利用権利を購入する合理的なシステムである。

当ホテルは日本最大のレイクリゾートである琵琶湖との融合をコンセプトに、自然というテイストを意識的に盛り込んだ設計とした。建物をコの字型に取り囲む建物配置により、魅力的なプライベート領域を創りだし、その領域に琵琶湖を誘いこむ形を意図した。さらに、中庭と湖岸道路にレベル差を付け、中庭と湖との連続感のある視覚的な演出がホテル最大の見せ場である。

ヨーロッパ風のクラシックデザインを基本に、外壁はヨーロッパの土壁をイメージし、材料とテクスチャーの選定には十分な時間とエネルギーを費やした。

インテリアにおいては天然木と大理石を基調にヨーロピアンクラシックの優雅さを感じられる格調高い空間を創りだしており、ヨーロッパの長い歴史に培われてきた伝統のデザインとリゾートライフを活かした演出としている。

また一方では、インターネットカフェの併設、スイートルームにインターネットTVを導入するなど伝統の中にも最新の機能を備えたホテルとして特徴づけている。

ホテルの概要としては、１階に神前・教会式の結婚式場、ミニシアター、コンベンション・和室宴会場と多目的に利用できる宴会場、アミューズメント、カラオケ・バー、大浴場（ヨーロピアンスパ）等充実した施設内容となっている。メインの２階レベルにはエントランスホール、２層吹抜けのラウンジ、レストラン、中庭（プール）があり、全ての空間から湖が眺望でき、夕暮れ時には夕焼けに照らされた湖のテラスがそこに広がっている。

３～10階は客室フロアであり、客室全室（268室）から琵琶湖が眺望でき、特に湖畔に面したスイートルームは湖を眺望しながらジャグジーバスが楽しめるようにしている。

なお、インテリアデザインについては、建築主の希望もありリゾート施設に経験の深い米国のハッシュ＆ベドナーアソシエイツの協力を得た。

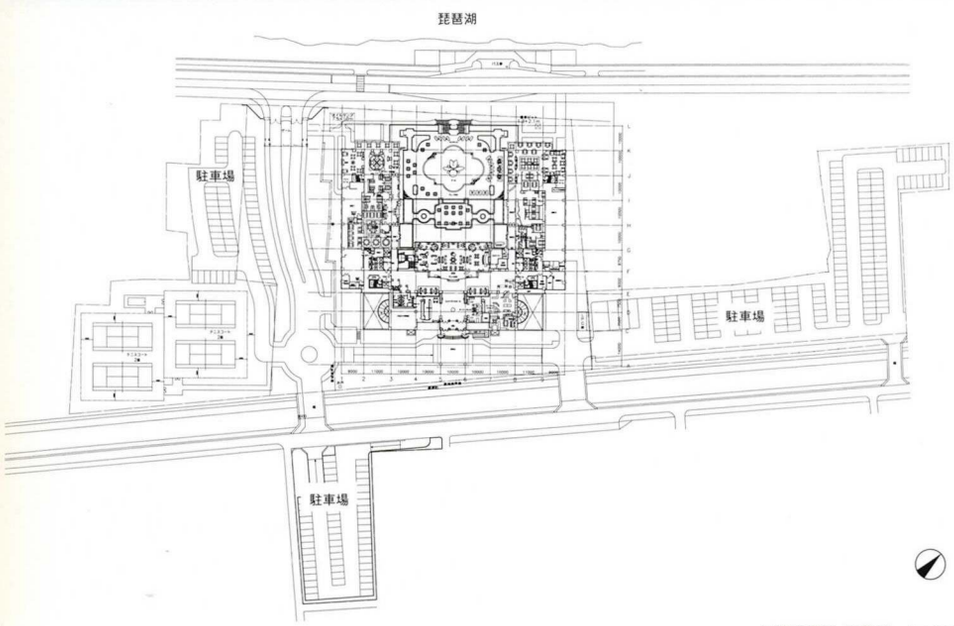
時代を超え、歴史上に残るリゾートとして国内外の人々から広く愛されてきたコモリゾート（イタリア）のエッセンスを継承したリゾートとして、エクシブ琵琶湖リゾートに思いと期待を込めて設計監理にあたった。

（野崎敏夫、本梅　誠／安井建築設計事務所）

所 在 地　滋賀県坂田郡米原町大字磯字男鳥川
敷地面積　10,888.18㎡
建築面積　7,023.29㎡
延床面積　36,351.78㎡
構造規模　SRC、10F、P1F
工　　期　1995年８月～1997年２月
最 寄 駅　東海道新幹線米原駅
撮　　影　SS大阪、伸和、スタジオフルハウス、近代建築社（岡田写真事務所）

施　工
［電気設備］きんでん［給排水衛生設備］須賀工業［空調設備］高砂熱学工業［昇降機設備］協伸工業［鳶・土］内田組［型枠］ビルクス［鉄筋］大森鉄筋工業［石］住江織物［石］YKKアーキテクチュラルプロダクツ［ユニットバス］INAX［造作］高島屋［金属金物］朝日マテックス［金属金物］森下製作所［左官］亀井組［木製建具］大栄木工［鋼製建具］立山アルミニウム工業［塗装］竹林塗装工業［内装］岩谷テクノコンストラクション［厨房設備］フジマック［クレーン］野洲サルベージ［内装］協栄





2階平面図・配置図　1：3000





ラウンジ



南欧風レストラン



スパ



ホワイエ



客室Eタイプ



正面北側外観

愛知県三の丸庁舎

設計監理　愛知県建築部営繕課　東海設計
施　　工　建　　築　安藤・鴻池・徳倉・中村建設工事共同企業体
　　空　　調　丸紅・共和建設工事共同企業体
　　管　　暁・ホッタ建設工事共同企業体
　　電　　気　栗原・白月建設工事共同企業体
　　受 変 電　高岳製作所中部支社
　　昇降機設備　東芝中部支社
　　電話設備　朝日電気工業
　　環境整備　鴻池組名古屋支店
　　植　　栽　村繁造園土木
写真撮影　そあスタジオ



エントランス正面見上げ

所 在 地　名古屋市中区三の丸二丁目６番１号
敷地面積　5,121.84㎡
建築面積　1,792.50㎡
延床面積　25,602.39㎡
構造規模　RC、一部SRC、B3F、8F、P1F
工　　期　1994年７月～1997年４月
最 寄 駅　地下鉄市役所駅



1階エントランスホール



2階あいち国際プラザアイリスホール



2階あいち国際プラザ新聞雑誌ビデオコーナー



8階大会議室

当庁舎は、県下に散在する機関を、名古屋城城郭内の三の丸地区に統合、利用するために計画された施設です。

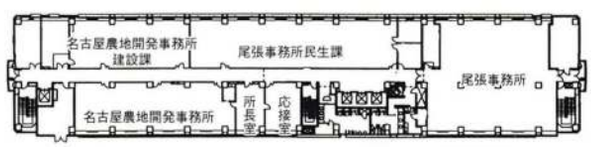
この庁舎施設の顔となる「あいち国際プラザ（国際交流協会施設）」を、玄関ホールに直結し1、2、8階に据えた。

尾張総合庁舎施設は、尾張事務所、名古屋土木事務所、名古屋農地開発事務所、尾張教育事務所の4機関を統合、4～6階に収容。県共同会議施設については、7、8階と地階に配置した構成とし、共同施設の整備にとどまらず、三の丸地区に位置する本庁舎をはじめとする他の県主要施設の事務及び会議室スペースの不足解消を図り、情報機器を駆使して、県民サービスに応えられる施設造りをめざしています。

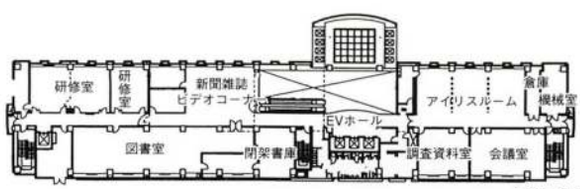
建物外観は、重厚な花崗岩と、磁器タイルの工場打込みプレキャストコンクリート版構成の近代的工法を採用しつつ、本庁舎と共にその風格とやすらぎを与え、外構の彫刻広場の設定や、南側擁壁のモチーフ等が柔らかい雰囲気を生み出し、街路樹と相まって、街並み景観に調和するようデザインされています。玄関ホールには、国際化を具象する世界地図をモチーフに、情報、交流を表現したステンドグラスを設置、当施設の性格を象徴しています。ロビー機能を充実させて人びとのふれあいの場となる空間づくりに傾注。

8階には、同時通訳ブースを備えた大会議室にて、国際会議に対応。利用時間帯の違い等、幅広い管理を考慮した施設構成や、共同スペースの拡充、執務環境の整備とあわせ、複層ガラス窓、雨水の貯水による便所洗浄への再利用など、省エネルギー・環境問題を意識し、老人など、身障者の利用に対応した施設として整備され、来る時代の指針を示しています。

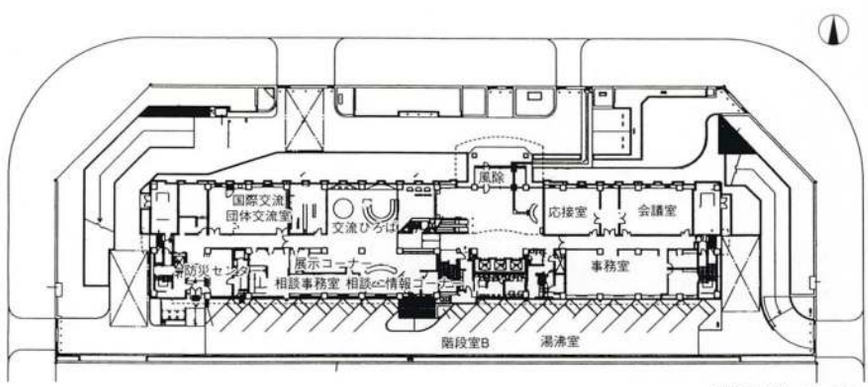
（渡邊正之／東海設計監理室）



3階平面図　1：1000



2階平面図　1：1000



1階平面図　1：1000



北東面全景

名古屋市立大学人文社会学部棟

設計　名古屋市建築局営繕部営繕課　伊藤建築設計事務所
監理　名古屋市建築局営繕部営繕課
施工　建　築　フジタ・真柄・太陽特別共同企業体
　　電　気　クリハラント・名電工特別共同企業体
　　空　調　三機・足立・エアコン工業特別共同企業体
　　衛　生　綜合エンジニアリング
　　ガ　ス　東邦ガス
　　昇降機　三精輸送機
　　受変電　中立電機

所在地　名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑１番地
敷地面積　63,587.59㎡
建築面積　1,580.72㎡
延床面積　10,327.52㎡
構造規模　SRC、B1F、7F、P1F
工　期　1996年３月～1998年２月
最寄駅　地下鉄桜通線桜山駅
撮　影　加藤敏明

▼正面エントランス詳細



▼中庭



名古屋市立大学が人文社会学部の新設に伴ない、山の畑キャンパス諸施設の将来構想の検討を行った。今回、建設された人文社会学部棟は、正門の脇に位置し、キャンパスの顔となるため、先行して建設された教養教育棟で策定されたデザインを素に周囲に建つ建物とも統一感を計りつつ、周辺環境に配慮した施設づくりを目指した。

学生の出入りも多い正門脇での工事とあって、学校への出入り動線と工事用動線が錯綜することのない様、キャンパス東南端の旧グランド内に建てられた。南側に広がる住宅街への視線をかわし、東側隣地への日影をできるだけ軽減するため、建物軸を西へ11度振って配置した。

建物正面の玄関ピロティを通り抜けると、学生たちの屋外ラウンジとなる中庭へ導かれる。この中庭を周回する廊下を通って、東西２ヶ所の屋内階段と２基のエレベーターで各階へとアクセスする。緊急時には、対角線状に配された屋外階段と、南北面のバルコニーが有効となる。

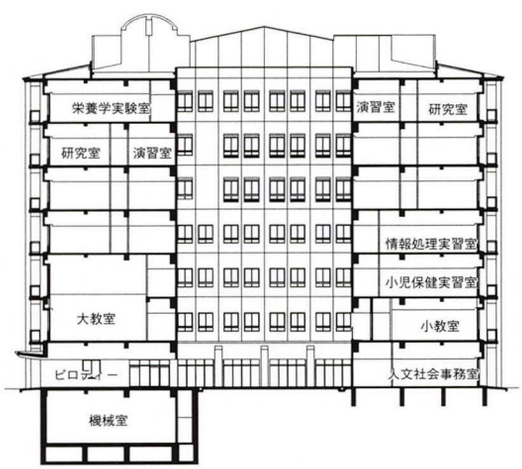
１階は事務管理ゾーン、２･３･４階は一般教室ゾーン、５･６･７階は研究室・実習室ゾーンというように、機能別に分類し経済的な階高となる様計画した。低層部の一般教室ゾーンでは、隣接する教養教育棟と各階で繋ぐことにより、講義室の融通がつけやすい計画とした。

「人間」「社会」「国際」をキーワードに、時代の変化に柔軟に対応できる幅広い能力を備えた人材育成を目指す人文社会学部から、社会に貢献できる人材が一人でも多く巣立つことを期待している。

（小田義彦／伊藤建築設計事務所）



配置図　1：1500



断面図　1：1000


会議室


大教室

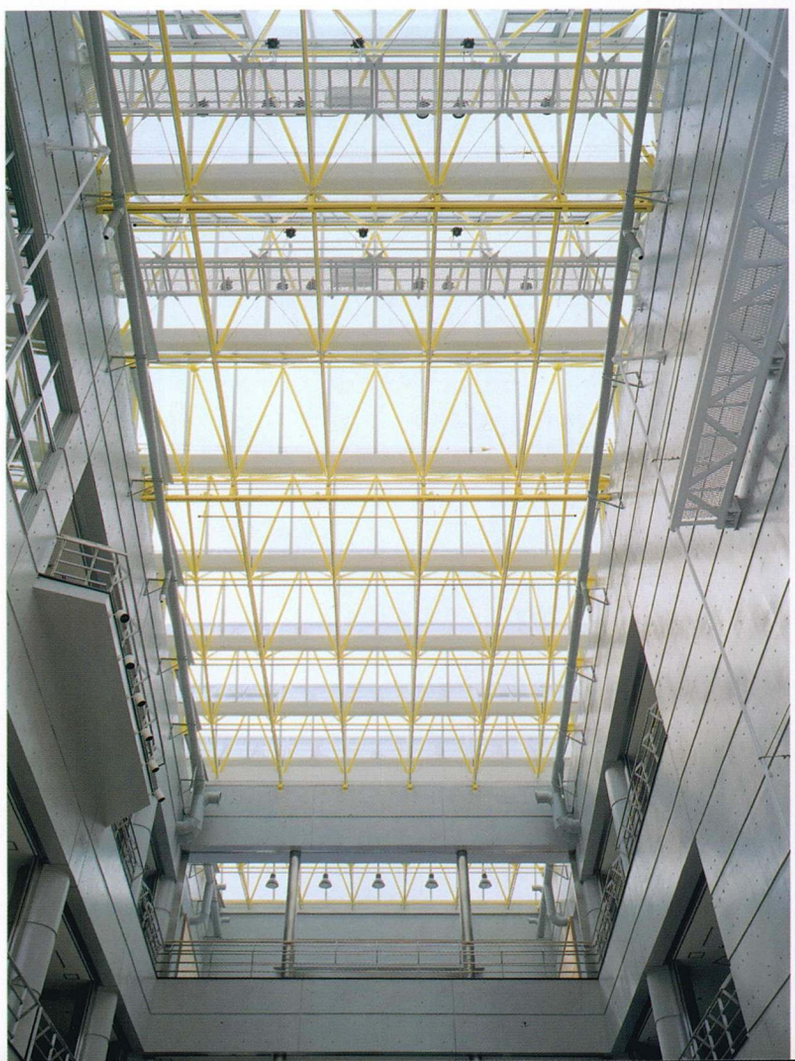

音楽教室



北東面全景

名古屋市立大学
芸術工学部デザイン棟

設計　名古屋市建築局営繕部営繕課　伊藤建築設計事務所
監理　名古屋市建築局営繕部営繕課
施工　建　築　フジタ・永楽特別共同企業体
　　電　気　川北・白川特別共同企業体
　　空　調　川崎・ケイデン特別共同企業体
　　衛　生　ホッタ設備工業
　　ガ　ス　保坂工業所
　　昇降機　日本エレベーター製造



アトリウム見上げ▶

所 在 地　名古屋市千種区北千種二丁目1-10
敷地面積　25,967.63㎡
建築面積　2,226.31㎡
延床面積　6,238.52㎡
構造規模　RC、4F
工　　期　1996年12月～1998年２月
最 寄 駅　JR東海中央線大曽根駅
撮　　影　加藤敏明

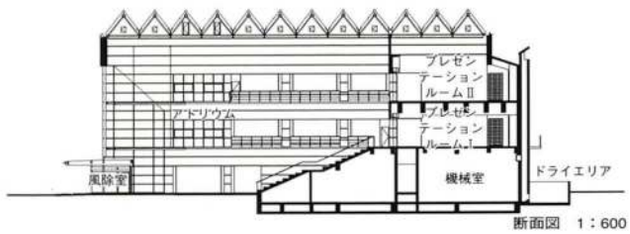
名古屋市立大学が芸術工学部の新設に伴ない、学部の中心施設となるデザイン棟の新築とキャンパスの整備を行った。「健康」と「都市景観」という２つのキーワードを掲げる芸術工学部は、建築はもとより音と光の環境造形、緑化計画からサイン計画まで含めた幅広い総合デザイナーの育成を目指している。デザイン棟は、こうした学生をバックアップし、活動の場を提供する事を目的として建設された。各種の広場とデザイン棟のアトリウムは、作品展示・パフォーマンス等様々なコミュニケーションの場として利用され、その空間やコンセプトが学生に良い刺激を与え続け、学問・研究の場として相応しいものとなるよう意図した。

前身の女子短大キャンパスは緑多い落ちついた雰囲気を持っており、その整備にあたっては既存建物・既存樹木をなるべくそのまま活用するよう計画された。特にキャンパスの中央に位置するデザイン広場は、既存樹木を最大限活かしながら、シンボルタワーも含めた広場全体がデザイン棟との強い繋りを意識させる計画とした。

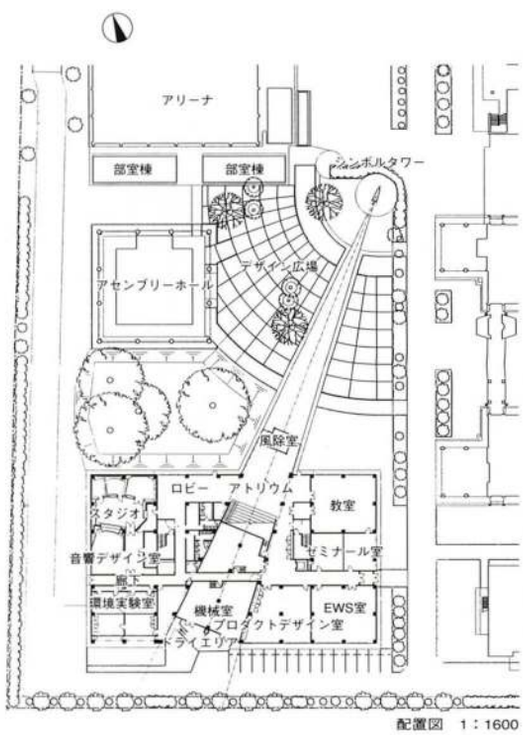
１階には、音響と環境実験実習室、プロダクト系実習室とマルチメディアに対応した情報系実習室、コンピューターを用いた授業に対応した教室とゼミ室がある。２階には視覚情報デザイン及び生活環境デザイン両学科のデザイン実習室とプレゼンテーションルームがある。３階は建築と都市デザインの研究室と、最新の映像・情報機器を導入し、充分な天井高を持った映像スタジオがある。４階には、ガラス張りで開放的な談話室があり、先生と生徒のコミュニケーションの場として、外部からのお客様のレセプションルームとして利用される。

教員や学生の作品展や公開シンポジウムの企画など、開かれたキャンパスとして、一般市民にも親しまれ大いに活用されることが期待されている。

（小田義彦／伊藤建築設計事務所）



断面図　1：600



配置図　1：1600


音響デザインスタジオ


生活環境デザイン実習室


東面ディテール

教育棟アトリウム



体育館



事務・図書館棟

静岡県立大学
短期大学部静岡校

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　教育棟　安藤建設静岡支店
　　事務・図書館棟　市川土木
　　体育館・クラブ棟　佐藤工務店

この大学は保健医療と福祉を連係させ、新時代の担い手を育成する場であるとともに、高齢化社会に対応し、県民のための開かれた情報提供の場としても構想されました。

そのため、街に向け大きく開かれたプラザを中心に、講堂、図書館を備えた事務・図書館棟、教育・研究の場である教育棟、体育館を配置し、キャンパスの西側では施設を敷地境界から７ｍ後退させ歩道と一体となった緑豊かな街路空間を形成しました。

外装はすべて“清潔・奉仕・知性”の表現として選ばれた“白”で統一し、キャンパス全体に統一感を与えました。

プラザの軸線上に配置した教育棟は、５階分の高さを備えたアトリウムを中心に、北側は実習室を、南側には講義室、ゼミ室、教官室を計画し、南側を階段状に積み上げ、各階のテラスを緑で被うことにより、南側に展開するグラウンド（芝生広場）と一体となった立体的な緑のランドスケープを形成しました。

今後、新たに植えられた樹々が育ち、緑におおわれた時、このキャンパスは完成すると考えております。

（佐藤義信／日建設計・名古屋）

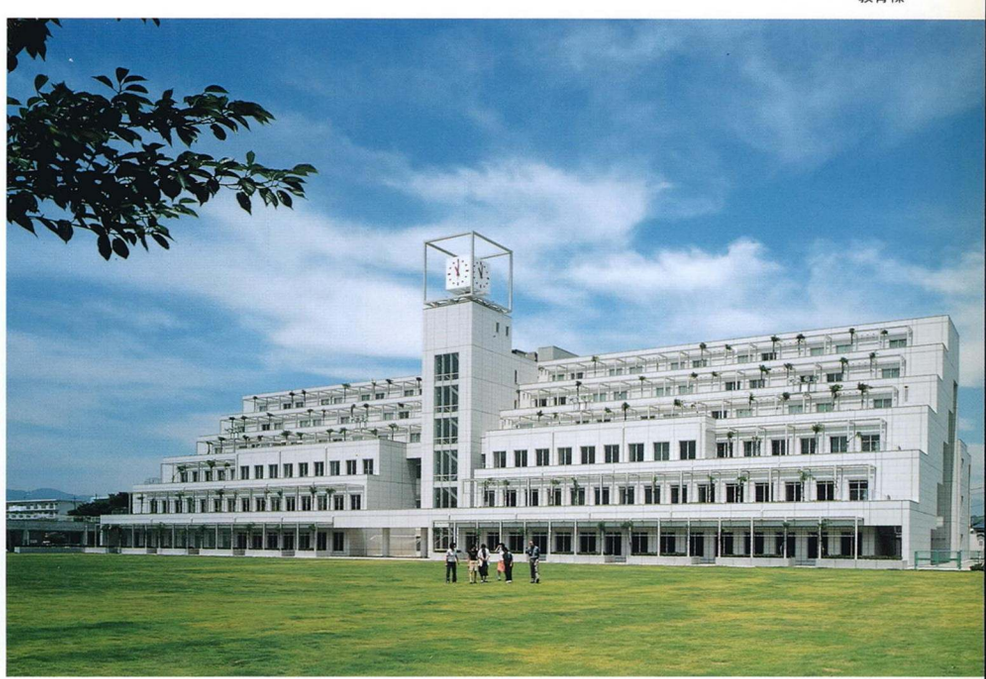


教育棟

所 在 地　静岡県静岡市小鹿2-2-1
敷地面積　37,066.20㎡
建築面積　10,211.01㎡
延床面積　21,908.82㎡
構造規模　SRC、RC、S、B2F、6F、P1F
工　　期　1995年10月～1997年３月
最 寄 駅　JR静岡駅
撮　　影　加藤敏明



航空写真



教育棟



外観南面

瑞浪市立稲津中学校 校舎棟

設　　計　東畑建築事務所
監　　理　瑞浪市
施　　工　淺沼組・新興建設共同企業体
建　　具　不二サッシ
鋼製床下地　ブリヂストン化成品中部

所 在 地　岐阜県瑞浪市稲津町小里456番地
敷地面積　49,741㎡
建築面積　 1,942㎡
延床面積　 3,435㎡
構造規模　RC、S、3F
工　　期　1996年８月～1997年８月
最 寄 駅　JR中央線瑞浪駅
撮　　影　福岡　栄



内の広場



外の広場



多目的ホール

自然に囲まれ緑豊かな敷地に建つ校舎は、１学年２クラス全校生徒200人ほどの中学校である。この校舎は２つの特徴のある広場と展望台を持ち、また、周辺との景観の調和のとれた瓦屋根と形態を持った施設である。外・内部共に仕上げとして、温かみのある素朴で素材感のある木をふんだんにとりこんでいる。

●外の広場…学校と地域をつなぐもの

ゆとりあるエントランス広場としての機能のみならず、学校と地域の空間的な接点、精神的な接点として位置ずけ、学校の行事だけでなく地域の人々との交流の場として機能させ、新たな交流形態が生まれる。

●内の広場…学内コミュニケーションの核

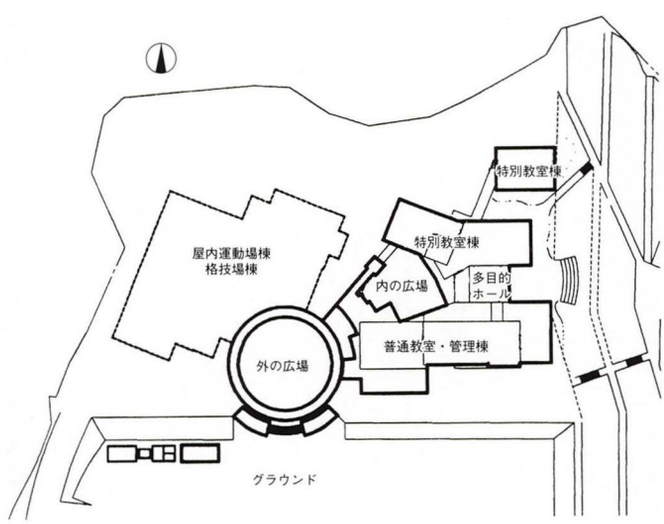
上履きで行ける学舎に囲まれた日当たりの良い広場は、屋根のない多目的ホールであり、内部の多目的ホールと共に空間が一体的・連続的につくられ、学習・生活の核として機能する。

学舎は、多目的ホールを核とし南側に教室棟、北側に特別教室棟が配置され、１階ではコンピューター室、図書室、生徒会室が多目的ホールに面して設けることにより、オープン化も考慮しながら、ラーニングセンターとしての活用も出来るように設けられている。また２・３階では普通教室と共にメディアスペースを設け、グループ学習など多様な活動が日常生活空間の中で可能となるように計画されている。ディテールでは、羽目板張りのデザインやサインなど旧校舎の面影を出来るだけ身近なところで継承しつつ、さりげなく取り込む。

（瓦田伸幸、長谷恭典／東畑建築事務所）



内部



配置図　1：2000

富山市芸術文化ホール（写真奥）と一体的な全景

北陸アーバンビル「アーバンプレイス」

設計　日建設計・北電産業・三四五建築設計共同企業体
監理　北陸アーバン（監理コンサルタント・日建設計）
施工　鹿島・前田・佐藤工業・日本海建興共同企業体



駅北広場とプールバールを整備中



市民を迎えるメインアプローチ・夜景

この施設は、北陸電力本社につづいて、JR富山駅北地区の開発整備で先導的な役割を果たす拠点施設である。

都市のアメニティを創り出すため、隣接して建つ富山市芸術文化ホールに連続する市民ロビーを設け、芸術文化ホールへのアプローチ空間ともなり、官民施設が内外一体化する計画とした。市民ロビーは概ね長さ100m、幅20m、高さ12mのガラスに覆われた明るい大空間となっている。

企業テーマの「水・太陽・夢」をコンセプトに、虹色を表現したモニュメントを設け、低層階にはアトリウムとした市民ロビーと北陸電力PR・展示施設と飲食・物販店舗を、高層階にはインテリジェントオフィスと展望レストランを配し、文化・商業・業務の複合機能を楽しく明快に構成した建物とした。地階には周辺の開発地域へ熱供給を行うため、いたち川の河川水を熱源とする地域冷暖房プラントを北陸地方ではじめて設けた。結果として、根切底が富山市では最深の地上面より－16.5mとなった。

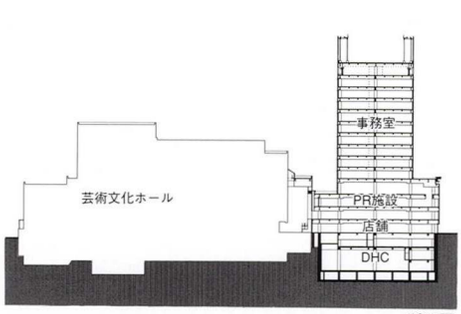
その他、ハートビル法を県で最初に認定を受け、施設の公共性への配慮を心がけ、一方、市民から四季や昼夜を通じて親しまれる建築となるよう、駅前地区の都市景観や賑わいづくりを積極的につくることを意図した。

（南石周作・日比野万喜男／日建設計・名古屋）

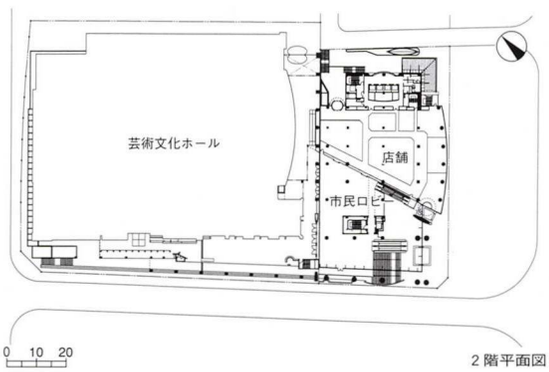
所 在 地　富山市牛島町18-7
敷地面積　3.496.63㎡
建築面積　3,053.66㎡
延床面積　28,172.15㎡
構造規模　S、SRC、RC、B3F、14F、P2F
工　　期　1994年４月～1996年６月
最 寄 駅　JR北陸本線富山駅
撮　　影　SS名古屋＆富山
受　　賞　とやま市都市景観賞・最優秀賞、富山建築賞（1997年）
そ の 他　芸術文化ホール（設計：久米設計）



開放的で明るい市民ロビー



断面図



2階平面図



店舗とPR施設などの複合



多治見市図書館・学習館「まなびパークたじみ」

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　建築　大日本土木・岐建木村JV
　　電気　藤田・小境JV
　　衛生　松村・日野吉JV
　　空調　トーヨコ理研・安田JV

岐阜県多治見市は古くから東濃地方の美濃焼きの集散地として発展し、この地方の陶磁器産業の中心都市として知られている。

「まなびパークたじみ」は、JR多治見駅から至近の、通勤、通学や買物などの市民生活の中心地にあり、南に土岐川を望み、周囲は東濃の山並みに囲まれた自然と都市生活が融合する恵まれた環境にある。こうした立地・環境を生かし、既存の社会教育センターと図書館を複合化させた相乗効果により、生涯学習の拠点として、市民文化の発展と交流に寄与することを目指して計画された。

市街地に立地するため、歩車分離された車寄せと地下駐車場を設けている。1階には施設全体の案内と展示交流機能を配し、2階から4階の低層階に図書館を、5階から上には各種学習室を有する学習館で構成している。特に最上階の7階には軽スポーツ・ダンスから音楽会やAV機器を用いた各種催しに対応できる可動の客席とステージを有する多目的ホールがある。ここで展開される情報の受発信による創造と発見、交流という生涯学習の円環活動を「メディアサークル」と名付け、知性と感性を表す二つの円が融合した形を建物の外観のテーマとした。また、北側への日影や圧迫感に配慮しセットバック構成により南へ向かって上昇する登り窯をイメージするとともに、最頂部のガラス箱に宙に浮く「やきもの」をイメージしたオブジェを冠している。

この施設が開館してから、以前は分棟のため交流が少なかった学習館と図書館の利用者の世代間の交流が生まれ、特に高齢者の方々が若返ったように感じるという施設関係者の言葉が印象的であった。

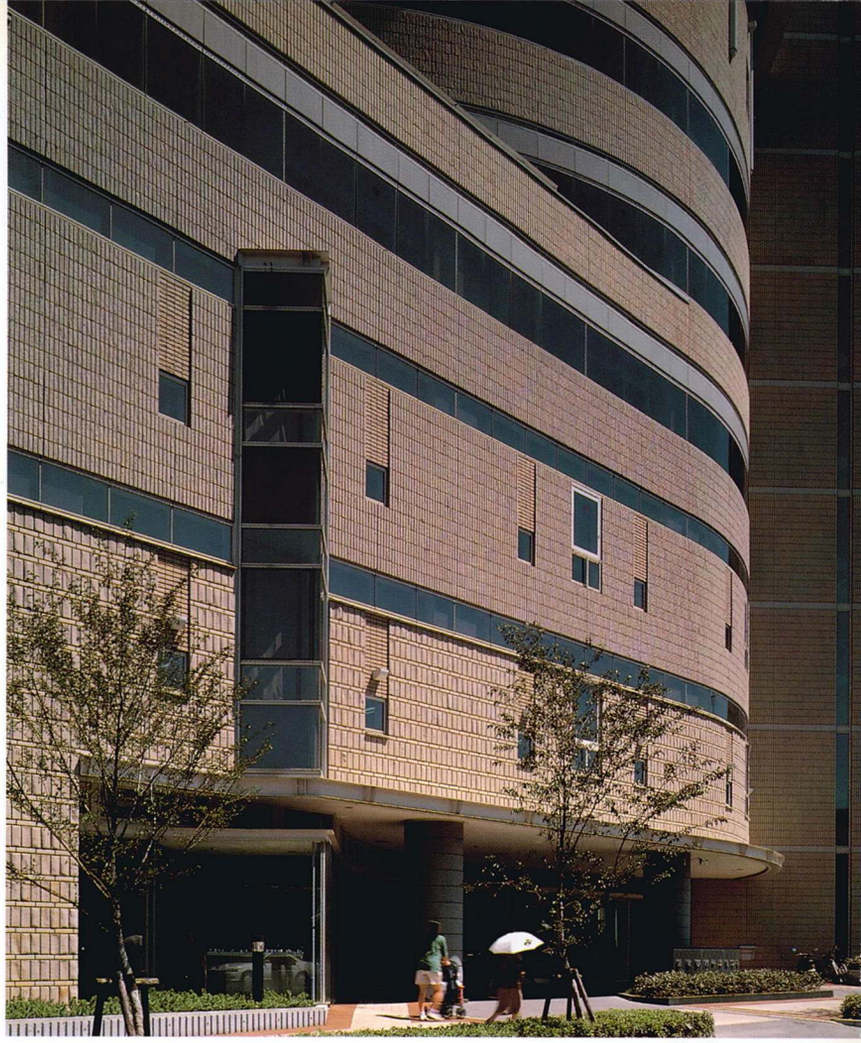
（大島弘資／安井建築設計事務所）



配置図・1階平面図　1：1000

所 在 地　岐阜県多治見市豊岡町1-55
敷地面積　3,526.21㎡
建築面積　1,196.30㎡
延床面積　9,270.20㎡
構造規模　SRC、一部S、B2F、8F
工　　期　1995年3月～1996年12月
最 寄 駅　JR中央線多治見駅
撮　　影　加藤敏明、図書館閲覧室は天童木工より写真提供

◀南面全景

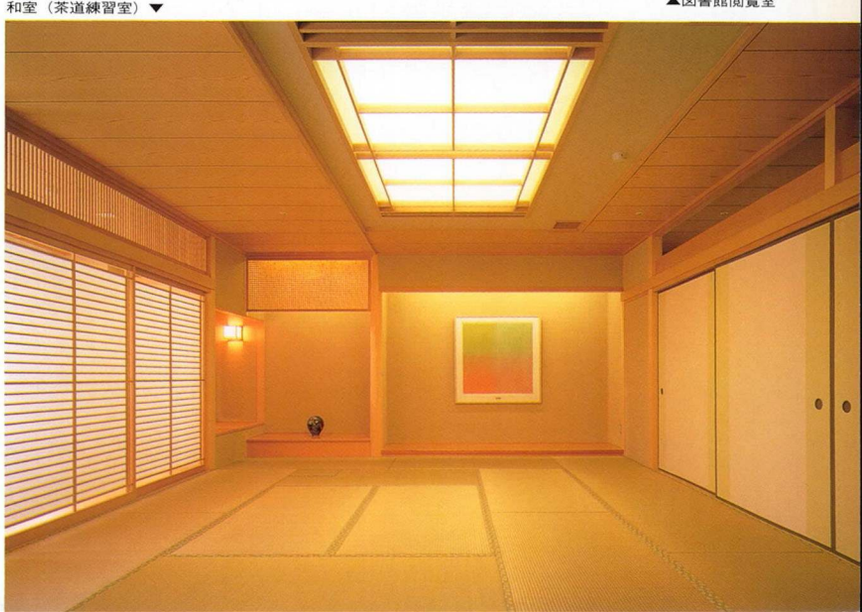


外観ディテール



▲図書館閲覧室

和室（茶道練習室）▼

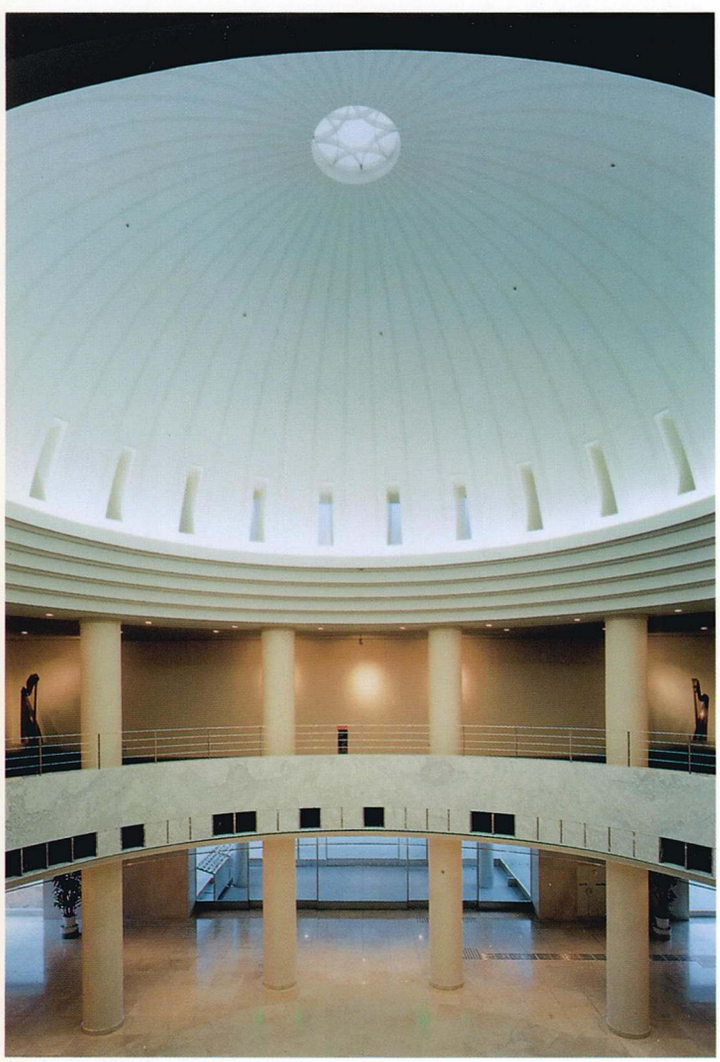




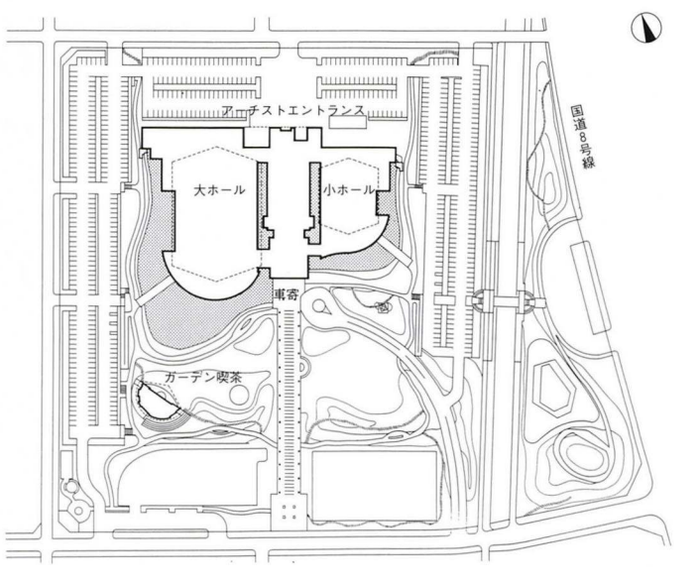
外観

福井県立音楽堂
「ハーモニーホールふくい」

設計監理　福井県土木部営繕課　日建設計・名古屋
施　　工　飛島建設・前田建設工業・村中建設共同企業体



エントランスホール



配置図　1：8000

福井県立音楽堂は、県民が音に親しむ機会を増やし、豊かな音文化に接する場を提供することを目的として昨年９月に開館した。敷地は、福井市街よりおよそ５㎞武生方面へ進んだ郊外に位置する。管理棟を中央に、大小二つのホールを東西に並列した配置とし、観客とアーチストのエントランスを南北に分離した明快な構成としている。

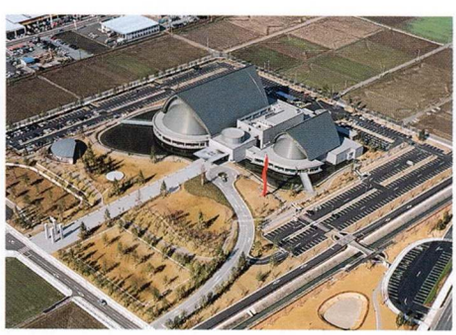
平坦な田園地帯の中で、ひときわ目を引くホール屋根の形は、長年の風雪に耐えた伝統的民家をデザインイメージの出発点としながらも、耐久性の高い材料を使用し、ホール、ホワイエなどの室内環境や性能が十分維持される現代建築としての機能を追求したかたちを表現した。

大ホールは、約1,450席収容のシューボックス型音楽専用ホールとして、ホールの幅に匹敵する天井高さを確保して、音響的にもバランスの良い断面形状とした。壁面は、音の拡散を考慮した竪リブのデザインを温かみのある木質系仕上げにより表現し、フローリング床や客席椅子と統一感を持たせた。天井は反射性の高いガラス繊維補強プレキャストパネルを使用し、切り紙細工を連想させる繊細な形状とし、特徴あるシャンデリアとあわせ、明るく華やかな空間とした。

小ホールは、県民の発表をはじめとする様々な日常利用に対応した、使いやすい中規模ホールとして計画した。約600席収容の客席を、舞台を取り囲む形で配置し、演奏者との親密感が、より高まることを意図した。内部は、竪格子をデザインした壁面と、やわらかな曲面の天井パネルの連続により落ち着いた空間としている。また、多目的利用を考慮して、残響可変壁や幕類などの吊物機構を充実させている。

建物周囲は、池や音楽にちなんだ植栽による修景を行い、ミニコンサートが行えるガーデン喫茶や、野外ステージも備え、自然の中で音楽に親しむ環境づくりを心がけた。

（高山順行・葛原定次／日建設計・名古屋）



航空写真

所 在 地　福井市今市町40号1-1
敷地面積　67,136㎡
建築面積　 8,310㎡
延床面積　11,649㎡
構造規模　SRC、B1F、3F
工　　期　1995年12月～1997年８月
最 寄 駅　福井鉄道福武線ハーモニーホール駅
撮　　影　SS北陸

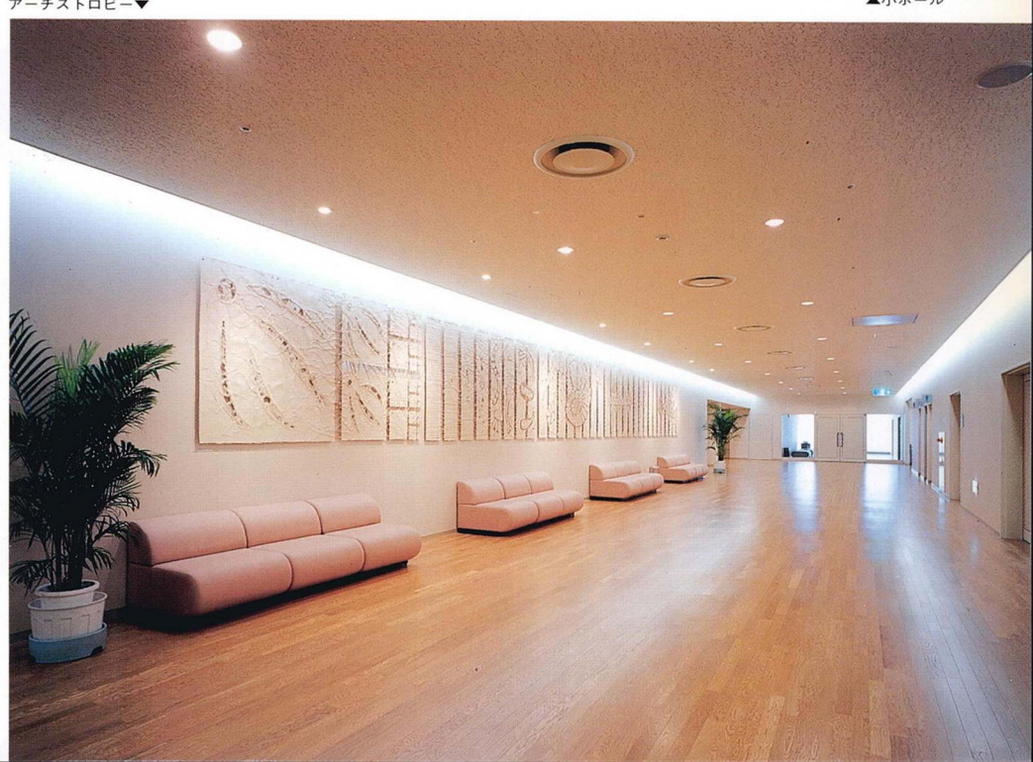


大ホール



▲小ホール

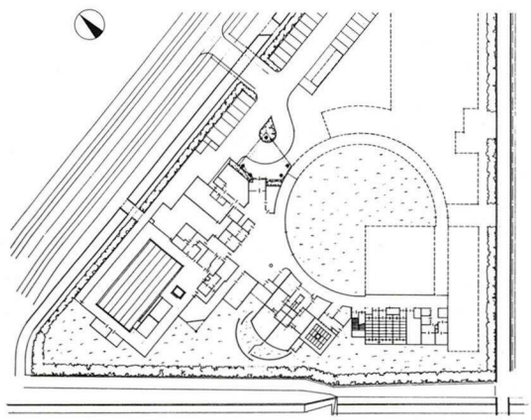
アーチストロビー▼



南側遠景

いなみ交流館ラフォーレ

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　松井建設・嶋組・横川組共同企業体



配置図



西側遠景



東側遠景

町の裏山（閑乗寺公園）から眺めると、一面に田園風景が拡がってきます。水を引いた田面に夕陽が銀色にはねかえり、「こしひかり」の稲穂が頭をもたげる頃、景色は金色に輝きます。家々は、その中に点在して、いわゆる散居村集落の眺めが続いています。

日本中の（特に都市の）風景が平均化され、どの町も同じ様に見えますが、この地方のこの風景は後の世代に残してほしいもののひとつです。しかし冬の雪は60～80cm（多いときは200cm）ほども積もり、春に吹く通称「井波風」は風速50mにもなろうかという勢いです。これらの厳しく実りの多い風土条件の中で町民が肩を張らずに集まれる所を造るという事で、多世代交流型福祉施設「いなみ交流館ラフォーレ」が建設されました。

今回は全体計画の半分ほどの竣工ですが、待ち合わせ場所としての交流ホールを中心に温水プールや浴室、談話室を巡らし更にグループ室、そして児童交流室などを配置し多くの世代を迎え入れます。将来的には多目的ホール、シルバー人材センター、屋内ゲートボール場などが計画されていますが、これらの諸施設を直径50m弱の回廊でつなぎます。

温水プールは０歳から老齢まで水に親しんでもらう為、０～20cm、50cm、110～125cmと３段階の水深を用意してあります。

畳敷きの談話室は風呂上がりの人や、仕事帰りの人が、ゆっくりくつろげる様、囲炉裏を設け、雪に閉ざされる日の多い季節にも人々が集まりたくなる様にしてあります。

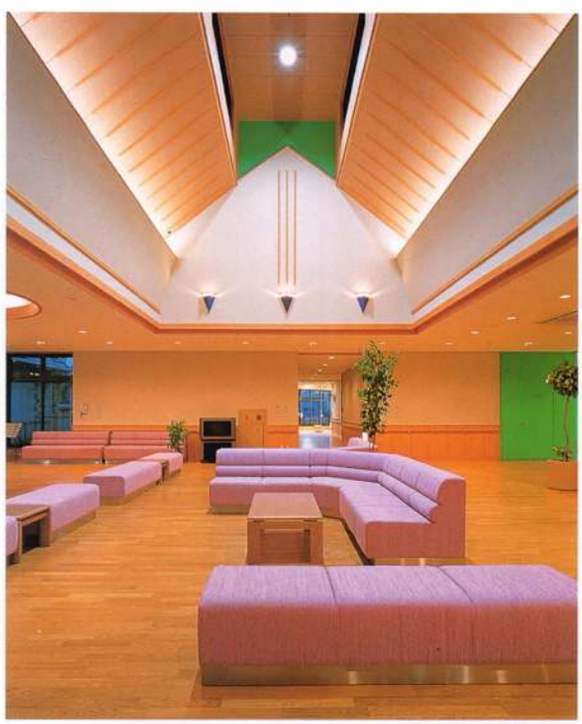
この施設は「まちの中のいえ」をイメージしています。

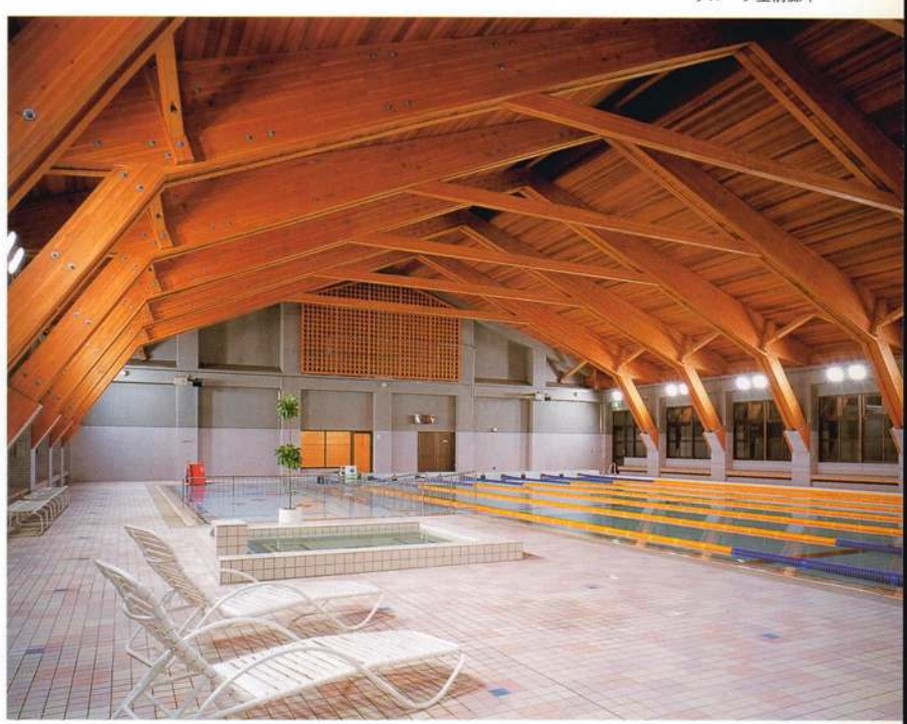
（松元親司／東畑建築事務所）

所 在 地　富山県東砺波郡井波町山見1365番地
敷地面積　13,077.00㎡
建築面積　 3,083.52㎡
延床面積　 3,324.98㎡
構造規模　RC、SRC、W（大断面集成材）、1F（一部2F）
工　　期　1996年12月～1997年11月
最 寄 駅　北陸線高岡駅乗替え城端線福野駅
撮　　影　SS北陸


浴室部外観


グループ室前廊下


交流ホール


温水プール



全景

愛知県司法書士会館

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大成建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市熱田区新尾頭1-12-3
敷地面積　800.55㎡
建築面積　702.96㎡
延床面積　2,404.25㎡
構造規模　S、8F、P2F
工　　期　1996年４月～1997年４月
最 寄 駅　金山総合駅
撮　　影　車田　保、センターフォト



全景（夜景）



正面玄関廻り



大会議室



8階ラウンジ

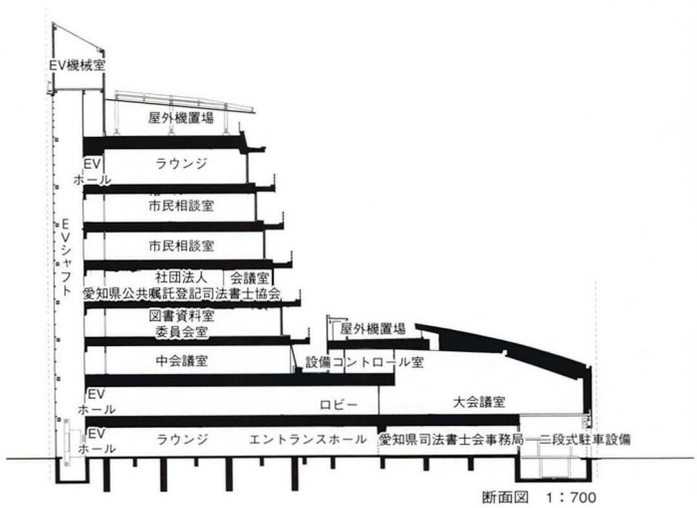
会館は金山総合駅から南西方向に約250m、国道19号線に面し、今後名古屋市の副都心として発展が期待されている場所にある。建物は設計プロポーザルで選ばれて建設されたものである。

敷地は商業地域と近隣商業地域にまたがり、高層部（オフィスゾーン）と低層部（会議ゾーン）を分けてそれぞれの法規制に合わせ、ゾーニングし、低層部と高層部をパブリックスペースでつなぐ手法とした。

階層の構成は低層階に市民の利用し易さを考慮し、市民ギャラリーや大会議室を１、２階にまとめ、高層部をオフィスでまとめ、最上階に司法書士会会員の情報交換のスペースとしてトップラウンジを設けた。

外観のイメージは会館のコンセプト「市民に開かれた、市民が利用し易い会館」に基づき、透明でクリーンなイメージをガラスカーテンウォールとアルミパネルで表現し、また、スカイラインを決定づける赤い「翼」は司法書士の職能の確立と、飛躍をあらわしたものである。新会館を司法書士の情報発信基地として、市民社会に根を下ろした司法書士会が発展されることを願っている。

（岡田満弘／伊藤建築設計事務所）



断面図　1：700

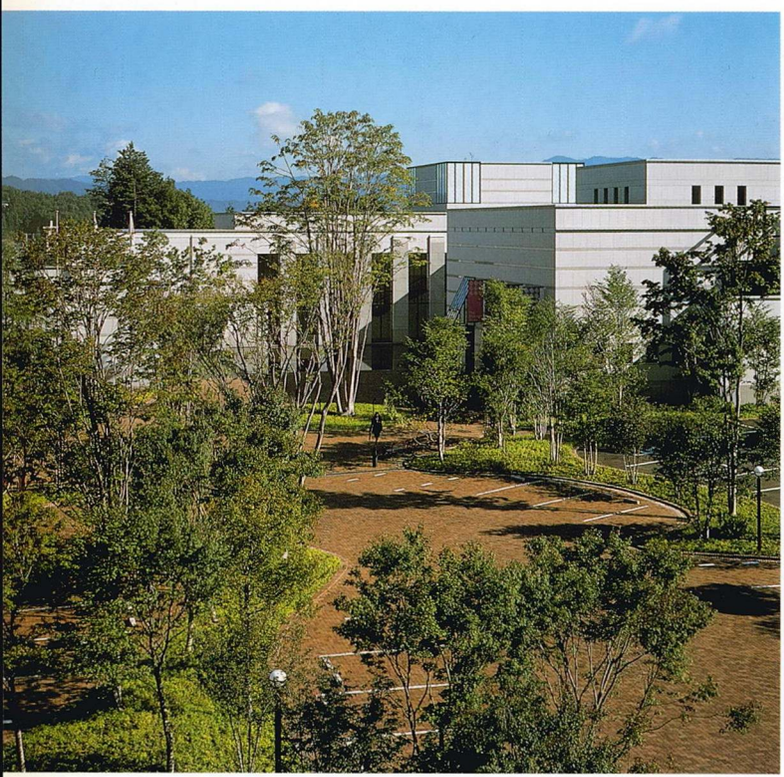


南側正面（水面に映る列柱）

飛騨高山美術館

設計監理　KAJIMA DESIGN
施　　工　鹿島 名古屋支店

所 在 地　岐阜県高山市上岡本町1-124-1
敷地面積　16,153.00㎡
建築面積　 2,261.80㎡
延床面積　 3,741.47㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1996年４月～1997年４月
最 寄 駅　JR高山本線高山駅
撮　　影　ナカサアンドパートナーズ、奥村浩司、車田　保、斉藤さだむ



ランドスケープの中の建築



水面をわたるラウンジ

飛騨高山は、伝統工芸の粋を極めた華麗な祭りと落ち着いた民家の意匠で知られる美しい街である。そんな街を見下ろす小高い丘に、アールヌーボー、アールデコのガラス、家具調度品という装飾芸術のコレクションを展示する美術館が計画された。

オーナーの<美はトータルなものである。>という信念を具現化するために、建築とランドスケープが一体となって<美の聖域>を造り上げることをめざした。

建築の構成は、それぞれの展示室を分節化して、回廊としてのロビー、通路で連結する形式とした。中庭をもつ修道院のような別世界への憧れ、あるいは回遊性のある美術館への思いが込められている。中庭の水面には、光と風、四季の移り変わりが映り、人はその水面を渡って、美の別世界へと招き入れられる。

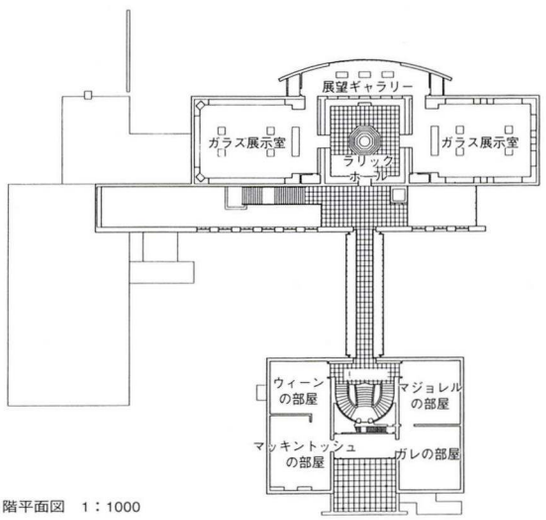
展示室を巡りながら、周囲の豊かな自然や壮大な北アルプスの眺めを、素晴らしい展示品と同じように楽しむことができる。

建築のデザインは、コレクション自身の確固とした時代性と様式を尊重し、つとめてシンプルであろうとしたが、縦長の窓のプロポーションとリズム、スチールサッシの割付け、列柱の表情、外壁の花崗岩や内部のライムストーンという素材の選択などにおいて、建築と芸術が美しく融合して輝いていたアールヌーボー、アールデコという時代へのひそやかなオマージュ（敬意）を込めている。

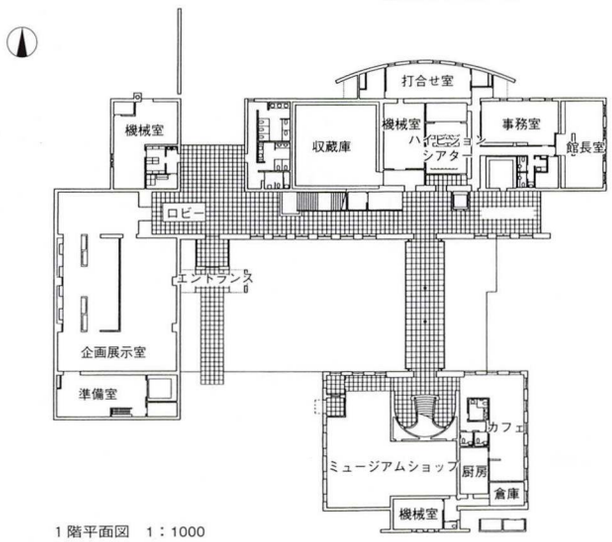
ガレやラリックのガラス、マッキントッシュの家具をはじめとするジャポニスムという形で日本の影響を受けたコレクションは、今その粋を残す高山の地に里帰りをしてきたかのように、この美術館に不思議に溶け込んでいる。

（江幡　修／KAJIMA DESIGN）

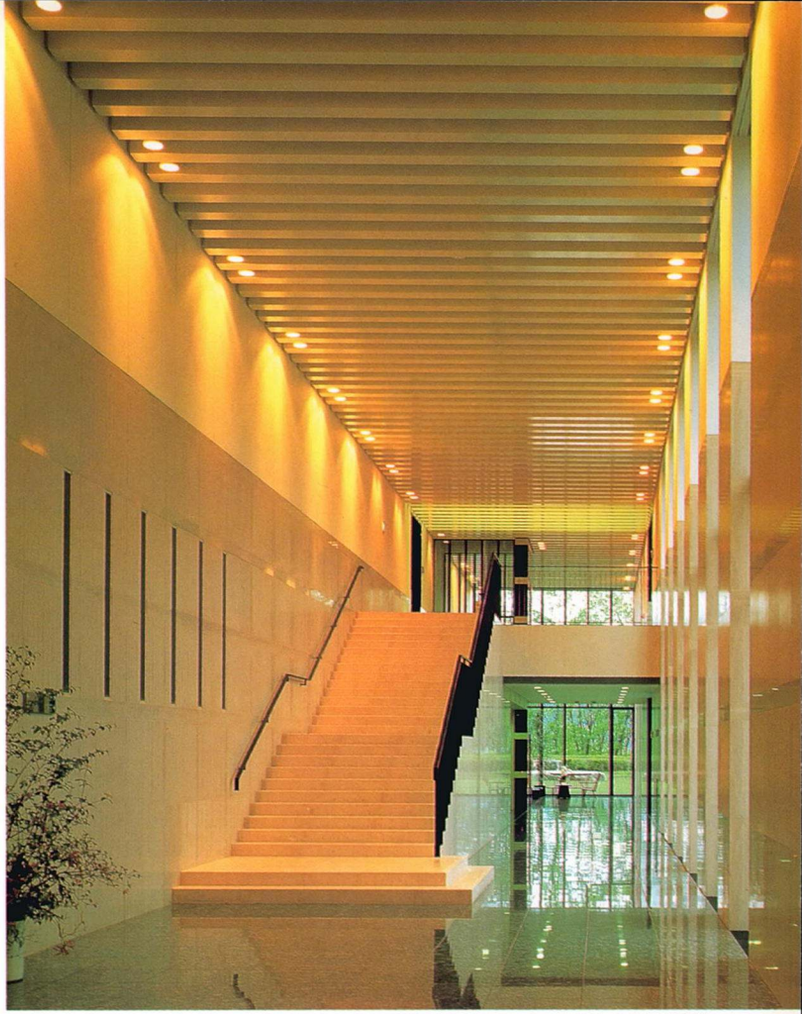
高山市景観デザイン賞受賞



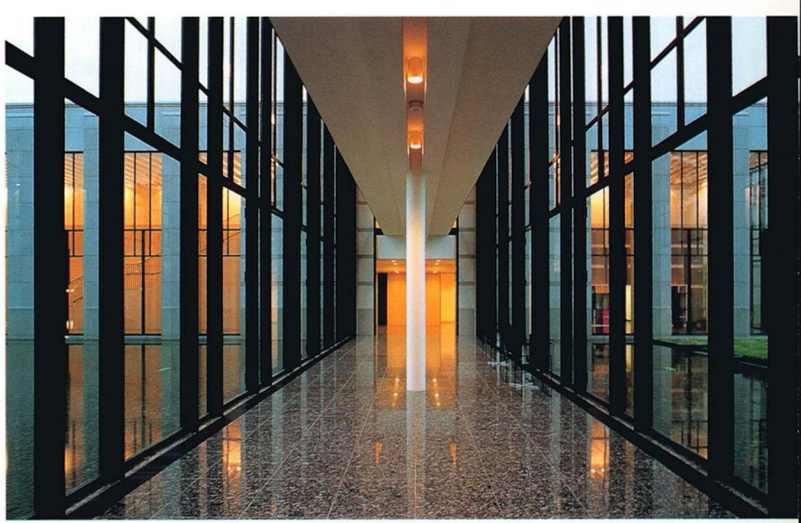
2階平面図　1：1000



1階平面図　1：1000



エントランスロビー



ラウンジ



ガラス展示室



▲西面外観

医療法人　静風会

大垣病院老人保健施設「セイ・ウインド大垣」

設計施工　竹中工務店

▼エントランス廻り



玄関ホール



精神科主体の（医）静風会大垣病院が、高齢化した入院患者と痴呆を含む要介護老人を対象とし、開設された入所者100名の老人保健施設である。敷地は、交通の便のよい市街地にあり、既設病院と川を挟んだ南側隣接地に位置している。

外観は、ボリュームを分割したマスとフレームによる構成で、陰影のある彫の深いファサードを形成し、今までの「高齢者施設」のイメージを脱皮した表現とした。

構成は、１階に食堂・機能訓練室など共用施設をまとめ、中間階を入所者のための療養階とし、最上階に伊吹山を臨む展望浴室を配置した。療養階の中央には、入所者の生活の場の中心となる談話室とそれに連続するテラスを設け、屋内に閉じこもりがちな入所者に、外部の温度・湿度・光・風などを感じてもらうための場を提供している。

また、精神障害者の社会復帰を支援する施設である「さくらの家」が同時に開設された。

（江口定信・斉藤憲司／竹中工務店設計部）

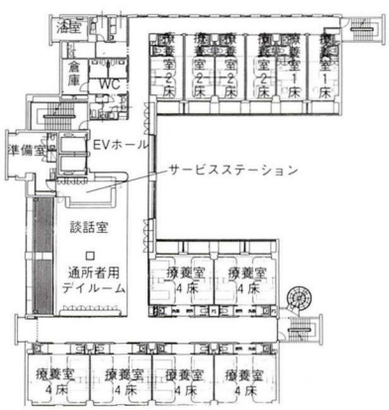


基準階談話室

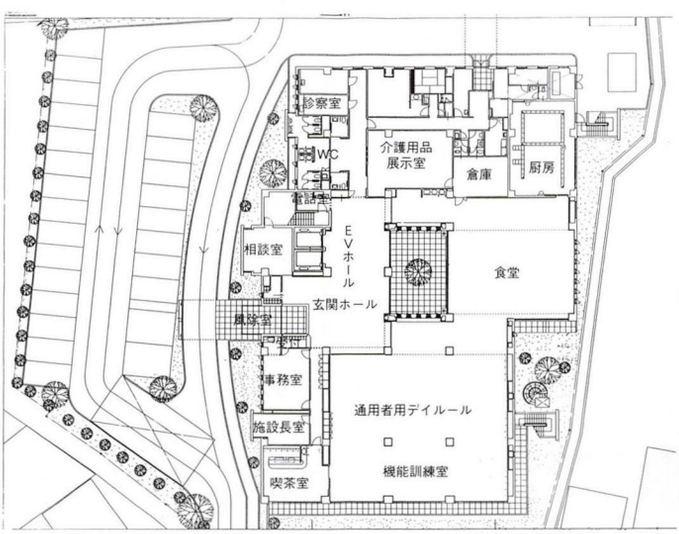


基準階療養室（４床）

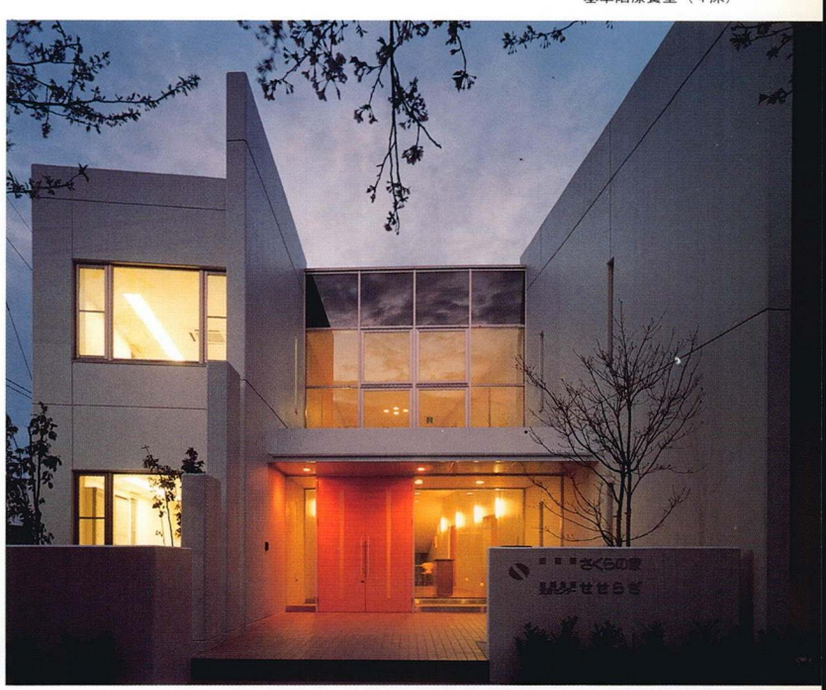
所 在 地　岐阜県大垣市宿地町1008-4
敷地面積　3,420.39㎡
建築面積　1,433.44㎡
延床面積　4.370.10㎡
構造規模　RC、5F、P1F
工　　期　1996年８月～1997年７月
最 寄 駅　JR東海道線大垣駅
撮　　影　青山賢三



基準階平面図　1：800



配置図・１階平面図　1：800



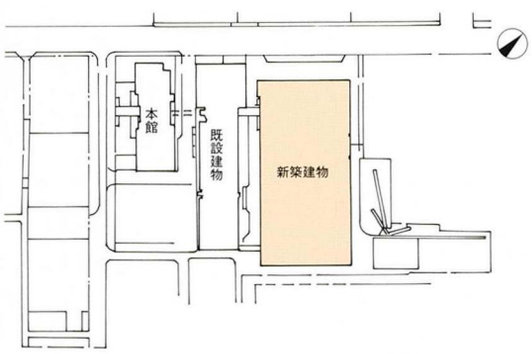
精神障害者社会復帰施設「さくらの家」西面外観

北側正面

静岡新聞社制作センター

設計監理　大成建設一級建築士事務所
施　　工　大成・住友・鹿島建設共同企業体

所 在 地　静岡市登呂3-1-1
敷地面積　18,781.66㎡
建築面積　6,923.22㎡
延床面積　20,545.75㎡
構造規模　SRC（一部S）、基礎形式：免震構法
工　　期　1995年４月～1997年８月
最 寄 駅　新幹線静岡駅
撮　　影　SS名古屋、高取昭浩



配置図　1：5000


空撮：左から静岡新聞社制作センター、現工場、本館（S45年竣工

免震構法を採用し、ヘリポートを備えた21世紀に向けての新聞制作センター。

一貫して新聞社の社会的使命を積極的に建築化する事が、多くの特徴をあたえています。

阪神大震災クラスの地震に対応するため、当社独自のハイブリッド免震構法、インフラ分断時の配慮として非常用発電機の設置、必要資材の備蓄、ヘリコプターによる発送等、総合的な配慮が成されています。

ヘリポートは建物の上部に設置するタイプとして国内最大規模（直径36メートル、地上33メートル）であり、鋼管柱によりピン支持され、全体を宙に浮かばせています。

その用途は取材活動にとどまらず、災害時の新聞発送や、緊急医療活動、緊急物資の輸送など、航空支援を行うことにより地域に根差した新聞社の在り方を示しています。

またオープン形式のトラックヤードを覆うキャノピー（55メートル×９メートル）は、キール梁(BH-1500×450、L=55m)を外壁からひし形梁と鋼管の圧縮・テンション材にて宙に浮かせ、ここからガラス面を自転車のスポーク架構に似た立体テンション構造で支えています。

この庇を通しライトアップされるファサードは、昼夜を問わず情報を発信し続ける新聞社を表現しています。

建物全体を印象づける白い壁面は、公正中立である新聞社の報道に対する姿勢を表し、突き出した庇や壁が描く光と影のコントラストは、時と共に形を変える情報の流れを表しています。

また外構も新聞社らしさを基本に計画し、敷地東側の緑地には巻き取り紙をかたどったオブジェクトを設置しています。

（田中　勉／大成建設一級建築士事務所）



5階光庭



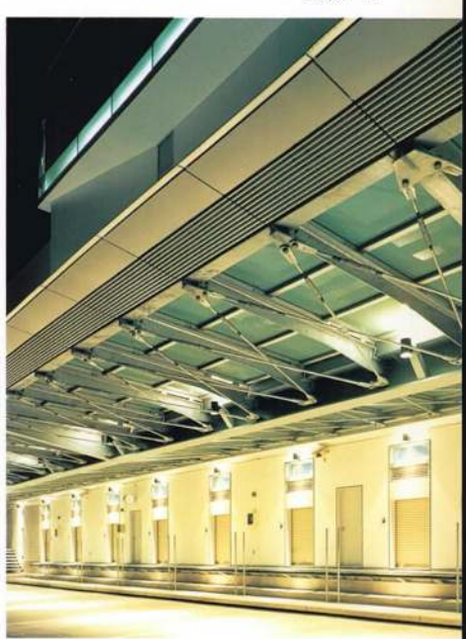
玄関ホール



東側外観：外構オブジェ



西側ディテール



トラックヤード庇ディテール


FUTABA

フタバ産業株式会社 本社社屋

設計施工　竹中工務店



玄関正面

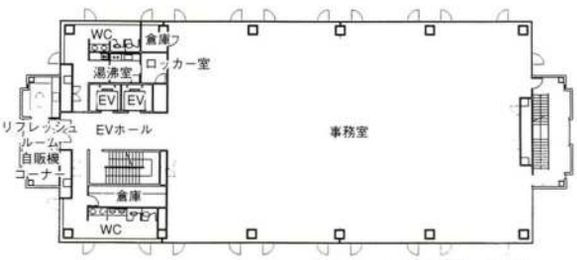
当敷地は、岡崎市の西端で豊田市と安城市との境に接しており、トヨタ自動車、三菱自動車など、自動車関連企業への製品の入出荷の拠点としては便利な立地であり、周辺には自動車関連工場が点在する環境にあります。当建物は、分散された本社機能の充実化と、老朽化に伴ない計画されたものです。

外観は、両サイドコアの壁で「大地にしっかりと根をおろした」フタバ産業の企業イメージを素直に表現し、横連窓に映し込まれる自然は、地球環境と共存していく企業の姿勢を表し、本社ビルにふさわしい端正なものとしています。

階構成は、2階に応接、打合せ室、7階に小・中会議室、大会議室を集約させ、従業員及び来客の人達から使いやすく機能的な計画としています。基準階は18m 1 スパン構造の無柱空間とし、3.6m×3.6mモジュールの採用により、フレキシビリティが高くなっています。また、天井高さは隣接する工場との視覚的な格差を出来るだけ少なくするため、2.9mを確保し、OAフロア、スクエア型システム天井を採り入れて、機能性と居住性の高い、快適な執務空間となっています。

外構では、長年にわたり使われていた旧事務室の玄関キャノピーのPCa柱をオブジェとして再構成し、新しい社屋の玄関脇にさりげなく配しています。

（三鴨幸二／竹中工務店設計部）



2階平面図　1：600

所在地	岡崎市橋目町字御茶屋1番地
敷地面積	400,399.72㎡
建築面積	994.28㎡
延床面積	5,342.01㎡
構造規模	S、B1F、7F
工期	1996年4月～1997年3月
最寄駅	名鉄線新安城駅
撮影	加藤敏明、青山賢三



EVホール



エントランスホール

◀北側正面外観



正面ファサード



正面夕景



ファサード見上げ

明 鋼材株式会社本社ビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　建　築　熊谷・佐藤・三井建設共同企業体
　　電　気　三機工業
　　空　調　三菱電機システムサービス
　　衛　生　北嶋工業
　　昇降機　菱電エレベーター施設、三菱電機

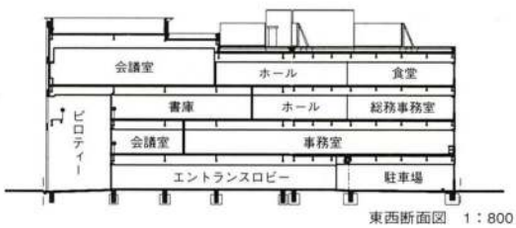
鉄鋼商社の老舗、明（あきら）鋼材株式会社が本社を置く尾頭橋は、旧市電の終点として古くから賑やかな場所で、名古屋市を東西に横断する産業幹線道路、国道１号線と23号線との連絡も良く、物流の拠点として恰好の地であった。しかし、交通の要衝・金山に近いこの界隈も生産・物流の街から職住混在の商業の街へと変貌をとげ、創業40周年を機に、老朽化、狭矮化した本社兼鋼材倉庫を本社のみの単独機能ビルとして建替えることになった。

Ｌ字形の敷地の西側に本社、北側に鋼材倉庫が建っていた。昨年の弥富鋼材センターの拡充に伴ない不要となったこの倉庫部分に、まず第１期工事として当面必要最低限の本社機能分を建設し、移転・営業開始した後、第２期工事として旧本社部分に会議応接棟を増設した。

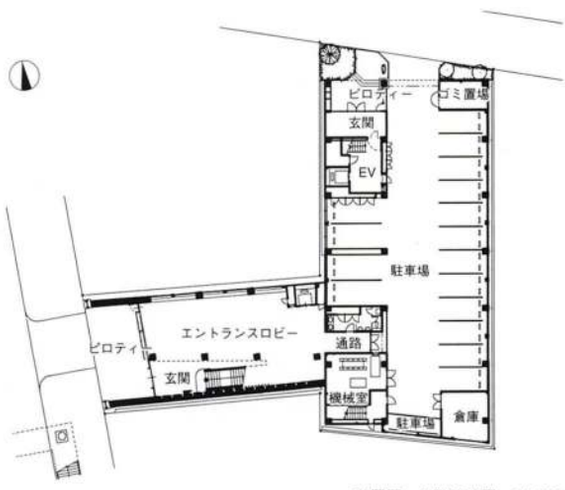
構造体を始め建具・内外装材に至るまで、鉄にかかわる材料をできるだけ使った。特に正面となる西側ファサードは、型鋼とホーロー鋼板によりゲートをデザインし、21世紀に向けてあくまでも鉄にこだわった商いを続けてゆくという、企業の強い意志を表現した。

各階の構成は、１階に玄関ホール・駐車場、２階に受付・主執務室・応接室・会議室、３階に執務室・研修室・応接室・会議室・書庫、４階に食堂・喫茶・大会議室となっている。会議・応接室の数が多く各室の使用時間が異る為、ゾーン分けをしつつ、氷蓄熱併用のビルマルチエアコンによる局所空調を採用し、ランニングコストの軽減を計っている。　（小田義彦／伊藤建築設計事務所）

所 在 地　名古屋市中川区八熊１丁目11-15
敷地面積　1,066.68㎡
建築面積　927.57㎡
延床面積　3,310.80㎡
構造規模　S、5F
工　　期　1996年８月～1997年10月
最 寄 駅　地下鉄名城線金山駅
撮　　影　SS名古屋



東西断面図　１：800



配置図・１階平面図　１：800



１階エントランス


２階ロビー

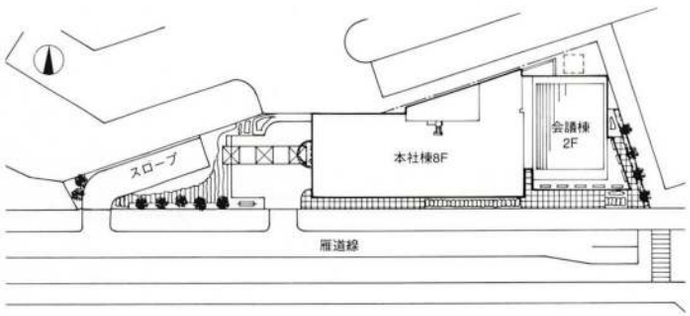

４階会議室

エントランスホール

愛知機械工業(株)本社ビル

設計監理　KAJIMA DESIGN NAGOYA
施　　工　鹿島 名古屋支店

所 在 地　名古屋市熱田区川並町2-12
敷地面積　2,510.00㎡
建築面積　1,341.43㎡
延床面積　9,245.34㎡
構造規模　SRC、B1F、8F
工　　期　1996年5月～1997年7月
最 寄 駅　地下鉄名城線日比野駅
撮　　影　SS名古屋（滝田良彦）



配置図　1：1500



全景

熱田区の日比野周辺は都市再開発により、大きな変容を遂げつつある。中央卸売市場、国際会議場に隣接する当ビルも周辺環境との調和に配慮したインテリジェント＆アメニティービルとして計画された。

間口120m、奥行20m～35mの不整形な敷地に、自動車メーカーの本社ビルとして、風格ある形態、先進のオフィス機能、耐震等の安全性を考慮した建物が求められた。

不整形部分をコアとし、執務空間を整形な無柱空間とするとともに、建物コーナーに制震装置（Hi-DAM）を6層、計24台設置した。その構造を素直に生かし、質実剛健な企業イメージを反映した安定感ある門型ファサードを実現した。

また、駐車場をすべて地下に収めることにより、地上部分にゆとりをもたせ、エントランスホール、会議施設、厚生施設等、全体に明快で無理のない断面構成とすることができた。

車寄せのピロティを取り込む形で構成されたエントランスホールは竣工後、彫刻や自動車の展示などホスピタリティ豊かな空間として、有効に利用して頂いている。

（遠藤卓郎／KAJIMA DESIGN NAGOYA）



制震装置（Hi-DAM）



南面



食堂



ラウンジ



会議室



北面全景

丸和セラミック本社ビル

設計施工　竹中工務店

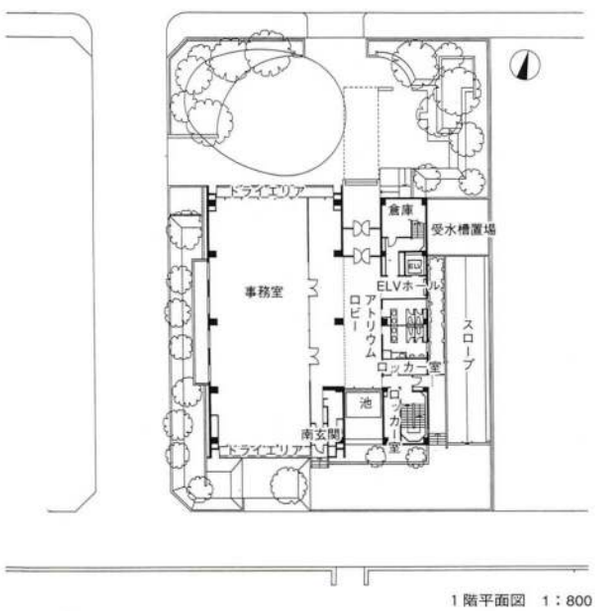
所 在 地　愛知県尾張旭市南本地ヶ原町3-83
敷地面積　1,727.49㎡
建築面積　713.38㎡
延床面積　2,844.54㎡
構造規模　RC、B1F、4F
工　　期　1996年6月～1997年4月
最 寄 駅　地下鉄東山線藤ヶ丘駅
撮　　影　SS名古屋

敷地は名古屋市の東部に位置し、名古屋と瀬戸を結ぶ幹線道路沿いの典型的な郊外型店舗群の一画にある。しかし一歩幹線を離れると閑静な住宅地と自然からなる緑豊かな景観がひろがっている。無秩序な商業地と自然との接点とも言えるロケーションの中で、自然を敷地まで引き寄せる事により、街に対して新しい秩序を与える景観形成する事を設計テーマとした。

建物は、全周をセットバックさせ、基壇状に盛り上げた植栽帯の中に配置し、喧騒とした街並みの中に憩いの景観を創出した。外観の構成は、階段コアと執務ゾーンを湿式無釉タイル貼りの2つのマッスとし、それにガラスのアトリウムとキャノピーを貫入させる事により、企業の歴史性と先進性を表現すると共に、重厚で毅然としたフォルムとした。

内部においては、敷地を取り巻く環境を制御して、働く人、訪れる人にとって相応しい空間とする事を基本方針とした。その中でアトリウムは南に展開する自然への視界の広がりと、光、風を最大限に取り入れる為、梁を無くし、スラブとガラスで構成された開放的な空間を実現した。3・4階の研究室は、幹線道路に面した壁をRCとサッシのダブルスキンとする事により、交通騒音を遮断しつつ光と風を導入し、知的作業空間に相応しい環境を創りだした。

（野村昌宏／竹中工務店設計部）



1階平面図　1：800



北面全景（夕景）



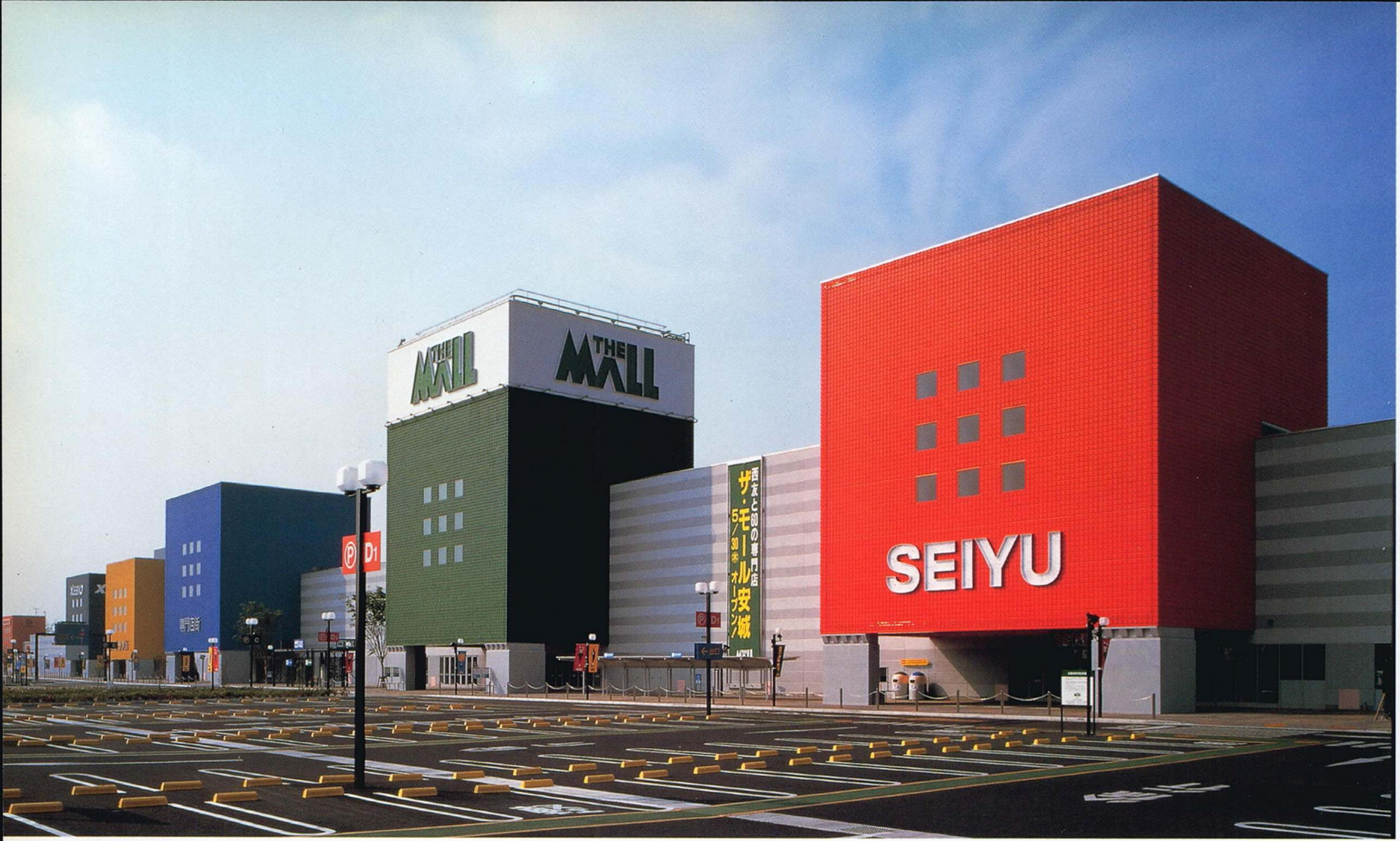
南面見上げ



事務室内観



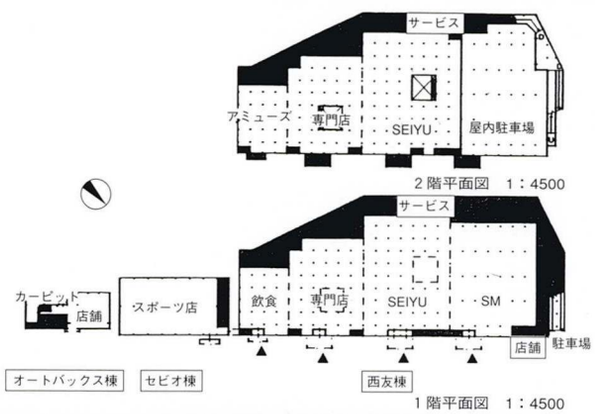
アトリウム全景

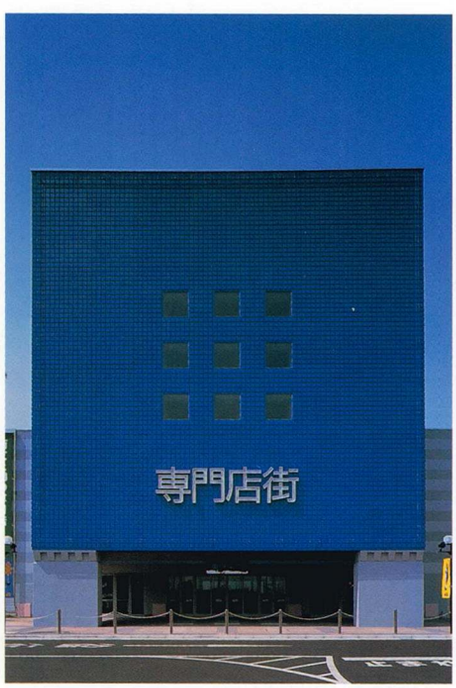


北西より望む

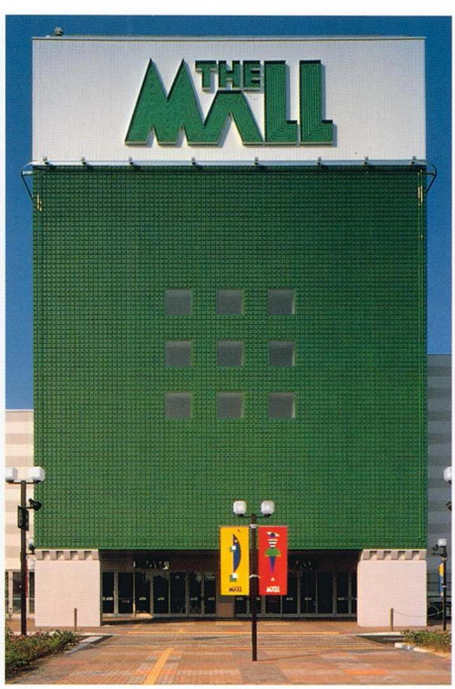
ザ・モール安城

設計監理　清水建設名古屋支店一級建築士事務所
施　　工　清水建設名古屋支店

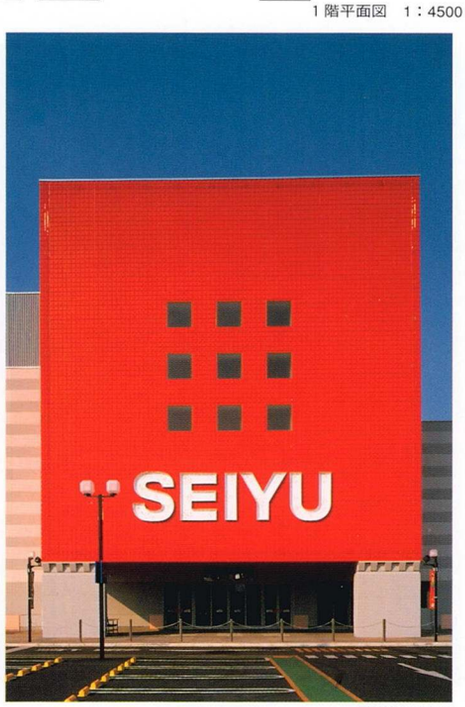




専門店入口



西友(GM)入口



西友(SM)入口

車保有率の高い愛知県三河地区に立地するショッピングセンターとして、車でこられるお客様に対する強烈なアイキャッチ機能を持ち、かつ楽しい雰囲気を醸し出すことをテーマとした。

北側に400mもの接道を持つ細長い敷地に対し、建物を業態毎に配置し、それぞれの施設前面に平面駐車場を設け、お客様に使いやすい配置計画とした。

安城市が“日本のデンマーク”と呼ばれていることから、アンデルセンの童話やチボリ公園、玩具のレゴから連想されるおとぎ話やおもちゃをキーワードに、“鮮やかな色のキューブ”をデザインモチーフとして施設全体に展開した。

200mにも及ぶ長大で単純なファサードに噛み込む色とりどりのキューブは、それぞれが西友SM、西友GM、専門店、飲食と4業態のエントランスになっており、それぞれのコンセプトカラーを大胆に使うことでお客様にとって分かりやすいサインとするとともに、訪れる人々をおもちゃの国へ誘うことを期待している。また、西友棟に並ぶ専門店、セビオスポーツ、オートバックスも同様なデザインとし、統一感のある施設づくりを心掛けた。

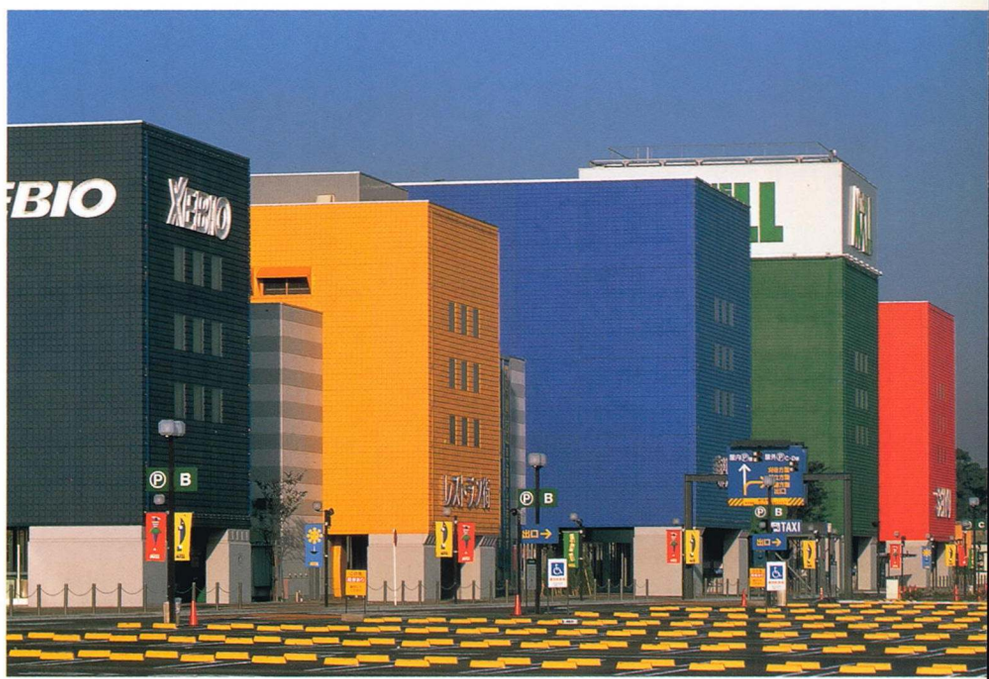
夜間も、色鮮やかなキューブをネオン管とライトアップで照明することにより、昼間とは異なったイメージの非日常的な商業空間の演出を狙った。

（馬場弘一郎／清水建設名古屋支店）

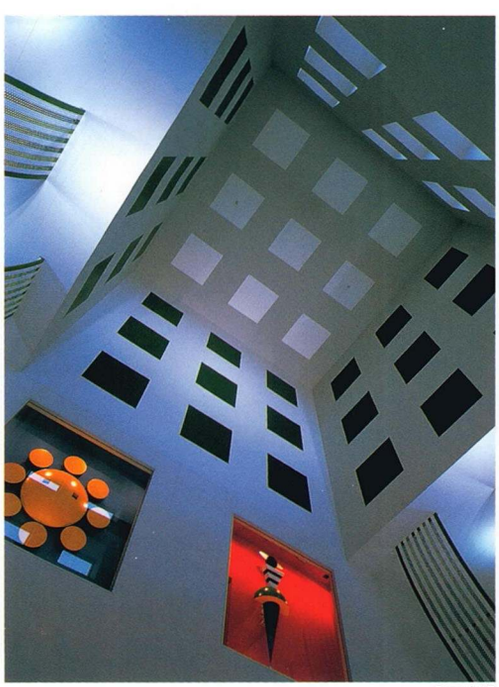
所 在 地　愛知県安城市大東町
敷地面積　59,921㎡
建築面積　23,008㎡
延床面積　38,689㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1995年6月～1996年5月
最 寄 駅　JR東海道線安城駅
撮　　影　アラ井建築写真事務所



北東上空より望む



北東より望む



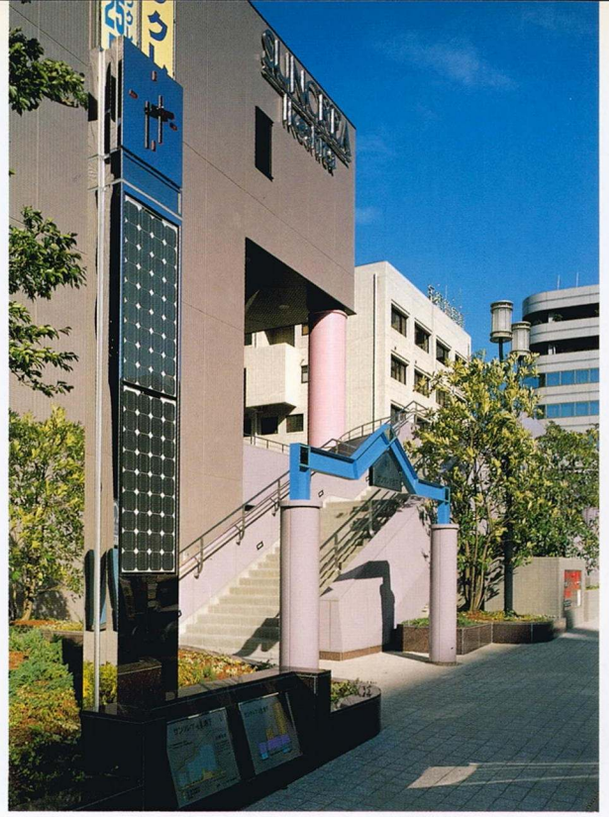
入口内観



正面夜景



外観南東面全景



公開空地廻り

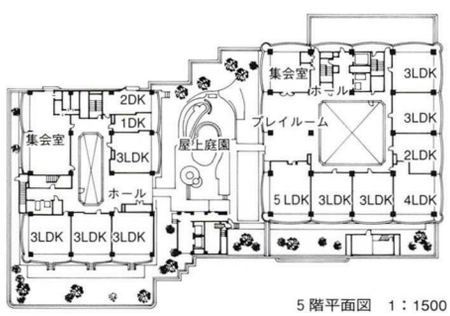


正面エントランス夜景

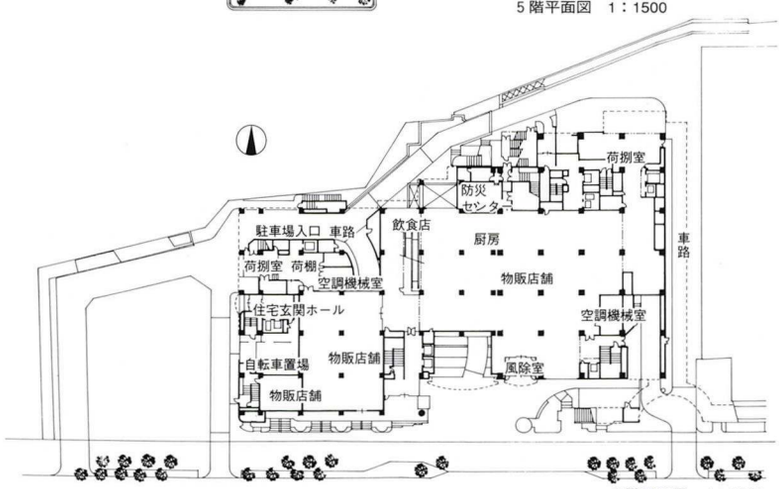
サンクレア池下

[6-池下再開発ビル（仮称）B棟（民開）建設工事]

設計監理　住宅・都市整備公団中部支社
　　鴻池・日本国土・不動建設工事共同企業体
施　　工　鴻池・日本国土・不動建設工事共同企業体



5 階平面図　1：1500



1 階平面図　1：1500

所 在 地　名古屋市千種区覚王山通 8 丁目 3 番地　他
敷地面積　8,641.41㎡
建築面積　4,863.64㎡
延床面積　55,240.36㎡
構造規模　RC、B3F、26F、P2F
工　　期　1994年 7 月～1997年10月
最 寄 駅　地下鉄東山線池下駅
撮　　影　SS名古屋

池下再開発ビルは、住宅・都市整備公団が公団第１団地、池下変電所の跡地利用と覚王山道路の拡幅整備を兼ね、第１種市街地再開発事業として一団地認定により開発したものである。

「サンクレア池下（B棟）」は、商業施設・医療サービス施設・住宅・駐車場・地域冷暖房施設からなる異種複合用途建築物であり、また地下１階で地下鉄東山線「池下駅」改札口、地下階で前面道路下市営駐車場及び駐輪場に各々接続の予定である。そのため、防災計画上３ブロックに動線上明確なゾーニングを行い、安全性の高い都市施設の構築に努めた。

住宅部は超高層棟（26階）と高層棟（11階）のツインタワーとし、池下地区の景観誘導を計るべく曲面形状のバルコニーで軽快なフォルムを構成した。また、地下鉄コンコースへは、建物中央部からのアクセスとなるため、歩道・公開空地からの圧迫感軽減に配慮し、超高層棟部分は低層の施設部分も含めてセットバックさせた。伸びやかなR形状の住宅アプローチ階段、アクセントカラーによる住宅ゲート、時計塔、給排気筒を利用したオブジェ等により、賑やかで纏まりのある公開空地を通じ、コンコース、商業施設へのスムーズな導入を計った。

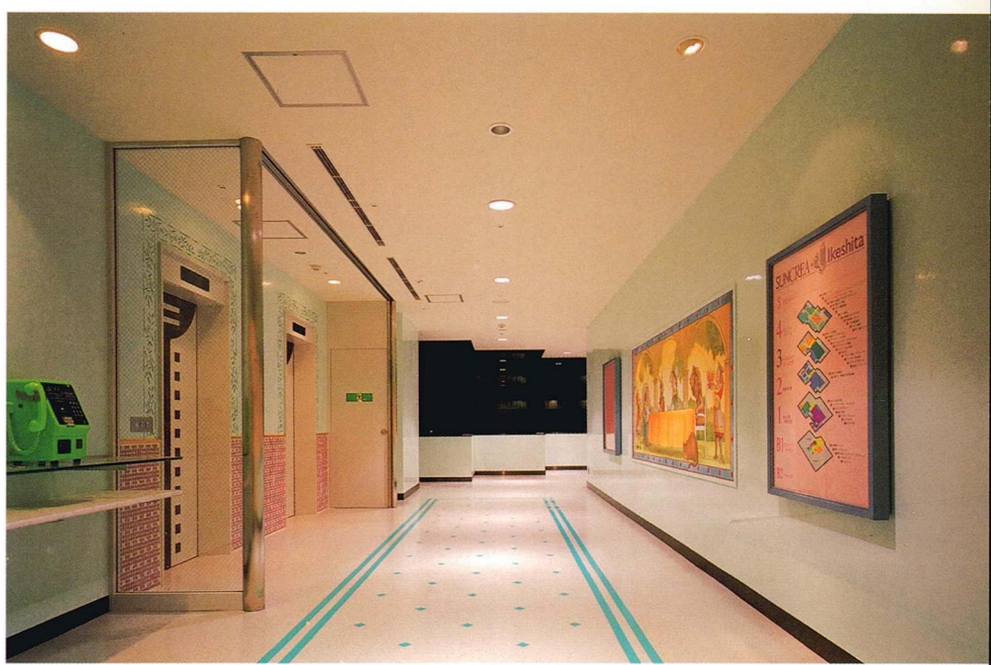
低層部中央はカーテンウォール、シースルーエレベーターのガラス面を中心に構成し、大庇の天井部に設けたアクリルエッジライト、公開空地に埋め込んだビームライト、街灯、サイン照明により夜間のライトアップを行い、池下地区の店舗群の核としての賑わいを演出した。商業施設は女性客をメインターゲットにし、飲食店舗・食材物販店舗による「食」を中心にしたテナント構成にしているため、暖色系をベースとした色彩計画を行った。住宅部分も同系色で変化をつけ、全体にブルーとピンク系のポイントカラーでアクセントをつけた。

「サンクレア池下」が、地区の都市景観を誘導し地区活性化の担い手となることを期待している。

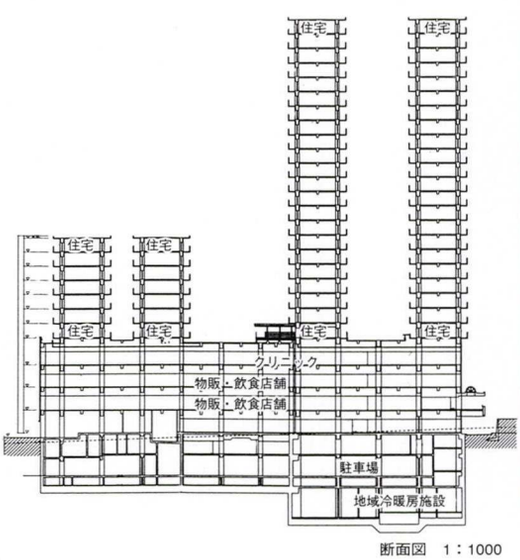
（高尾洋史／鴻池組）



地下１階コンコース



3階エレベーターホール



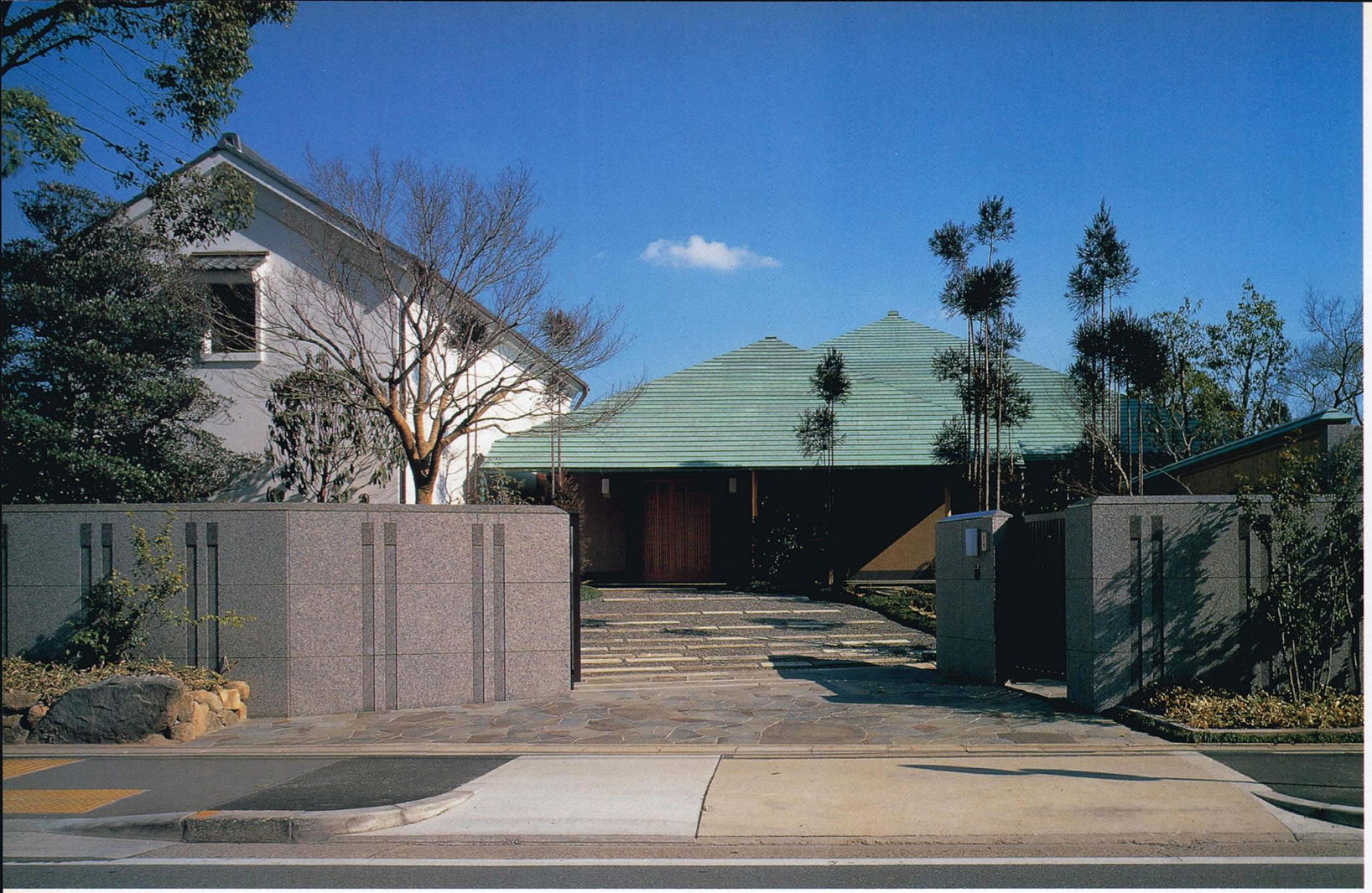
断面図　1：1000



住宅アプローチ



5階屋上庭園



住宅・西側玄関

八事紅葉園土地利用計画

設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市瑞穂区弥富町字紅葉園
敷地面積　5,032.16㎡
建築面積　1,421.88㎡
延床面積　5,529.92㎡
構造規模　RC、B1F、8F、P1F
工　　期　1995年11月～1997年２月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線八事駅
撮　　影　車田　保、加藤康隆（※）

敷地は、名古屋市の東南、八事から瑞穂運動場へ至る「山手グリーンロード」に面している。坂道の起伏と深い緑が邸宅街ならではの景観をみせる閑静な環境にある。

富田家は、名古屋を代表する名家である。その富田家の5,032㎡におよぶ敷地の将来を展望する土地利用計画として提案した、住宅と分譲マンションの共存プログラムに基づいている。

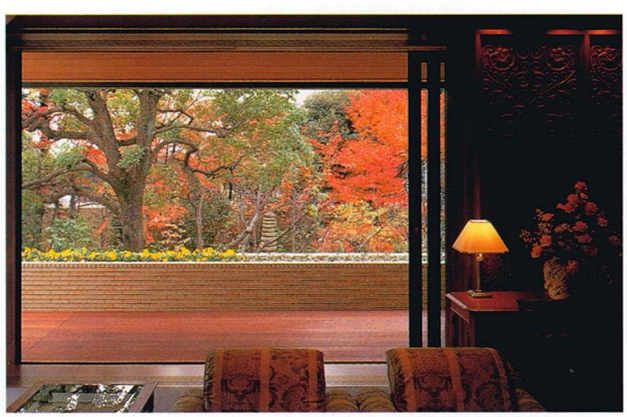
建物は、住宅と分譲マンション居住者の視線、日影、風、音、眺望、威圧感、について細心の配慮を加えながら、既存樹木をできるだけ多く生かすよう配置し、これまでの面影を残す、緑豊かな環境の創出に努めた。

角地に位置する住宅は、古くからのランドマークであった、楠の大木を保存するとともに、倉を伝統的な形で再生した。外観は、緑青銅板段葺の大屋根で構成し、自然の中の素直な佇まいとした。高齢である建築主のために、オールフラットフロア、介護スペースを考慮した水廻りなどのバリアフリー対応の他、清浄な室内空気環境を提供し、健康について配慮した。

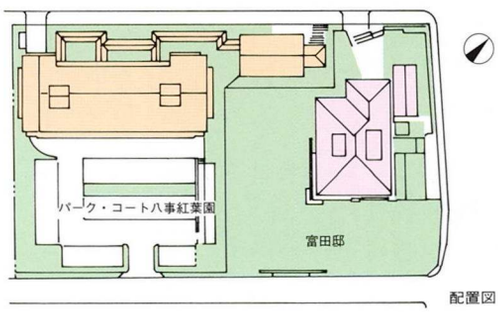
分譲マンションは、名古屋初の永住品質の高品位マンションをめざし、全戸設計変更に対応するなど差別化を図った。特に別棟で配置したエントランスは居住者のプライバシーを守るとともに、邸宅を感じさせるアプローチ空間を演出し、住宅と一体となる外部環境が上質感を醸し出した。

「富田家の伝統と歴史を未来につなぐ」プログラムは、周辺の街並みに自然のうちにとけこみ、調和のある景観を形成し、心暖かな雰囲気をただよわせる。

（浅井康行／竹中工務店設計部）



住宅・リビング



配置図

マンション・北側玄関



マンション・エントランスロビー（※）



マンション・アプローチ（※）



全景

日本ガイシ㈱木曽駒「望山荘」

設計施工　竹中工務店

所 在 地　長野県木曽郡日義村4898-420
敷地面積　1,581.38㎡
建築面積　538.98㎡
延床面積　938.53㎡
構造規模　RC、S、B1F、2F
工　　期　1996年10月～1997年４月
最 寄 駅　JR中央線木曽福島駅
撮　　影　吉村行雄

南アルプス木曽駒ヶ岳を望む、長野県・木曽駒高原別荘地に建つ、春から秋にかけてのおだやかな季節にゴルフを楽しむための接客用の山荘である。自然環境との調和と、上質のリゾートライフの創出をテーマに、敷地の持つ特性、風土に着目し計画をすすめた。機能ごとに分散配置することで、伐採する自生の高木の数を最小限にし、木立との一体感を図り、自然との繋がりをより密接にした。

また、敷地の高低差を生かした寄棟の勾配屋根群が、建物のボリューム感を抑えた。

使用材料は、ぬくもり、香り、手ざわり感のある「木」にこだわった。歳月とともに変化していく「木」は、その時々の美しさを味わい深く見せて、心に安らぎをもたらしてくれる。ねずこ・なら・くり・まつ・ひのき・にれ、など木曽で育まれたこれらの自然素材が、生きてきた記録としての木目や節を現しながら、窓から眺める木立と共に、これからもくつろぎの空間を演出し続ける。

また、施工面では、主構造を鉄骨造とすることで、屋根を先行施工し、寒冷地地域内での積雪時期施工を可能にしたほか、基本モデュールを展開することによって、受命から竣工までわずか８ヶ月という短工期プロジェクトを実現することができた。

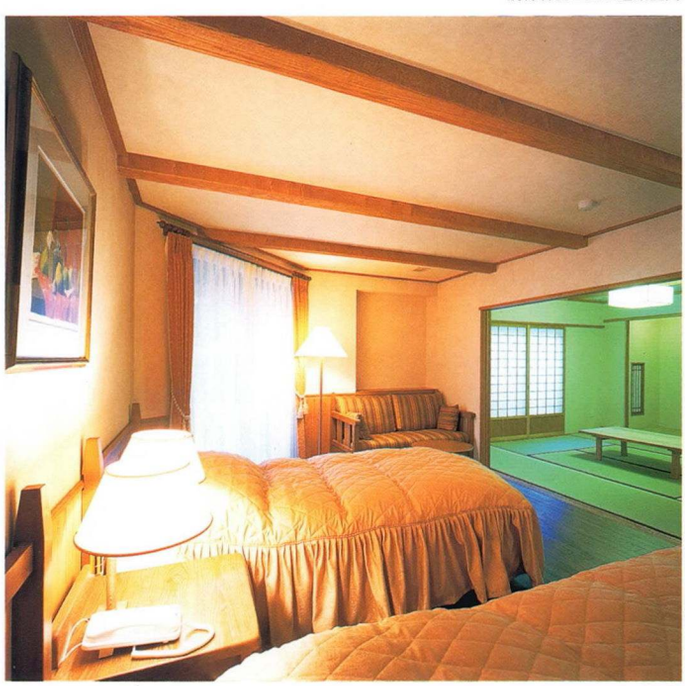
（浅井康行／竹中工務店設計部）



エントランスホール



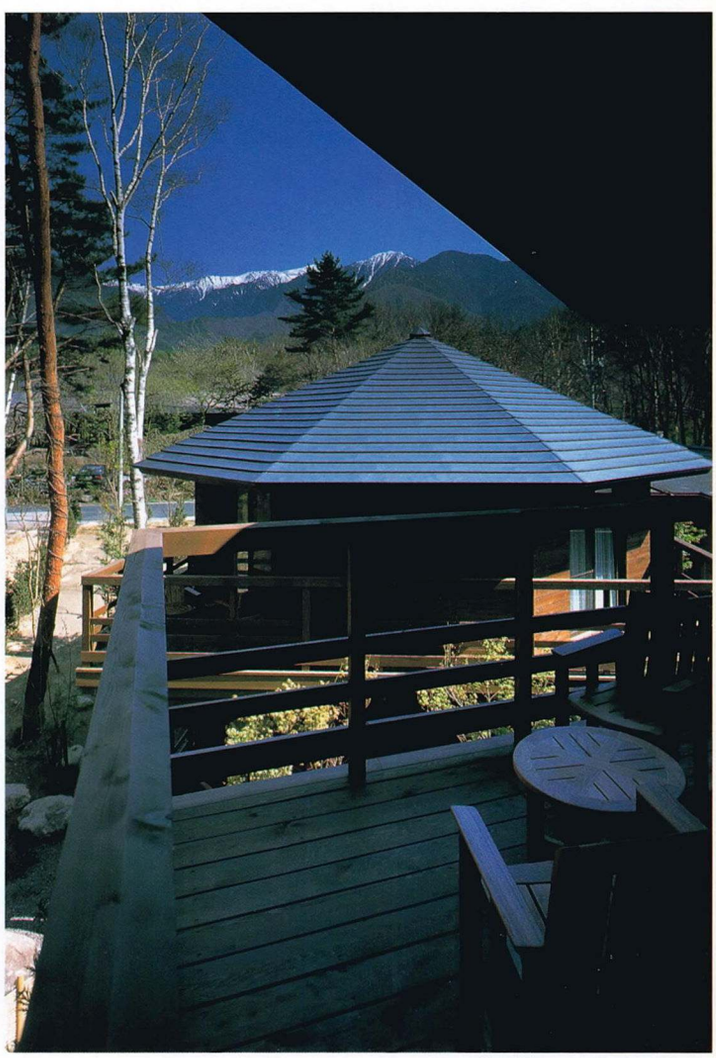
別棟客室に至る通路空間



客室



談話食事室



客室バルコニーより駒ヶ岳を望む

Tokai Sketch Book



名古屋市音楽プラザ

設　　計　浦野設計
施　　工　大林組・日東・杉本特別共同企業体
所 在 地　名古屋市中区金山１丁目408番地６筆
敷地面積　2,367.33㎡
建築面積　1,131.99㎡
延床面積　6,499.77㎡
構造規模　SRC、B1F、6F
工　　期　1996年９月～1998年９月
最 寄 駅　金山総合駅



愛知県自販会館

設　　計　東海設計
施　　工　日東建設
所 在 地　愛知県名古屋市中川区昭和橋通４丁目8-2
敷地面積　2,012.85㎡
建築面積　1,404.33㎡
延床面積　4,283.75㎡
構造規模　S、4F
工　　期　1996年１月～1997年１月
最 寄 駅　地下鉄名城線六番町駅



中津川市健康温泉館（クアリゾート湯舟沢宿泊施設併設）

設　　計　浦野設計
施　　工　清水建設名古屋支店
所 在 地　中津川市神坂字味噌野278-1他41筆
敷地面積　17,108.18㎡
建築面積　3,130.23㎡（1,466.84㎡）
延床面積　4,387.41㎡（4,392.59㎡）
構造規模　RC、一部S、3F（S、RC、一部SRC、B1F、4F）
工　　期　1994年7月～1995年12月（1995年12月～1996年7月）
最 寄 駅　JR中津川駅



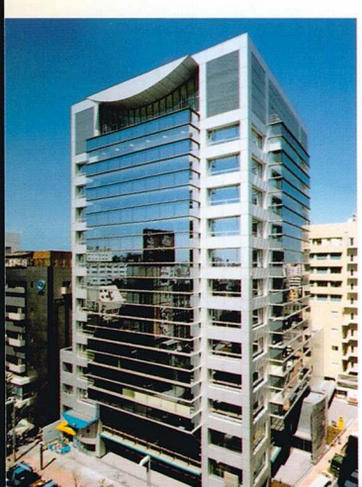
瀬戸信用金庫春日井支店

設　　計　東海設計
施　　工　清水建設
所 在 地　愛知県春日井市篠木町二丁目1281-2
敷地面積　1,302.02㎡
建築面積　462.16㎡
延床面積　651.11㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1996年11月～1997年５月
最 寄 駅　JR中央線春日井駅



土原のいえ

設　　計　福田泰造建築事務所
施　　工　TOA
所 在 地　名古屋市天白区土原１丁目202・203
敷地面積　766.83㎡
建築面積　211.80 ㎡
延床面積　309.39㎡
構造規模　RC、一部B1F、2F
工　　期　1996年９月～1997年12月
最 寄 駅　市バス土原荘停



スカイオアシス栄

設　　計　日建設計・名古屋
施　　工　鴻池組・佐藤工業・大日本土木・大平工業・徳倉建設JV
所 在 地　名古屋市中区新栄町2-9
敷地面積　2,096.09㎡
建築面積　1,672.14㎡
延床面積　22,103.87㎡
構造規模　SRC、RC、S、B3F、14F、P1F
工　　期　1995年８月～1997年８月
最 寄 駅　名古屋市高速度鉄道東山線栄駅



プラセシオン茶屋ヶ坂公園

設　　計　ヤスウラ建築設計事務所
施　　工　名工建設
所 在 地　名古屋市千種区御影町１丁目1,2,3,4,5,6番地
敷地面積　3,571.99㎡
建築面積　1,680.77㎡
延床面積　8,516.72㎡
構造規模　RC、B1F、8F
工　　期　1995年10月～1996年11月
最 寄 駅　基幹バス茶屋ヶ坂停

特集　信州〜諏訪とその周辺〜

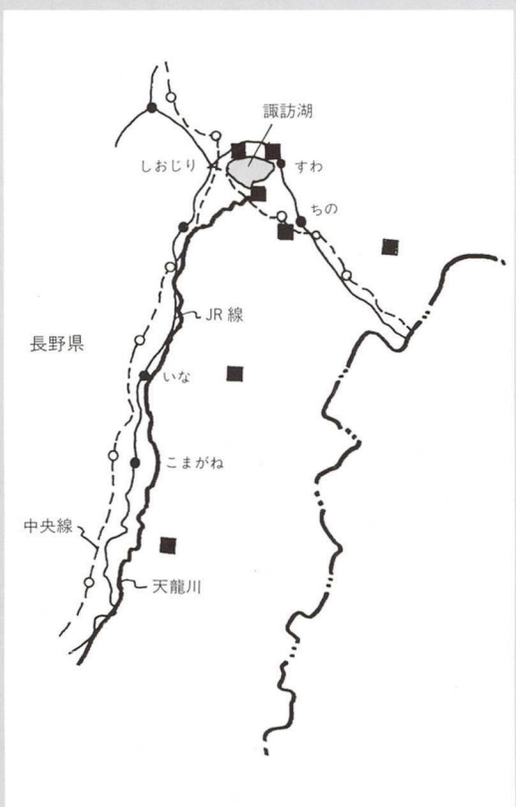
地域文化形成と施設づくり
―小美術館・博物館を中心として

東海特集の地方シリーズも「伊勢」「飛騨・美濃」「遠江」「金沢・能登」に次いで5回目となります。今回は、折しも冬季オリンピックが開催され、国際色豊かに盛り上がりを見せていた長野県、そのほぼ中央部の寒冷地であり、観光地でもある「諏訪とその周辺」を取り上げます。

この地方は、その中心に諏訪湖が位置し、周辺をアルプスの山々が連なる風光明媚な所であり、高冷地の清涼な気候の下で育まれた農産物や産業或いは精密工業等でも知られている。そして、古くは八ヶ岳山麓に点在する縄文・弥生遺跡にはじまり、甲斐武田との戦いや、大奥絵島の末路の地で桜の名所の「高遠」も近く、長い歴史と伝統を有する。また、この地はテレビ放映などで馴染みの、あの勇壮な諏訪大社御柱祭（7年に1度）もちょうど今年に当たり、春から一連の行事も進行する。

ここではそんな地域の特色を踏まえ、地域の文化振興の様子を建築との関わりで見たいと思うが、広く建築一般となると広範すぎてつかみどころの無い話となり易い。そこで、今回はこの地方の小美術館・博物館に焦点を当ててみた。今では、地元出身或いは地元に縁の作家等を対象とした小規模で個性的な美術館や、地域の伝統文化・産業や史跡に関わる小博物館は、全国各地に点在している。特にこの地方ではそれが比較的早くから展開され、相当な数に達し、その中には建築的にユニークな興味をひかれるものも多い。それは、ある面では観光資源の一つとして存在感を示しているし、またある面では地域の文化的振興に寄与している。

そこで、こうした施設の存在が地域に何をもたらし得るか、作品例を紹介しながら、設計者の言葉や見学談話を通して垣間見ることが出来れば幸いである。　（東海支部特別編集委員会）



【諏訪地方の文化と建築】
諏訪地方―その歴史と風土／岩波豊明
諏訪大社の建築／竹村美幸
自然環境と街づくり・施設づくり／原　常夫
・
【地域振興と小美術館・博物館】
人づくり、まちづくりと博物館／大谷勝己
観光文化としての小美術館／岡本祐美
・
【作品見学談】
建築探訪Ⅰ：小宮三辰 VS 伊藤和子
建築探訪Ⅱ：谷淳之介 VS 伊藤和子
・
【地域の作品紹介】
八ヶ岳美術館・清水多嘉示美術館／柳　眞也
諏訪北澤美術館／SUWA ガラスの里 ルネ・ラリック美術館／児島学敏
神長官守矢史料館
生きていた水車製材／藤森照信
諏訪湖博物館・赤彦記念館／宮坂　徹
信州高遠美術館／宮本忠長
アンフォルメル中川村美術館／永木靖久
・
【余話】
寒冷地と建築／北原賢二
・
長野県建築マップ
・
【Report】
マレー半島をジャラン・ジャラン／福田泰造

諏訪地方―その歴史と風土

岩波　豊明

長野オリンピックの開会式に異彩をはなった建御柱（たておんばしら）は、電波に乗って世界の人々の目に焼きついた。

時あたかも平成10年は、申（さる）と寅（とら）の御柱開催年にあたる。奥山から大木を曳き出し社の四隅に建てる、祭りと呼ぶにはあまりにも素朴にして豪壮な祭り―御柱。諏訪の風土は、御柱抜きには語れない。（**写真1**）

地勢と気象

諏訪地方は、本州のほぼ真ん中にある盆地で、諏訪湖周辺の平坦地に岡谷市、諏訪市、下諏訪町が、八ヶ岳の裾野に広がる丘陵地帯に茅野市、富士見町、原村が位置している。6市町村あわせた人口は、およそ21万人である。（**写真2**）

JR中央本線、国道20号、中央道、長野道などの幹線が走り、東京、名古屋へそれぞれ約2時間で行くことができる。

海抜759mの諏訪湖から八ヶ岳の2899mまで、全域が高原地帯といえる環境にある。夏季冷涼、空気が乾燥して避暑に適し、豊富な温泉とあいまって全国有数の観光地、リゾート地帯となっている。年間の雨量は比較的少なく、晴天の日が多い。冬季はマイナス20度以下になることもあり、積雪は少ないものの、厳しい寒さが諏訪地方の気候のきわだった特徴となっている。（**写真3**）

諏訪地方のおいたち

「すわ」の名は古く、古事記にすでに「州羽」「須波」などとして現れる。全国最古の神社の一つである諏訪大社の起源も、この頃といわれる。古来より諏訪大社を祭（まつ）る諏訪氏が、同時に諏訪の領主でもあった。

鎌倉時代には、毎年霧ヶ峰の御射山で全国の武将が武技を競いあったといわれ、広大な桟敷のあとが今に残る。戦国時代には、武田信玄や高島城を築いた日根野氏の支配を受け、やがて諏訪氏の統治に戻る。江戸時代には、高島藩として発展した。百姓一揆が一回もない、全国でも珍しい平穏な藩であった。

明治に入り、多くの町村に分かれ合併を繰り返し、昭和30年代に現在の6市町村にまとまった。

産業に見る進取の気性

諏訪の人々の性格は、「進取の気性」とよくいわれる。積極的に新しいものをとり入れる点において、面目躍如である。明治5年、官営富岡製糸開設の数か月前に、深山田製糸場が諏訪に開かれ、それをきっかけとして世界的な岡谷の製糸業へとつながっていく。耕地整理、保温折衷苗代、あるいは商工会、スキー、スケート、グライダーなども、全国的にきわめて早かったものである。

第二次大戦後、製糸のまちは多く衰退するが、諏訪地方は異なる道をたどる。いち早く時計、カメラ、オルゴールなどを取り入れ、「東洋のスイス」として全国屈指の精密工業地帯に変身を遂げた。工業、商業ともに隆盛期を迎え、とくに諏訪市は県下では軽井沢町と並んで長く不交付団体であった。

観光面では、明治以来早くから開発され、諏訪湖、白樺湖、霧ヶ峰、蓼科、八ヶ岳、諏訪大社、高島城、万治の石仏、東洋一の間欠



写真1　御柱の木落とし



写真2　諏訪湖

泉、全国屈指の温泉、多数のスキー場など、全国的に有名な観光資源に恵まれ、年間2000万人を超える観光客でにぎわっている。

経済活動の活発さと活字好きの市民性に支えられて、新聞、ケーブルテレビ、印刷なども、きわめてさかんである。諏訪に赴任した新聞記者は、競合する地方紙の多さに驚嘆するという。

一方で、地場産業も根強く、酒、味噌、醤油、鉄平石や、厳しい寒さを利用した寒天、凍り豆腐などは、全国でも指折りの生産量となっている。高原野菜や果樹、山菜、酪農、諏訪湖名産のわかさぎなどもさかんで、幅広い産業構成が諏訪地方の特色でもある。

進取の気性がつくりあげた文化

諏訪地方の文化の特色は、きわめて早い時期から、中央の刺激を受け、しかも民間の意欲によってさかんになったことにある。

江戸時代、甲州街道、中山道の二大街道が通り、東西交流の中継点であったことが大きな背景といえる。高島藩の出稼ぎ奨励策により、海苔商人など諏訪の人々の活躍は関東一円に及び、中央の文化を持ち帰ったことも大きい。江戸で修行した大工により、諏訪に立川流、大隅流の二大流派が興り、寺社建築で全国に名を馳せたのもこの頃であった。一方、古来から諏訪は高貴な人の流刑の地とされ、徳川家康の六男松平忠輝公をはじめ、吉良上野介の子吉良義周などが流されてきて、書、画、能など中央の文化を伝えた。(**写真4**)

こうした素地のもと、明治に入ってからきわめて多くの活動が開花した。その一つは、島木赤彦らによる短歌活動で、全国有数の隆盛ぶりを見せた。音楽の分野では、洋楽の愛好者が地方としてはかなり多いといわれる。とくに、全国最古のオーケストラとして有名な、大正14年創立の「諏訪交響楽団」が、団員80人余を擁して活躍中で、小澤征爾氏からも高く評価されている。演劇の世界では、高島座、都座、御田劇場など、明治・大正年間に県下最大の洋風劇場があったことも特筆される。アメリカの演劇雑誌に載った劇団もあったという。

県内最古の諏訪市立美術館にみるように美術もひじょうに活発で、信州独特の農民美術は、習った人々が中央をめざしてプロになってしまい、県内の他の地方とは異なった道をたどる。諏訪地方は、美術館のとくに多い地方である。湖と高原等の景観に恵まれていること、経済力の裏付けがあることなどのほか、出身の芸術家が多いこともその背景と思われる。

御柱と地域アイデンティティー

諏訪地方の文化のもう一つの特色は、新しいものと古いものが共存していることである。騎馬行列が4地区に残り、古来から伝わる相撲神事、早乙女の田植え神事、凍結した諏訪湖での御神渡拝観神事など、諏訪大社にまつわる伝統行事も数多い。

わけても、7年に1度の御柱は、1200年も前から続く祭りとして知られ、諏訪地方の人々の強烈なエネルギーの源となっている。御柱を一度経験すれば、だれでも「諏訪人」になるといわれる。これほど地域アイデンティティーの強い地域も珍しい。

4月から、いよいよ御柱の1年が始まる。

(いわなみ　とよあき／諏訪市教育委員会 社会教育課社会教育係長)



写真3　八ヶ岳



写真4　諏訪大社上社拝殿 二代立川和四郎冨昌作

諏訪大社の建築

竹村　美幸

日本の屋根といわれる中部地方の頂点に位置するのが諏訪である。この諏訪地方は、四周を連綿と続く山々に囲まれ、その中に母なる湖を中心にして、原始の昔から人々が生活していた。(**写真1**)

特に八ヶ岳西麓の標高1000メートルを越える地には、日本三大遺跡の一つ尖石遺跡がある。また棚畑遺跡から発掘された土偶は国宝指定を受けるなど、当時縄文王国が形成され、日本文化の発祥の地とされている。

こうした原始文化は、日本唯一の黒曜石の産地を持つとともに、諏訪の風土とかかわりを持って、諏訪特有の文化を形成した。

その一つが諏訪信仰といわれる諏訪大社の起源にさかのぼる古代信仰である。この信仰から諏訪人の気質が醸成され、そのもとに諏訪特有の文化が形成された。それは、建築の分野にも及び、近世に至って立川流、大隅流が大成した。

特に立川流は、建築の本命は素木(しらき)にあるとし、建築意匠に彫刻をもって多くの寺社建築から山車に至る幅広い仕事にあたり、その名声を天下に走らせた。立川一門の棟梁は、技術が優れていたことはいうまでもないが、技術習得の熱意と創造力の高邁さによるものでその力は諏訪人気質が底流にあったからである。

立川流の建築は、静岡浅間神社をはじめ、東海地方の数多くの寺社と半田市、桑名市、養老町等の山車、さらに西は京都御所、東は千葉神社に及んでいる。もちろん、信州にも数多くあるが重要文化財の諏訪大社はその代表建造物である。

諏訪大社は、諏訪湖をはさんで南に上社の本宮、前宮があり、北に下社の春宮、秋宮があって、この四社を総称して諏訪大社という。しかもこのうち、上社本宮と下社秋宮が立川流の建築、春宮が大隅流の建築で、ともに昭和58年12月26日重要文化財に指定された。(**写真2**)

下社秋宮は、立川和四郎初代富棟、上社本宮は立川和四郎二代富昌によって建造され、下社春宮は大隅流柴宮長左衛門によって建造された。



写真1　諏訪湖と諏訪盆地（諏訪大社 上社1 下社2）

この三社殿はいずれも拝殿である。しかし、参詣人は誰れもが本殿だと思って参拝する。諏訪大社には、古来から本殿がないのである。本殿がないということは、日本の神社信仰の原点を今に伝えていることを意味するもので、このような神社は、日本に奈良県桜井市の大神神社と諏訪大社の二社だけである。

原始、古代の昔は、神は雲のかかる高い山、またはその上にいると思い、祭祀のときには神は地上に降臨するとした。その地は多く岩であって、神の依るところ、すなわち磐座として崇拝した。

そして、磐座のある地を清浄な地として区画するために柵を立て、やがて柵の上に草屋根をかけた。また神宝をおさめておくところに掘建柱に草屋根をかけ、周囲を草で囲ったものが社殿の始まりである。それ故、お宮とか社ということは、屋根のやがもとで出来たことばである。

上社本宮の社殿は拝殿だけであって本殿はない。本殿にあたるものは後方の神体山守屋山で、直接神殿にあたる神の依る磐座は拝殿に続く硯石という大きな岩である。

こうした本殿という建物のない社殿の建造物は自から造り方が異なる。大神神社は割拝殿という形式のものであり、磐座の直前に禁足地を区画するために三ッ鳥居という特殊な形式の鳥居を生み出している。

上社本宮の場合は、諏訪神社造という拝殿を考案し、磐座を区画するために、その四隅に大木を建てる御柱という形式を生み出した。御柱の起源は、社殿建築の起源の源泉をなすもので、縄文時代の掘建柱の竪穴住居から出発したものである。

その後、神仏習合思想が起こり、古代の寺院建築の隆盛を見るなかで、諏訪独特の形式を生み出し、さらに近世に至って建築技術の極限をきわめたともいうべきものが上社本宮の幣拝殿の建築である。

この社殿は、正面中央が拝殿で、平面を正方形とし四隅に円柱を建て、吹放しとする。拝殿に続いて、木階５級にて高欄付の縁に登る。この部分は幣殿で、二本の親柱に桟唐戸を建てた門形式の建物で、左右に脇障子をおいている。

拝幣殿の建物から一段下げて、左右両脇に桁行２間、梁間１間の片拝殿を翼廊のように連ねる。

拝殿、幣殿、左片拝殿、右片拝殿の四棟は、別々の建物でありながら棟木を繋ぐなど構造上は一体にしている。特に屋根は、左右の片拝殿は切妻造とし、正面拝殿は大唐破風、後方の幣殿は、大唐破風と棟を直角にして切妻造としている。このように複雑な屋根を組み合わせているにもかかわらず少しも異和感がなく調和のとれた美しい社殿である。

この社殿の美は、さらに建築意匠の彫刻にある。近世の彫刻は、建築に対して彫刻が過多になりすぎることと、彩色をほどこす傾向が強い中にあって、立川流建築は建築美を生かす範囲に彫刻をつけ、しかも素木である。この社殿では、お家芸ともいえる粟穂に鶉（**写真３**）をはじめ、親子の竜、牡丹を口にする唐獅子、波に千鳥など、愛情のあふれるものを写実風に彫っている。

このような点から、静岡浅間神社とともに近世の社寺建築の代表作とされている。

（たけむら　みゆき／茅野市文化財委員）



写真２　諏訪大社上社本宮拝殿



写真３　右片拝殿虹梁上の粟穂に鶉の彫刻

自然環境と街づくり・施設づくり

原　常夫

諏訪大社と御柱祭

諏訪地方６市町村には、古来より信濃の国一之宮とよばれる諏訪大社への信仰があり、その諏訪大社信仰は全国に広まりがあり、分社だけでも沖縄を除く各都道府県に５千社以上、末社を加えると１万社以上にもなると言われています。

寅と申の年には諏訪地方の20万人の人々がこぞって参加し、諏訪大社の数ある神事の中でも勇壮で熱狂的な御柱祭（地元では「おんばしら」という。）が行われます。

平成10年は諏訪地方の人々が７年間、待ちに待ったこの御柱祭の年に当たります。

御柱祭とは直径１ｍ余り、長さ約16m、重さは10t以上にもなるモミの巨木を、上社・下社合わせ４つの社に各４本づつ、計16本を切り出し、10km以上の御柱街道を独特の木遣り唄に合わせて人力のみで曳き、各社殿の４隅に建てるものです。祭りは４月の「山出し」と５月の「里曳き」にわかれ、山出しでは急坂をおんばしらに乗って降りる「木落とし」や川を越える「川越え」など壮観な見せ場があり、里曳きでは長持ち・騎馬行列等のほか各町内会や自治会で創意工夫した出し物が街道を練り歩きます。

この御柱祭の年には、結婚や住宅の新築等の普請（御柱祭に金をかけるために、他に金のかかることは行わない。）は行ってはいけないとさえ言われています。

諏訪地方の街づくり・施設づくり

このおんばしらに無くてはならないもののひとつに「木遣り」があります。木遣りが無ければ、おんばしらは一歩も進まないからです。澄み切った空に抜けるようなテノールが響きわたり、金色に輝く「おんべ」が風になびきます。

諏訪地方は諏訪湖を中心に北アルプス・中央アルプス・南アルプス・八ヶ岳・富士山等有名な山並みが眺望でき、霧ヶ峰・蓼科・白樺湖などの高原があり自然環境には申し分がありません。このすばらしい環境だからこそ木遣りが冴え渡り、20万人の人々が熱狂できる、おんばしらを営むことができるのです。多分諏訪大社の信仰はこの自然環境そのものが神となっているのではないかと思われます。

こうした、諏訪地方の住民が誇りとしている雄大な山々やそこから流れ出す清らかな河川などの自然環境とおんばしらをはじめとする歴史的・文化的遺産とか特色ある諏訪市の風土や文化そして諏訪人気質をかたちづくってきました。

諏訪市においては一時、古い建物を破壊して現代風の建築物が好まれた時代もありましたが、それにも耐えて昔ながらの街並みや建築物が残っています。そして、諏訪市のなかでも、各地区の風土にあった街並みの形成や建築物の保存という機運が盛り上がってきました。

諏訪大社上社周辺の「上社の杜景観形成住民協定」では長野県の天然記念物の上社の杜を背景とした風光明媚なまちづくりを目標とした街づくりを行っています。協定の内容としては、建築物に関す



写真１　御柱祭木落とし

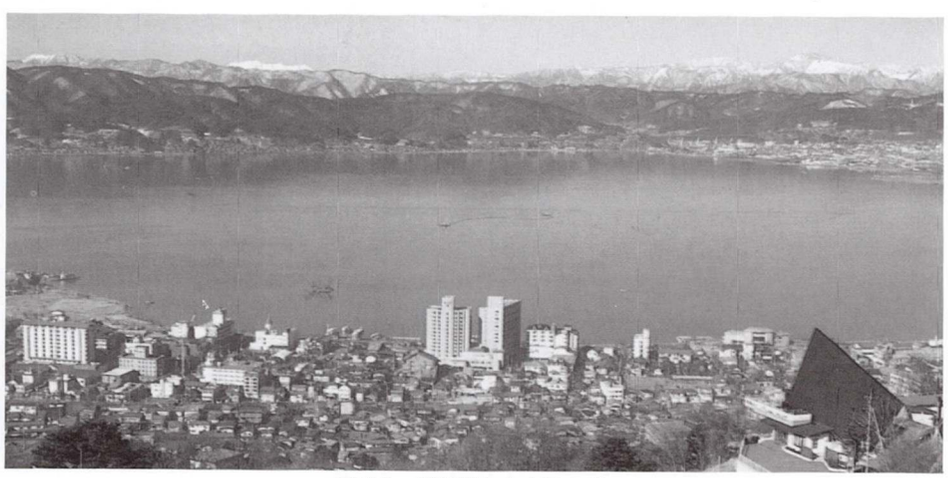


写真２　諏訪湖と中央アルプス



写真３　サンリッツロード商店街



写真４　上社の杜景観形成協定地区

る基準では高さは10m以下とする、道路からできるだけ後退して建設する、屋根は美しい山並みにマッチしたものとするなど厳しい基準により自然環境を守ろうとする姿勢が協定からは読みとれます。

郊外型店舗が集まった諏訪インター周辺の「サンリッツロード商店街まちづくり協定」でも商店街にも関わらず、建築物の位置・規模・意匠形態・材料等や広告物の掲出についても厳しい規制がなされていますが、ここの協定の圧巻は緑化面積率（敷地に対する緑被面積の割合）が25%を目標としていることです。じつに敷地の1／4が緑地となるわけです。都市計画法の開発行為や土地区画整理法でいう公園緑地の割合が３%程度であることを考えればいかに膨大な数字であるかがうかがわれます。その他美化にたいする姿勢・ごみ・洗濯物にも規制が加わり、いかに自然環境を大切にしているかということが協定内容からひしひしと感じてきます。

上諏訪街道21では数ある旧来の造り酒屋の建築物を生かして衰退しつつある中心市街地周辺の商店街を活性化しようと努力しております。また、JR上諏訪駅周辺の商店街でも諏訪市の風土にあったまちづくりをめざしています。

長野県においては、こうした自然環境とマッチした街づくり支援のため、コンクリートで固めた諏訪湖の護岸の内側に渚を作り、湖に映える山々への演出をしています。

諏訪湖畔には古く製糸業を営んでいたころの古い建物が保存されていますが、最近建設された湖畔の美術館もこうした傾向により色彩や屋根の形に配慮したものや、シンプルな建物とするなど環境へのやさしさが滲み出た建築物が増えてきています。

諏訪市を訪れまた通過していく電車や高速道路の車窓からの眺望はもちろん町中の車や歩道からうるおいのある、そして他の都市ではまねのできない雄大な景観を楽しんでもらうことは重要であり、そこに住む住民にとってもそれは大切な財産であります。

そこで諏訪市では、建築物を建てようとする人には規制ではなく、自然環境を愛する人の心に訴えるため次のようなお願いをしています。

○位置については極力道路から後退していただきランドマークやスカイラインへの眺望をできるだけ確保していただきたい。

○規模については周辺環境から突出した印象を与えないようにしていただきたい。

○デザインや屋根については自然環境にマッチさせていただきたい。

○付近に伝統的な様式がある場合にはできるだけその様式を取り込んでいただきたい。

○色彩は周辺と調和した色調としできるだけ明度と彩度を落としていただきたい。

○敷地をできるだけたくさん緑化していただきたい。

○信州の景観を大切にしていただきたい。

すべては、最後のこの一語に尽きるのだが。

（はら　つねお／諏訪市都市計画課）



写真５　湖畔に古くからある建物



写真６　湖畔の美術館

人づくり、まちづくりと博物館
―縄文王国と尖石(とがりいし)考古館―

大谷　勝巳

生涯学習都市茅野

長野県茅野市は、八ヶ岳の西南ろくにある人口約5.3万人の地方自治体である。昭和63年には、生涯学習都市宣言を行い、「豊かな個性の花を咲かせるまち茅野」を目標に、市民一人ひとりはもとより、家庭、学校、地域社会、企業、団体等が連帯・融合してのマチづくりを推進してきている。また博物館活動は、八ヶ岳総合博物館（**写真1**）を、はじめとして尖石(とがりいし)考古館、美術館、神長官守矢史料館(じんちょうかんもりやしりょうかん)と博物館もしくは博物館相当社会教育機関で実践されてきている。中心的施設である八ヶ岳総合博物館は、「地域に根差した文化の創造」を目標に「歴史に学び、未来を切り開く、創造力あふれる人づくり」をめざした、八ヶ岳西南ろくの自然・歴史・民俗をあつかう総合博物館である。また、今回の話題としたい尖石考古館は、縄文時代中期の遺跡である特別史跡尖石遺跡に隣接する縄文時代専門の単科博物館である。現在、尖石考古館では、蛇体把手付深鉢（**写真2**）などの尖石遺跡からの出土品である多くの美しい縄文土器などに加え、「縄文のビーナス」と愛称される日本最古の国宝である土偶（**写真3**）を所蔵し、公開している。

また、茅野市は、言うまでもなく中部高地の縄文遺跡の宝庫で、縄文王国ともいえる。近年、道路整備やほ場整備、区画整理などによる埋蔵文化財緊急発掘調査の増加が著しく、その出土品の保管場所も不足している。

さらに、尖石遺跡は、昭和27年に特別史跡として指定され、保護されてきただけでなく、隣接の遺跡である与助尾根遺跡（**写真4**）も平成5年に特別史跡として追加指定され、試掘調査や史跡公園整備事業が進められている。尖石遺跡に隣接してある宿泊型の青少年育成機関である青少年自然の森も既に完成しているが、今後も史跡公園と一体化して整備をしていく予定である。

このような中、平成12年開館をめざし、尖石考古館をリニューアルする計画が進行している。この計画をみながら、地域文化の振興と博物館の役割について若干触れていきたいと思う。

期待される博物館像　―新しい尖石考古館にもたせるもの―

茅野市は、避暑やスキー・登山を中心とした八ヶ岳や蓼科、白樺湖、車山といった観光地をもつ観光立国である。このような点から、博物館の活動には観光的な要素が期待されている。また、尖石考古館の現在位置が、市街地から離れ、別荘地やゴルフ場に近い立地であることから、尖石考古館の利用者のほとんども観光客である。実際、小中学生が歩いてや自転車に乗って気軽に訪れる場所ではない。

観光的視点からの博物館への期待は、その展示活動の部分が強調されることが多い。展示は歴史的にみると、美術館的な要素を多分に持ち、ケースに入った美術工芸品を鑑賞する「美術工芸品タイプ」とも呼べる国立東京博物館のような例から始まり、実際に使われた民俗資料をたくさん持っていて、それをオープンに資料展示をしている「民俗実物タイプ」とも呼べる北海道平取町立二風谷アイヌ文化資料館のような地域文化に重きをおいたものへ展開してきた。さらに、実物資料を多く持たないで、模型やレプリカの比較展示が主である「模型タイプ」とも呼べる国立歴史民俗博物館や江戸東京博



写真1　茅野市八ヶ岳総合博物館



写真2　蛇体把手付深鉢

物館も出現してきている。そして、最も新しいタイプとしては、東京大学総合研究資料館で試みられたようなデジタルミュージアム、電子技術を駆使する「疑似体験タイプ」とも呼べるものもある。簡単に言えば、ケースに入った美術品を鑑賞するものから実物やレプリカを資料とし、触ったり、比較できたり、さらに電子的に疑似体験できたりといった参加・体験型のものへ変化してきていることがわかる。

これら様々な博物館の利用者の多くの期待は、いずれのタイプの博物館へ訪れる場合も、テーマパークや遊園地では味わうことのできない少し有意義な時間を過ごすことにあると思う。しかし、テーマパークのようにアトラクションで参加者が一同に体験できる要素は、専門的な興味を持つきっかけとなる上で大変有効である。これに対応するように利用者空間が展示空間にとどまらない「参加・体験タイプ」の館も科学館や児童館を中心に多く出現してきている。このようなタイプで、恒常的な利用者である市民の参加を一層進めた例として、東京都府中市郷土の森博物館のように市民が過去の農具の複製を使って実際に耕作したり、神奈川県川崎市青少年科学館や神奈川県平塚市博物館のように様々な調査研究活動を市民と協同で時間をかけて行ったりするような博物館があげられる。このような博物館活動は、しっかりしたカリキュラムを持ち、学芸員が博物館の先生として博物館教育の中心的な役割を担っている。

海外では博物館活動は、博物館の中だけにとどまらず、学校の授業にも取り入れられている例も見られる。そこでは、単なる移動展示ではなく、アトラクション的な要素を持つ参加・体験を軸にした教育を学校の教員と博物館の学芸員が協同で行っている。

博物館は、「博物館行き」という言葉に代表されるような古い使えなくなったガラクタを倉庫にしまってあるところと言うイメージはまだまだ強い。そこでは、学芸員がただ好きな研究をしている場として捉えられているように思う。しかし、博物館本来の役割は地域文化や自然環境に関する資料を世代を超えて保存し、公開していくことや、市民に開かれた社会教育を実践していく場でもある。尖石考古館も、宮坂英弌（ふさかず）氏の八ヶ岳西南ろくの縄文遺跡を中心にした独自調査による資料収集や中央の学者を招聘しての講演会などの啓蒙活動によって、その基礎が築かれている。そして現在まで、主に埋蔵文化財センター的な事業として埋蔵文化財緊急発掘調査による収集・調査・研究活動と博物館的な事業として企画展、土器教室（**写真5**）のような様々な活動を地道に行ってきている。尖石考古館のリニューアルに際し、このような専門的な調査・研究活動や社会教育の持つ活動性を一層発展させることも、市民の多くから期待が寄せられていることも事実である。

さらに、情報化社会に対応すべく、博物館の資料や活動の情報の公開に対する期待も大きい。収蔵庫の中を見たいとか、出土品である土器の復元作業など実際の調査・研究活動を見たいとの展示的な部分から、収蔵品の持つさまざまな情報や蔵書の情報、今後のイベント情報といった情報そのものまで、利用者の要求した情報が得られるといった期待が幅広く寄せられている。博物館は、地域情報の図書館のような役割も担っていると言える。

加えて、広域的な博物館との連帯をとっていくことも期待されて

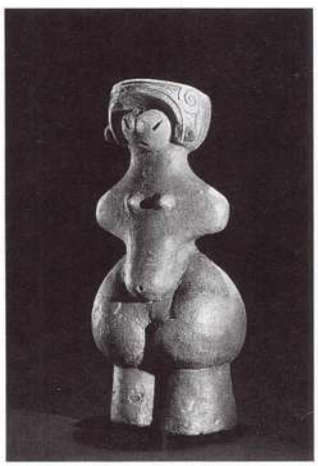


写真3　国宝土偶 棚畑遺跡出土



写真4　与助尾根遺跡復元家屋

いる。前述のように茅野市にも複数の博物館があるだけでなく、茅野市を含む諏訪地方となると公立私立を含めて10館以上の博物館がある。それぞれ異なった資料や活動内容を持っているのであるが、大塚氏のいう「分散型の博物館ネットワーク」*1という「性格の異なる各館がそれぞれの地域における役割を果たすとともに、全体として有機的につながるネットワークを形成」*1させ、互いの情報交換も重要視し、個々の館だけではできない博物館活動を進めなければならない。

これからの博物館に求められるものについては、伊藤氏の提示した「第三世代の博物館像」*2の考え方を基調に高橋氏らが整理した「博物館の将来像」*3や加藤氏による「日本の博物館の風土とこれからの博物館」*4により詳しいが、いずれも、尖石考古館のみならず、博物館には多様な期待が持たれていることがわかる。

みんなでつくる博物館　―市民参加型プロジェクト　ワークショップ―

今回の尖石考古館のリニューアルに際しては、ワークショップという手法を設計の初期段階で導入した。使い手側の市民と作る側である設計者と施設の運営を主に行っていく行政が一体的に設計を進め、市民の期待を設計に反映させるという手法である。最近多く用いられる住民参加の度合いが最も高い問題解決手法といわれている。この手法では住民参加の目的の明確化やリラックスして参加できる雰囲気づくり、慣れた進行役（ファシリテーター）が進行させること、適切でわかりやすい情報提供が必要ともいわれている*5。

今回のワークショップの参加者は、公募に応じた市民約20名と茅野市の職員、設計者の約10名計30名程度で構成され、新尖石考古館の利用者を想定することに始まり、展示室などの「利用者空間のあり方」を中心にその活動を行ってきた。（**写真6、7**）

この中では、市民研究やボランティアの活動場所と体験学習室、「縄文時代の人々のくらし」の展示コーナー、そして学芸員室を相模原市立博物館のように一体的に作ることがまとめられた（**図1**）。また、玄関ホール、ガイダンスルームを一体的に作り、多目的な導入空間としていくことや、くつろげる空間として喫茶室やミュージアムショップを充実していくことも、ワークショップで具体化した一例である。言いかえれば、市民が展示や企画などの学芸活動に参加する場、団体で観光を目的とした一時的な利用者が、一同に体験できる場やゆっくりくつろげる場が設定されたことになる。

現在、ワークショップの参加者は、完成後にどんな展示活動が展開されていくのかや、どんなことが体験できるのか、どんなミュージアムグッズを売っているのか、専任学芸員は何人くらいいるのかなど設計から運営へとその興味が次第に変化してきている。この流れは、他のワークショップの事例*6でも見られることで、参加者の当事者意識が高まったワークショップほどハードからソフトへ興味が展開していくことを示しているのではないだろうか。

今回のワークショップでは、新しい尖石考古館は、市民と、学芸員をはじめとする館職員との共同で運営されることを前提に設計が進められることになった。同僚の言葉を借りれば、博物館の建物は舞台とその装置、演者は市民、裏方が館職員である。そして、設計段階において、奇抜な公共建築がいわれ続けてきたようないわゆる



写真5　土器教室


写真6　ワークショップでの討議風景（乃村工藝社撮影）

「いれモノづくり」でなく、「ヒトづくり」が始められたと思う。今後も、市民参加が単なる無償の労働提供とならないように、市民と行政が一体の企画・運営ができる開かれた博物館が実現できるよう願っている。

市民参加のまちづくり　ーマチづくりと博物館ー

アンリー・リヴィエール氏は、「エコミュージアムは、行政と市民が一体となって発想し、形成し、運営していく砦である。行政側は資金、資材、技術等を用意し、地域住民からはアイディア、智能、ビジョン等を提供する形で両者が参加することが望ましい*7」といっている。クリ菓子で有名な長野県小布施町の町並み修景事業では、法定再開発の手法を使わないことや地域住民のアイデアを基に、都市再開発のイメージの事業が推進された*8。中心的な施設には、記念館などいくつかの博物館も配置され、「地域社会の人々の生活と、そこの自然環境、社会環境の発達過程を史的に探求し、自然遺産および文化遺産を現地において保存し、展示することを通して地域社会の発展に寄与する*7」というエコミュージアムの成功の好例と思う。

尖石考古館のリニューアル自身も、史跡公園や青少年自然の森の約13haの整備計画の一部として捉えられる。今後この史跡公園を中心に地域を整備していくには、史跡公園計画だけでなく、道路計画を中心とした利用者のアプローチ、尖石遺跡周辺へ整備の検討が進められている温泉施設や八ヶ岳を中心とする景観形成、観光と博物館の具体的な連携などのさまざまな計画との整合性を持たせることが、検討されている。この計画に関しても、市民参加のまちづくりの基本計画に沿い、都市計画では細かくフォローできない具体性のある計画の立案や縦割り行政の問題解決を行いながら、より地方・地域にみあったより個性的な計画が策定されなくてはならない。このような地域計画は、既製の法律に縛られにくい茅野市独自色を持った地方分権型エコミュージアム計画ともいえる「マチづくり」になるのではないだろうか。

最後に今回の尖石考古館のリニューアル計画は、「市民参加のまちづくり」という茅野市の総合計画の基本計画だけでなく、もともと博物館や学芸員の持っていた地域や市民に開かれた活動方針、すなわち市民や地域に密着し、進んで情報公開を行っていく社会教育の基本方針が進めてきたと思う。今後も「みんなでつくる博物館」が、「マチづくり」のスタートの好例になることを願ってやまない。

（おおたに　かつみ／茅野市教育委員会 文化財課 史跡公園係）

—引用文献—
＊1　大塚和義.1990.博物館学Ⅰ「博物館のネットワーク」,pp67-72.財団法人放送大学教育振興会,東京.
＊2　伊藤寿朗.1993.市民のなかの博物館.吉川弘文館,東京.
＊3　高橋信祐・亀山祐市・越真澄.1995.博物館の将来像.Cultivate, 2:38-42.
＊4　加藤有次.1997.日本の博物館の風土とこれからの博物館.教育と情報,476:2-5.
＊5　㈱パスコ　コンサルタント事業部　都市整備部　企画チーム.1996.都市計画業務支援システム（住民参加・意志決定システムの研究）
＊6　太田宏・増田剛.1996.参加型プロジェクトの満足度.日経アーキテクチャー,7月1日号:74-96.
＊7　新井重三.1995.実践エコミュージアム入門—21世紀のまちおこし—.牧野出版.東京
＊8　森清・小谷宏志・桑原豊.1994.公共建築を考える（上）住民参加を促す新たな取り組み.日経アーキテクチャー,4月11日号:61-83.



写真7　ワークショップでの発表風景（乃村工藝社撮影）

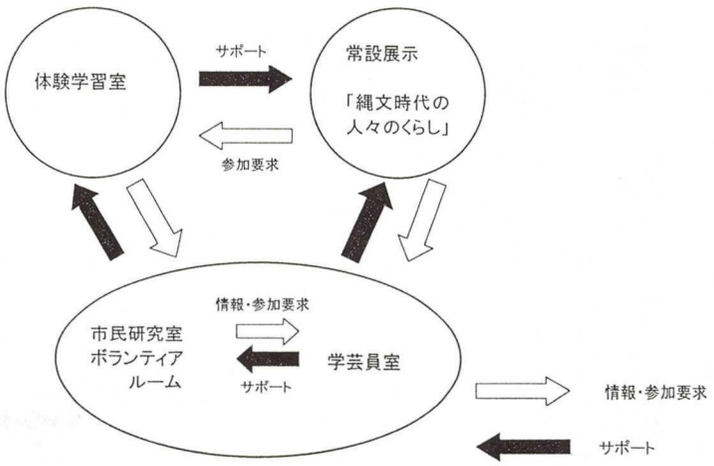


図1　市民参加空間の概念図

観光文化としての小美術館
—サンリツ服部美術館—

岡本　祐美

設立の経緯

1995年6月6日、長野県南部に位置する諏訪湖の畔に、サンリツ服部美術館が開館した。敷地面積は、およそ3300平方メートル、床面積1400平方メートル。瀟洒なたたずまいを見せる二階建ての建物は、建築家内井昭蔵氏の設計である。晴天の日には、「水辺より湧きあがる雲をイメージした」という建築家の意図は十分に伝わってくる。

そもそも美術館の設立は、服部孝子館長の夫、故服部一郎氏が生前よりあたためていたものであった。

元セイコー電子工業（現セイコーインスツルメンツ）・セイコーエプソン社長服部一郎氏は、時計業界にあって、機械時計からクオーツ時計への切り替えに成功、世界の時計「セイコー」の地歩を固めた。

氏の卓抜な経営感覚は、時代の先見性をとらえて、コンピュータ業界に進出し、なかでもプリンターは、世界シェアの過半数を制することになる。仕事に追われた多忙な生活の裏側で、一郎氏の心を和ませたのは、フランスの近代絵画であった。サンリツ服部美術館が所有するルノワール、シャガール、テレスコビッチなどの西洋絵画は、氏のコレクションによるものである。

また当美術館の中核を成す蔵品である古美術は、氏が経営していたサンリツ企画株式会社所有のものであった。歴史的遺産ともいうべきこれらの文化財を散逸させることなく、理想的な状態で保存したいと考え、美術館としての公開を望んでいたのも服部一郎氏だった。

こうした氏の遺志を受け継ぎ、「東洋のスイス」ともいうべき諏訪の地に財団法人サンリツ服部美術館は設立された。建物の細部にまで配慮された暖かく端正でソフトな感覚は、一郎氏の人間性を滲ませている。

収蔵品

コンクションは、日本東洋の絵画、書跡、工芸を中心とし、西洋の近現代絵画を含む。量的には、多いとはいえないが、とくに古美術は、質の上ではいずれのジャンルも充実している。国宝1点、重要文化財15点、重要美術品13点を含むこのコレクションは、一郎氏の父服部正次が、茶道具として使用していたものである。

正次は、明治33年東京銀座に生まれ、服部時計店の三代目社長として、世界に誇る日本の時計産業の礎を築いた人物である。塩原禾日庵の影響によって茶の湯をたしなみ、号を「山楓」、昭和最後の茶人といわれた。

国宝の光悦茶碗「銘不二山」をはじめとする作品のひとつひとつに、侘びの茶を追求した、静謐で端正な茶人服部山楓の茶の湯の世界が反映されている。

観光と美術館

館内は、古美術品を展示する主展示室とフランス近現代絵画を飾る服部一郎記念館、このふたつの展示室をはさんで、開放感に満ちた喫茶室が広がる。

スクリーンのように、大きくとられた窓ガラスの向こう側に展開する湖。ここから望む諏訪湖はひときわ美しい。

この湖畔には、いくつもの美術館が点在する。アール・ヌーヴォーのガラス工芸のコレクションで知られる北澤美術館。アンリー・ルソーと素朴派の画家の作品を展示するハーモ美術館など、いずれも湖畔の風景を生かして設計された小さな美術館である。今年は、この湖畔に日本のふるさとをテーマに創作活動を行ってきた原田泰治の記念館がオープンする。また、わずかに湖畔からはなれるが、大正から昭和初期にかけて幼年雑誌に童画を描き、造本作家としても評価の高い、武井武雄の作品を中心に展示を行う日本童画美術館もオープン、美術館のメッカともいうべき諏訪湖畔がさらに充実することになる。

サンリツ服部美術館は、古美術という一般に観光地に馴染みにくいコレクションをどう紹介するか、この三年試行錯誤を繰り返してきた。観光バスでおおくの人が訪れることで、諏訪という土地が全国に知られることも観光地である諏訪にとって大切なことである。それとともに社会教育施設として本来美術館が、果たさねばならない役割を、観光とどう絡めてゆくのか。今、諏訪という地域全体で考える必要があるだろう。

こうして小美術館が諏訪湖をひとつの拠り所として集まり、それぞれの活動を展開することで、この諏訪の地が、文化を発信する観光地として、認識を新たにされることになればと思う。

（おかもと　ひろみ／サンリツ服部美術館）



写真1　国宝 白楽茶碗 銘不二山 本阿弥光悦作



サンリツ服部美術館



写真２　重要文化財 宗峰妙超墨蹟 靈徹字号

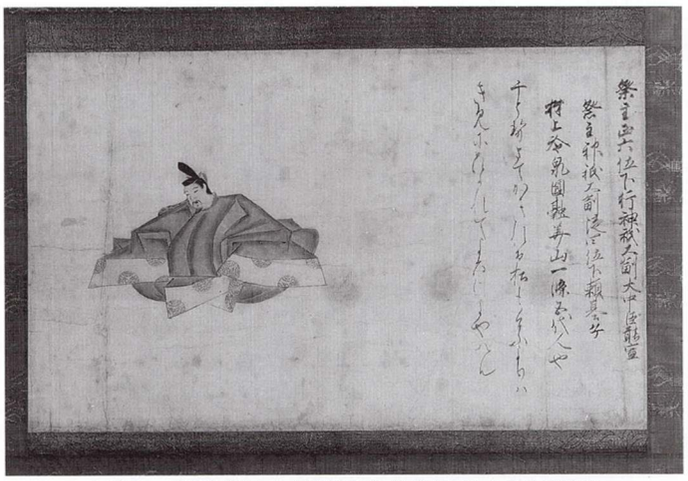


写真３　重要文化財 大中臣能宣像 佐竹本三十六歌仙絵断簡

建築探訪 I

小宮　三辰（安井建築設計事務所 名古屋事務所長）
伊藤　和子（元、ＣＢＣアナウンサー）

■サンリツ服部美術館

伊藤　１階部分が駐車場ですから、建物は高床のような感じですが受付のホールも駐車場と同じコンクリートの柱の仕上げになっていて、自然に中に誘われたという感じがしますね。

小宮　柱も上部で少し広がった安定した形のコンクリートの打ち放しですので、自然の雰囲気がありますね。

伊藤　展示室は２階になるんですけど、上がってきたところのカーブのある階段を取り巻くようなデザインもおもしろいですね。

小宮　ごく自然に上に上げるという、うまいつくりになってますよ。

伊藤　円みのあるカーブした壁というのは、とても目にやさしいですね。

ここには西洋の絵画を展示した展示室と、中国も含めた東洋的な陶磁器を展示したところと、２つの大きなブロックがありますが、これをつなぐスペースがとてもすばらしいと思います。

小宮　美術館を含めて、一般の文化施設は見せるばかりで、休ませるというのか、鑑賞したものをもう一度反すうするゆとりの空間が少ないんですけど、最近では、そういうところにも目を向けて、鑑賞しては休ませる、鑑賞しては休ませるという心配りがされた美術館が多くなってきました。

伊藤　そういう意味では、展示されている美術品の点数も余り多いと疲れたりいたしますけれども、小さな展示に限定した美術館はありがたいなという感じもいたしますね。

小宮　小さな美術館が点在している方が、そういう意味の楽しさがありますね。

伊藤　この２つの展示室を結ぶ細長いスペースからは、諏訪湖の波だちを通して向こうに山並が見えて、ぜいたくなスペースですね。

今、ちょうど私たちの目の前にロダンの彫刻が置かれていますが……。これもぜいたくで、とても心豊かになりますね。

小宮　ロダンの「地獄門」の一番上に座っている「考える人」の像ですけど、これだけミニチュアにしていただくと、かわいくて、本当にいい雰囲気ですね。



サンリツ服部美術館にて

伊藤　そのほか、こちらで素材とか何かでお気づきになったことはおありですか。

小宮　美術品を展示するということで、鑑賞すべき対象を阻害しないような、自然な色合いとか自然な素材を使って、展示室なり周りの環境づくりに対する心配りが特に感じられます。

伊藤　そう言われてみると、私のような素人の目で見ても、これは！という素材はないですね。

小宮　そうですね。人をびっくりさせるような大理石をどんどん使ってるとか、真鍮(しんちゅう)、ステンレスのようなギラギラするものを使っているとか、そういう場面はないですね。非常にやさしい。自然の素材で自然の空間をつくって、展示物を引き立たせるというつくりになってると思います。

伊藤　バルコニーも自然の色のれんがをうまく組み合わせてますね。寒い土地で、れんがを使うことはどうなんでしょうか。

小宮　これはかなり高温で焼いてありますので、大丈夫です。

外壁に使ってある小さなリブ付きのタイル、立体調に起こしたタイルは作家の個性が出てますね。小さな部材をたくさん集めて、一つの表情をつくってますね。１階に入ったところの玄関の脇に、斜めにタイルを張ってある場面がありますが、昔の下見壁のような非常に重厚な雰囲気が出ていますね。

伊藤　それもお話をうかがうまでは気がつかないほど、控えめにデザインされていて、良い効果を生んでいると言えますね。

また、外から入ってきて受付のところの床は、ざらっとした仕上げで、階段もその延長ですね。そして、展示室は音がしないようになっている。

小宮　これはタイルカーペットですけど、少しフェルト調のやわらかいタイプのもので、足にもやさしいし、音も出にくい。手入れは大変ですけど、展示室に良い材料です。

伊藤　美術館を歩いていて、足に触れる感触って大事ですよね。こうして諏訪湖の波を見ていると、何もかも忘れて、浸ることができます。

■北澤美術館

伊藤　西寄りの横の方から見た建物の形は、窓が一つもない切妻のシンプルな形ですね。

小宮　そういう点では昔の土蔵のような感じですね。

伊藤　内部へ入るときから、大変重厚な感じがしました。ドアの高さも非常に高いですね。

小宮　美術館という場面はヨーロッパの世界じゃないかと思いますが、その辺の違いを感じさせてくれますね。

伊藤　これから美術品を見ようとするときに、伸びやかで、何か日常性とちょっと違う感じでいいなと思いますね。

１階のガレの作品が置いてあるアール・ヌーボーのガラスの作品を見たとき、全部照明で見せているのは、あれでいいわけですね。

小宮　あれがいいのではないでしょうか。ガラスは光が当たってキ

ラキラした美しさが出てくる。普通の陶器と違って、見ただけの形や美しさだけじゃなくて、透過光とか、光を通しての質感みたいなものがガラスの命だと思いますので、そういう意味ではああいう展示の方法が望ましいと思いますが。

伊藤　日本画を展示した2階部分の内部の特徴といいますと？

小宮　小さな美術館にもかかわらず、展示を中心にして天井の高さを高くとり、非常に伸びやかな空間の中で絵が見られるように工夫されていますね。

伊藤　なるほどね。ところどころに置かれた椅子もとてもすてきですね。

小宮　いろんな建築家の方たちがこういう椅子を設計されていて、日本にも随分そういうのが入ってきていますが、日本のものはまだまだ実用重視の傾向ですから、椅子世界というものを何千年過ごしているヨーロッパの方に一日の長がありますね。

伊藤　すばらしい美術品を鑑賞に来て、そこに置いてあるちょっとした家具類が余りいいものでなかったら、ぶち壊しですものね。

1階はガレとかドームのアール・ヌーボーのガラスの作品が並んでいます。

2階では、日本画と、このコントラストもおもしろいですね。

小宮　日本画の場合は、狩野派みたいな装飾から、どんどん写実的なものに移ってきて、抽象を含めた雰囲気の世界に入ってきているわけですけれど、日本画が今、額縁の中で完成されているのは、ちょっとつらいですね。

伊藤　古い時代はふすま絵だったり、屏風だったりするわけですものね。

小宮　ガレの作品も王宮を飾ったり、家庭を飾ったり、生活の一つの材料として使われていたわけです。その辺から言いますと、今、日本の建築全体が機能空間に化してしまって、潤いをどこかに置きざりにしてきた環境が多いですね。

伊藤　便利で、快適ということだけでなく、もう少し心に訴える方向に目を向けたいですね。

小宮　それを建築に少しずつ取り入れていきますと、自然の中でこの美術館と同じ心の感動というものが出てくると思うんです。

伊藤　建築を見に美術館に参りましたけど、逆に言えば、この2つは切り離すものではなかった時代が長かったんですよね。

■ルネ・ラリック美術館

伊藤　こちらも外観は素朴な感じですけれども、屋根がすごく大きいですね。妻入で、三角のところが全部ガラスですね。

小宮　非常にすっきりした感じですね、三角形と四角形を組み合わせて。

この地方の本棟造りのような素朴なイメージが感じられますね。

伊藤　中には余り窓がとってないんですけど、円い窓があったり、窓のとり方が意識的でおもしろいですね。

小宮　ガラス作品を展示する建物ということで、建物の方にもゆとりとか遊びを取り入れているような雰囲気を感じますね。特に、三角形の大きな妻のガラスは、中側に入れば、アトリウムという格好になってるわけですけれど、おっしゃるように、中が全部展示場で暗うございますので、そういう意味では明るい場所と暗い場所との対比みたいなものを作家は意識されたんじゃないでしょうか。

伊藤　この建物は、2階の部分の展示室などは天井が全く張ってなくて、三角のままの天井だったり、本当に内部も素朴ですね。

小宮　要は展示するものを強調して、よく見せる。そこへ意識を持っていくということを基本にすれば、こういうコンクリートの打ち放しとか、ガラスとか、金属屋根という、単純なものを単純に組み合わせてというような感じになってくるわけですけど、その中にも建築家の方も思いを入れて、明るい場面、暗い場面、光と影とか、そういうものを非常にうまく演出しようとしてますね。

伊藤　それにしても、観光客が大変多いですね。大きな売店もありますし、こういうのも美術館の新しい行き方としては大切なことでしょうか。

小宮　こういうふうに一体にする必要があるかどうかということな


ルネ・ラリック美術館を眺める



夕暮れのルネ・ラリック美術館にて

んでしょうけど、何となく町中の文化会館みたいなもので、コンサートを聞いた途端に雑踏の中に出てくる。あの辺は、空間づくりにゆとりがないと、何となく人間を疎外するような感じがあります。ここも同じで、作家の作品の展示と売店という、品のいいものと雑なものとの同居をどうするか、美術館の行き方として大変にむずかしいところでしょうが、こういうやり方は、僕は疑問を感じますね。小さくても落ち着いて楽しめる空間、また、それを余韻として楽しめる空間、ほっとして思い出を心の中に沈めて外に出る。そういうステップがいいですね。

伊藤　ただ、違う要素のもの２つを一体化させるのに、設計される方はご苦労があったんでしょうね。

小宮　大変苦労されたと思いますね。

■神長官守矢史料館

伊藤　これは私のような素人が見ますと、懐かしく感じる材料でできてるなというのが最初の印象です。形がとてもユニークですね。

小宮　使ってる材料が素朴な材料ですので、非常に親しみがありますね。伝統的な内容を展示するということが基本になって、それがこういう材料の選択にあらわれてきたのかもしれません。

伊藤　ただ、今それをやるのはとても大変なことだと思うんですけどね。

小宮　伝統技術というものが今後どういうふうに育っていくかというのは、日本では大問題ですけれど、こういう建物で使って、見せて、人にそのよさをわからせて、なるほどこういうものをもっと生かしていかなければいけないんじゃないかと感じてもらうことと思うんです。

伊藤　大変ひかれる要素がありますね。建物の形がユニークで非常におもしろいですね。

小宮　素朴だということですね。形は変形してますけれど、奇をてらって変形させているわけじゃなく、使ってる材料の使い方も非常に理屈に合ったやり方ですね。



神長館守矢史料館前にて（右端は館長さん、左から２人目が設計者のお父さん）

伊藤　設計した藤森さんは、ここから歩いていかれる距離のところで育った方ということで、きょうもご案内をお父様にお願いしたんですけど、いろいろなエピソードをうかがいました。

小宮　手づくりの味というお話が多かったですね。

伊藤　それから、従来からあった古いものを生かして使われたというお話でしたね。玄関の屋根の下のところもそうらしいですね。

小宮　古いものをあしらったというお話をなさってましたね。

伊藤　諏訪大社の御柱をイメージした柱につけた金属製のナギガマは、キツツキのようだと雑誌に紹介されていましたが、これを打ちこむことによって神が宿る木になるというもので、いわばこれも展示品ですね。床も壁も天井もわらを練り込んだような素材ですね。これも陰ではいろんなご苦労があって、ミックスの具合なんか、伝統的な工法とは違っているようですね。

小宮　割れを防ぐということもあって、かなりご苦労なさったと思いますよ。土間は土間で壁とは違うと思いますし。

伊藤　土の色がいいですね。

小宮　あたたかい色ですね。タイルを選んだり、塗装をしたりするときに、アースロカラーという言い方をしますが、基本的に人間というのは、こういう色合い、風合い、素材感が好きなんでしょうね。

伊藤　自然の色と、この周辺に植えられたオカメザサの緑が、この寒い季節でも大変きれいですね。

小宮　昔はものをつくる人は、木材、土、瓦、植栽なんかにも造詣が深かったわけですけど、現代では、そこまでいろいろなことを吟味して使っていく方が少なくなってきているんじゃないかと感じますね。

伊藤　電気のスイッチとか、そういうところの小さい金物まで吟味してつくっていますね。

小宮　工芸風にきちっとデザインされたものが取り付けられておりますね。デザインに対する気配りというのは人間性だと思いますが、そういうのは大切だと思います。ガラス一つでもステンドグラスを使っておられますね。普通だと、今あるガラスの方が大判がとれるし、簡単にはまるし、そういうやり方をやるんでしょうけれど…。

伊藤　２階の収蔵部分の上の方に、５つずつかわいい窓が並んでいますけど、あれまでステンドグラスですね。

小宮　作家のこだわりでしょうね。

伊藤　もう一つ、外壁と思っていたのが、実は内部に一つ壁があって、それを覆うような形で木の外壁が板でつくってあるのはおもしろいですね。

小宮　これは大変びっくりしました。言ってみれば、オーバーコートみたいなものなんでしょうけれど、自然の部材を外壁にきちっと回していくというのは、お金の面でも大変なことです。鉄筋コンクリートそのままで仕上げしようと思えばできるわけですから。こういう発想ができるというのは、豊かな人格なんでしょうね。

■八ヶ岳美術館

伊藤　アカマツとカラマツの林を抜けてきますと、まずいろんなところに点在する彫刻。そして、見えてきたこの美術館の建物は不思議な形に見えますね。

小宮　大変不思議な形をしております。

伊藤　食パンだか、カップケーキだか、そういうものを並べたような半円形の屋根がずっと続いて、それがコポコポと並んでいるんですね。個性的な建物ということなんでしょうか。

小宮　そうですね。どこからこういう発想が出てきたのか、実際に来て、不思議な雰囲気を体験しています。

伊藤　どういうところが想像以外の部分でしたか。

小宮　モンゴルのパオのような単純な居住空間のイメージじゃなくて、美術館に入った途端に、フワーッとしたやさしい空間に包まれますね。その中に彫刻があるわけですけれど、彫刻の持ってる堅いイメージが、周りのやわらかい空間と本当によく溶け合ってますね。

伊藤　このやわらかさをつくっているのは何て言うんでしょうか、薄い紗幕のようなカーテンですが、うまくドレープさせて、円い天井の内側を覆ってるんですね。

小宮　屋根は工場でつくる球体のPCコンクリート板を載せてるだけですが、その下に断熱材を巻いてますね。それがそのまま透けて見えてるわけですけれど、その下側に天井材としてレースカーテンを使ってるわけですよ。

伊藤　大変ユニークな発想ですね。

小宮　余り見られない発想ですね。

伊藤　円形の屋根であるがゆえだと思うんですけど、そこに取り付けた照明器具の光がいろんな角度から当たりますね。それがしかもやわらかくレース越しの間接照明になっています。

小宮　非常に複雑な光の織りなしになってますね。

伊藤　彫刻を並べたこの美術館は、絵画の展示とは違ったすばらし空間ですね。



八ヶ岳美術館前にて

小宮　私は、これをおつくりになった村野先生がどういう思いで内部空間を生み出そうとされたのか、何となく思うんですけれど、非常に硬いものを展示するために、あたたかい空気で包んであげようということじゃないかと。自然の林間の空気というんですか。

伊藤　グリーン・シャワーですね。

小宮　それと同じように、美術品の展示、それを鑑賞する人たちをやさしい空気で包んであげたいという思いがあったんじゃないかと想像するわけです。それと、人というものを中心とした生き方、生きる場所、生きる空間、そういうものを真剣に考えて、いろんな場面を経験なさった。それゆえにこういう発想が出てくるんじゃないか。これは単なる思いつきではないと思います。

伊藤　この美術館の外部にもたくさんの作品が並んでいて、小窓から鑑賞できるような感じで、今、目の前に母子像がありますね。

小宮　こういうのはいい演出ですね。

伊藤　カラマツはまだ緑を見せてませんけど、これが芽をふいて、また紅葉して、四季の移り変わりの中で、館内は全体がオフ・ホワイトですが、季節によってそれぞれ違った感じがでてくるような気がするんです。本当にため息が出そうな空間ですね。

小宮　それと、建物の外観は芋虫が連なっているような非常に奇怪な格好をしているわけですけれど、それぞれの建物をつくり上げているディテールは、計算され尽くしているような感じですね。村野先生はディテールに非常に神経を使われる方で、ものをつくるときには小さいものなら実物模型をつくって確認する。そういうことで、丹念に、丁重に、自分の考えをきちっとあらわしていかれる方なので、建築のどの部分を見ても安心できるというんですか、みんなが納得するものがありますね。

伊藤　雑木林の中をずっと歩いてきても、建物が雑木林の風景を邪魔しないで存在している。これがすばらしいです。

ここに訪れた人たちの感想が書かれたノートが置いてあります。この方は若いお嬢さんだと思うんですけど、「建物自体がすごくかわいかった」と書いてあるんですね。

小宮　そうでしょうね。建物を外から見ると、林間の中に埋もれて隠れてわからない。近くに来て見ると、かわいらしいという雰囲気になると思うんです。ヒューマン・スケールというんですか、人と建物の大きさがちょうどよい雰囲気に感じられますね。

伊藤　この方は、「夫と2人で初めて来館した。屋外にある母子像と紅葉がとてもきれいで感動しました」。建物の中から外のことをお感じになっていらっしゃるのも、自然と一体化してるということですね。

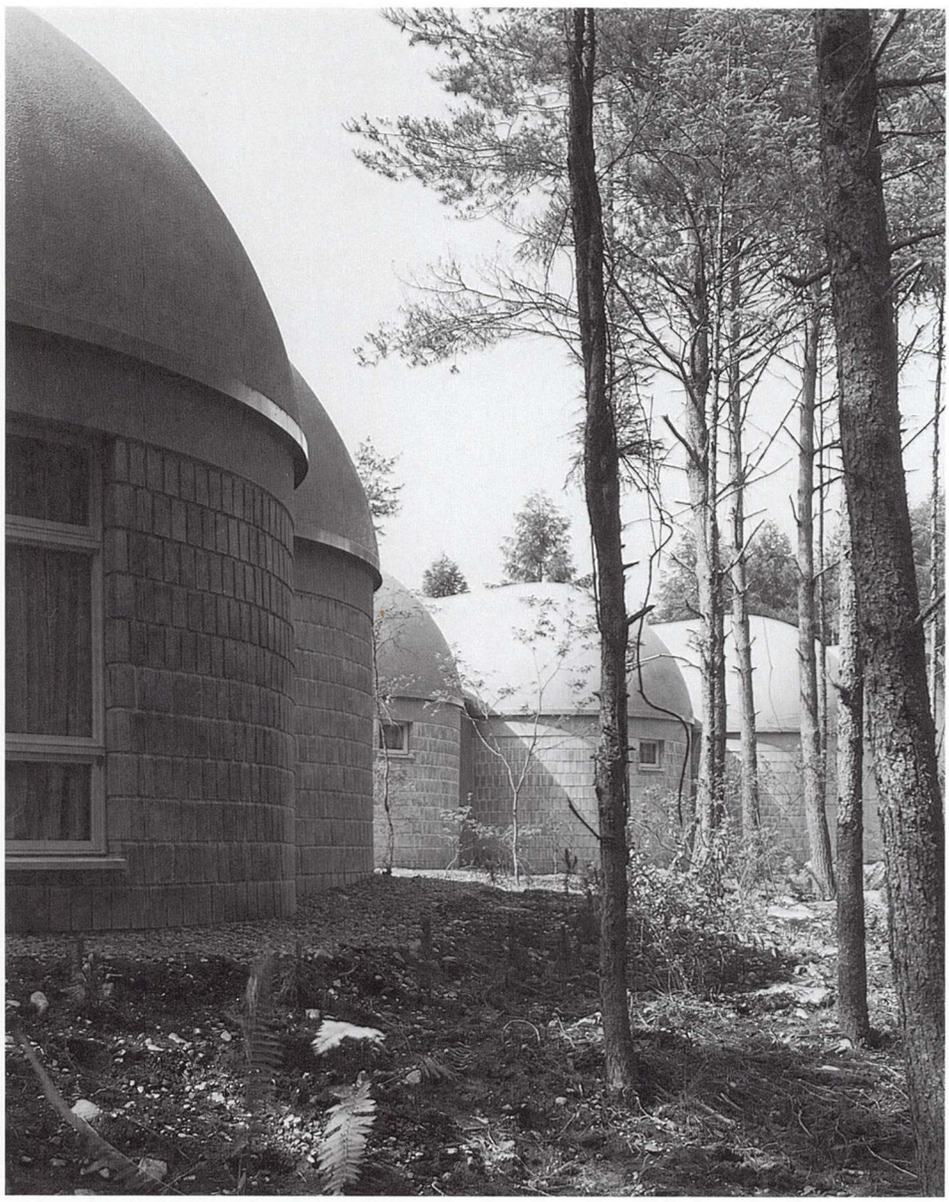
まだまだ時間をかけて見てますと、いろいろ発見があるんじゃないかと思いますね。

小宮　いろんな発見ができる、やさしい美術館ですね。内部空間と彫刻が飽きない。ずっとここにいたいやさしさがありますね。

伊藤　「また、ぜひ来たいと思います」というメモも残っています。

八ヶ岳美術館・清水多嘉示美術館
—原村歴史民俗資料館—

柳　眞也



所 在 地　長野県諏訪郡原村八ヶ岳中央高原
設計監理　村野、森建築事務所
施　　工　諏訪土木建築
敷地面積　15,274㎡
延床面積　1,155㎡
構造規模　RC 1F
竣　　工　1979年

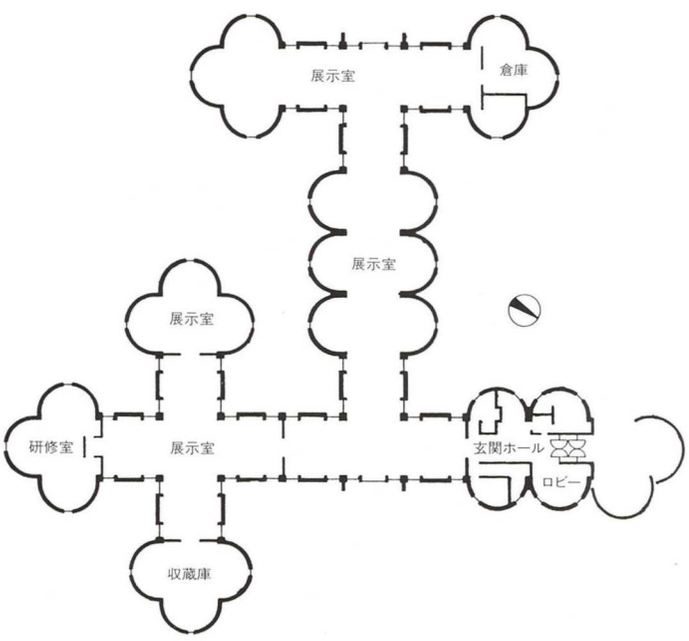
原村の山麓をよぎる中央自動車道の工事に際し縄文土器が多く出土しそれを保存する施設を造ることと、合わせて原村柳沢の出身である清水多嘉示先生の彫刻が村に寄贈されてそれを陳列する美術館を建てることになった。

八ヶ岳の西麓は一面の唐松林である。敷地は林に囲まれて八ヶ岳の姿は展望することはできないが、峰々を彷彿させるがごときあたかも巨大なキノコが土中から出現したようなイメージである。樹木をできるだけ伐採することを避けて平坦なところを選び、木々の間を縫うように半球形のドームを連結して配置している。

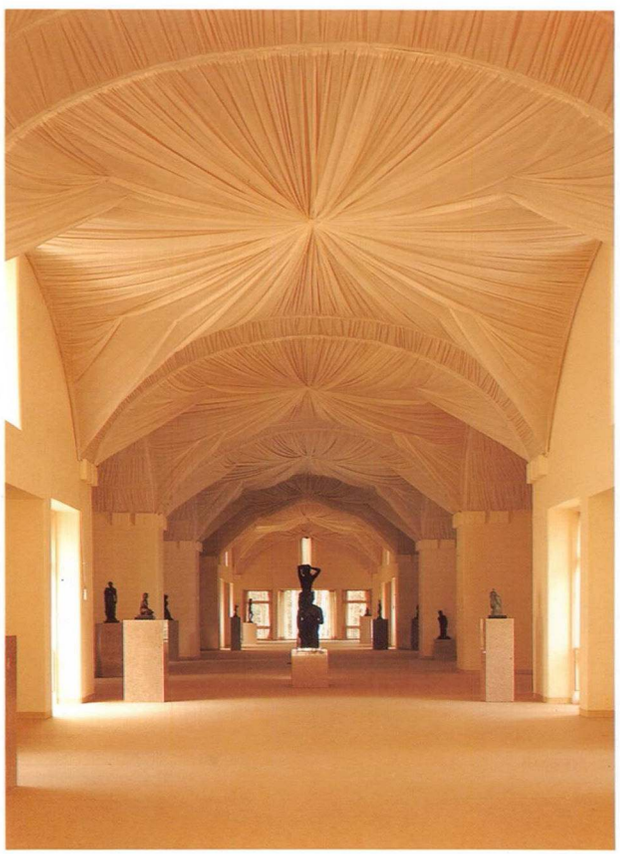
村野は開館時のことばとして「見学者は車から降りて樹間の小道を歩いて建物に近づく、玄関に車を横づけにするようなことは避けるというのが主旨であった。美術館の一帯をこの樹林にかこまれた静かなたたずまいでありたいと思う。また、建物の内外とも美術館として、八ヶ岳の山麓を飾るものになってほしいと思う。」と述べている。

彫刻を展示する場所はすべて曲面の壁とし、屋根も球形とした。1000メートルを越える標高の厳しい気候条件や工程を考慮して屋根の球形ドームは防水処理を施したプレキャストコンクリートし、中央道の開通は関東の工場からの搬送を可能にした。外壁面は現場製のセメントブロックを素地のまま貼っている。内部は天井のクリーム色がかった布地の絞り吊りが外観に比べて柔和にして女性的とでもいえる効果をみせている。　（やなぎ　しんや／村野、森建築事務所）





平面図　1：800



撮影 新建築写真部

諏訪北澤美術館/SUWAガラスの里 ルネ・ラリック美術館

児島　学敏

■北澤美術館

この美術館の計画された敷地は、日本の屋根といわれる長野県の諏訪湖岸にあって、中央本線「上諏訪駅」の北北西約1kmに位置し、付近の山地より諏訪湖に流入する小河川によって形成された標高760mの扇状地に位置する。

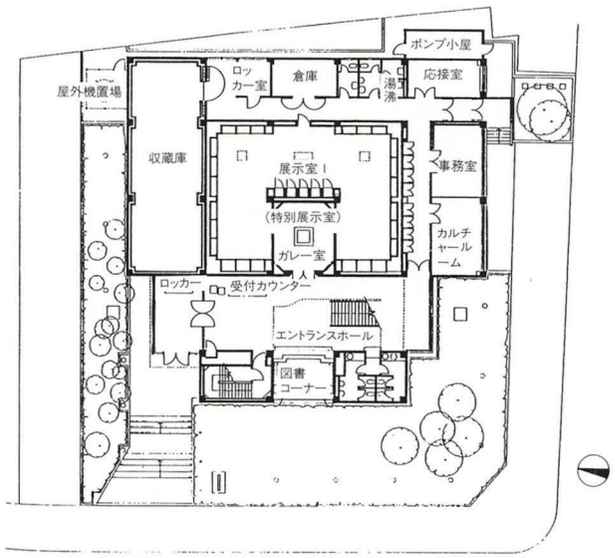
美術館の特色は、19世紀末から20世紀初頭のフランスにおいて日本美術の影響を強く受けたといわれるアール・ヌーヴォー派のエミール・ガレ、ドーム兄弟達のガラス工芸品と、現代を代表する日本画の巨匠の作品との2部門に絞って展示している。これは北澤バルブの社長であった北澤利男氏が20年近くにわたって収集した美術コレクションを一般公開し展示する目的で、生地である諏訪の地に計画したものである。

建築の形態は三角屋根の2階建て、左右対称で正面性をもった単純な形をしている。1階にガラス工芸品の展示室を設け、その展示室を囲むように収蔵庫、事務室、カルチャールーム、図書コーナーを配置した。2階は日本画の展示室とし、上下の展示室を吹き抜けのあるエントランスホールから階段で結び、中2階には諏訪湖を一望できる喫茶室を設けた。アール・ヌーヴォーのガラスと日本画といった独特な展示の構成から、西欧と日本の文化の接点を建築的に表現し、同時に湖畔の景勝地にアイデンティティのある建築をというのが設計の主旨である。

1階のアール・ヌーヴォー派のガラス工芸品の展示室の特徴は、エミール・ガレの「ひとよ茸ランプ」を展示する特別展示室を他の展示室が取り囲むように配置し、メインの入口をこの特別展示室に設けた。観覧者はこのメインの入口から特別展示室に入り、一巡して再度この特別展示室から出ていくよう計画した。

又、エントランスホールから緩やかな曲面壁をもつ階段は上階の日本画の展示室への期待を誘う動線となるように計画した。

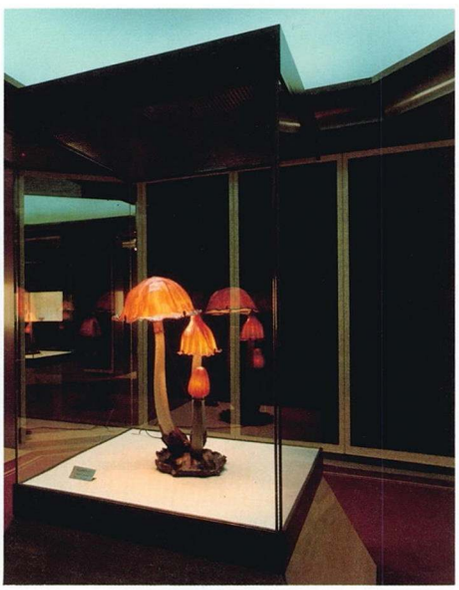
展示室内の照明計画については、ガラス展示室の1階は照明を落とした暗がりに、作品だけがスポットライトを浴びて浮かび上がる展示方法を用いて、作品のひとつひとつが幻想的な美しさを放つよう計画した。2階の日本画の展示室は対照的に明るく開放的な部屋とし、日本画のもつ繊細で優美な技法が観覧者に伝わるように計画した。尚、この施設の熱源は豊富な温泉（100℃）を利用した熱交換方式を採用している。



I階平面図　I：600



諏訪北澤美術館全景　撮影：SS東京



アールヌーヴォー ガラス工芸展示室　撮影：テクニカルアート

諏訪北澤美術館
所在地　諏訪市湖岸通り
設計監理　芦原建築設計研究所
施　工　清水建設
敷地面積　1,503㎡
延床面積　1,206㎡
構造規模　RC B1 2F
竣　工　1983年

SUWAガラスの里 ルネ・ラリック美術館
所在地　諏訪市豊田字中曾根
設計監理　芦原建築設計研究所
施　工　清水建設
敷　地　13,587㎡
延床面積　4,880㎡
構造規模　RC, 一部S 3F
竣　工　1992年

■ SUWAガラスの里　ルネ・ラリック美術館

諏訪北澤美術館の開館から10年後の平成4年8月に北澤美術館の姉妹館として諏訪湖畔に誕生したルネ・ラリック美術館は、今世紀初頭、フランスに開花したアール・デコ期を代表するガラス工芸家ルネ・ラリック（1860～1945）の作品を600点ほど収蔵した美術館である。

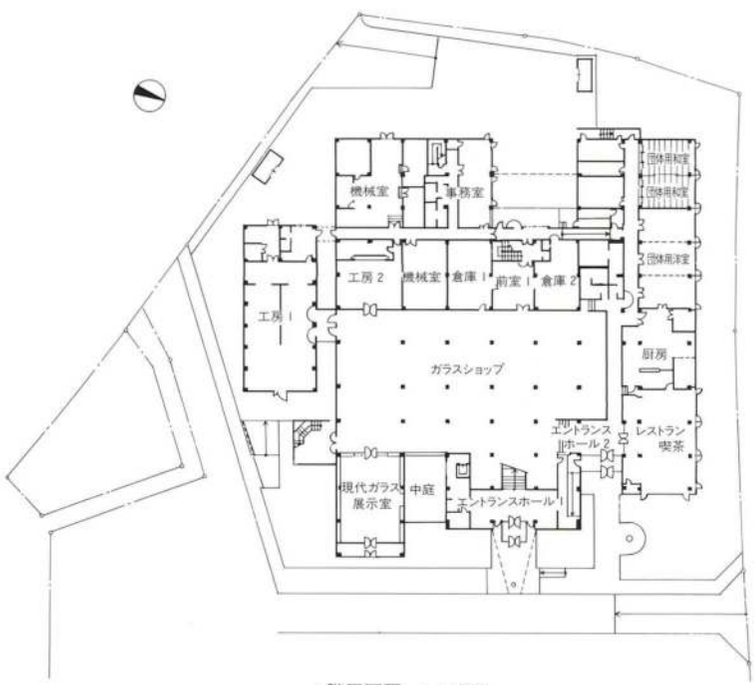
この施設は「ルネ・ラリックの作品の展示室」を中心として、他に現代の新進作家の作品を収集・展示する「現代ガラスコレクション」や若手のガラス工芸作家の育成と国内外のガラス作家を招聘してガラス工芸の創作活動を行う「ガラス工房」がある。そして「ガラスショップ」などの施設やコーナーを設け、訪れる人々がガラスの芸術に触れ、ガラス工芸全般に渡って親しむ機会を提供する芸術の広場的役割をしている。又、ガラス芸術の情報発信の基地としての役割を期待した。

敷地は中央高速道路に近い諏訪湖の南岸に位置している。この美術館の配置計画は、施設の中心となる位置の2階にルネ・ラリックの展示室を計画し、1階には国内最大規模を誇るガラスショップを設けた。現代ガラスコレクションの展示室やガラス工房等の各施設は、この中心施設を取り囲むように配置されている。施設の外壁はコンクリートの打ち放しとし、それら各施設を一つにまとめる装置として切妻の大屋根が諏訪の山並みをイメージして計画された。メインの入口から入った観覧者はまず2階のルネ・ラリックの展示室に導かれ、そこでアール・デコ期のガラス工芸品の芸術に触れた後、ギャラリーを通り階段を下りると現代ガラスコレクションの展示室、ガラス工房、そしてガラスショップのコーナーへと導かれる。また、湖岸に面しガラスで大きく開放されたレストランでは、四季折々の「自然の美しさ」を堪能することが出来る。

・

この美術館は日本文化の影響を受けた繊細で洗練されたヨーロッパ人の東洋趣味を理解し、すでに開館している諏訪北澤美術館とともに文化の香り高いカルチャーステージとしての背景をさらに高めるため、ガラス芸術の紹介と啓蒙を目的として生まれた。

（こじま　がくとし／芦原建築設計研究所設計部長）



1階平面図　1：1200



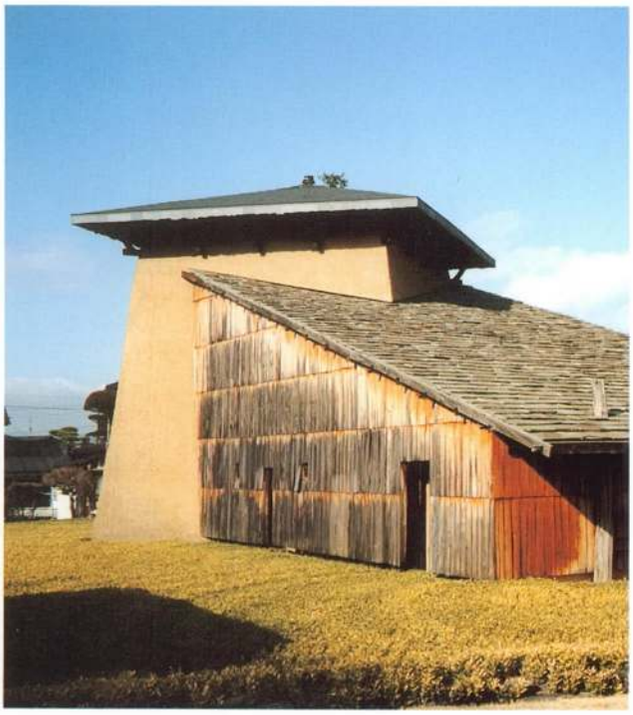
SUWAガラスの里 ルネ・ラリック美術館全景　撮影：重松完充（同右）



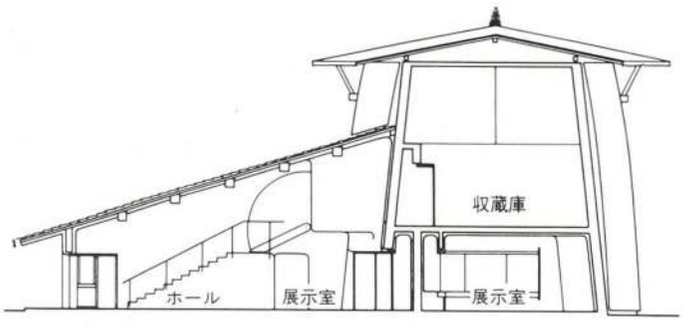
ルネ・ラリック ガラス工芸展示室

神長官守矢史料館





所 在 地　長野県茅野市宮川高部
設計監理　藤森照信＋内田祥士（習作舎）
施　　工　田村建設
敷地面積　973.54㎡
延床面積　184.43㎡
構造規模　RC, 一部W 2F
竣　　工　1991年



北東立面図

生きていた水車製材

藤森　照信

このところ東海地方とは縁が深い。静岡市の景観賞の委員長を任されて、海辺から山あいまで市内をたくさん訪れているし、天竜市においては市立秋野不矩美術館の設計に携わってきた。この仕事のなかで珍しいものをみたので、ここに紹介しておきたい。

天竜市といってもピンとこない読者の方が多いかもしれないが、その名のとおり天竜川の流域にある。具体的にいうと、浜松で新幹線を降り、遠州鉄道に乗り替え、30分ほど北上し天竜川が平地から山あいに入ったその丁度山間部側が天竜市になる。

東海道から入った山間部で、天竜川に沿って広がっている。この二つの条件は、水運の時代には林業にはまことにふさわしく、事実江戸時代より林業が発達し、〈天竜杉〉の産地として、また製材の町として栄えてきた。現在でも、屈指の林業と木材生産の町であることに変わりはない。

この市の出身で文化功労者である日本画家の秋野不矩さんの美術館を市が建てることになり、小生の処女作の神長官守矢史料館を見た秋野さんが気にいり、その旨を市に伝え、市から設計を依頼された。現在、建物は完成し、外構に取りかかっており、4月25日にオープンの予定である。



この仕事のため、現地を訪れはじめた頃、市の側で担当していた渥美係長が、ある日の昼休み天竜川の流れを眺めながらウナギを食べている時に言った。

「この流れの支流を奥まで入っていったところに水車で製材している人がいるが、先生関心あります……。」

ありますもなにも「水車で製材」の一言に私の頭の中の専門知識は脳震盪を起こしていた。

「マだマだ、ソんナ技術が生きてイルんでスか」

水車製材は由緒ある技術で、明治の初期、北海道開拓にあたり、アメリカの技術顧問団が持ち込み、日本初の大量機械製材を成功させたことで建設技術史上に名高い。その後全国に広がったとみられるが、やがてスチームエンジン、さらに電動モーターにとって代わられ、いつしか消えていった、というのがその筋の常識なのである。本場のアメリカでも、水車製材は野外博物館でしかお目にかかれない。製材界のシーラカンスというか、ヤンバルクイナというか。

で、渥美係長に現地に連れていってもらった。天竜川の支流の愛宕川を遡上るのだが、杉の立木の間を入ること入ること、道はどんどん狭くなり七曲がり八曲がり、川が滝のようになったところでようやく小さな平地が現れた。そこに、崩れかけたような小屋があって、その中で水車製材が行われていた。

それにしても、どうしてこんな山奥で製材しなければいけないのか、普通、丸太を里まで下ろし、そこで製材するのが原則。

この点を製材所の主人に聞いてみると意外な答えが返ってきた。

「本当はこんな下まで下りて来たくなかったんだが、上の方には平地がないから仕方がない。この道が出来るまで私らの集落の者は、年に何回か買い物の時しか里には下りなかったもんだ。学校も寺ももっと上にあった、住むところだって、昔はもっと山の峰の方にあったって聞いた。峰の方がどこに行くにも都合がいい。山を越えずに両方の谷に下りられるし、尾根づたいに歩けば遠くへも行ける。」

元をたどれば、"山の民"だったのだ。それが近代化の中で住まいも仕事場も里へ移らざるを得なくなった。

水車製材は昭和の初めに父親が始めたが、その頃はこの辺では珍しくなく愛宕川沿いだけでも四軒あった。水車も昔は木製だったが戦後、鉄製に代わった。どうして今も続けているかというと、一つは製材用のモーターに必要な工業用電線を引くのが大変だから、もう一つは水はタダだから。

こんなところで製材をして、流通については、どうしているかというと、里で付き合っている棟梁が数人いて、その人たちの分しか挽かない。注文があると、ここより奥の山から丸太を買ってきて挽く。

柱だけとかの注文は受け付けず、一軒分の柱から造作材まで全てを挽く。杉もあるが、檜が中心。こんな世界が人に知られずあったんだ。

話を聞いたあと現場を見せてもらった。まず驚いたのは、静かなこと、普通の製材所のように耳を裂くようなモーター音がない。回転する帯ノコに丸太が当たって挽かれる時にチューンという例の音が小屋に響きわたるだけ、あとは水音とベルトの音。

システムは簡単で、斜面の下側の床下にある水車の動力をベルトで斜面の上の方の地上までもってきて帯ノコを回し、台車に載せられた丸太を挽く。

水車を動力にしていることを除くと、帯ノコも台車も一般的なものだ。

床下に降りて水車を見ると、直径4メートルほどの大きな鉄の水車が、水路からの水でグルグル回っている。

みるからに強力だ。

これだけのパワーがあれば、ふつうの丸太なら挽ける。

すっかり感心してその日は山を下りた。

それからしばらくして、設計が始まり、決まり、敷地造成の工事も始まって、ふたたび訪ねることになった。今度は、注文のため。敷地造成は相当の土木工事になり、美術館本体への進入路を地山を削って取り付けるから、削った地山の擁壁のコンクリート製の間知石積みをなんとか隠さなければならない。私の設計は、鉄とコンクリートの骨組みを木や土や石などの自然素材ですっぽり包むところに特徴があるが、いくら建物を包んでも、進入路にコンクリートがムキ出しではしようがない。

で、思いついたのが水車製材だった。現地を訪れた時の小屋の内外に山積みされた檜の板を記憶していた。それらの板は、柱やちゃんとした板をとった後の端材で、サイドには面付がつき、幅も途中で変わり、厚さもバラバラ、使い道のないまま長い間にたまり、山積みされていたのである。あのバラバラの板でコンクリートの壁をカバーすればいい。バラバラさが深い味を出してくれるだろう。かくして、水車製材所から里に運ばれた檜のバラバラ板はコンクリートの間知ブロックの上に張られた。

最初はいかにもの板であったが、半年はどすると風雨に打たれ、日射しにさらされて表面が風化してくる。その風合いがまことによろしいのだ。さすがに木の王者の檜だけのことはあって、さらされているうちに白化してきて、陽が当たると銀色にかがやく。その色合い、輝き、いずれも単純じゃなくて渋みがある。ステンレスやチタンやクロームメッキよりも奥深い銀色の輝き。

そして現在、建物が完成して、実はひそかに困っている。道路の、擁壁のカバーに使った檜の端材の板の輝きの方が、建物本体の外壁に張った杉の板（これは端材ではない）より美しく見えてならない。腐ってもタイ、端材でもヒノキ、ということか。

（ふじもり　てるのぶ／東京大学生産技術研究所 教授）

諏訪湖博物館・赤彦記念館
—生涯学習の場として—

宮坂　徹

博物館の沿革

下諏訪町は、諏訪湖の北西に位置し、和田峠周辺から産出する黒曜石石器で有名な遺跡地を数多く包蔵し、全国に一万を数える諏訪神社の総社である諏訪大社下社のお膝元として、また江戸時代には中山道、甲州街道の接点の宿場町、新しくは製糸、精密工業の町として栄えてきたところである。

下諏訪町における博物館の始まりは昭和27年にさかのぼる。戦後の荒廃のなか、人々の心のゆとりやよりどころを求めて、有志の人たちの発案によって諏訪大社秋宮の一角に大社の宝物館を兼ねて設立された。当時は、関係者が資料を持ち寄っての常設展示、公民館や商工会議所を借りての特別展、町内外の史跡めぐり等の活動を行っていた。

その後昭和46年に諏訪湖の畔に独立館として開館、湖畔という地理的条件もあって、諏訪湖の漁具・漁法資料の収集、スケート関係者がコレクションしていた諏訪湖のスケート資料の収蔵等を中心に、地域の博物館として歴史・民俗等幅広い資料収集を行いながら、特別展、講座、体験学習、史跡めぐり等の事業を展開してきた。

こうしたなかで、施設の狭溢化、設備の不備、老朽化が目につきはじめ、町の総合計画にも新しい博物館建設事業が盛り込まれていたおり、町政施行百周年事業の一環としてこの新博物館建設が具体化されることとなった。

新博物館の建設

平成元年に建設検討委員会が設置され、翌２年に答申を受けるとともに基本構想の策定を行い、設計競技により設計業者の決定、平成３、４年度の２か年継続事業として建設、平成５年にオープンした。

建設検討委員会では、従来の博物館とともに、新たに郷土の歌人島木赤彦の記念館の設置が検討され、独立館か併設かの論議の結果、一館に併置し効率よい運営を図ることとなった。歴史、民俗とともに文学という異なった性格を持つ複合的な博物館施設である。

博物館の基本構想では、町民の文化に対する関心が高まるなかで、生涯学習の場としての機能を備えた施設として、また郷土を紹介するにふさわしい施設と意義づけ、諏訪湖博物館では、今まで活動してきた博物館を受け継ぐなかで、「諏訪湖」を主テーマとして特色を持たせ、歴史・民俗等を扱う人文系の博物館とする。赤彦記念館では、郷土が生んだアララギ派歌人島木赤彦の足跡と功績を、主テーマ「人間島木赤彦」とするなかで、教育者、童謡作家としての面をも視点にとらえ、日本の赤彦として位置づける文学館とした。

建物の外観は、諏訪湖の波を模した芝生のなかに、諏訪湖で使われたまるた舟をイメージした四半円形の細長い部分が特徴で、アルミパネルで覆われた屋根は一種独特の雰囲気をもつが、館内に入ると吹き抜けのロビーから見上げた天井が、船底を表した小幅板の張り流しで外観とのギャップとともに温かさを感じさせる。設備では、当地で豊富に湧き出る温泉の熱を利用した床暖房システムが特徴である。

館内のスペース区分は、ロビーから一階正面奥の特別展示室、右奥の講堂（スーパーワイドビジョン映像、講演、体験学習等多目的室)、二階の諏訪湖展示室、赤彦展示室が入館者スペース、ロビーから左側が管理部門で、事務室（館長室・給湯室含む)、印刷室、職員用ロッカー・トイレ、会議室、研究室（書庫含む)、資料等搬入荷解き室、収蔵庫（一般・特別）等となっている。特別展示室と特別収蔵庫は文化庁・東京国立文化財研究所の指導をいただき、重要文化財の保管・展示に対応できる仕様となっている。

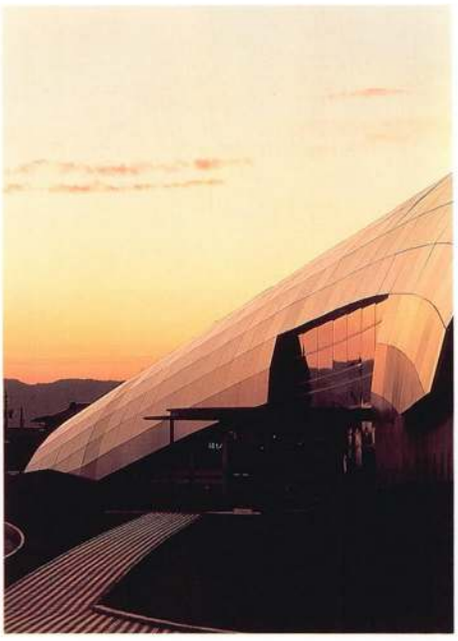
この博物館の建設に当たっては、建築設計・展示設計・外構設計とも伊東豊雄建築設計事務所が担当したこともあって、全体のバランスがとれたまとまりのよい博物館になっているが、実際にオープンしてみると建物に対して展示資料（特に諏訪湖展示室）が負けてしまっている感じがする。これはこれからの展示活動の工夫・課題だと思っている。

運営と今後の課題

開館して４年が過ぎ、この間年間３～５回の特別展・企画展、体験教室、郷土史跡散歩等の事業を実施してきたが、地域への密着度はまだ低いと感じている。元来歴史であるとか文化であるとかは直接の生活には結びつかないものであるから、一朝一夕にどうこうなるものではない。しかし、そこに人が住み暮らしてきた足跡は必ず残るものであり、いつの時にか振り返ろうとするものである。博物館はそうした足跡を実物で保存する機能を有する施設であり、それを使って現在・未来にアプローチできる施設である。そうした意味からも果たす役割は重要であると思う。物を見せるだけの時代は過ぎ去り、見て触れて体験してという参加型の時代となっている今、実施する事業にも一層の工夫が必要とされている。地域の人々が文化のオアシスとして、心のゆとりの証として、博物館という「場」が認知される日を信じて活動を続けることが大事だと考えている。

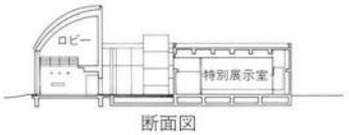
（みやさか　とおる／諏訪湖博物館・赤彦記念館　学芸員）



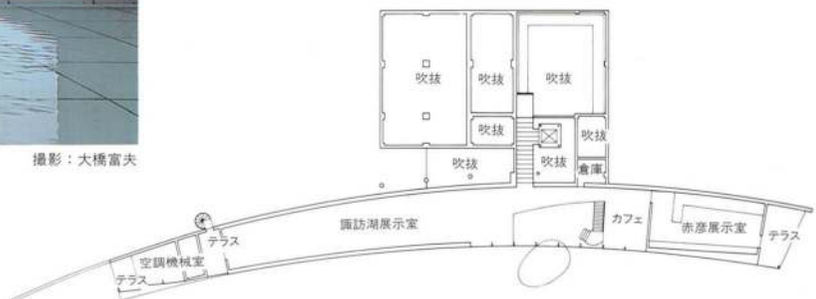




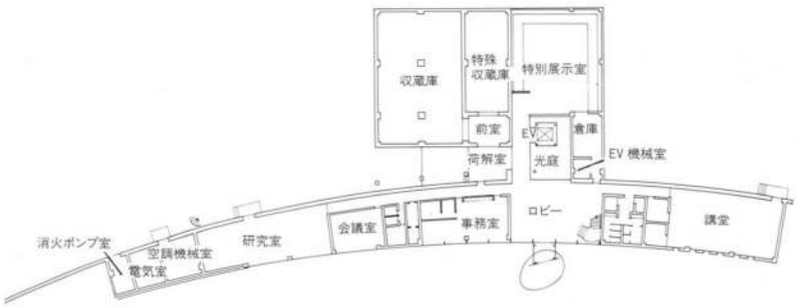
撮影：大橋富夫



断面図



2階平面図

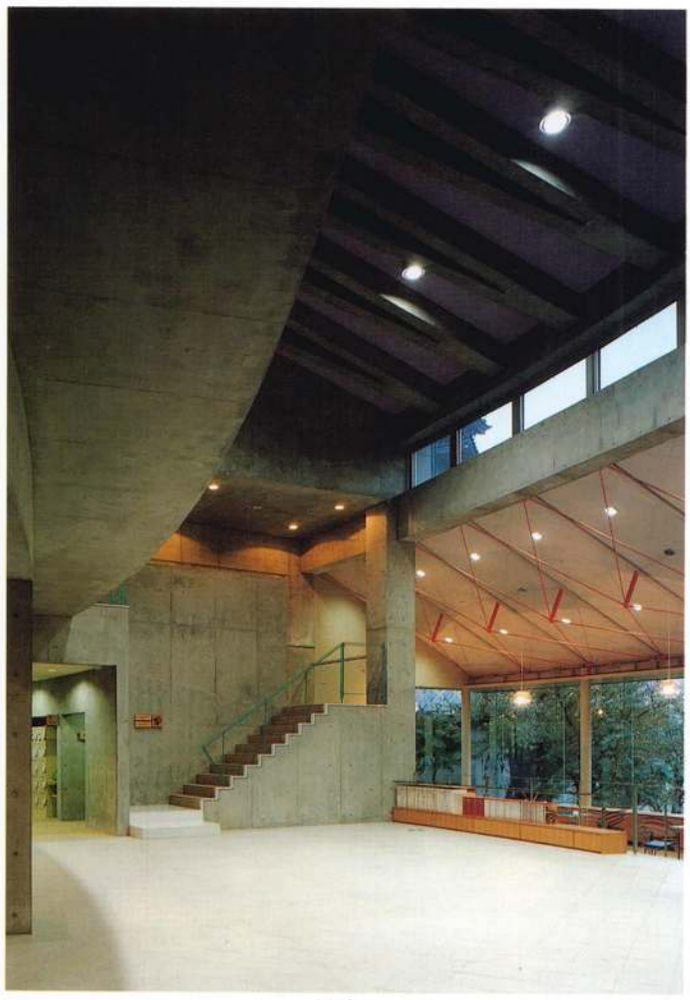


1階平面図　1:1000

所 在 地　長野県諏訪郡下諏訪町西高木
設計監理　伊東豊雄建築設計事務所
施　　工　清水建設・渋崎建設 建設共同企業体
敷地面積　4,998㎡
延床面積　1,982㎡
構造規模　RC, 一部S 2F
竣　　工　1993年

信州高遠美術館

宮本　忠長



ロビー

信州高遠美術館は長野県上伊那郡高遠町にある町立の美術館である。

「たかとう」の地は深い伊那谷にあり、諏訪方面に抜ける峠の入口で、かつて戦国時代には交通の要所でもあり、自然の山並みを利用して高遠城を誇ったという。今日、城郭はすべて消失し、城跡に植えた小彼岸桜が全敷地を覆い、近年では日本有数の桜の名所として知られ、満開時に訪れる観光客は数十万人を超える。

平面計画はこの美術館のテーマである常設展示室と企画展示室の二室が中心。附設してハイビジョンギャラリーがある。加えて、利用者へのサービスとして広いロビーでは、演奏会もできるように考え、公共の美術館としての多目性が特長である。

•

高遠町は、明治・大正・昭和と優れた人材を多く世に送り出している城下町文化の香りの漂う静かな町である。建築物も、この地の歴史的景観に併せてイメージを膨らませた。

私が先ず、この城跡を訪れた際、赤味を帯び輝く小彼岸桜が空を一面に覆い、太くしなやかな黒い曲線の樹影との対比に〈赤と黒〉、〈柔と剛〉、〈軽妙と硬さ〉など２つの異なったものの対比が見事に調和している景観に強く印象づけられた。建築も二極の対比を具象化できればと考え始めた。即ち、閉ざすモノと開放されるモノ。この対比を平面計画に意識してすすめる。

更に建築物のソトはミンナのモノ、ウチはジブン達のモノ、という元来の私の修景の手法を用いて、建築物の外部は公共性、公益性を第一に考え、素材・フォルムを決めていく。

また「ウチ」、すなわち建築の内部はジブン達のモノであることから前述の諸機能を充分満たすこと。更に閉じるモノと開くモノとの対比、素材、ディテールに細心の神経を使った。来館者に、展示室の閉ざされた空間とロビーや廊下など回廊性のある開かれた空間の対比を体感してほしいと考えた。

また、自然の大景（南アルプスの連峰の仙丈ヶ岳を頂点に絵島湖への近景）を館内に取り込み、人々を小さい美術館内だけに押し込めることなく、信州の四季の大景も併せ持つ特長ある美術館となった、と思う。

•

広いロビー空間は、前述の多目性のためのスペースであり、企画展などの際には、大展示空間となり利用者の用に供し、好評のようである。

地方都市、しかも交通の便の悪い小さな城下町にあって、来館者も多く、〈まちづくり〉の活性化への効果も大きいようである。

（みやもと　ただなが／宮本忠長建築設計事務所）

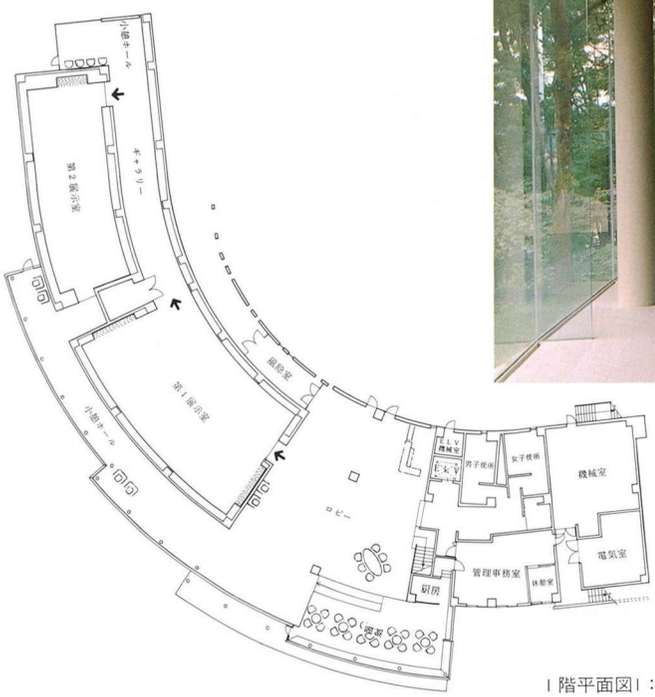
所 在 地　長野県上伊那郡高遠町
設計監理　宮本忠長建築設計事務所
施　　工　守谷・ヤマウラ建設共同企業体
敷地面積　5,800㎡
延床面積　1,291㎡
構造規模　RC, 一部S 2F
竣　　工　1992年



エントランスアプローチ　　撮影：ミヤガワ



小憩ホール



1階平面図1：600

アンフォルメル中川村美術館

永木晴久／毛綱毅曠建築事務所

信州伊那谷の山深い小さな村のこの美術館は、眼前に南アルプスの山々、眼下に雄大な天竜川を眺めることのできる小高い丘の上に位置している。この建物は第二次世界大戦後西欧の前衛芸術運動であり、50年代を席巻したアンフォルメルの作品を収蔵、展示したいという画家の夢を実現するために計画された美術館である。この美術館は機能的に分割された建築群から成っており、それぞれ美術館棟、彫刻館棟、便所棟、シンボルタワーと成っている。これらの建築群が丘の上に自由に配置されて、建築群全体でひとつの建物となるような空間構成としている。すなわちそれぞれの建築を扇形や円形の展示室、水滴形のホール、方形の事務室・茶室、三角形の便所というように最小の機能を形態に分解し、これらの単体に様々な構造、RC造・S造・木造を与え、建築として再構成しているのである。

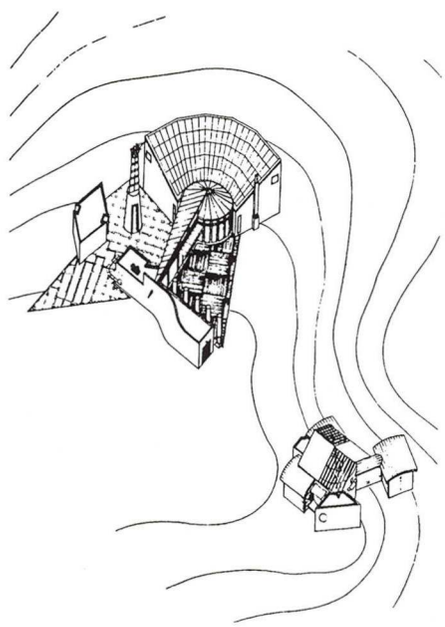
この美術館の竣工は1989年であるが、現在に至る毛綱事務所の作品の流れを俯瞰してみると、この小作品がもつ役割は極めて大きかったといえるだろう。この1989年作品以前の毛綱の建築は建築自体が宇宙、正確には建物内部に宇宙を閉じ込めるといった色合いが強い。それは広大な釧路湿原に屹立する「釧路市湿原展望資料館」のように、外部のマクロ宇宙に対比するミクロ宇宙といった構造をもつものであった。さらにそれらの求心的な指向性は建築の中心のへそのへそ自体が遺伝子であり、その建築の遺伝子自体にコスモロジーがあるといったものである。このコスモロジーはそれゆえ建築の内部へ内部へと深く浸透してゆき、そのピンポイントのような一点に溜まったパワーが一気に外部へ放射されるという様であった。

対して中川村美術館は当時毛綱が書いているように、建築を囲んだ環境自体もコスモロジーの一つとしてとらえられている。そのこと自体は「反住器」以来の入れ子構造の発想として了解すれば手法の大転換ではなく、ごくごく自然な振る舞いとして映るかもしれない。しかし結果、表現として現われる建築の構成はやはり大きく変わったといえるのではないか。

建築を取り囲む環境や自然をも取り込んでひとつのコスモロジーを展開するその手法はただ自然と調停したり、あるいは征服されるに任せるといった類のものではなかった。そこで毛綱がとった手法は「散逸構造」と呼んでいるものであり、これ以降毛綱事務所の設計の中核をなしていくといっても過言ではないものとなった。毛綱はこの手法について「それはコスモスとカオスの共存するダイナミズムの領域、バラバラの系を見えざる宇宙の網の目によってすくい上げるもので、ノイズを取り込むことによって生成から崩壊へのバランスをとりながら次の新たなる秩序へと向かう構造である。」と述べている。

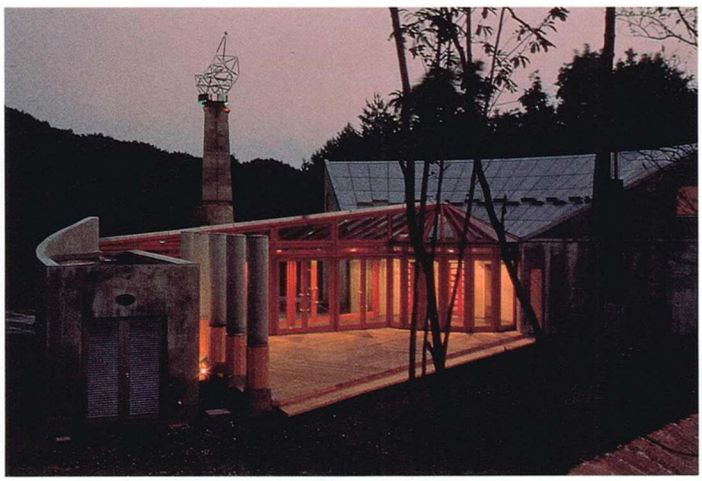
宇宙的ゆらぎのもともとは素粒子が存在と非存在の間を揺れ動くことによるものであるというが、このことはコスモロジーはひとつの非平衡関数系であるということで、生成すると同時に崩壊するといったものである。「散逸構造」の建築は建築や自然の断片をパッサージュさせることにより、自然と人工を縦横無尽にインターフェイスし、その時その時の関係によって絶えずその構成を揺り動かすといった手法である。それは形態（空間）の建築というより流れ（時間）の建築と呼べるもので、建築と環境の関係を対立や共生といった（いずれにしても）固定化したものにするのではない第三の道、すなわち関係の時間性を指向したものであったといえるだろう。

（ながき　やすひさ）

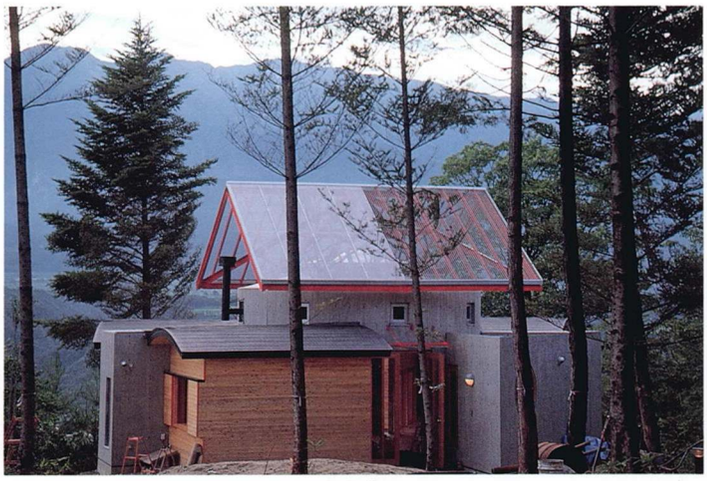


所 在 地　長野県上伊那郡中川村大字大草美里
設計監理　毛綱毅曠建築事務所
施　　工　吉川建設
敷地面積　2,958㎡
延床面積　　296㎡
構造規模　RC, 一部 S W IF
竣　　工　1989年

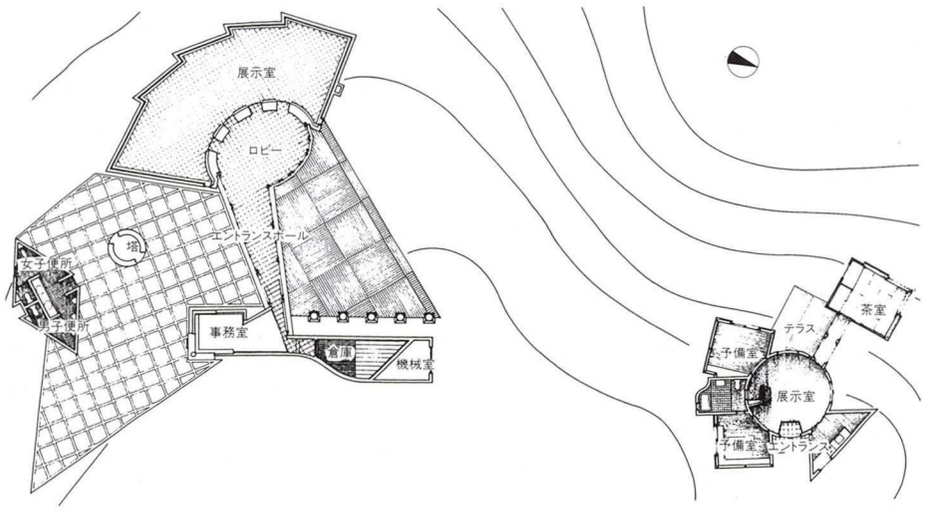




美術館



彫刻館



配置・平面図 1：500

建築探訪II

谷　淳之介（東畑建築事務所 名古屋事務所 取締役所長）
伊藤　和子（元、ＣＢＣアナウンサー）

■諏訪湖博物館・赤彦記念館

伊藤　諏訪湖沿いの道を車で走ってきましたけど、この不思議な形の建物がそんなに違和感はないですね。

谷　実際に来てみますと、かなり自然な形ですね。この素材はアルミだと思いますけど、晴れた日とか曇った日とか、夕方とか、時折々で金属板に当たる光が表情を変えるのだろうなという気がしますね。

伊藤　建物から道路を挟んだところ一面に諏訪湖の景色が広がるという、立地条件からすると、設計者が湖に馴染むように設計されたのが実感としてわかりますね。

谷　形は全然そうじゃないんですが、日本の縁側のようなと言うと語弊がありますが、そういうようなものを少し感じますね。

伊藤　山側は直立した形の壁で、湖側がなだらかな傾斜になっている形ですね。玄関のアプローチの楕円形の形、天井にふっと目をやりましたら、レモンイエローの色彩がすばらしくいいんですね。

谷　外観は非常に強い形にしてますけれども、入口は軽快で淡い、やさしいレモンイエローの色、あれはさすがだなと思いました。

伊東豊雄さんの建物を幾つか写真で拝見して、あれこそ伊東さんの持ち味かなという感じです。

伊藤　この形がロビーの部分のベンチというか、腰をかけるところに繰り返されていて、この色もまたすてきですね。

谷　一歩踏み入れて、はっとしましたね。

内部と外部とでは、私はちょっと違う印象を受けました。外は諏訪湖との関係を意識されたのか、非常に強さのある形。中は形というよりも、空気みたいなものとか、光の変化みたいなものを一生懸命デザインされてるという印象ですね。

伊藤　展示室は２階になるんですけど、これは天井と言うんでしょうか、壁と言うんでしょうか、窓までのカーブの部分が全部木でできているんですね。

谷　平面形がカーブしていて、屋根に向かっても凸型にカーブしている訳ですから、三次元にカーブしているわけですね。部分的に見れば、二次元でおさまってるので、施工は可能なわけですが、大工さんも大変だったんじゃないかと思います。



諏訪湖博物館・赤彦記念館前にて

伊藤　ちょうど窓と接続するところの下に蛍光灯が入って、間接照明がしてありますけど、このあたりの光もとてもすてきだなと思います。

谷　これは間接照明で白熱色に近い蛍光灯が使われるので、あたたかい感じがしますね。

伊藤　ここには、アララギ派の歌人の島木赤彦の展示室と、諏訪湖の古い時代の漁業とかの展示もされていて、古い部分もあるんですけど余り違和感はないですね。

谷　ディテールを隅々まできちっと上手におさめられているので、非常に美しい形になってますね。こういう下諏訪という古い町で、かつての伝統的な形ではないユニークさがあって、シンプルですけど、あたたかいものが流れていると思います。ちょっと北欧の雰囲気が感じられますね。さっと水を張ったところに滴が落ちるような清冽な、パーンと音がするような、緊張感の中にやさしさが感じられます。

伊藤　手すりといい、階段といい、本当に新しい、いい意味の軽やかな材料ですね。

谷　そうですね、形そのものをつくっていくというよりも、光とか空気みたいなものを強調しているような感じがします。

伊東豊雄さんは大変音楽がお好きな方だとお聞きしているんですけど、私、何となく感じますのは、ドビュッシーの音楽のやわらかさですね。「月の光」とか、「亜麻色の髪の乙女」とか、ドビュッシーの音楽は光の変化とか、空気の動きとかを感じさせるんですが、この建物もそういうものを上手にデザインしているような印象を受けます。

照明にしても、光源が全然見えませんね。光の変化だけを出している。展示用の照明は少し見えますけど、ほとんど見えません。空調の吹き出し口も一切見えませんでしょう。そこまできちっとやっているところがすごいなと思いました。

伊藤　伊東豊雄さんはこの地方にもご縁のある方ということで、諏訪湖に寄せる思いと、さらに未来に向けて、新しい生命を吹き込むというところがあるんじゃないかなと私は感じました。

谷　確かにそうですね。伊東さんは、「この建物は諏訪湖に捧げるもの」という言い方をされてますけど、なるほどなと思います。外から見たときに、そういう強さを感じましたね。その強さというのは、私が今まで抱いていた伊東さんのイメージと少し違いますけど、そういう思いが非常に強かったのだろうと思います。中はまさに伊東豊雄の世界という感じがしました。

■高遠美術館

伊藤　急な坂道を山へ登って参りまして、ここは城址公園になってるんですね。

谷　アプローチといいますか、公園から美術館に近づいていく間合いが非常にいいんですね。城跡の周りは美しいですし、初めて来た人に建物への期待感を持たせますね。

伊藤　ここへ来て最初に目を奪われるのが、玄関前にあります陶壁ですね。

谷　地味な色合いの建物のつながりの中に、パッと陶壁がありますから、いいアイ・キャッチになってますね。

伊藤　玄関の方は、開口部が非常に少ないんですよね。細い窓が設けられているだけで。

谷　連想しましたのは、この地方の蔵の表情ですね。一般に日本の蔵というのは、厚い壁と、そこに開けられた美しい小さな開口。それから、瓦、土壁、板壁といったニュートラルで地味な色調の中に、時として、ハッとするような白壁、ベンガラ色の赤壁が見られます。そういうイメージがこの建物には感じられますね。

伊藤　内部はコンクリートなんですね。

谷　コンクリートなんですが、開口部からは大きなパノラマがパッと目に入ってくるので、おもしろい空間になっていると思います。

伊藤　扇型の狭い部分の方に玄関があって、広い方のところが一面ガラスなんですね。

谷　そうですね。導入部分から見ますと、壁の多い蔵なんですが、こちら側に入ってくると、それが全く違う印象になって、展開としてはおもしろい形ですね。

伊藤　ここから見る風景がすばらしいですね。

谷　特に、アカマツの林があるので、風景に遠近感が出て奥行きのあるすばらしいパノラマになっています。アカマツはうまく残してあると思いますね。

伊藤　これは美術館ですけれども、大変広いロビー、一面ガラス張りの部分は、単に美術を鑑賞するためだけでなく、訪れた人にとっていいスペースです。外から見たイメージからすると、予想外という感じがいたしますね。



信州高遠美術館前にて

谷　日本建築でいう縁の空間があって、周りの景色を建物にいっぱい取り入れていいパブリックスペースができていますね。

伊藤　大きな屋根が連なる天井部分に目をやっても、新しい感じで構成されていますね。2階に上がる手すりなんかは、よく見ると、ワイヤーで、あや取りの糸みたいになってますね。

谷　なるほど。あや取りの糸というのは、おもしろい表現ですね。私はあや取りの糸という発想ではなくて、ピアノ線であったり、ワイヤーであったり、そういうもので緊張感があって、しかも軽快感のある形をつくりたいということがあるんですけど、作者もそういう意図でやられたと思います。

伊藤　そことガラス面の上だけに朱色とペパーミントグリーンの2色が使われていますけれども、そのほかは大変力強い、たくましい感じがいたしますし、非常に日本的な建物の中に新しいものが感じられる内容であり、構築であるという印象を受けました。

谷　諏訪湖博物館は、見るからに新しい建物であるけれども、その中に日本的な清謡な美しさとか繊細さを感じさせるのと、ちょうど逆ですよね。

伊藤　本当ですね。外側から、特に遠目で見てると、伝統的な日本の建物という感じがありますものね。

谷　ええ。諏訪湖博物館は新しい形の中に日本的なものが残っている。高遠美術館は伝統を形にしているんですけれども、逆にその中に伝統的とはいいにくい新しいものを感じるという、非常におもしろい2つの例だと思います。

伊藤　高遠というお城跡の公園の中にあるという意味では、外観は伝統的な形の方がいいかもしれません。

谷　建物というのは選ばれた場所に一つ一つ一品生産でつくられてゆくものですから、町や周りの自然条件などといったものとは切っても切れない関係にあります。町というのは人とか、歴史、風土でもある訳で、ここが高遠であり、高遠の城跡であるということは建物を決めていく重要な要素だと思います。その中で作者の人となりや考え方によって色々な形になってくるんだと思います。

伊藤　ロビーでは音楽会、コンサートも開かれることがあるということで文化の殿堂みたいなイメージを持ちつつあるという部分も見えますね。

谷　そうですね。こういう公共的な建物の中のホールを少し充実させて、そこでコンサートをやったりいろんな形での集まりをやるというのは、非常にいいことだと思います。

先ほど言い忘れたんですけれども、玄関から入ってきて展示室、向こうに小憩ホールというスペースがありますね。また、こちらの休憩ホールに出て、ホールにうまく戻ってきて、こういう、展示館とか博物館というのは回遊をさせて、中も見せるし、外も見せると

いうことは非常に大事なことだと思うんですけど、そういう意味でも、上手に回遊させたすばらしい美術館だと思います。

■アンフォルメル中川村美術館

伊藤　こちらの建物は、いろんなアングルから写真に撮ると、それぞれ違った形に見えてしまいますね。

谷　これは作者にお聞きしてみないとわかりませんが、確かに、幾つかの考え方に基づいてやっておられると思うんですが、そういう話とは別に、私、この建物の写真を拝見したときに、「フォーリー」という言葉を聞かれたことがあるかなと思うんですが、四阿（あずまや）でもなく、これといった用途もないんですが、18世紀頃のヨーロッパの庭園で良く建てられた一種の造形物があります。例のパリのグランド・プロジェクトの中で、ラ・ビレット公園というのがありまして、かなり斬新な建物ですが、真っ赤な、非常に不思議な形をしたフォーリーというものが随分効果的に配置されたんです。あのころを契機にして、そういうものがあちこちでやられて、――これは作者の方に失礼かもしれませんが――そういうような建物のイメージをもって来たんですが、実は全く違っていました。フォーリーという、無意味に形があれこれなっているようなものでは全くなくて、大変すばらしい建物だとなというのがわかりました。

伊藤　アクセント・カラーとしてうまく赤が使われていますね。

谷　窓枠の黒がなければ、恐らくこの赤が少し邪魔になるんじゃないかと思います。黒が非常によくきいていると思いますね。

この建物は、私なんかがこれまでの建築の定石の中でご説明する類のものではなくて、何となく説明がつきそうなものはあるんですけど、そうじゃないものもたくさんありますから、この辺はそれこそ、哲学の世界なんじゃないかと思いますけどね。

今日、見せていただいた３つの建物の中で、特に諏訪湖博物館と中川村美術館は、建物自体が自然の中に置かれたオブジェ、彫刻みたいな感じですね。抽象的なものではありますけれども、そういう色彩が非常に強いものだなという感じがしますね。



アンフォルメル中川村美術館ホールにて

彫刻でありたい、美しくありたいということは誰しも考えるんですが、彫刻的な面と機能・用の面とうまく合体させてしまったというあたりは、建築家の腕そのものでしょうね。

これはモダニズムの建築という話までさかのぼるんですが、20世紀はそういうものの考え方でものづくりが進められてきたんですが、モダニズムの後の建築――ポスト・モダニズムというような形で相当いろんな試みがなされてきたわけですね。そういう中で、今日、拝見した建物の幾つかは、当時そういう建築活動の旗手と言われていた方の建物だと思うんです。それが機能性の面でどうなのかということになるんですが、こういうのを見ると、これがポスト・モダニズムと言うわけではないんですけれども、機能性を前面に出さなくても、十分に機能性が確保できるといいますか、そういう意味では、私にとっては大変おもしろい建物ですね。

伊藤　木製の大きなデッキではコンサートも開くそうです。

谷　中と外をつなぐ部分を非常にうまくつくってますね。真っ正面に駒ヶ岳が見事に見えていますけど、相当意識して、この場所にこのスペースをつくられたんじゃないかと思います。

信州にはもっと小さなものまでたくさんあるようですけれども、そういうものがこういう形でそれぞれの地域、町、村に根づいて、多目的にも使えるスペースを持ちながら親しまれていくというのは、大変意味のあることだと思いますね。中川村美術館の一部である彫刻館棟にしても、建物があって、その上に一つ置き屋根があるという構成で、昔から培われてきた美しい蔵とか民家とか、そういうものの流れを感じるようなところがあります。

一見不思議なつくり方とか、不思議な建築のおさまりとか、不思議な材料の形とか、いろいろありますが、最もベースのところで、きちっと押さえておられるようなところが見受けられますね。和室の構成にしろ、それ以外の場所の機能性に至るまで、相当な腕がないとできないんじゃないかと思います。

特に、自然と建築のかかわり方というのは、長野に限らずいろんなところで言われるわけですけど、高遠美術館のようなある意味でオーソドックスな形もいいわけですし、逆に、諏訪湖博物館、中川村美術館、一見オーソドックスじゃない形ですよね。しかし、日本古来の建物も必ずしもニュートラルな、自然に完全に融合した形のものばかりがすばらしいというわけじゃなくて、ハッとするような白い色とか、ハッとするような赤い色があっていいわけです。自然によって建物が美しく見えることもあれば、逆に強烈にデザインされた建物によって何の変哲もなかった自然が急に美しく見えはじめるということもある筈です。自然と建物とが一緒になって一つの世界を創り出すということです。ただ、そのやり方がうまくやれば美しいですし、うまくやらなければ、とんでもないことになっちゃう。その辺、ものをつくる立場としては、よく考えておかないといけないのかなというのを、今回かなり考えさせられました。

伊藤　一日本当にありがとうございました。

“寒冷地と建築”余話

—岡谷市街地再開発事業駐車場棟建設工事における寒冷地施工報告—

北原　賢二

内陸性気候が著しい諏訪地方の北西にあたる岡谷市街地は、標高750mを超え諏訪測候所発表の気温より2℃は低く、冬期間はマイナス2ケタの気温も続く寒冷地である。

市街地再開発事業の一環として施工された駐車場棟は、地上7階、内部にアミューズメント施設を組込んだ鉄骨造の建築物である。

冬期間は、基礎躯体工事、鉄骨建方工事がメイン工程とし進められた。

冬期間現場管理には、降雪による工程障害、低温による品質低下、作業効率の低下などが挙げられるが、特に当現場では寒中コンクリート打設に労を尽くした。

近年コンクリートに耐寒性、混和材投入による圧縮強度確保が試され実績を積んではいるものの、地域限定のため諸官庁の許可がなく民間レベルの実績でしかないために、使用検討したものの在来工法による積算温度により水、セメント比の補正及び製造、打設後の保温管理を実施した。

管理としてコンクリート打設直後に、構造物全体をシートで覆い構造物の内外部を所定の温度に保つように採暖する。採暖にはジェットヒーター、煉炭等を使用し採暖養生を行なった。

躯体部分を覆うシートは、風によるはがれ、めくれ防止のため、予め張られたワイヤーロープに固定結束した上で、手作業による実施である。

市街地工事のため、夜間は騒音の出るジェットヒーターは使用が制限され、ブライトヒーター、煉炭等による採暖となった。さらに強風時には、シートのあおり音防止のためワイヤーを2重張りにする処置をとった。

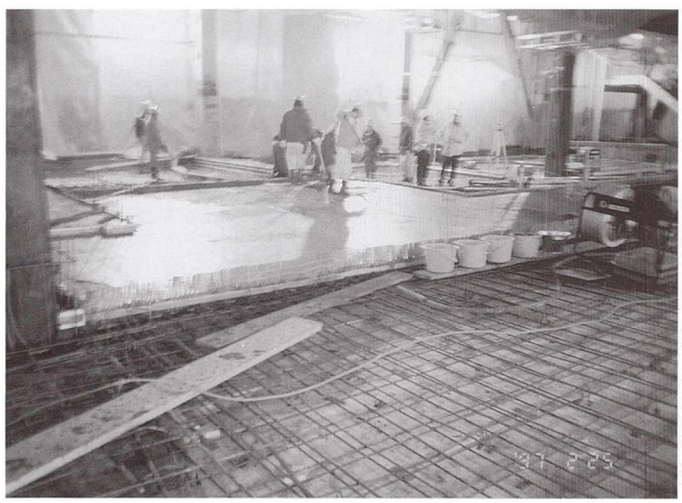
保温管理は、自記記録温度計と打設個所に打込まれたアルコール温度計により、保温効果の確認と、採暖状況のチェックを昼夜実施した。

採暖機の発熱量、熱損失量等の計算により養生計画を行なったものの、現場は現場であり、頼りは自分の目により温度計の数値を確かめ肌で気温を感じる事だ。

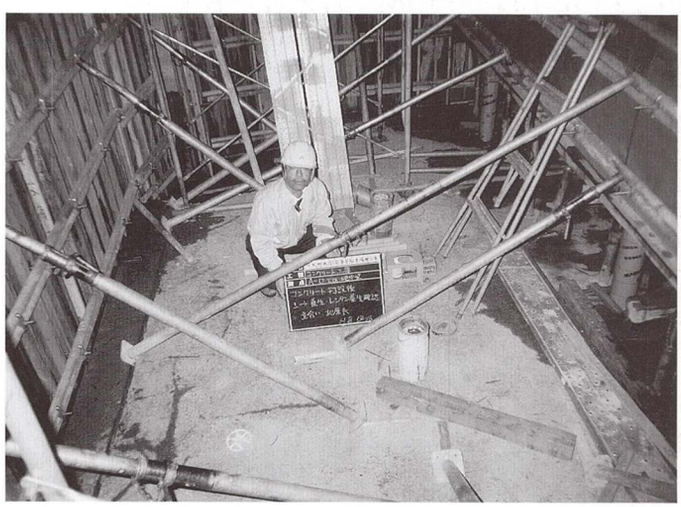
コンクリート打設ごとに行なう保温養生で、気象変化に対応、構造物の変化による対応は容易に出来る様になったが、毎朝給油に来るローリー車を見、シートの盛替をする度に寒冷地における寒中コンクリート工事、保温養生への工夫が必要であると感じた。

尚、冬期間躯体工事を行なった建物を見るにつけ、先輩方の苦労を感じる事が出来る。

（きたはら　けんじ／㈱岡谷組建築部係長）







長野県建築MAP


新潟県
野沢温泉村：3, 41
飯山市：16
▲苗場山
豊田村：44
◆志賀高原
信濃町：18
▲白馬岳
●山ノ内町：66
小布施町：2, 22, 29
高山村：64
長野市：4, 6, 12, 37, 65, 68, 69, 70, 71, 72, 73
富山県
更埴市：40
大岡村：58
大町市：13
群馬県
松川村：63
上田市：21, 61
▲浅間山
軽井沢町：9, 10, 20, 25, 26, 27, 28, 30, 32, 34, 36, 45, 46, 49, 60
小諸市：1
穂高町：53
御代田町：62
武石村：38
◆上高地
松本市：15, 19, 55, 56
▲乗鞍岳
下諏訪町：54
諏訪市：17, 42, 52
南牧村：8,14,31
諏訪湖
岐阜県
茅野市：5, 11, 43, 47, 48
▲八ヶ岳
原村：7
川上村：67
埼玉県
楢川村：57
▲御嶽山
高遠町：51
山梨県
上松町：50
駒ヶ根市：23
大桑村：24
中川村：35
◆妻籠
◆馬籠
飯田市：33
浪合村：39, 59
静岡県
愛知県
JR線
新幹線
高速道路
県境

長野県 建築MAP作品リスト(1975—1997)

主要な建築関連雑誌（建築と社会・新建築・建築文化・日経アーキテクチュア・近代建築等）に掲載されたものを独自に選出しました。

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地
1	小山敬三美術館	村野藤吾	美術館	1975/10	小諸市丁221
2	北斎館	宮本忠長建築設計事務所	美術館	1976/10	上高井郡小布施町405
3	野沢温泉村スキー資料館	宮本忠長建築設計事務所	資料館	1976/12	上高井郡野沢温泉村
4	真田宝物館	ACA 竜野松山設計事務所	資料館	1977/01	長野市松代町殿町2-2
5	芙蓉蓼科山荘	内井昭蔵建築設計事務所	保養所	1979/07	茅野市北山5513-275
6	川中嶋カントリークラブ クラブハウス	吉村順三設計事務所	クラブハウス	1979/10	長野市篠ノ井大字有旅字名下知
7	原村美術館・原村歴史民俗資料館（八ヶ岳美術館）	村野・森建築事務所	美術館・資料館	1979/12	諏訪郡原村17,217-1051
8	南牧村立南牧中学校	宮本忠長建築設計事務所	中学校	1979/12	南佐久郡南牧村海ノ口字高見沢
9	軽井沢町資料館	三輪正弘環境造形研究所	資料館	1981/03	北佐久郡軽井沢町長倉字離山2112
10	セゾン現代美術館（旧軽井沢高輪美術館）	菊竹清訓建築設計事務所	美術館	1981/07	北佐久郡軽井沢町長倉字芹ケ沢2140
11	蓼科の卵形ドーム New Thinking	石山修武＋ダムダン空間工作所	山荘	1981/08	茅野市蓼科高原姫木平
12	長野市立博物館	宮本忠長建築設計事務所	博物館	1981/09	長野市小島田町1414
13	大町エネルギー博物館	ACA 竜野松山設計事務所	博物館	1982/03	大町市大字平2112-38
14	南牧村立南牧北小学校	宮本忠長建築設計事務所	小学校	1982/03	南佐久郡南牧村海ノ口804
15	日本浮世絵博物館	篠原一男	博物館	1982/04	松本市島立小柴2206-1
16	飯山市伝統産業会館・中央公民館	宮本忠長建築設計事務所	資料館・公民館	1982/08	飯山市飯山字鷹飼1436-1
17	北澤美術館	芦原建築設計研究所	美術館	1983/05	諏訪市湖岸通り1-13-38
18	野尻湖プリンスホテル	清家清＋デザインシステム	リゾートホテル	1984/07	上水内郡信濃町古海字ケサガス久保4847
19	松本市音楽文化ホール	日本総合建築事務所	コンサートホール	1985/03	松本市大字島内4351
20	軽井沢高原文庫	GK 設計	資料館	1985/07	北佐久郡軽井沢町長倉字荒熊194-3,202-3
21	信濃デッサン館 槐多庵	北川原温＋ILCD	美術館	1985/11	上田市古安曽字西安曽岡3478
22	長野信用金庫小布施支店	宮本忠長建築設計事務所	銀行	1986/01	上高井郡小布施町大字小布施
23	駒ヶ根総合文化センター	森幹雄・石本建築事務所	公民館・博物館	1986/03	駒ヶ根市穂栄23-1
24	大桑村歴史民俗資料館	宮本忠長建築設計事務所	資料館	1986/03	木曽郡大桑村大字殿字川原1-58
25	田崎美術館	原広司＋アトリエ・ファイ建築研究所	美術館	1986/04	北佐久郡軽井沢町長倉字横吹2141-279
26	日本火災海上保険軽井沢山荘	秋元和雄設計事務所	保養所	1986/06	北佐久郡軽井沢町字長倉住環南原1052-203
27	軽井沢タリアセン 旧塩沢湖レイクランド	GK 設計	遊園地	1986/07	北佐久郡軽井沢町長倉217
28	ペイネ美術館	アントニン・レーモンド・GK 設計	美術館	1986/07	北佐久郡軽井沢町長倉225-1
29	小布施堂本店	宮本忠長建築設計事務所	店舗	1987/03	上高井郡小布施町大字小布施804-4
30	FOREST	早川邦彦建築研究室	店舗	1987/06	北佐久郡軽井沢町軽井沢字屋敷東側下794
31	八ヶ岳高原音楽堂	吉村順三設計事務所	コンサートホール	1988/07	南佐久郡南牧村海ノ口字西牧場2244-1
32	軽井沢高原教会 内村鑑三記念堂	ケンドリック・B・ケロッグ	教会	1988/08	北佐久郡軽井沢町星野
33	飯田市美術博物館	原広司＋アトリエ・ファイ建築研究所・飯田市設計事務所連合	美術館・博物館	1988/09	飯田市追手町2-655-7
34	JP 軽井沢山荘	鹿島建設建築設計本部	保養所	1989/07	北佐久郡軽井沢町軽井沢字西野沢原
35	アンフォルメル中川村美術館	毛綱毅曠建築事務所	美術館	1989/08	上伊那郡中川村大字大草美里
36	秀光ゲストハウス	A&T 建築研究所	ゲストハウス	1989/10	北佐久郡軽井沢町長倉字鶴溜2115-498,631
37	長野県信濃美術館東山魁夷館	谷口建築設計研究所	美術館	1989/12	長野市城山公園内
38	武石村ともしび博物館	宮本忠長建築設計事務所	博物館	1989/10	小県郡武石村大字上平1,902-4
39	浪合学校(小学・中学・保育園)	湯沢建築設計研究所	学校	1990/03	下伊那郡浪合村504・509他
40	更埴市総合文化館あんずホール	芦原建築設計研究所	文化会館	1990/06	更埴市大字杭瀬下742-1
41	おぼろ月夜の館・斑山文庫	宮本忠長建築設計事務所	資料館・記念館	1990/09	下高井郡野沢温泉村豊9549-ロ-2
42	諏訪市博物館	アロー設計	博物館	1990/10	諏訪市大字中州神宮寺171-2
43	神長官守矢史料館	藤森照信＋内田祥士(習作社)	資料館	1991/02	茅野市宮川高部
44	高野辰之記念館	誠設計事務所	記念館	1991/03	下水内郡豊田村大字永江1809
45	脇田美術館	鹿島建設	美術館	1991/04	北佐久郡軽井沢町旧道1570-4
46	新日本証券軽井沢山荘	三輪環境計画	保養所	1991/06	北佐久郡軽井沢町長倉字南原1893-96
47	ダイキン オー・ド・シェル蓼科	室伏次郎／アルテック建築研究所	保養所	1991/07	茅野市北山4035-2城の平別荘地
48	蓼科高原美術館	坂本建築事務所	美術館	1991/07	茅野市北山4035
49	BISHOP 軽井沢	SMS 嶋田宮城設計室	展示場	1991/07	北佐久郡軽井沢町軽井沢字屋敷西側中601-1
50	はーるかぶり木曽駒屋台村	吉柳満アトリエ	店舗	1991/09	木曽郡上松町大字上松1895
51	信州高遠美術館	宮本忠長建築設計事務所	美術館	1992/03	上伊那郡高遠町東高遠400
52	SUWA ガラスの里 ルネ・ラリック美術館	芦原建築設計研究所	美術館	1992/08	諏訪市豊田字中曽根2400-7
53	泉郷プラザホテル	小宮山昭＋ユニテ設計・計画	リゾートホテル	1992/11	南安曇郡穂高町大字牧2230
54	下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館	伊東豊雄建築設計事務所	博物館・記念館	1993/03	諏訪郡下諏訪町西高木2-10616-111
55	窪田空穂記念館	柳澤孝彦＋TAK 建築・都市計画研究所	記念館	1993/05	松本市大字和田1715-1
56	グローバルドーム	斎藤木材工業・松本岡谷組	多目的ホール	1993/06	松本市大字今井 松本平面平広域公園緑地
57	木曽地域地場産業振興センター	福川裕一＋まちづくりカンパニー	郷土館・レストラン	1994/03	木曽郡楢川村平沢字長瀬2272
58	聖高原サレジオの家	藤木隆男建築研究所	教会・保養所	1994/07	更級郡大岡村大字中牧聖275-45
59	浪合フォーラム	中村勉総合計画事務所	庁舎・公民館	1994/10	下伊那郡浪合村1018
60	ホテル ブレストンコート	東孝光＋東環境・建築研究所/東利恵	リゾートホテル	1995/03	北佐久郡軽井沢町星野
61	上田市マルチメディア情報センター	電通・ユニテ設計・計画	博物館	1995/04	上田市大字下之郷812-1
62	メルシャン軽井沢美術館	ジャン・ミッシェル・ヴィルモット＋KAJIMA DESIGN	美術館	1995/07	北佐久郡御代田町大字馬瀬口1799-1
63	安曇野いわさきちひろ絵本美術館	内藤廣建築設計事務所	美術館	1996/04	北安曇郡松川村西原
64	歴史公園信州高山 一茶ゆかりの里	岡田新一＋岡田新一設計事務所	記念館	1996/09	上高井郡高山村大字高井字紫裏5161-1
65	竹風堂松代店・池田満寿夫美術館	竹中工務店	店舗・美術館	1996/11	長野市松代町殿町城跡
66	山ノ内町立志賀高原ロマン美術館	黒川紀章建築都市設計事務所	美術館	1997/03	下高井郡山ノ内町大字平穏1465
67	川上村林業総合センター森の交流館	飯田善彦建築工房	展示場・レストラン	1997/05	南佐久郡川上村大深山536
68	メルパルク長野	郵政省官房施設部他	宿泊施設	1997/05	長野市鶴賀高畑家752-8
	長野オリンピック施設				
69	ビッグハット	山下設計・長野設計協同企業体	多目的アリーナ	1995/03	長野市大字若里923-1
70	ホワイトリング	日建設計	体育館・スケートリンク	1996/03	長野市真島町真島2268
71	開閉会式場(競技場内野スタンド)	住宅・都市整備公団 類設計室	多目的競技場	1996/11	長野市篠ノ井東福寺字上組北320
72	エムウェーブ	久米・鹿島・奥村・日産・飯島・高木JV	体育館・観覧場	1996/11	長野市北長池195
73	アクアウイング	山下設計	屋内プール	1997/09	長野市吉田5

■訂正とお詫び

昨年(1997)3月号の東海4県建築MAP作品リスト(1971-1985)に一部誤りがございました。大変御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げるとともに,下記のとおり訂正させていただきます。

記：1997.3号 93頁 作品リスト 愛知県 No.34 愛知県緑化センターの設計者欄：「瀧光夫」→「瀧光夫、東海設計、愛知県」

REPORT 日本建築協会東海支部

マレー半島をジャラン・ジャラン

福田泰造
㈱日本建築協会東海支部事業委員

クアラルンプールのスバン空港でわれわれを迎えてくれたのは、いかにも赤道直下の国らしく雷と雨だった。大地に鳴り響く雷鳴と真っ暗な空に走る雷光が、明日からのマレー半島での体験に緊張感を与え、この見学会参加者の胸を高鳴らせる仕掛けとなったのかもしれない。いや、明日からのハプニングの警告だったのかもしれない。

日本建築協会東海支部では事業委員会が担当して、現地集合の建築見学会を年に三度程度、一泊二日と日帰りバス建築見学会を春秋に実施しているが、3年前に支部復活35周年記念事業として香港の現代建築を訪ねる見学会を実施した。その余韻冷めやらぬ一昨年の忘年会の席上、会員から海外の見学会をぜひもう一度という声が上がり、マレーシア・シンガポールの見学会の運びとなったのである。

1997年11月28日午前7時、クアラルンプールヒルトンホテル1018号室にかかったモーニングコールですべてが始動する。25名の参加者全員にも活動開始の合図が入り、これから4日間の見学会が始まる。

KLCCに向かう

マレー語で散歩のことをジャラン・ジャランと言う。街並みの散策は支部事業委員会の重要なコンセプトだが、クアラルンプール(以降KL)では日程が厳しいので歩いての散策は難しい。われわれのバスは午前8時30分にホテルを出発し、最初の見学先であるシーザー・ペリによるKLCC(KL・シティセンター)タワーに向かう。

KLCCツインタワーは世界一の超高層RC造オフィスビルで88階建て・高さ451mを誇り、その全景を見るため、日航ホテル脇のシャッターポイントで途中下車を試みる。朝のラッシュを体験しながら、タワーの見学の実現に協力をいただいた㈱間組国際事業統括支店KLシティセンター出張所の平尾所長と一緒にKLCCツインタワーへ到着する。2棟のタワーはKLのダウンタウンに自慢げにそびえ建つ。意匠はイスラム建築のシルエットを取り入れたと言われ、ステンレスのカーテンウォールはガラスの魔術師と言われるこれまでのペリの作品とは違った印象を与える。ロジャースやフォスターのメタリックな建築の理解者にとってはディテールにぎこちなさを覚えるかもしれない。ただ、ステンレスをガラスに置き換えてこのツインタワーの外装をイメージすると、ペリらしさがどこかしこと現れる。タワーは、ハザマが建築担当した部分(1棟の構造と外装)は受け渡しまで完了し、内装工事は現在スペインの業者により進行中で、完了した部分から一部使用しているとのこと。私たちはまず、この巨大な2本のタワーをつなぐ42階のスカイブリッジに案内される。スカイブリッジからタワー先端のマストを見上げるとバルセロナで工事中のガウディによるサグラダファミリアを彷彿とさせる。スカイブリッジのステンレス製ダクトの結露を心配しながら、最上階へ上がり、平尾所長の配慮でバルコニーに出る。眼下に広がるKLの街並みは噂通り工事ラッシュで、タワークレーンと遠景の椰子の木の対比が妙におかしい。次の見学先の時間を確認しながら、エレベーターを待つが、来ない。30分待っても来ない。結局、最上階から40階までジャラン・ジャランとなった。


自慢げにそびえ建つKLCCタワー

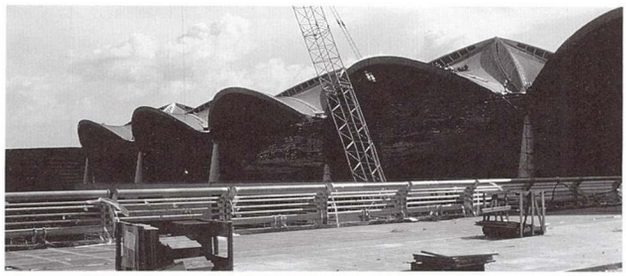

KLCCタワーのマストを見上げる

KL国際空港現場では


ムガール様式の連邦事務局ビル

独立広場(ムルデカ・スクエア)に面した貴婦人のように美しく佇むムガール様式の連邦事務局ビル(スルタン・アブドゥル・サマット・ビル)の近くで昼食をとり、チューダー様式の建物に英国領時代が見え隠れするセランゴール・クラブを横目に、バスは、この見学会の一番の目的であるKL国際空港の建築現場に向かう。空港の敷地はKLから南へ65kmのセパンに位置し、油椰子とゴムの生い茂る中を走る高速道路でアクセスする。交通量の極端に少ないドライブは大変快適で、エアコンとバスの振動が心地よく眠りを誘う。夢か現実か、バスの前方でタンクローリーが横転している。爆発のおそれがあるということですべての車がUターンを強いられる。大成建設の藤田さんと待ち合わせした高速出口の料金所は目と鼻の間である。空港の敷地は10km四方で、ここでコンタクトできないと会えない可能性が強いと連絡を受けていたことを思い出し、旧道をひたすら走って、空港の駐車場まで来てしまう。携帯電話での遣り取りの後やっとの思いで迷子を捜し出してもらい、藤田さんの先導で貝原大成建設KL作業所長の待つターミナルビルへランプを走る。

ターミナルビルを目前にしてハプニングが発生。リフトアップ前のウエルカムゲートが所狭しと道を塞ぎ、バスが進めない。われわれはバスを降りてターミナルビル目指して本日二度目のジャラン・ジャラン。黒川紀章氏によるターミナルビル出発階の巨大なカーテンウォール越しに眺める空港敷地は遙か地平線にまでおよび、油椰子畑を造成したものだと聞く。黒川氏は空港の意匠コンセプトに「最新の技術とマレーシアの固有性の共生」を掲げ、10km四方の椰子の林を丸裸にし、ターミナルビルのデザインに椰子の林を取り入れた。ビオトープや生態系への影響にいかに配慮したかという建築家としてのコメントが紹介されないのは残念であるが、このターミナルビルの建築は素晴らしい。これまで私が体験した黒川氏の建築の中では最高のものだと思う。ターミナルビルの柱を椰子の幹に見立て、さらに湾曲したHPシェルの美しい天井、そしてHPシェルの隙間を利用して作られたトップライトが柱間を繋ぎ、あたかも柱から生い茂る風に揺らぐ椰子の葉のごとくガラスのトップライトが椰子の木陰の光のグラデーションをかもし出す。そして木目のアルミを巧みに張り詰めた天井から一切の設備機器を取り去った意匠は実に綺





KL 国際空港ターミナルまでジャラン・ジャラン。
下の写真は同ビル内の椰子の木陰のインテリア

麗である。エレガントであると言った方が相応しいかもしれない。数年前に訪れたワシントンDCのエーロ・サーリネンによるダレス空港のエレガントなプロポーションに感激のあまり涙したのを思い出す。規模の比較から見ればダレス空港は問題ではないが、航空機の高さまでリフトアップし、サテライトまで乗客を運んでくれるバスやターミナルビルの什器備品までデザインしたサーリネンの建築家としての真摯な態度を見習いたい。そしてこのKL空港建設に携わっているゼネコンや建築資材メーカーが、環境ISO14001の取得に躍起となっている昨年の夏から現在に至る組織一丸となった地球環境への配慮を、いつまでも忘れないでほしいと思う。

それにしても、KL国際空港は巨大である。荷物搬送のベルトコンベアの全長が32kmにもおよぶ。シンガポールのあのチャンギ空港でさえも9kmである。そして香港・上海・ソウルで巨大空港の建設が始まり、他のアジア諸国でも計画が目白押しである。こうした世界の動きの中で、中部国際空港も遅れじと2005年の開港を目指して動き始めたが、いつもながらの滑走路1本で開港予定となっている。

開港後のKL国際空港に思いを馳せ、クアラルンプールへの帰途につく。途中、異常とも思われる渋滞に巻き込まれる。高速道路はスムーズに流れているが、アクセスする一般道路が異常である。結局ハザマの平尾さんを招待した夕食会は、主役抜きのわれわれだけの寂しいものとなった。ハプニングが連続した一日の疲れを癒すため、ホテルのラウンジに仲間が集う。硬派軟派の話を肴にした南国での冷えたビールが睡魔を誘う。南十字星に乾杯。

ミレニア・シンガポールの見学

シンガポールは、サンスクリット語で「獅子の都」を意味するらしい。世界の地名の中でシンガポールとサンフランシスコが私には特別美しい響きに聞こえる。シンガポール到着後、昼食のためラッフルズホテルに向かう。シンガポールでの宿泊先は、あのプリンセス・ダイアナも絶賛したシャングリラホテルである。シンガポールは参加者にリピーターが多いので全員での見学会は昼食後の半日とし、明日は希望者を募りセントサ島をジャラン・ジャランの予定。

ラッフルズホテルでの昼食後、3人のアメリカ人大物建築家が腕を競うミレニア・シンガポールを見学する。ミレニア・シンガポールはラッフルズ・プレイスから1.5kmほどに位置する。ラッフルズ・プレイスと言えばI．M．ペイやジョン・ポートマンそして丹下健三先生による超高層ビル群が我こそはと威容を誇る。ただ、今述べた建築家はすべてシンガポールから見れば外国人であり、シンガポールの建築家にとってラッフルズ・プレイスの超高層ビルはストレスを満杯にした器にしか見えないと感じる。



シップハウスを彷彿とさせる
ミレニア・ウォーク

われわれは最初に、ミレニア・ウォークと呼ばれるフィリップ・ジョンソン、ジョン・バギーによるショッピングモールをジャラン・ジャランする。中央の2層吹き抜けのアトリウムを挟む通りにショップが並び、アトリウム上部には連続したピラミッド型の屋根が並び、各屋根の頂点の明かり取りのトップライトはキャップのようだ。ジョンソンは19世紀海峡植民地時代のシンガポールのショップハウスを参考にこのモールをデザインしたのかもしれない。熱帯の直射日光を調節する役目をもったトップライト下のピラミッド型の四角錐の空間を構成する天井面は、南の国らしく色鮮やかに塗装され、クリスマスの飾り付けを一層引き立たせている。モール出入口前の道路を挟んで反対側にケビン・ローチ、ジョン・ディッケンルーによるリッツ・カールトン・ミレニア・シンガポールがそびえ建つ。20年くらい前にサンフランシスコの隣町に屋上を庭園として開放したオークランドミュージアムを訪れて以来、ケビン・ローチの虜になり、作品集を擦り切れるまで毎日開きコルテン鋼のディアカンパニーに取りつかれていたころを懐かしく思い出す。リッツ・カールトンホテルは対岸から見ると、スタンリー・キュービックによる映画「2001年宇宙の旅」に出てくる薄い長方形の板のようだ。デュポンのライターと言った方が相応しいかもしれない。シンガポールで最も新しいホテルと、コロニアル調でノスタルジックなラッフルズホテルとの、時間の対比が興味をそそる。

ニュートンサーカスで夕食の後、クリスマスのイルミネーションが上品なラッフルズホテルにてサマセット・モームがこよなく愛したカクテル、シンガポールスリングとジャズバラードに酔う。酔い醒ましにオーチャードロードをシャングリラホテルに向かってジャラン・ジャラン。途中、風水を無視した建物として評判の悪い黒川紀章氏によるレーン・クロフォード広場のガラスの円錐のエントランスホールに入る。キーテナントのブックショップには若い人があふれ活気がある。彼らには風水は関係ないようだ。クリスマスのイルミネーションのトンネルが若者をオーチャードロードに誘う。

最終日はリゾート地セントサ島を巡り、植物園でランに包まれ、深夜の出発時間までナイトサファリを体験する。ここでは、アジアの通貨危機の影響はまだ見られない。シャングリラホテルのシャングリラとは桃源郷の意味がある。シンガポールは見学会参加者にとって日頃の忙しさを一時忘れさせてくれた桃源郷だったかもしれない。このツアーでお世話になった㈱日交観の服部さん、㈱ハザマの平尾所長、そして大成建設㈱の藤田さん、貝原作業所長に感謝して日本への帰途につく。

（ふくた　たいぞう）

「建築と社会」誌

特集一覧● 1978～1998

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635、FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1978 Vol. 59	●デザインの動向―新旧のコントラスト	●水*	●医療施設―病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画*	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD―設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン*	●商業空間*	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建設金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文―北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法―安全な環境をめざして*	●都市住宅―住まい手からの発想*	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開	●省エネルギーと開口部*	●医療施設―地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質	●都市景観―まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）	●ホール建築と音	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル*	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展*	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合一人体と建築にみる― ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讃賓テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり―Ⅰ―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―Ⅱ― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと鞍	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音―騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江―その地域振興と文化*	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワー	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品*	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念建築と私と社会―80人の眼―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街なみの演出―最近の外構材料（予定）								

＊印は欠号

書評

「住田住居学」の誕生

巽　和夫



現代住まい論のフロンティア
―新しい住居学の視角―
住田　昌二　編著
ミネルヴァ書房
1996年11月30日刊
A5判　412頁　本体4000円

本書は、大阪市立大学に30年間にわたって在職し、住居学の研究・教育に従事して来られた住田昌二教授の退職を記念して、これまでの研究仲間、同僚、門下生たちと執筆・編集された学術書である。

住田教授は研究領域がわたしと重なる部分が多いので、わたしにとっての良きライバルであり、同氏の研究からたえず強い刺激を受けつづけてきている。研究の質水準は高く、しかも常に安定している。当りはずれがない。こうしたことから、同教授はその誠実な人柄ともあいまって、学界での高い信頼性をかちえている。

住田教授は、研究生活を大学院時代の千里ニュータウン計画や不良住宅地区改良計画からスタートさせており、不良住宅地区改良の研究で博士学位を取得し、その後、アメリカの都市再開発、庄内のまちづくり、自治体住宅計画、住宅の地方性、住宅事情の国際比較、参加型ハウジング、などと非常に幅広く展開してきておられる。実はわたしは、同教授が住居学の講座に身を置きながら、これ程多様な分野の研究を手掛け、しかもいずれについてもフロンティアを拓く優れた内容のものであることに感心していた。ところが、本書によると、このように外見上は拡散しているかに思える諸分野の研究は、住居学、とりわけその中で住田教授が中心的に担当しておられる住生活学の体系として位置づけられ認識されるべきものだったのである。「住生活学は、簡単にいえば、住様式（あるいは居住様式）を研究する学問」であり、「住空間とそこでの居住者の行動との対応関係を、歴史的、あるいは階層的、地域的に検証していくことをテーマとしている。」（あとがき）のである。住田教授は、こういう考えのもとに30年の間に研究テーマを、「まちづくり論」から「ハウジング論」へ、そして「住様式論」へ、住まいの外側から内側に向って関心を収斂させつつ住生活学分野の体系構築に努めて来られたわけである。

住生活学を、主として住居空間と住生活との対応関係を扱う学問分野だと狭く解釈してきたわたしは、自分の不明に恥じ入るとともに、住田教授の住居学についての学問の壮大な構想と戦略、それに取組む強固な意志と情熱に深い感銘を受けた。こうした多面的な視野をもつ住居学の概念は住田教授独特のものであり、これまでの住居学分野における通念を超えていると思われる。まさに「住田住居学」が誕生したともいえよう。

本書の内容は、総論、Ⅰ部、Ⅱ部とから構成されている。住田教授の執筆になる総論「住まいの近代化の検証と展望」の内容は、「戦後住居学の成果が主として近代化論をパラダイムとして創り出されてきた事実に注目し、住まいの近代化とは何であったかを検証することを通じて、21世紀に向けた新しい住まい像を構築していく手掛かりを得たい。」と要約されている。同教授の研究の足跡をたどりつつ、新しい住居学へのアプローチが見事に論じられている。論旨きわめて明快であり、説得性に富んでいる。

Ⅰ部「住まいと住様式」では、住宅内での住まい方の展開が、高度成長期におけるモダンリビングの形式のなかでどのように進んだかを検証するテーマを中心に、日本の住まいの発展史、集合住宅と戸建住宅の住まい方の比較、都市と地方の比較、日本とアジア諸国の比較について、7つの側面から論じられている。

Ⅱ部「住まいとまちづくりのポリシー」では、研究対象が「すまい」から「まち」に拡大し、都市の集合住宅形態の再構築をはかる課題が登場してきている中で、それらをつくるための仕組みとその担い手のあり方などが、9章にわたって論じられている。

総論とⅠ部Ⅱ部の各論を読み比べてみると、住田研究室における研究の進め方がおぼろげながら推察される。まず、住田教授が体系的な研究構想に基づく研究テーマを提示する。研究室メンバーはそれを受けて共同または分担して各テーマについての実証的な調査・研究に取組む。研究成果は住田教授による理論化を経て住居学の体系の中に組み込まれる。こうしたサイクルの繰返しによって学問体系はスケールを拡大するとともに確かなものとなっていく。教授と研究室員との見事なチームワークがうかがわれるのである。

（たつみ　かずお／京都大学名誉教授）

ダンボールから

森田　隆　竹中工務店
Morita　Takashi



「ダンボールの家」
制作・撮影：建築・都市ワークショップ

素材、技術の源流へのRe-approachによって新たなる創造性に向かうことを企画するシリーズ第3回は「紙」について考える。

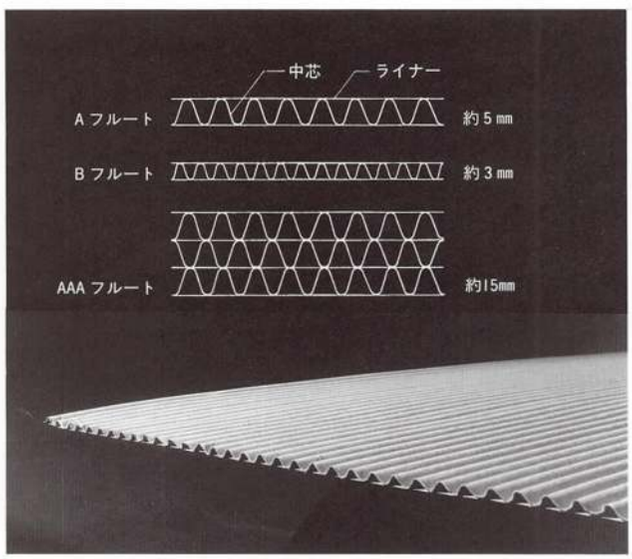
紙は我々にとって歴史の長い、とても身近な存在の素材である。しかしその身近さゆえに我々は紙について知っているようで、あまり知らないものである。今回「ダンボール」というありふれた材料を通してその意外な側面を探ってみたい。

（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）

優しさ

ピザの宅配サービスの包装材にダンボール箱が使われていることにお気づきの方もおられると思う。また、紙にくるまれば温かいこともよく知られている。手で何度も揉まれた紙は、その繊維の中に空気を含んで息づく。これは紙に優れた保温性がある証しであり、ピザの包装材は紙のこの特性を利用している。

江戸時代には紙衣（かみこ）といわれるものがあった。三月の初め、奈良の東大寺でお水取りが行われる。まだまだ寒い時期であるが二月堂の欄干から振り回される松明をみると春が来たなと感じる。このお水取り、よく見るとお坊さんたちはこの紙衣を着ている。文字通り紙でできた衣服である。芭蕉も「奥の細道」の旅立ちに贈られた紙衣を持参している。和紙に渋やこんにゃく糊を塗って防水性と強度をもたせたもので、よく揉んで柔らかくし保温性を高めて着たそうである。ともすれば冷たさを感じることの多い現代建築において、紙の持つ温かみと優しさにもう一度着目してみることは、意味深いことのように感じる。



ダンボール断面

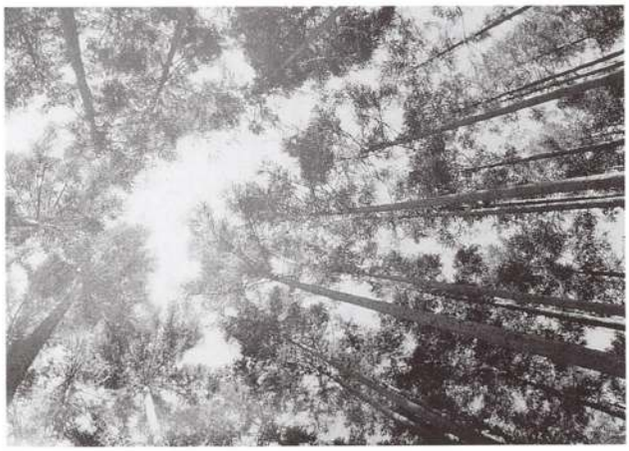




写真上：奈良県東大寺お水取り
写真左：紙衣をまとった修行僧

強さ

約100年前、英国でシルクハットの帽子の内側に貼る汗取り紙として誕生した波型のコルゲート紙は、電球の発明とともにその梱包材となり、今日のダンボールへと進化した。「ダン」とは紙を波形に張り合わせた「段」のことであり、「ボール」とは「ボード」が変化したものであるといわれている。一枚の紙では持ち得なかった強度を、ダンボールとして加工されることにより紙は信じがたい強さを獲得したのである。ものをいたわるために「包む」という発想から生まれたダンボール、その長い歴史の中で単純にダンボールとよばれるものは、その機能と用途を拡げることで今日では日常生活にはかかすことのできないパッケージとして大きな役割を担っている。現代では重量物包装資材として3層構造をもったダンボールも開発されており、その強度は3トンの象が乗っても大丈夫だそうだ。また、各種水産物、水漏れの心配がある青果物など、本来紙による包装が苦手とする分野においても水に負けない強さと防湿効果を装備したダンボールが開発されている。ものを優しく包むパッケージとしてのダンボールからは、1つの空間を創造するという意味において我々も学ぶべき点が数多くあるように思われる。



リサイクル

日本で１年間に使われる紙の量は約3,000万トンにも上る。

この量は世界第２位であり、国民１人あたり毎日、新聞１日分（朝夕刊）、BOXティッシュ１箱とトイレットロール１個を消費していることに相当する。しかし、そのうち50%以上が古紙の再利用によって生まれている。この回収率は世界的にみてトップクラスである。

古紙とは、文字どおり家庭や企業などで一度使われた紙のことで、汚れたイメージを持つ人もいるかもしれないが、決してそのようなことはなく、身の回りにあるさまざまな紙製品に使われている。例えば新聞紙で50%、ダンボールで80%、雑誌用では実に100%が古紙の再利用によるものである。古紙１トンは樹齢30年の立木20本に相当するそうだ。回収される古紙は約1,500万トンにものぼり、毎年３億本もの木を伐採しなくてよい計算になる。

エコロジーやリサイクルという言葉が、近年、我々建築の分野で叫ばれる時代だが、紙はそのずっと以前から優等生であったと言える。



古紙集積場

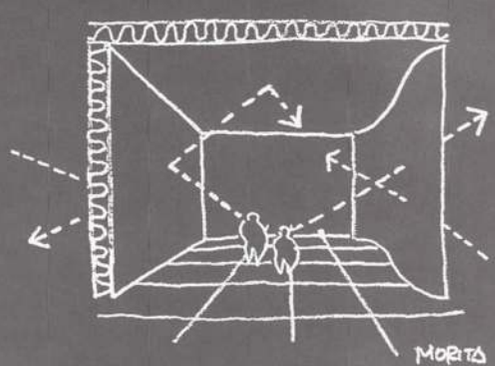
「ダンボールの家」

紙は2000年にわたって使われ続けた古い素材である。植物よりとれるセルロース繊維という極めて優秀な成分を巧みに薄層化することによって、1）情報を記録し保存する　2）ものを包み保護する　3）液体を拭き取りかつ吸い取るという３大機能を達成させ、他のものでは代替し得ない地位を今日まで形成してきた。そして現在、紙は４番目の機能として、その意外な強さを獲得しつつある。

建築の分野において紙は優れた内装材として襖や障子の長い歴史とともに我々日本人の暮らしの良き伴侶であった。紙は植物繊維でできた息づく自然素材である。室内が湿気てくれば湿度を吸収し、乾燥すれば適度に湿気を放出する。さらに無数の多孔質の隙間に空気をたくわえて優れた保温断熱効果を発揮する。またその薄くか弱きものにより、隔てられた世界を、お互いに透かしその気配を伝える。障子を透過した外光はおだやかな光となって室内に拡散し、そこに映る外の陰影は人と自然との優しい関係を形成させる。

しかし戦後、紙は板ガラスの普及とともに都市の近代化の流れの中で、燃えるもの・破れるもの・汚れるものとして、その役割は急激にうすれ、都市はますます人工的で無機質な素材にとり囲まれた均一で冷たいものとなってしまったように感じる。かつて日本の住居は自然の素材にくるまれ、自然と調和した暮らし方があった。自然の素材を様々に工夫してその暮らしを豊かに彩ってきた先人達の知恵を今日見直してみるのは大切なことに思われる。と同時に紙の新たな挑戦に注目し、今一度紙について考えることは大切な事であると感じた。

「ダンボールの家」考えてみればこの紙だけでできた家はなんと素晴らしいものか。外敵から最低限身を守り、中は静かで温かい。そして何にもまして自由気ままにその棲家を移動できる。私にはこのシンプルで力強い家がとても魅力的なものに思えた。



協力　レンゴー株式会社

木造密集市街地における 災害に強いすまいとまちづくり

松田浩三
大阪府建築部住宅政策課まちづくり班主査

阪神・淡路大震災は、老朽な木造住宅が密集した市街地等を中心に、建物の倒壊や火災の発生、延焼などにより多くの人命と財産を奪うなど甚大な被害をもたらし、このような市街地が地震・火災による災害に極めて弱いまちであることを改めて認識させられた。

そのため、大阪府では、木造密集市街地における建物の不燃化、耐震化の促進と、住宅・住環境や都市基盤施設の整備を進めることにより、災害に強いすまいとまちづくりを推進することが緊急かつ重要な課題となっている。

木造密集市街地の現状と「災害に強いすまいとまちづくり」への取り組み

大阪府下の木造密集市街地を、市街地の燃えやすさ、建物倒壊の可能性の高さ、住宅の密集度合いという3つの指標から抽出すると、府下市町村で約4700haに及んでいる（**図1**）。

これらの木造密集市街地は狭隘道路や建て詰まり、建物の老朽化の進行等により、住宅・住環境上、防災上の問題を抱えており、早急な整備が必要とされている。そのため、大阪府下では昭和58年度以来、4市10地区（**表1**）において密集住宅市街地整備促進事業により地区の整備を行うとともに、平成2年度には、事業の支援組織である「財団法人大阪府まちづくりセンター」を関係市と共同して設立するなど推進体制の整備を図った結果、老朽木造賃貸住宅の建て替え件数の増加や、面的な整備が軌道に乗ってきたところである。

また、震災の経験を踏まえ、木造密集市街地の整備への取り組みの強化を図るため、事業、規制、誘導などの施策を所管する建築部、土木部の関係課と、企画、防災を担当する部局による「災害に強いすまいとまちづくり促進会議」を平成8年4月に設置し、新たな事業推進方策等について検討を行い、整備の進め方のフレームを「大阪府災害に強いすまいとまちづくり推進要綱」で定めた（平成9年3月制定、**図2**）。

この推進要綱に基づき、大阪府下の木造密集市街地（前掲）のう

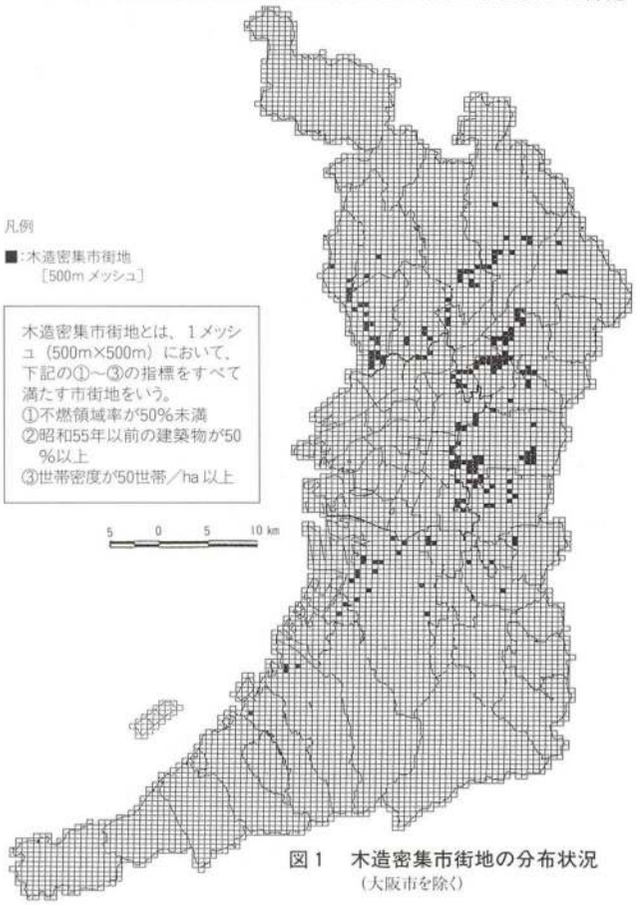


図1　木造密集市街地の分布状況
（大阪市を除く）

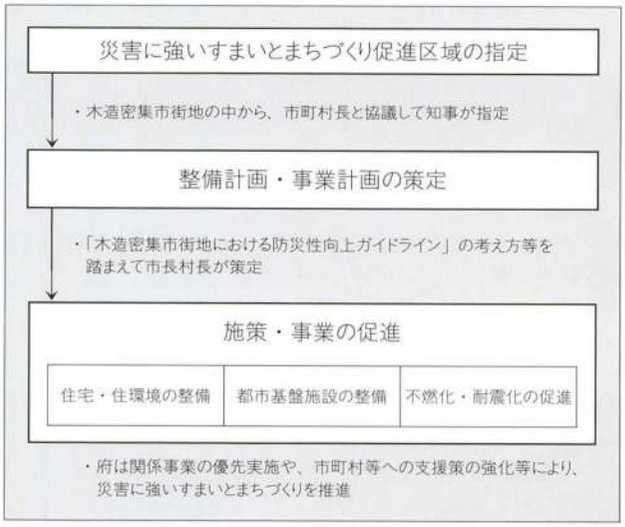


図2　「大阪府災害に強いすまいとまちづくり推進要綱」に基づく整備の進め方

表1　密集住宅市街地整備促進事業実施地区（大阪市分除く）

地区名	事業主体	面積	事業期間
豊中市庄内	豊中市	425.5ha	昭和58年度～
門真市北部	門真市	461.0ha	昭和59年度～
寝屋川市萱島東	寝屋川市	48.7ha	昭和59年度～
寝屋川市池田・大利	寝屋川市	66.0ha	昭和59年度～
寝屋川市香里	寝屋川市	133.0ha	昭和60年度～
豊中市服部西部	豊中市	16.3ha	平成元年度～
堺市湊	堺市	18.0ha	平成2年度～
堺市東湊	堺市	1.7ha	平成2年度～
堺市湊西	堺市	35.7ha	平成5年度～
豊中市豊南町	豊中市	80.1ha	平成6年度～

表2　災害に強いすまいとまちづくり促進区域一覧

市町村名	地区名	ha
豊中市	庄内	425
	豊南町	80
	蛍池駅周辺	6
	豊中駅周辺	14
摂津市	千里丘西	5
	香露園	5
	正雀	12
守口市	東部	397
	八雲東町2丁目	17
門真市	門真市北部	461
寝屋川市	萱島東	49
	香里	133
	池田・大利	66
大東市	住道駅周辺	46
四條畷市	中央	34
東大阪市	徳庵駅周辺	19
	岩田・瓜生堂	38
	花園駅前	9
	布施駅周辺	39
	柏田・寿町周辺	22
八尾市	JR八尾駅周辺	65
河内長野市	三日市町駅周辺	10
	本町長野町	5
堺市	湊	18
	湊西	35
	北野田駅前	5
高石市	高石駅周辺	46
	羽衣駅周辺	53
和泉市	和泉府中駅前	5
泉大津市	泉大津駅西	50
	松之浜駅周辺	5
忠岡町	忠岡駅周辺	9
岸和田市	東岸和田	5
貝塚市	寺内町周辺	106
泉佐野市	泉佐野駅周辺	31
阪南市	尾崎駅周辺	31
合計	19市町 36地区	約2,356ha

（平成9年3月現在）

ち、大地震時に建物倒壊や大火災の可能性が高く、早急に対策を講ずる必要のある区域を中心に、市町村と協議の上で、平成９年３月に「災害に強いすまいとまちづくり促進区域」を第１次指定した（**表２**）。

今後は、この促進区域において、当該市町村が整備計画等を策定し、大阪府は、関係事業の優先的な実施や市町村等への支援策を強化することにより、災害に強いすまいとまちづくりを推進することとしている。

密集市街地整備法

木造密集市街地は、道路が未整備で敷地が狭小なため、老朽な建物を適法に自立的に建て替えることが困難であること、賃貸住宅が多いため居住者の協力が不可欠であること、建物所有者の高齢化により建て替え意欲に乏しいことなど、整備の推進に当たって困難な面が多い。このような木造密集市街地の整備を段階的、修復的に進め、防火安全性を確保することを目的として「密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（密集市街地整備法）」が平成９年５月に公布され、同年11月8日に施行された。

この法律には、木造密集市街地の整備を着実に進めるための諸施策が総合的、体系的に盛り込まれている。その概要は以下のとおりである。

■法律の概要（建設省資料による）

防災上危険な密集市街地を都市計画(整備、開発又は保全の方針：知事決定）において明確化（「防災再開発促進地区」の設定）した上で、他に講じられる防災施策と連携し効果的な再開発を促進するため、以下の措置を講ずる。

(1) 防災上有効な建て替えや、延焼防止上危険な建築物の除却の促進

①建て替え計画の認定制度

防災再開発促進地区において、防災上有効な建て替え（耐火建築物等への建て替え）に関する計画について地方公共団体の認定を受けた場合、共同・協調建て替え事業については補助を受けることができる。

②延焼等危険建築物に対する措置

イ．除却勧告

地方公共団体は、防災再開発促進地区において、地震時に著しい延焼被害をもたらすなどの可能性が高い老朽木造建築物（延焼等危険建築物）の所有者に対して除却を勧告することができる。

ロ．居住安定計画の認定

イの除却勧告を受けた賃貸住宅の所有者は「除却及び居住者の居住の安定の確保に関する計画」を策定し、市町村長の認定を受けることができる。この認定により、

１）居住者は、地方公共団体からの支援措置として、㋑公営住宅等地方公共団体の管理する住宅への入居、家賃の軽減、㋺移転費用の補助、を受けることができる。

２）居住安定計画が認定された場合には、所有者及び居住者間の賃貸借契約については、正当事由に係る借地借家法の関係規定は適用せず、所有者は賃借人に対し賃貸借契約の更新拒絶の通知または解約の申し入れを行うことができる。

(2) 地区の防災性の向上を目的とする新たな地区計画制度の創設等

①防災街区整備地区計画

市町村は、火災被害の軽減等に役立つよう、地区レベルの道路等の公共施設の整備とその沿道に耐火建築物を誘導するための計画事項を追加した新たな地区計画として防災街区整備地区計画を定めることができる。

②防災街区権利移転等促進計画

市町村は、新たな地区計画の中で、地権者等の同意を得て、耐火建築物の建築、道路等の公共施設の整備など地区計画を実現する者へ土地の権利を円滑に移転するための計画を作成できる。

③建築基準法の接道の特例

新たな地区計画の区域内の予定道路については、全区間が築造前であっても、これに接する建築物ごとに接道要件を判断できる。

(3) 地域住民による市街地整備の取り組みを支援する仕組みの構築

①防災街区整備組合

新たな地区計画の中で、地権者が協同して耐火建築物の建築や道路等の公共施設の整備を一体的に行う法人として、組合を設立できる。

②防災街区整備推進機構

組合などの防災街区の整備の事業を促進するため、「まちづくり公社」などを市町村長が防災街区整備推進機構として指定し、国の融資等を活用して事業用地の先行取得や情報の提供その他の援助を行う。

(4) 住宅・都市整備公団の住宅・まちづくりノウハウの活用

住宅・都市整備公団は、大都市に存する防災再開発促進地区で地方公共団体の委託に基づき、市街地の整備に係る業務を行うことができる。

(5) その他

密集市街地整備法の施行に伴い、防災上危険な住宅の除却に伴う代替住宅の建設に対する住宅金融公庫融資の特例、防災街区整備推進機構に対する都市開発資金の創設、市街地再開発事業の要件の緩和等を行う。

今後の木造密集市街地の整備

大阪府における木造密集市街地整備の取り組みは、阪神・淡路大震災を契機に、防災性の向上という視点を強化することで、新たな展開の時期を迎えている。

今後は、災害に強いすまいとまちづくり推進要綱で定めた整備推進のためのフレームを基本としつつ、地域の実情を踏まえ、今般施行された密集市街地整備法や、その他の関連施策を有効に活用し、着実な整備を進めることとしている。

また、木造密集市街地の整備を具体的に進めるためには、地域事情に精通した地元市町村の積極的な取り組みや、地域住民の方々の理解と協力が不可欠である。そのため、大阪府としては、今後とも庁内関係部門や、市町村、ならびに「財団法人大阪府まちづくり推進機構」等のまちづくり支援組織等との連絡調整を密に行うとともに、市町村や地元への支援策をさらに強化していくことが必要と考えている。

（まつだ　こうぞう）

コンピューターと構造設計－2－

大氏正嗣
㈱デザイン・構造研究所代表

前回に引き続き、散漫な文章ですが「コンピューターと構造設計」について私見を書かせていただきます。

コンピューターは諸刃の刃（続き）

それでは、コンピューターを利用する上で注意しなければならないと思われる点について、数点ピックアップして考えてみましょう。

■仮定、使用条件

まず、構造計算プログラムやその他の解析プログラムにはまちがいなくマニュアルが付いていると思います。これには、プログラムの使用（入出力）方法が書かれているはずですが、同時にプログラムの機能上の制限や仮定が示されているはずです。しかし、プログラムメーカーの営業上の戦略もあるかもしれませんが、マニュアルを素直に読んですぐにすべての注意しなければならない点が分かるものではありません。それよりは、どちらかというと“こういった機能がある”という長所や特別な内容を中心に説明がなされているので、注意点についてはどうしても後の方に短く難しく記載されている（もしくは書かれていない）のが通常でしょう（一応、評定プログラムでは最初に評定範囲を記載するようになっていますし、マニュアルが分冊化されている場合には概要編など第1巻に記載されていることもあります）。

しかし、まさにその部分に構造計算プログラムを上手に扱うためのポイントがかくされていると言えるのではないでしょうか。通常この部分には、そのプログラムが利用しているモデル化の方法や解析方法が記載されており、また特殊な解析法（式等）を利用している場合にはその引用先が紹介されています。プログラムを利用する上では直接関係する部分ではないので見逃しがちになってしまいますが、ぜひとも一度目を通していただきたいものです（一度目を通したくらいではすぐに理解できるものではありませんが）。

例えば、多剛床を取り扱うことができるプログラムでは、入力例としてはツインタワーに近いようなモデルが示されていて、どんなツインタワーでも解けそうに見えます。しかし、実際は計算内容の説明部分にいくつかの仮定が示されており、ツインタワー部が同じ方向に変形した場合の計算しかなされないことが分かります。まあ、計算が静的加力に基づくものなので当たり前のことなのですが、実際の建物は、ツインタワー部分の質量が大きくなればそう簡単に解析できるわけではありません。もともとこの機能は、ペントハウスが二つある建物の解析が従来のプログラムでは不可能であった（節点荷重として与えなければ解けなかった）ことから追加されたものであり、単に剛床仮定を解除しただけのもので、特別な解析技術が採用されているわけではないのですから（**図8**）。

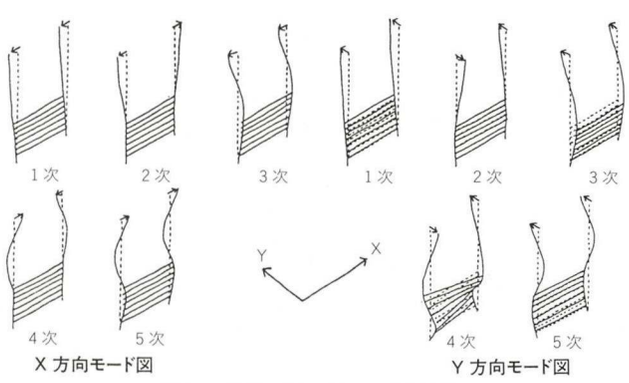


図8　ツインタワーのモード解析例

■単位やオーダーのミス

単位やオーダーについてのミスは、コンピューターを使用するようになったから生じたものではありません。当然手計算の時代からあった内容であり、計算ミスを含めるならばコンピューターの使用で計算ミスの可能性は減った（と思います）のですから、何もわざわざ問題にする必要はないと思われるかもしれません。確かに、計算過程での単純ミスをする可能性はかなり減少したものと思います。しかし、一方で入力ミスや出力に対する判断ミスなどをする可能性が増えてきているのではないでしょうか。一貫計算プログラムなどでは、数多くのWARNINGやFAULTが出るのでこれらを消すことに必死になって、それが終了したら“やった、これでOK”とばかりにチェックすることを終えてしまう……そんな経験がありませんか？

コンピューターを使うようになってから、設計者が計算過程を自分の目で追うことがなくなってしまいました。また、何かデータを入力して計算を実行すれば、それらしい答えが出てくるようになったので、結果の照合がやや甘くなってきているかもしれません。つまり、どこかの過程で致命的な問題点があったとしても、それがどこで生じているかを理解するのに多大な時間がかかり、場合によっては致命的な問題に気がつくことさえなく設計が終了してしまっているかもしれないということです。まあ、きっちりとしたチェックをしていれば防げることではあるのですが、複雑なプログラム（特に大した頻度で使っていないもの）であればあるほど、こういった危険性は高くなります。逆に言えば、設計者としてかなりシビアな検討をしているのだという自覚を持たなければならないということかもしれません（**図9**）。



図9　単位やオーダーのミス

■架構計画について

個人的には、私は建物の構造設計は架構計画（仮定断面の設定を含めて）でその50%以上は決定すると考えています。この数字が妥当かどうかはともかくとして、最初にいかに適切な架構計画を構成できるかが設計（意匠設計を含めて）の成否を決めることになるのではないでしょうか。これら架構計画は、将来的にはともかく現在のところプログラムで行うことはできません。構造設計者の腕の見せ所はまさにここにあるのだと思います（その他の作業を卑下するわけではなく、設計者の能力を最大限生かせるのがこの部分であるということです）。架構計画を適切に進めることができるようになるためには、やはりいくつもの設計をして（自分でしっかりと考えて）自己の能力を高めていくことが大切であり、過去の経験が生き、

新しい発想が生かされるのもこの部分だと思うからです。

■現在の知見

さて、もしすべての知見を集合させたならば完璧な建物が設計できるのでしょうか？　当然そんなことはありません。それどころか、実際は何も分からないことばかりであり、完璧な設計だと自信を持てるなんてとんでもないのかもしれません。だって考えてみてください。静的な設計外力なんてまったく架空のものだし、材料強度も本当の値を採用しているわけではない。部材のヒンジの発生順序なんて本当かどうか分からないし、どんなに精密な解析を行ったとしても崩壊形なんてあやしいものです。それでも、構造設計者は「これくらいの地震が来たら建物が崩壊に至り……」などと説明しなければならないわけですよね。それでは、私たち構造設計者は何を信じて設計すればいいのでしょうか。法律や各種の規準は、過去の知見から現在のところ（ただしその規準等が作られたとき）もっとも妥当であると思われる内容を示したものであり、本来は特定の建物すべてに対する完璧な設計方法を示したものでも何でもありません。それどころか、場合によっては相反した記述があったり実情に合わない内容が記載されていることもあるでしょう。それでも法律は、最低限不適当な設計をすることがないように、規範を守らせる上ではある程度の役割を果たしているのでしょうね。

構造設計を的確に行うためには、結局のところどんな手法よりも最終的な設計者の判断が重要であるということになります。ただし、ここで勘違いをしてはいけないのは、何でもかんでも設計者の判断（よく工学的判断などと言いますが）で適当に決めろということではありません。そうではなくて、法律や規準類の算定結果を取り巻くいろいろな条件を考慮して導き出されるいくつかの結果を参照して、最終的に設計者が判断することが重要であるということです。こういった、シミュレーションを行うためにこそコンピューターは最大の能力を発揮するのであり、単に速く計算をする道具と思ってはいけません。そして、数多くの結果をあなたに手渡して、あなたの判断を待っているのです（まるで、官僚と政治家の関係のようですね）。

うまくコンピューターを使いこなすには

それでは、実際にプログラムを運用する上でどのような点に注意を払えばよいのでしょうか。こまごました点を挙げるとキリがありませんので、個別の問題については別の機会に（もしあれば）して、今回は概念的な内容を中心に話を進めてみます。

まず、コンピューターやプログラムと構造設計のかかわりについて、もう一度見つめ直してみましょう。構造設計者は建築に携わるメンバーの中で最も早くコンピューターを用いた人々であると思いますが、そういう意味ではコンピューターのことを理解する力は十分にある（実際に理解して使われている方もたくさんいる）はずだと思います。中には、計算尺や手巻き計算機の時代からという方もいらっしゃると思いますが、とりあえずパソコンが世の中に普及し始めてから（つまりここ15年くらい）を念頭に考えてみます。

ところで、ちょっと話がそれて申し訳ありませんが、プログラムを作成するという作業は本当に根気のいる作業です（自分でプログラムを作成した方なら特に分かっていただけると思うのですが。ちなみに、私は必要に迫られて作ることがありますが、本当は構造設計をしているほうがずっと好きです）。特に、バグ（計算などのルーチンに誤りがあること）の原因が分からないときのチェック作業などは気の滅入るような時間が続き、仕事をするのが本当にいやになってしまいます。

まあプログラムを作成するものの愚痴はこれくらいにして、とにかくコンピューターというものは本当にバカ正直なので、間違ったプログラムを作成すれば、その通り間違った答えを出してくれるのです。それに加えて、プログラムのルーチンが特に誤りのないものだったとしても、入力値を誤った場合やプログラムが想定している条件外のデータを与えた場合にも不適切な答えを出すことがあります。これも、コンピューターがバカ正直なゆえの結果であって、その特性上やむを得ないことであるということはよくご存じのことと思います。皆さんもプログラムに入力値の妥当性のチェックまでしてもらったり（ワープロソフトでは間違いを自動的に直してくれる機能もありますが）、適用条件を逐一チェックしたりしてもらえる（形式的なものはなされますが）とは思いませんよね。本当は、そこまで完全なプログラムが現れたなら構造設計ももっと楽になるのでしょうが、構造設計プログラムを作成しているのも同じ人間であり（特に建築構造のプロではない方も多いようで）、完全なプログラムを作ることは現実として不可能であると言ってもよいのかもしれません。また、昔（MS-DOSのころ）の簡単なBASICやFORTRANで作られていた頃のプログラムなら計算部分のソースを見て、プログラムの状況を確認することもできたでしょうが、現在の複雑なプログラムではとんでもないことだと思います。

とはいえ、じゃあ私たちはプログラムの中身を知らないでよいといえるのでしょうか。ちなみに、評定プログラムと呼ばれているものがどういう評定をされているかと言えば、プログラムの構成、解析方法の妥当性やプログラムの運用をいかに適切に行わせるかがポイントとされており、プログラムの開発思想の確認を中心として、プログラムのソースコードを見ることなどほとんどありません（もちろん出力結果の妥当性については確認を行っていますが、特殊な形状をすべてチェックしたりプログラムのコードを逐一確認するなんて、実際にはできるものではありません）。

結局のところ本当に適切な構造設計を行おうと思うならばプログラムの概念に対する理解を深めることは必要不可欠であるということになります（コンピューターの力を借りたほうがずっと効率的であり、かつ精度の高い検討が可能となるわけですから）。複雑な理論や解析方法を用いることもある面では大切なことですが、同時に今行っている構造設計（計算）についてもきちんとした理解をしておかなければならないのではないでしょうか。現在使われている一般的な設計手法が、どのような根拠によりなぜ用いられているのか、そのときの注意事項は一体何であるのかを再認識すること、その上でこういった設計体系を用いたプログラムの運用方法を考えてみることが重要であると思います。しかし、市販の図書などでこういった部分について分かりやすくまとめられたものが少ないのは残念なのですが（高度な理論か、基本的な事項に偏っているような気がします）。

さて、現在の設計手法についていろいろと勉強を続けていけば、

実際には本当に適切な設計手法なんてなかなかないものだという感想を持つことになるかもしれません。でもそのために、前述したように様々なケースに対するシミュレーションが必要であり、様々な結果からもっとも適切であると考えられるケースを選択し実施することが重要なのです。そして、だからこそ設計の楽しみがあるのではないでしょうか。例えば、壁の剛性低下率 β についてはどのような値を用いるかということが古くから問題とされていますが、こういった値こそ様々なケースを想定したシミュレーションを行うべきであり、常に決まった値を採用するなんておかしいですよね。また、設計外力（例えば、層せん断力係数）にしても複雑な形状の建築物であるならば Ai 分布以外の外力分布形についても確認してみることも十分に意味のあることと思います（**図10**）。

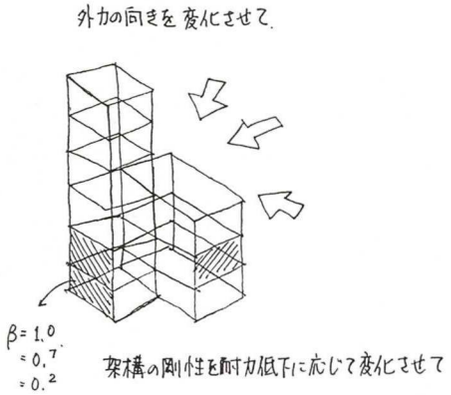


図10　シミュレーション

続けてポイントを挙げれば、前述の入力ミスの話に関係しますが、複雑な解析を実施する場合にはなるべく２種類以上の設計手法による検討（略算法によるチェックも含めて）を行うことが大切です。これもシミュレーションのうちに含められるのでしょうが、少なくともオーダーのチェックは間違いなくできますし、略算法は精算法に比べてシミュレーションに要する時間が比較的短くて済むことや、同じミスを繰り返す可能性が低いことがメリットとして考えられます。まあ、これらは建物の耐震診断のときのコア抜きとシュミットハンマーの関係に近いかもしれませんね（**図11**）。

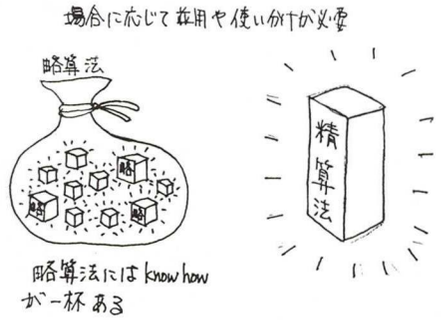


図11　略算法の活用

さらにもう一つポイントを挙げるとすれば、私たち構造設計者（それだけでなく建築に携わるものすべて）の最終的な目的は、良い建築物を責任を持って造ることという認識を再確認することだと思います。確認申請のための計算書を作ることでもなく、単に技術論を追究することでもなく、そして設計期限に図面を間に合わせることでもない。ましてや、FAULT や WARNING の一切ない計算結果を打ち出すことなどではないのです（どれも、大切なことではありますが）。少なくとも、そういう認識を持って設計を進めていけば、コンピューターとのいい関係を築くことや、それだけではなく意匠設計者、現場、その他といい関係を保てるのではないでしょうか。まあ、関係者全員がそう思ってくれれば一番いいのですが。

構造設計者は偉いか？（構造設計者の憂鬱）

いろいろな意匠設計をされている方々とお話をすると、「私は構造のことは何にも分からないのです」といった言い方をされることがあります。構造設計は確かに特殊な技術あるいは専門部門と呼べるかもしれません。構造設計の経験のない人には、決して踏み込むことができない世界（「設備」もそんな気がしますが）のような感じがするのでしょう。でも、現実にはコンピューターとプログラムの発達により意匠設計者であっても構造計算をすることは十分にできる時代になってきています。その結果が適切であるかどうかはともかくとして、こういう時代ですから建物を設計する上においてわざわざ構造設計者が必要であることをアピールしていく必要が生じ、そのためには何らかの特徴を発揮していかなければならないのではないでしょうか。一番最初にも書きましたが、構造設計者がしなければならないことは山のようにあるのですが、さらにいろいろと勉強していかなければいけないのです。構造設計者が構造設計者であり続けるためには。

これらの現状を苦しいこととして捉えるか、おもしろいことと考えるかは個人の考え方次第なのでしょうが、できれば前向きに考えていきたいものです。そして、その時には少なくともコンピューターとプログラムを心強い味方につけておきたいですね。

ところで最後にもう一度聞きますが、「今、あなたは建築構造に関する質問に対して答えることができますか？」（**図12**）。



図12　コンピューターを味方に

＊

それでは最後なりましたが、私のような若輩者の読み苦しい文章に最後までお付き合いしていただきました方々に深くお礼を申し上げて終わりとさせていただきます。

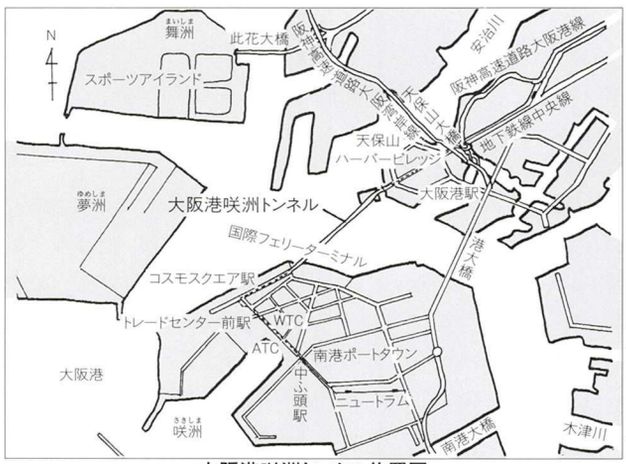
（おおうじ　まさし）

大阪港咲洲トンネル道路部の換気と防災

吉澤悦男
運輸省第三港湾建設局神戸機械整備事務所建設専門官

大阪港咲洲トンネルは、沈埋工法による日本で初めての道路・鉄道併用型海底トンネルである。

本トンネルは、大阪湾西部湾岸地域の都市内道路として位置づけられており、海底トンネルという特殊性から、多交通道路の安全性・快適性の確保、防災面の重視、周辺環境への配慮、経済性などに留意した諸設備を設けている。



大阪港咲洲トンネル位置図

トンネル内の換気と防災

■換気設備

換気設備は、トンネル利用者の安全で快適な通行を確保すること、およびトンネル内の各種作業を行うため良好な環境を確保することを目的としている。

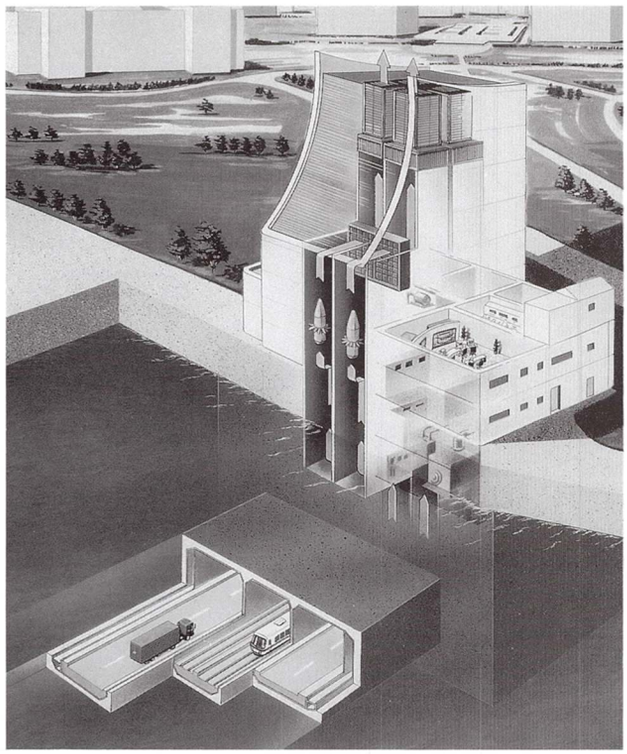
換気方式は、本トンネルが都市部にあることから周辺環境への悪影響を抑えるため、出入口からは汚染された空気を出さず、排風機、除塵装置を介して排気口から出るよう計画し、ジェットファン付き集中排気縦流換気方式としている。また換気等の排気口から排出される空気中の煤塵を除去する除塵装置を設けた。

換気制御は、各種計測データー等をもとに汚染（煤煙）発生量と交通換気力の予測を行い、予見ファジー制御により最良の換気運転を行うことができる。

排風機	形式／台数　電動機内装直結型／動翼固定４台、可変４台 口径　3,150㎜ 風量　咲洲側　124㎥／s、港区側142㎥／s 電動機　咲洲側440V・125kW、港区側440V・195kW
除塵装置	形式／台数　自動再生式／８台 除塵効率　70%
ジェットファン	形式／台数　JF−1250／８台 口径　1,250㎜ 吹出風速　31.5m／sec 吹出方向　両方向 電動機　440V・40kW
その他の装置	消音装置、ダンパ、各種計測装置

■防災設備

本トンネルは海底トンネルであり、都市部の重要な交通ルートであることから、車両災害を最小限に抑えるため、国内最高基準（トンネル等級Ａ.Ａ級）の各種防災設備としている緊急通報用の非常電話設備は、非常用と一般業務用の機能を併せもった交換機を使用し、非常電話機からの通話を他の場所へ転送できるものとした。



咲洲側換気塔

通報警報機器	非常電話器（56台）、押ボタン通報器（70台）、火災検知器（142台）
消火設備	水噴霧装置、泡消火栓、消火ポンプ、給水栓（消防隊専用）
避難通路設備	非常口扉、避難通路換気送風機
放送、通信設備	ラジオ再放送設備、トンネル内放送設備、警察・消防無線設備
排水設備	換気塔排水設備、中間排水設備

快適な運用、安全を守るために

トンネル内道路を監視するため、換気塔に中央監視室を設置し、トンネル内部に設置している各種計測機器監視用カメラから監視室内の各種操作盤、大型ディスプレイ、モニターテレビに連動させ、緊急時遠隔操作により迅速な対応が図れるよう万全な安全対策システムとなっている。

また、オペレーターの業務は社会的責任も大きく、24時間体制で監視業務を行うため、「集中」と「弛緩」の視点から心理的負担の軽減を考慮し、監視室全体（機器等も含む）のデザインを決定した。



中央監視室

（よしざわ　えつお）

「アルヴァ・アアルト生誕100年記念国際コンペ」

柏木浩一
㈱竹中工務店

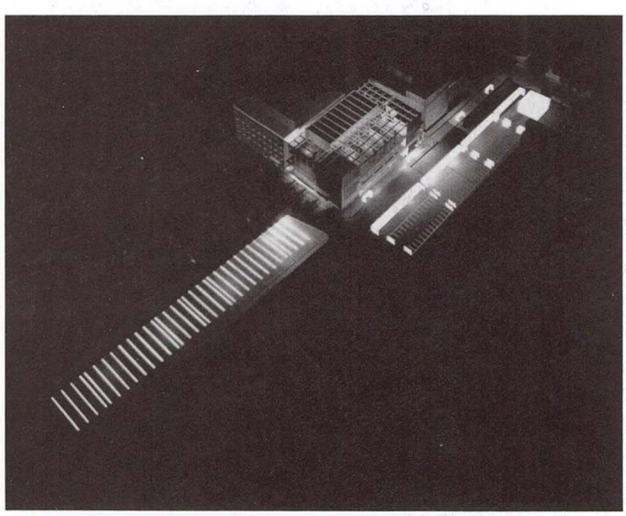
すべてが闇に凍りつく……。厳しい自然のなかでの、はにかんだような優しさと控えめな晴れがましさに包まれた、それはそれは長い2年にわたる「儀式」であった。

この国際コンペは、アアルト生誕100年を記念して、中央フィンランドのユヴァスキュラ市に音楽・アートセンターを設計するものである。ユヴァスキュラは、アアルトが5歳から建築家として成功するまでを過ごした「故郷」とよぶにふさわしい街だ。その中心部、市庁舎前の公園広場に面した角地に、アアルト設計の「市立劇場」と向き合って敷地がある。昨年3月に入手した応募要項には、隣接するアアルト31歳の作品「自衛団会館」を改修しながら取り込み、延べ約4千坪の複合施設を増設する、という実に難解なプログラムが提示されていた。「実施」を前提とすること、1等賞金25万FIM（邦額約675万円）という高額の賞金、それにゲスト審査員としてピーター・ズントー氏が招聘されているという、久しぶりの大型公開コンペということで人気が高く、9月15日の締め切り時点で世界中から359点の応募があった。私に内定通知のあったのが12月3日。とにかく年末の表彰式に賞金を取りに来いというので、早々に旅支度を調えて飛びだした。一面の雪化粧にクリスマスのイルミネーションで紅さしたヘルシンキでトランジット。いよいよ厳寒の真っ只中へ、進路を北に向け車中の人となる。この季節の日照はわずか4時間。昼の旅といってもなお薄暗い。200キロのひたすら青白い世界。うっかり寝過ごすとそこはもう北極圏。

表彰式の始まりは、1997年12月31日午後7時。私たちのチームから出向いたのは共同設計者の森田昌宏、鈴木貴紀と私の3名（本城邦彦は所用で欠席）。ウエルカムパーティー会場の旧市庁舎に、入選者とおぼしい黒い影が、ほのかな雪明かりをたよりに足元を確かめながら、よたりよたりと集まってくる。闇に凍った空気を吸ったせいか胸の鼓動がいやに響く。お互いに軽い会釈。この時点ではお互いに誰が勝者か分からない。パーティーの開始。ぎこちなかった凍った会話も、主催者たちの手慣れたとはいえないが素朴で心のこもったもてなしと、酸味のきいたワインのおかげで徐々に溶けてくる。笑いがおきる。お国話に花が咲く。「本当にぼくは誰が1等か知らないよ！」とズントー氏がウインクしながら会場を逃げ回る。宴もたけなわ……。盛り上がりに水をさすように、凛とした一声。「バスがきました」とコンペ事務局のイリア女史。どこへ連れて行こうというのか？有無を言わさない。不安のなかに外へ出る。猛り狂った野獣のように、バスがエンジンの白い熱気で私たちをせき立てる。へべれけに酔っ払って、バスまでの短い雪道さえ轍に足をとられ尻込みしだす人がでる。

午後10時。バスで数分の次の会場、アルヴァ・アアルト美術館へ到着。1966年創立。フィンランドの英雄アアルトのすべてがわかる総本山といったところで、アアルト自らの設計だ。明かりのなかに、控えめに着飾った地元政財界の名士たちが、どこに潜んでいたかと訝るほど大勢で待ち受けている。ここでもまた歓迎のレセプション。アルコールと、はにかんだような会話。再度の歓迎にほっとしたのか、優しい瞳に酔ったのか、もう「結果」はどうでもよいのではという気に、少しなってくる……。「バスがきました」と、また例の口調！

1998年1月1日午前0時。着いたのは市庁舎前の公園広場。庁舎2階のバルコニーから市長の新年スピーチが始まるので聞けというのだ。もちろん零下10度はとっくに下っていると思われる「屋外」である。控えめなニューイヤーの花火。フィンランド語の儀式ばったスピーチ。合唱隊が聞いたことのない歌を何曲か歌いだす。申し訳ないとおもいながらも、面白くも何ともない。ただただ、冷たい。無風のなかでも寒さを感じる、地の底に引きずり込まれるような異様な冷たさ。まるで冷凍庫のなかだ。合唱隊の何人かも足踏みしな




本城邦彦


柏木浩一


森田昌宏


鈴木貴紀

◀「ガラス&ウッド」本城邦彦／柏木浩一／森田昌宏／鈴木貴紀共同設計案

ユヴァスキュラ市には、アアルトが設計した建物が数多く存在しており、
それらは世界的に有名である。
したがってわれわれは、ユヴァスキュラ市が今回のコンペを通じて手に入れるべきものは、
世界中に誇るべき、高いデザインの質を持った新しい建築であると考えた。

われわれのデザインイメージは、一言でいうならば、都市の中にはめ込まれた、
ガラスの中の木製の「聖櫃」といえる。
この建築は、フィンランドのガラスと木を用いて完成させねばならない。

ガラスの壁と屋根からなる建物のヴォリュームは、アアルトが設計した、
隣接する自衛団会館に、壁面とその高さをそろえる。
それは、1837年来続いている格子状の都市計画を修景する目的を持っている。
と同時に、ガラスの壁と屋根自体は、
全く新しい概念からなる構造体となっていて、しかもアクティブな保温層として
機能するようにもデザインしているのである。

一方、内側に透けて見える、格子状の木製の箱型は、
奇しくも一つの建物内に相乗りすることになった、音楽とアートの運命的な出合いを、
まるでノアの箱船に選ばれて乗船した動物たちのように、象徴的に暗示している。

われわれはまた、建物前面の教会のある公園の一角に、ガラス広場を提案する。
この広場では、特に夏の季節に、屋外コンサートや屋外展示が催され、
ミュージックアンドアーツセンターの一部として機能することを期待している。

冬期には、「聖櫃もしくは箱船」から、ガラスの壁と屋根を通してこぼれ出す
やわらかな光と、ガラス広場に埋め込まれた、ガラス下からの光とが、一日中暗いこの街を、
まるで巨大なランタンと光のランドスケープとなって照らすことだろう。（森田昌宏）

阪神・淡路大震災の３年目報道を見て

あなたのお家は大丈夫

稲毛政信
被災した一建築技術者

本年１月17日、西宮市において震災慰霊碑の除幕式があり、私も身内をなくした被災者として出席した。西宮市では1000余名の方々がなくなられ、本当に多くの遺族の方々が広場をうめつくし、改めて何ということを私たちはやっていたのかと、反省させられた。こんなに多くの方々が、なぜなくなったのか……。

阪神間には大地震は来ないとか、自分の家は大地震でも大丈夫といった甘い考え。我が家の隣の築後10年くらいの家は、瓦が少しずれた程度でほとんど無傷。私の家と何という違いであろうか。今回の地震で私たちが学んだことは、大地震はいろんな所で起こるということと、地震の被害のほとんどない建物がある反面、人を殺す危険な建物が放置されていること。特に、この危険な建物を改善する努力が、関東大震災後も、福井地震後もなされてこなかったことを思う。

地震後３年目の新聞、テレビ、雑誌等の報道を見て、私は残念に思う。家具の転倒だとか、地震後のことは多く語られたが、自らの住まいや、職場の建物の安全性についての議論がほとんど見られない。耐震改修実績を見ても、例えば個人住宅ではほんの数えるほどとは、何ともいいかげんだなあと思う。余り言いすぎるとパニックになるとでも思っているのか。対策がなければパニックになるが、現代は技術的にも経済的にも、やる気さえあれば改善できる時代だ。

阪神間では、多くの大学生が古い木造住宅の下宿先でなくなっている。親御さんの嘆きは、いかばかりであろうか。大地震が来るかも知れないという関東の方はどうだろうか。困った困ったという声を聞かない。無知ほど恐ろしいものはない。一般の人は、そんなに簡単に安全性を増せるとは思っていないかも知れない。人がなくなってみれば、個人住宅で２～３百万円の改修費は大したことではない。

そこで提案であるが、建築に携わり危険のわかるまずわれわれ自身から、自分の家はどうか、親戚の家はどうか、子供たちの下宿先はどうかを点検し、改善に取り組もうではないか。壁量はどうか、老朽度はどうかであるが、潰れた我が家では、１階は本当に壁が少なかったから、今から思うと潰れるべくして潰れたと言える。最近は、補助制度を設けている自治体もあるし、耐震改修の講習会もやっている。まだまだ実績が少ないので、どうやって使い勝手が悪くならずに安く改修できるかなど技術開発が必要であるが、とにかく少しずつでも安全な建物に改修していこう。

21世紀へ向けて、私たち建築に携わる者が、まず地震でも潰れない安全な建物にしていく努力をしよう。私は、いま日本の建築界は、戦後の量的不足により我武者羅に建設してきた時代から、百年建築を目指す時代に来ていると思う。良いものを長く使い、生活にゆとりを生み出す時代にしたいと思う。そういう意味で、ストックをどこまで有効活用できるか、細やかな技術が求められている。

こう考えてみると、耐震改修をきっかけとしてストックを再活性化することの意義が見えてくるように思う。　（いなげ　まさのぶ）

〈前頁より続く〉

がら闇に揺れている。最後とおぼしい曲で、突然、公園の木々に姿を溶かした彼方此方の黒い塊が、大地も揺るがさんばかりに大声で歌いだす。大勢の市民がいたのだ。あっけにとられた私たちに、「国歌よ！」とイリア女史。声が潤んでいる。シベリウスやカレラに始まる民族運動でロシアから独立を勝ち取った人々の見せる、厳しい一面だ。

午前１時。隣の市立劇場に移動。心底冷え切った身体には、玄関からホワイエに上がる白木のインテリアが妙にいとおしい。またまた歓迎のレセプション。ようやく午前２時、表彰式が始まる。開会の辞を皮切りに、ズントー氏が審査にあたって都市とこのコンペ敷地の関係をどうとらまえるべきか、何がこの街に大切なのかを30分も熱演する。時には拍手も交えて市民が真剣に聞いている。うらやましい。日本では見かけない光景だ。次に、都市計画局長とおぼしき人物から、もちろんフィンランドでは建築家がこの職をつとめるのだが、審査が３段階で行われ最終選考に43点残り、詳細な検討を加えた上で12点を入選とした旨、報告があった。また、O・H・Pを使って12点の講評が、英語を使って熱っぽくまた注意深く市民に語りかけられる。あとで表彰状とともに受領した100ページを超えるコンペ審査報告書にも43点に対する綿密な講評が記されており、評価に値するところ、問題点の指摘もかなり当を得たものであった。私たちの提案には、「ガラスボックスとして最も興味深い案。ただしハイテクノロジーなガラススキンに審査団として多少不安がある」との微妙な指摘。期待と不安が交錯。30分は経過しただろうか。ようやく終わったなと思ったら、今度は講評者が変わって、フィンランド語で同じことが丁寧に行われだす。英語のわからないお年寄りにも平等に賛同を得たいということであろう。英語で先にやったのは、私たち、海外の入選者への優しい心遣いであろう。でも、緊張の糸もこれまで。今の私に、彼らの言葉は子守り歌以外の何ものでもない。……どれほど眠ってしまったのだろう。場内のざわめきにぼんやり目覚めると、もう何人かが舞台に駆け上がっている。表彰が始まったのだ。「佳作」の連中だ。６チームが喜々として賞状を受け取っている。重々しく、「次は……」、とアナウンス。「入賞」の部だ。再び私のなかに緊張が走る。ひょっとしたときに、どんなポーズで飛びだそうか。一瞬、馬鹿な妄想が脳裏を横切る。

考え過ぎであった。私たちは、他の２点とともに４等にあたる「買い上げ賞」。賞金５万 FIM（邦額約135万円）と、今後の実施設計者選考の対象となる資格がある、というものであった（事実、この国では下位の入賞者が実施設計者になった事例がいくらでもある）。１等を勝ち取ったのは ETH（スイス連邦工科大学）卒業の建築家、ジタ・コッティーとマルチナ・ハウザー。何と32歳の美女２人組だ。提案は ETH 仕込みのミニマルな正統派。少し面白みに欠けると思うのは、負けたもののひがみだろうか。蓋を開けてみると入選12点は、私たちと米国の佳作を除いて、すべて中・北部ヨーロッパ勢が占め、フィンランドの国情に疎い日本・北米などのコンペ常勝国の建築家を寄せつけない結果であった。

午前３時30分。ようやく２年にわたる長い長い「儀式」が終わった。ゆるやかな階段を一歩一歩よろめきながら下りる後ろから、午前６時まで続くはずの気だるいダンスミュージックがさざ波のように追ってくる。重い扉を開けると、闇のなかからすべてを飲み込む、例の凍った空気。……終わったのかな!?　（かしわぎ　こういち）

広島の近代文化遺産

忘れられたアレ!! 砲台－2－

橋本秀夫
㈱日本建築協会中国支部副支部長

広島湾要塞分布図

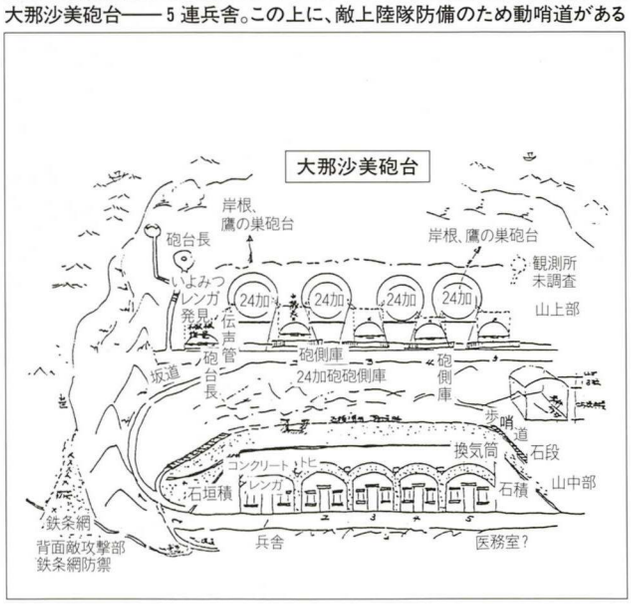


大那沙美砲台（標高68ｍ　兵員97人）

大奈佐美島は、宮島鷹の巣砲台と佐伯郡大柿町岸根砲台との中間に位置する島で、宮島海峡と奈佐美の瀬戸の急潮に守られ、東西両砲台と呼応して十字砲火を浴びせる主要攻防布陣をもっている。



大那沙美砲台――５連兵舎。この上に、敵上陸隊防備のため動哨道がある



「砲台宿営給水不完全なり」（風呂、洗濯場等　上田少佐）
「鉄条網布設（漁藻の干場をそこなわぬよう漁民生計の現況を考慮せよ）」報告書より
24加4門、火薬支庫、弾廠、兵器修理所、糧食支庫、兵舎5×10×6棟、観測所、探照灯
小舟5　機関船1　軽便鉄道：海岸～砲台1100m、旋回部２ヵ所
砲台工事係官／小島支部長、石山三造少佐、中島一三、田中新之助主任
伊予三津煉瓦記名発見

岸根砲台（標高27.8ｍ　16.0ｍ）

岸根砲台は今、がんねムーンビーチに変身し、市民リゾート地として若人の声がプールやテニスコートに弾んでいる。

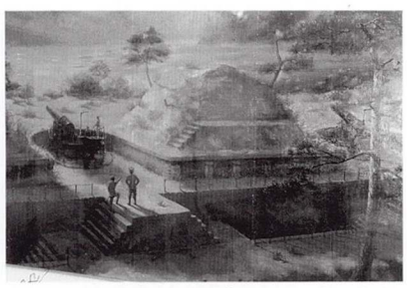
工事中の砲側庫石階段は、石壁とともに噛み合わせになっている。艦砲射撃による爆風くらいの圧力では絶対に崩れることのない秘術をもつ組積法である。

中砲台
斯加27加４門、
砲側庫とも、
兵舎10×５ｍ２棟、
弾廠
低砲台
斯加９速加４門、
兵舎10×５ｍ２棟、
保式機関砲４門
探照灯、豪頭鼻、シ式90㎝、発電機関舎、石炭庫
●木造
監守衛舎、砲具庫、弾廠、装薬調整所、炸薬填実所、厠
●ＲＣ、煉瓦造
観測所、同付属室、貯水所
●その他
石造船着突堤、軍用道路、鉄条網





岸根砲台――斯加27加、観測所



岸根砲台記念館の砲側庫に展示された絵画

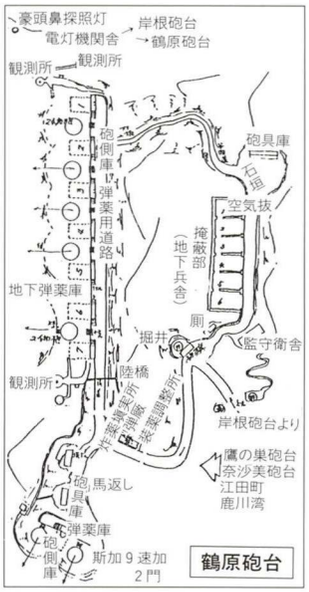
大那沙美砲台と協力し、岸根砲台は奈佐美瀬戸を守備していたのである。

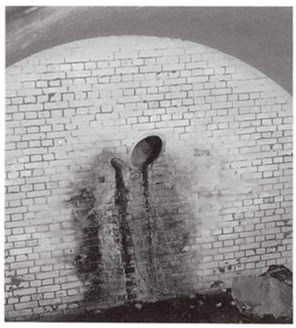
鶴原砲台（標高104ｍ　98.6ｍ）

岸根砲台の裏山に一時、米軍航空塔（炸薬填実所、弾廠、装薬調整所跡地）があり、登山禁止のため管理人の案内で調査を進めた。

夏草や強兵どもの夢のあと。雑草權木をかき分け進むほどに、砲側庫の大行列が現れた。

２号砲側庫から右に折れ谷間を行くと、６連続の地下兵舎がある。入口壁面はすべて破壊されている。





砲側庫。内部には伝声管、通信管が！

中砲台
斯加24加６門、砲側庫６、通信室１
低砲台
斯加９速加２門、砲側庫、地区砲兵司令所、保式機関砲２門
監守衛舎、観測所、炸薬填実所、弾薬、装薬調整所、砲具庫、地下兵舎５×10ｍ６室、弾薬本庫、兵器修理所、糧食支庫、井戸、厠
砲台工事係官／小島支部長、石山三造少佐

三高山砲台（標高385ｍ　兵員196人）

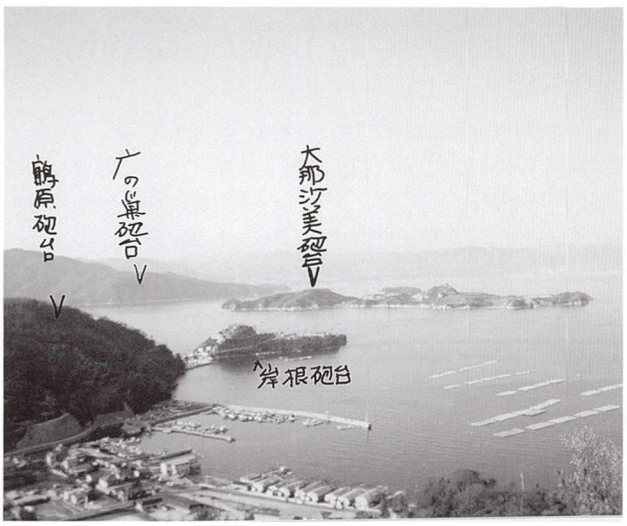
岸根、鶴原砲台を股間に置く三高山堡塁は、宮島鷹の巣砲台と提携し、共に克式28榴弾砲を据え、厳島海峡を完全防備した。

約10ｔの砲身を山中運搬するには50人くらいの兵士が必要で、作業は昼夜兼行。馬橇で引き、神楽桟で引く。馬廻しでの大回転は落下に気を使っただろう。重量滑車での組み立てや試射までの工程には、精密さと決断を窺うことができる。弾丸も200発／１門を用意す





北部砲台
克28榴６門、武式測遠器と計測室、砲側庫、観測所
南部砲台
斯加９速加２門、９臼２門、保式機関砲６門
弾丸本庫、兵器修理所、糧食支庫、砲具庫、炸薬填実所、弾薬、装薬調整所、兵舎、監守衛舎、炊事場、井戸
軽便鉄道：三高山火薬庫～岸根砲台1630ｍ、旋回部４ヵ所
小舟12、機関船２
砲台工事係官／石山三造少佐
（28榴弾薬、堅鉄弾＝200発＋追加250発、旧式野砲(榴弾50発、榴散弾350発)＋200発）



三高山より大奈佐美島を展望



三高山北部砲台――石造兵舎、地下兵舎２棟、地下貯水槽



三高山南部砲台――地下兵舎と貯水槽。背面に砲座

るが、補給を要する。砲身は消耗品なので取り替えねばならない。

対露風聞もあやしいとき、築城建設資材も地元村民の双肩に頼り、けもの道を登って運搬した。明治要塞は、産業界の最高技術を知ることのできる遺産である。

山険しく道遠く、馬廻し12ヵ所、馬休め２ヵ所。今は鶯が鳴き、山鳩が舞い降りる自然が豊かで美しい山波である。

（はしもと　ひでお）

話題建築を聞く（第26回）

近景、中景、遠景が織りなすハービスOSAKA

小笹光彦
事業委員会委員／㈱ランテック計画事務所取締役

JR大阪駅の東側は梅田を中心として、にぎわいのある街である。これに対して西側は、立地条件に恵まれているにもかかわらず、なんとなく影の薄い場であった。

この西梅田界隈が近年「オオサカ・ガーデン・シティ」として生まれ変わりつつあり、その中核施設の一つが「ハービスOSAKA」である。この建物はホテル、オフィス、商業施設等を重層させたスーパー・コンプレックスである。40階建ての高層タワーを中心とした、スカイラインの美しい建物であり、てっぺんに開閉式のヘリポートがあることで有名でもある。

昨年2月に商業施設等がオープンし、5月にはリッツ・カールトン・オオサカが竣工し、グランドオープンした。

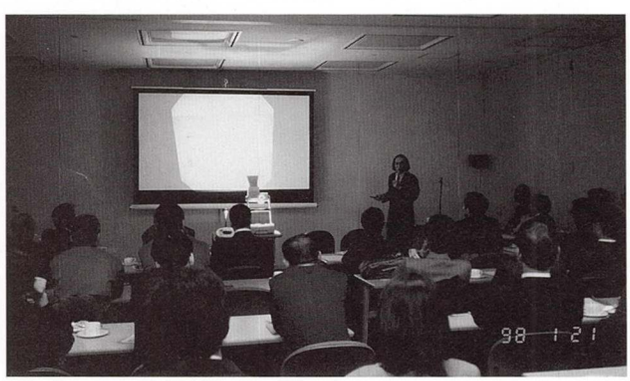
竣工からまもなく1年になるが、このたび「話題建築を聞く」として、「ハービスOSAKA」をとりあげることにした。講師には設計に当たられた竹中工務店大阪本店の苫名正設計部長をお招きし、7年間もの長きにわたり、サイトに張り付いたチームリーダーとしての考え方をお聞きすることとした。

紳士淑女の空間を見る

夕刻5時半から、約1時間の予定で建物内部を見学させてもらった。ひととおり見学するためには、2時間から2時間半は要するとのことであったが、今回は1時間で回った。隅から隅までというわけにはいかなかったが、要所要所を的確に見せていただき、現場では懇切な説明があり、短時間のわりには、充実した見学ができた。

ザ・リッツ・カールトンは世界で34番目。日本では初めてのもので、昨年5月にオープンした。このホテルは、超高級ホテルチェーンとしてすでに有名であるが、創始者セザール・リッツは1850年、スイスのネーデルワルドに羊飼いの息子として誕生。世界中の旅人を魅惑するホテルの建設を夢みて1898年、パリのヴァンドーム広場に「ザ・ホテル・リッツ」をオープンしたのがその始まりである。

その内部は、ホテルとしては特異な空間構成をなしている。空間構成のコンセプトは快適な居住空間の提供であり、イギリスの田園の金持ちのおじさんの家をイメージしているとのこと。すべてが住宅スケールでしつらえられているため、圧迫感や違和感がなく、アットホームな雰囲気がただよっている。そのくせ、高級感があふれている。一般的にホテルの内部空間は、ともすれば巨大なアトリウム、ロビー、ホールが存在し、整然とし、見通しのきく軸や中心を持つものが多いが、このホテルは全く逆である。したがってエレベーターやエスカレーターなど普通の住宅にないものは、すべてホワイエに面しておらず、独立した空間に品よく落ち着いて配置されている。付け柱や垂れ壁で適度に仕切られ、迷路のような空間で連なり、高級調度品がさりげなく急所に置かれている。細かいところでは、点検口や空調の吐け口など目障りなものは隠すように工夫されている。天井は折紙を思わすイメージで、壁のクロスはフトン貼り。



この落ち着きと高級感は、内部のインテリアばかりでなく、ここで立ち働くホテルマンにもあるという。「紳士淑女をおもてなしする私たちも紳士淑女である」をモットーとして、誇りを持ってサービスに努めている。文字通り、ハード、ソフト両面でこのホテルの高級感を支えているとのことである。「お客様は神様で、私たちは忠実な下僕である」という発想とは逆のスタンスである。

ちなみに、「ハービス」という名称は、事業主、阪神電鉄のマークHRと古代語ウルビスを足したものであるとか。HRからHERを連想し、女性の美しさ、やさしさのイメージを前面に出しているとのこと。ウルビスとは「都市、村」を意味し、直訳すれば「阪急村」に対しての「阪神村」であるのかもしれない。そう言えば、ハービスOSAKAのロゴマークはアポロのような女性の横顔であったような。要するに21世紀に向けての「人間交流都市」をもくろんだ企画であることがよみとれる。

コンセプトとイメージの構築過程を聞く

7時頃から約1時間あまり、密度の濃い、楽しい話を面白おかしく聞かさせてもらった。苫名氏が言うには、きれいごとはすでに雑誌等で紹介されているので、ここでは、苦労話、裏話などをザックバランに披露したいとのことであった。

まず最初に、ハービスOSAKAにリッツ・カールトンホテルを誘致したときの裏話。リッツ・カールトンの本社はアメリカ、ジョージア州、アトランタにあり、設計チームは準備万端を整えて、プレゼンテーションに乗り込んだとのことである。このとき、冒頭に「竹中工務店とは何者であるか」という質問があったらしい。「約500年昔、かの有名な織田信長の普請奉行を務めていた竹中某の末裔である」との答えでOKとなった。アメリカ人は歴史や伝統に弱い側面があると感じたとのことであった。そして、プレゼンのテクニックとして、パースの背景の空の表現には、墨絵風の手法を使い、ぼかしを入れて日本画っぽく仕上げたとのことである。

■プロジェクトのキーワード

零（こぼれ）話はさておき、本プロジェクトのキーワードは「グローバル・スタンダード」と「ソフト・ディベロップメント」であるという。

「グローバル・スタンダード」とは世界のだれからも評価される基準ないし品質を指し、車ではベンツ、ライターではジッポーなどを言う。2mの身長を有する阪神タイガースの外人選手も足を出さずに寝られるベッドを備えることも、これに当てはまるとか。

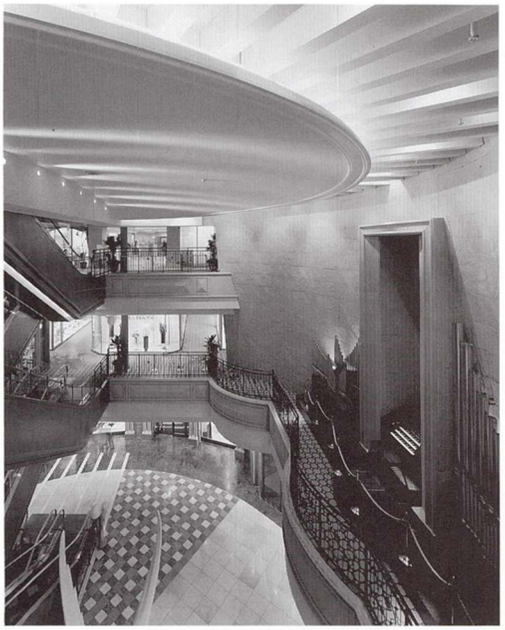
「ソフト・ディベロップメント」とは、端的に言えば人間交流であり、大きく言えば、大阪の国際化をどのように実現させていくかということであろう。関西空港の完成を契機に未来に向けて、国際的な人間交流、情報交流を活発に行い、これを経営の基盤と考える。こんなことに寄与する建物でありたいということであった。

■デザインのキーワード

デザインのキーワードは「マトリックス・ディベロップメント」と「ピクチャレスク」であるという。



西側より全景



オルガン広場見おろし



北東側より中景



オフィス・ロビー

まず前者は造形の骨格的な考え方のようであり、建物を箱にはしたくないということから始まっている。おおまかに、高層にはホテル、中層にオフィス、低層・地下に商業施設をほぼ⅓ずつに配した。これを立体格子として考え、機能性、動線計画等の検討をしたという。さらに、14万㎡にも及ぶ大床面積をどう融合させ、いかに分離させるか、を同時に平行させて考えていったという。

そして、この骨格を肉づけ、衣装を着せていく作業を「ピクチャレスク」として考えたという。事業主の開発コンセプトが「様々なシーンの響きあう街」ということもあり、近年、大阪が失いつつある「原風景」ともいうべき景の復活を意図したという。

江戸末期に浪華の浮世絵師たちが作り出した「なにわ百景」に、ヒントを得た。この現物は現在、大阪城の大阪市立博物館に収蔵されているが、八百八橋や火の見櫓などがテーマとなり、往時の生活風景を偲ぶことができるという。

大阪の新しい景を創出するに当たっては、このことを参考に「西梅田四十八景」を構想した。その手法として、景を「遠景」「中景」「近景」の3つに分けて秩序づけ、どの空間を切り取っても、一枚の絵となることを意図したという。

遠景とは、その都市のシンボルともいうべきもので、パリならエッフェル塔、ニューヨークなら摩天楼であり、自由の女神。では大阪はというとちょっと淋しい。強いて言えば大阪城であろう。本計画では高層塔等がこれに該当する。

中景をつくり出すためには、イギリスの都市計画のキーワードを参考にしたという。すなわちサーカス、クレセント、スクウェアー、ストリート。これらの要素を組み合わせて、空間の構成をイメージしていった。例えば前面の歩道を、ドイツのロマンチック街道ではないが、ロマンチックストリートと位置づけたりした。

近景は遠景と中景を背景として、構成された枠組みのなかで、ヒューマンスケールという視点で捉え、空間に秩序と変化をつけていったという。

このようにして、遠景6、中景14、近景28の合計48景をピックアップし、これらによりピクチャレスクを具現化していったという。

ピクチャレスクとは、18世紀頃にイギリスで確立された設計手法で、本来的には、芸術、絵画の世界の美的な感覚または様式を指すものであったそうな。これを建築様式にとり入れたのが、ジョン・ナッシュであり、ウィリアム・モリスであり、フランク・ロイド・ライトにも受け継がれているという。

非線形、非シンメトリー、多様なテクスチャーをベースにして、落ち着きのある雰囲気を演出し、歩くほどに風景が変わる空間をつくり出すことに苦心したという。

見て、聞いて、感じたこと

京都駅ビルとハービスOSAKAを比較すると面白い。両方とも巨大な建物であるが、その空間構成の在り方は正反対のようである。

京都駅ビルは、内部空間を谷地形とみなし、広く見渡せる工夫をし、あくまで劇的に、印象的に空間を構成している。そして、様々な回遊が可能なようにし、動線が明快である。

これに対してハービスOSAKAは、あくまでプライベート的であり、ヒューマンスケール的であり、落ち着いた、親しみのある空間である。そして、動線は迷路のようであり、あまり見通しがきかないように工夫されている。

ドイツ語ではないが、ひょっとしたら空間の属性にも、男性的、女性的という性別があるのかもしれないということをフト思った。

空間の構成、空間のイメージ、空間の認識というものは実に面白いものである。

（おざさ　みつひこ）

日　時　1998年1月21日(水)　見学17：30~18：30／講演18：30~20：30
会　場　現地、6階会議室
参加者　57人

設計図書の理解—4—

出崎 進
出崎建築設備設計事務所

今回は、冷媒配管とドレン配管のサイズ選定について取り上げましょう。ビル用マルチエアコン方式における冷媒配管システム構成例を、図1に示します。

冷媒配管の分岐方式について大略しますと、次の3方法があります。

(1) 分岐管による方法
(2) 分岐ヘッダによる方法
(3) 分岐ヘッダ・分岐複合による方法

分岐管、分岐ヘッダ、分岐ヘッダ・分岐複合等の選定方法はメーカーによってそれぞれ分岐の組み合わせ、使用方法に制限があり、異なりますので、注意が必要です。

次に、使用例を図2、図3、図4に示します。

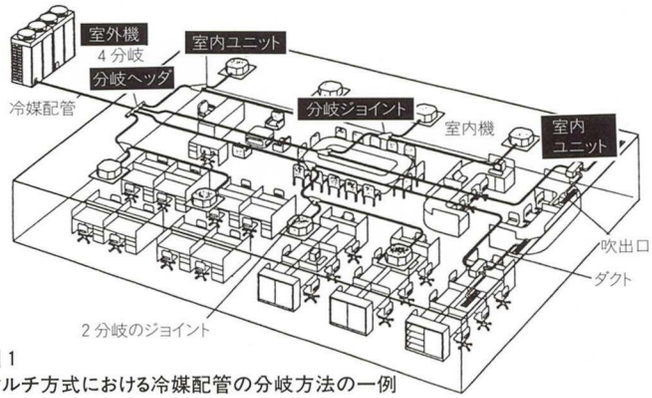


図1
マルチ方式における冷媒配管の分岐方法の一例

ドレンとは

夏期において冷房運転時に、高温多湿の空気が熱交換器（冷媒コイル）で急冷却されるときに結露を起こし、空気中の水分が水滴として分離され、熱交換器の下部に設けてあるドレンパンよりドレン管を介して室外に排出される水滴がドレンです。

ドレン量は、室内潜熱負荷と外気潜熱負荷を凝縮潜熱（590kcal/kg）で除して求めます。なお配管サイズの選定には、これに約5割の余裕を見込み、ドレン配管勾配を1/100で、表1に示す排水横引き管の流量表を用いて配管サイズを選定します。

表1 排水横引き管の流量表

管径〔A〕		25	32	40	50	65	80	100	125	150
流量〔ℓ/min〕	勾配 1/50	4.5	9.6	14	29	60	99	210	387	626
	勾配 1/100	3.2	6.7	10	20	42	69	148	273	442
	勾配 1/200	2.2	4.7	7.4	14	30	49	104	193	312

注）・Kutterの公式による、半流（50%）時の流量を示す。
・太線より上を用いる。
・半流以下のときの流量は、右表により算出する。

管径に対する水深	50%	40%	30%	20%
流量比率	100%	65	36	15

例えば外気負荷ドレン量は、

$q_{OA} = Q_{OA}\ m^3/h \times 1.2kg/m^3 \times \overset{\Delta\chi\ *}{8.6} \times 10^{-3}kg/kg'$

$= 1000m^3/h \times 1.2 \times 8.6 \times 10^{-3} = 10.3kg/h$

＊：$\Delta\chi$ は室内外の絶対湿度差

室内潜熱負荷ドレン量＝2770kcal/h÷590kcal/kg＝4.7kg/h

ドレン量集計＝10.3kg/h＋4.7kg/h＝15.0kg/h

ドレン量15.0kg/h×1.5＝22.5kg/h

ゆえに、勾配1/100として、表1より配管サイズは65Aとなります。

ドレン管サイズの選定と同時に、次のことにも注意してください。

(1) ドレンの排水をよくするため、十分な勾配(一般には1/100以上)をとること。立て管を分散配置して横引き管延長を短くする。塩ビ管を使用する場合は吊り間隔を1 mとする。
(2) ドレン管は専用の排水管とし、他用途の排水管と合流させないようにする。これは、雨水や空調機の排水の逆流を防止するためである。
(3) 配管にゴミづまりをなくすため、曲部を極力避けること。
(4) 天井を張る前に、必ず通水テストを実施すること。

（でさき すすむ）

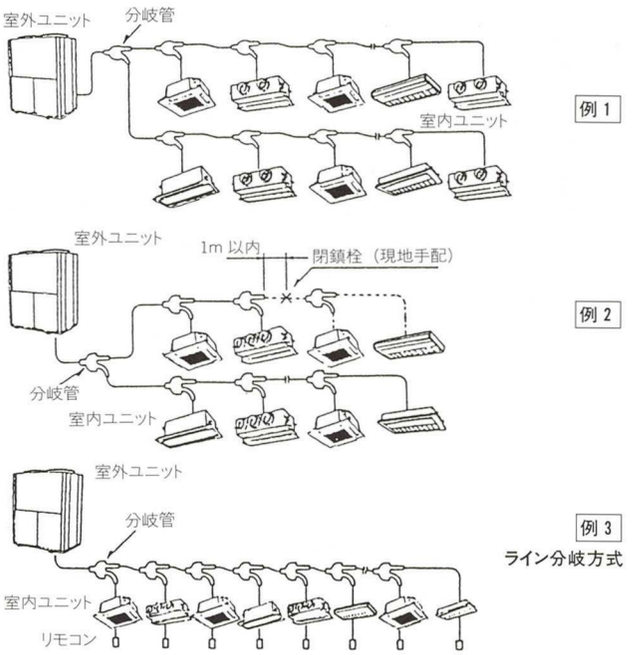
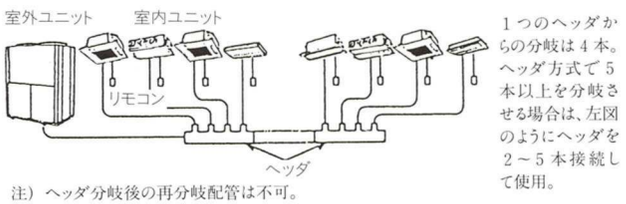


図2 分岐管使用例



注）ヘッダ分岐後の再分岐配管は不可。

1つのヘッダからの分岐は4本。ヘッダ方式で5本以上を分岐させる場合は、左図のようにヘッダを2～5本接続して使用。

図3 ヘッダ使用例

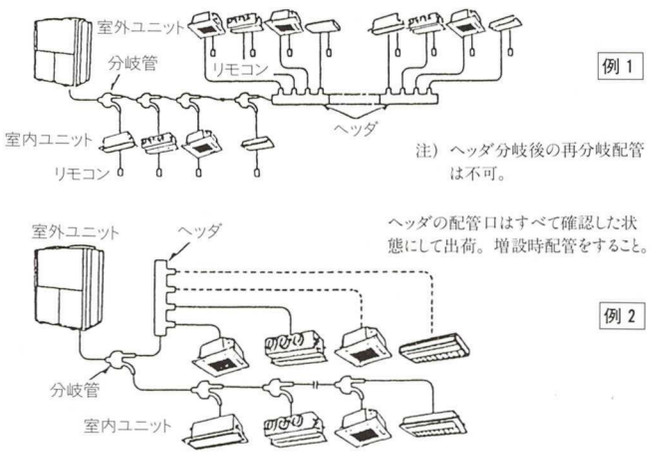


図4 ヘッダ・分岐複合使用例

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

風洞実験用多点風圧計測システム

今回ご紹介するのは、風洞実験用 386ch 多点風圧計測システムである。386 ポイントの風圧を同時に計測できるこのシステムの導入により、

1．高層建物などの高次モードまでの風振動応答解析。
2．ドームや競技場の大スパン屋根の風振動応答解析。
3．外装材風荷重用の風圧測定の時間短縮（測定時間は従来の1/10）。

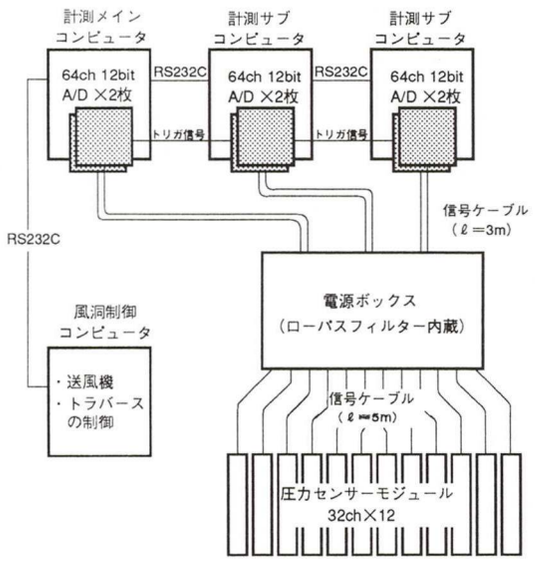
が可能となった。

システム構成の概略を**図―1**に示す。圧力センサーは 32ch をひとつのモジュールとし、12 モジュールを横に並べて、あるいはばらばらにして使用する。1 モジュールの大きさは 3 cm×24cm× 6 cmで、横並びにしたとき（**写真―1**）B4 判程度の平面寸法になる。圧力センサーにはデータインスツルメンツ社製の拡散型半導体センサーを用いた。このセンサーは、容量±100㎜ Aq の差圧型で温度補償回路を信号増幅回路を内蔵した超小型のものである。センサー用の電源ボックスには自作のローパスフィルター回路を組み込んでいる。計測用コンピュータは CPU が P6-200MHz、メインメモリ 96MB、ハードディスク 1.6GB のパソコン 3 台で、その他に風洞の送風機やトラバース装置の制御用に MS-DOS のパソコン 1 台を使用している。これらのパソコン間は RS232C 通信によってデータのやり取りや測定のタイミングを管理している。A/D 変換機は、12bit シングルエンド 64ch のボードで、計測用の 3 台のパソコンに 2 枚ずつ内蔵している。

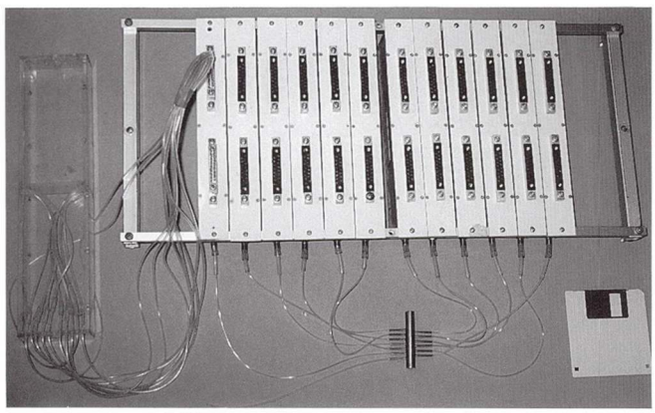
当システムを風洞実験に応用した例を次に紹介する。**図―2**は高層建築物の風圧変動の同時測定結果から 1 次および 2 次モードの風振動応答を求めたものである。従来より一般的に行なわれている、風洞天秤（建物模型の基部に設置するロードセル）を用いた実験では 1 次モードの変形しか求められないが、当システムを用いた多点風圧測定により、2 次以上の高次モードを対象とした振動解析が可能となる。**図―3**は、一様流中における 2 次元円柱表面の風圧分布の変動を示したものであり、カルマン渦と円柱表面の風圧の関係を理解するのに有効なデータである。

以上のように、当システムは単に実用的であるばかりでなく、先駆的な研究にも有用であり、多方面でのより高度な解析の道を開くものである。

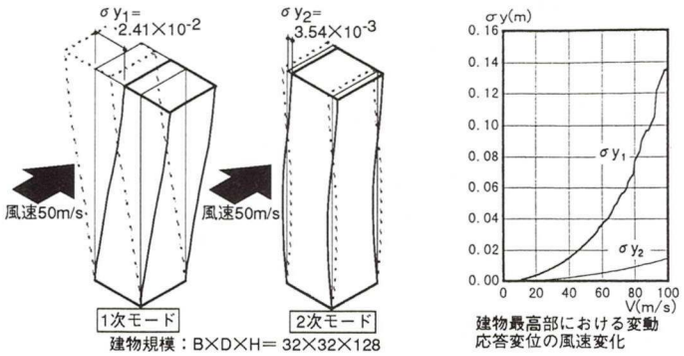
（耐風試験室：高森　浩治）



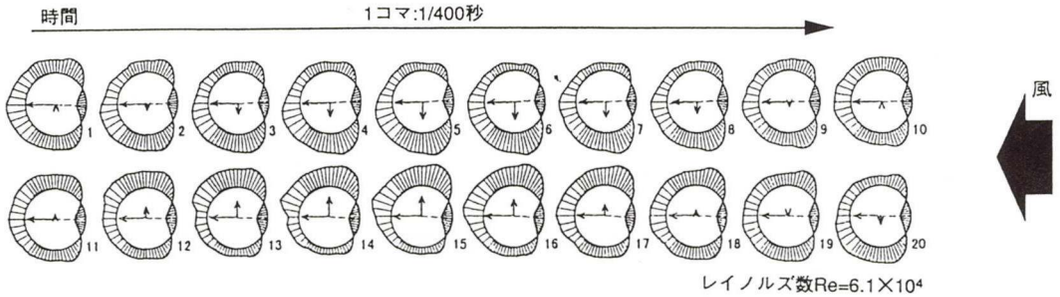
図―1　システム構成



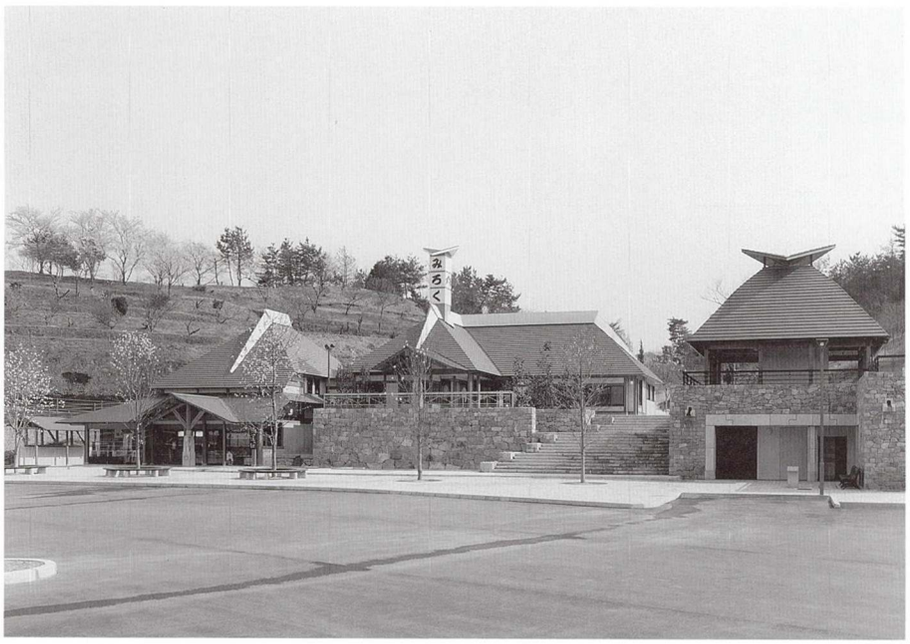
写真―1　圧力センサーモジュール



図―2　高層建物の風直角方向変動応答変位の解析例（単位：m）



図―3　2 次元円柱における風圧分布の時間変化



2634

2634　平成８年度みろく道の駅整備
（物産館・レストラン等建設）工事

設　計：寒川商業建築研究所
施　工：佐藤工業四国支店
a．香川県大川郡大川町富田中
b．　950㎡
c．301.36㎡
d．297.18㎡
e．W、２F
f．平成８年７月～平成９年３月

道の駅みろくは、道路利用者に対し休憩サービスの高度化、多機能化を図ると共に、地域情報の発信基地また、コミュニティーとしての位置づけがなされている。この地域は、大和朝廷時代の官道、南街道「松本の駅」があった所で、北に富田茶臼山古墳を眺め、みろく自然公園を背する、まさに史跡と自然の中心に位置する。本計画では、歴史的構築物に共存できるフォルムを模索することから始め、建物は、かや葺き風大屋根曲家と、飛翔をイメージした越屋根の組み合わせを行うと共に、モニュメント化を図っている。内部は自然石を組み合わせた囲炉裏と、つくばいを中心に木造小屋組吹抜とし、土間的空間を表現。修景は、庵治石の石組みによる基壇と、自然石を生かした水臼、せせらぎ等、自然と共鳴する環境を目指している。



2635

2635　大山レークホテル

設　計：竹中工務店　設計部
施　工：竹中工務店・京阪建設・くるま共同企業体
a．鳥取県西伯郡大山町大字鈑戸
b．9,973.64㎡
c．1,995.15㎡
d．4,964.93㎡
e．RC、4F
f．平成８年５月～平成９年６月

大山を望む湖畔の美しい自然の中に位置するリゾートホテルの建替えである。自然との共生・対話をテーマに、最上階に大浴室を持つパブリック棟、すべての客室を湖畔に向けたルーム棟、アプローチのシンボルとなる鐘楼とにスケールを分節して、自然環境と調和させた構成とした。外観は、山岳リゾートの落ち着きと現代的なホテルの品位を表現するため、アースカラーの彫りの深い壁面と、大屋根を支える軽快な柱とサッシによる架構を組み合わせている。内部は、吹抜を絡ませた非日常的な空間を自然な素材感の仕上げと家具で演出し、温かみのある落ち着いたリゾート空間としている。



2636



2637

2636 浜田社会保険健康センター（ペアーレ浜田）

設　計：三谷設計
施　工：鴻池組山陰支店
a．島根県浜田市浅井町64-14
b．2,970.73㎡
c．1,057.54㎡
d．2,415.50㎡
e．RC、一部SRC、3F
f．平成７年２月～平成７年３月
　平成７年７月～平成７年11月

2637 石州セラミカ協業組合共同（役瓦）工場

設　計：三谷設計
施　工：鹿島建設・青木組共同企業体
a．島根県大田市大森町イ1650-16
b．28.616㎡
c．5.160㎡
d．7.939㎡
e．S、2F
f．平成８年６月～平成８年12月



2638



2639

2638 北陸新幹線金沢駅高架下施設「ふれあい館」「あじわい館」

設　計：五井建築設計研究所
施　工：大鉄・治山共同企業体
a．金沢市木ノ新保地内
b．31,515.50㎡
c．6,094.83㎡
d．6,797.91㎡
e．既存高架下の仕上工事
f．平成８年12月～平成９年３月

2639 貝塚市立北小学校屋内運動場増改築工事

設　計：都市環境設計
施　工：大工安・樽谷・岸田建設工事共同企業体
a．貝塚市北411
b．7,384.025㎡
c．894.25 ㎡
d．1,581.38 ㎡
e．RC、3F、小屋組、S
f．平成８年６月～平成９年３月



2640



2641

2640 ハザマ京都研修センター

設　計：間組大阪支店
施　工：掛谷工務店
a．京都市中京区西ノ京御輿岡3-2
b．797.83㎡
c．491.76㎡
d．1,173.91㎡
e．RC、B1F、3F
f．平成８年７月～平成９年５月

2641 大阪中央冷蔵㈱北港工場新築工事

設　計：東海興業大阪支店
施　工：東海興業大阪支店
a．大阪市此花区北港白津１丁目1-8
b．5,822.89㎡
c．3,034.26㎡
d．13,215.50㎡
e．冷凍倉庫棟・RC、5F、荷捌棟・SRC、6F
f．平成８年６月～平成９年６月

凡例

a．所在地

b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

e．構造規模

f．工期

重要文化財「泉布観」一般公開

泉布観は、明治３年２月着工、翌年２月に落成した大阪市内最古の西洋建築で、当初は造幣寮（現在の造幣局）の応接所として建てられたが、大正６年に大阪市に移管されている。

設計者はウォートルス、建築様式はコロニアル式であり、室内はいずれも英国式の古典的な装飾が施されており、昭和31年に重要文化財に指定されている。

泉布観の一般公開は昭和50年以来毎年春分の日前後に実施されているが、今年の公開は下記のとおり。

期　間　1998年 3 月20日㈮～22日㈰
　　10：00～15：30入館、16：00まで観覧
泉布観　２階建ての洋風建築
　　壁／レンガ造、柱／石造、屋根／日本式木造
　　１階／537.20㎡、４室、廊下、ベランダ
　　２階／540.84㎡、５室、廊下、ベランダ
所在地　大阪市北区天満橋1-1-1（大阪造幣局北側）
　　市バス・桜宮橋、地下鉄・谷町線南森町東約１km、京阪電車・天満橋北東約1.2km、ＪＲ東西線・大阪城北詰北西約0.6km
公　開　・当日直接会場へ。
　　・建物保存上、待ち時間あり。
　　・入館料無料。

問い合わせは、大阪市立博物館（TEL06-941-7177）へ。

ATC 関西学生卒業作品展

ATC デザインセンターを会場に、関西のデザイン系学生の卒業作品を一堂に集め、作品展が開かれる。

10日間の会期中は、学生によるイベントや、著名建築家・デザイナーによるセミナーも予定されている。

日　時　1998年 3 月20日㈮～29日㈰ 10：00～18：00
会　場　南港 ATC ITM 棟12F・デザインセンター内
参加校　大阪大学、大阪工業大学、大阪産業大学、大阪芸術大学、近畿大学、京都大学、京都市立芸術大学、奈良女子大学、神戸芸術工科大学、兵庫科学技術専門学校、ほか
内　容　卒業作品を学生自身が自由にディスプレイし、学校ごとに個性を競う。

問い合わせは、アジア太平洋トレードセンター ITM 事業部（TEL06-615-5506、5510）へ。

"What is this?"道具の謎とき展

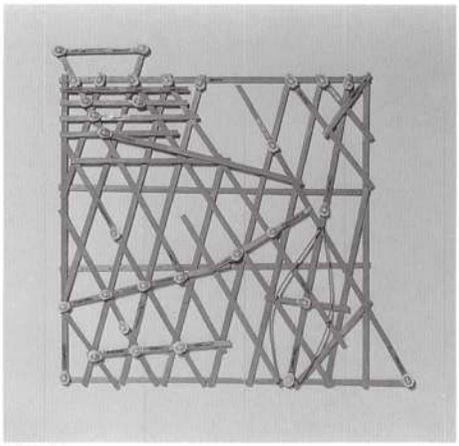
３月からの INAX ギャラリー大阪では、人々の知恵と工夫によって創り出されたアジア、アフリカ、ヨーロッパの暮らしの道具が展示される。入場無料。

今でも使われている一見何に使うのかわからない道具、今は姿を消してしまったけれど「なるほど」と唸ってしまうような工夫が凝らされた道具、心惹かれるフォルムをもつ魅力的な道具…。

会場内約100点の生活用具の"What is this?"展は、道具のもつ魅力を再発見しようという試みである。

この展覧会に併せて、INAX BOOKLET『"What is this?" 道具の謎とき』（84P、本体価格1800円）が会場で販売される。デザイン評論家・柏木博氏、文化人類学者・小林繁樹氏、イラストレーターで『ガラクタ道楽』著者・林丈二氏による座談会「人と道具の関係学」が、このブックレットには収録されている。

期間　1998年 3 月10日㈫～ 5 月23日㈯
　　10：00～18：00　休館日水曜日
会場　INAX 大阪ショールーム２F
　　大阪市西区新町1-7-1　TEL06-539-3518
協力　梅田英喜、栗田文子、広栄社つまようじ資料室、関市経済部商工観光課、千羽他何之、内藤記念くすり博物館、林丈二、野外民族博物館リトルワールド



「海図」マーシャル諸島（ミクロネシア製）
曲がったヒゴはうねりを、子安貝は島の位置を示す。19世紀以降は使用されていない。
所蔵：野外民族博物館リトルワールド

スペースデザインスクール開講へ

大阪ガスインテリアデザインスクールのスペースデザインスクールは、インテリアから建築、都市空間までを"スペースデザイン"という視点で捉え、「ＳＤコース」と「ＳＤゼミ」を組み合わせた講座である。

５月から１年間にわたる毎週水曜日の全50講義と、その説明会が予定されている。

●「スペースデザインスクール」開講予定
期間　1998年 5 月13日㈬～１年間
　　毎週水曜日18：30～20：50　全50講義
講師　人間環境論／東孝光氏、住まいと環境／石井修氏、集合住宅の計画／遠藤剛生氏、インテリアデザイン方法論／沖健次氏、都市計画論／富安秀雄氏ほか活躍中の建築家、デザイナー、学識経験者
会場　大阪ガスインテリアデザインスクール教室
　　大阪市中央区備後町3-6-14 備後町オークビル
定員　20名（定員になり次第締切）
受講料　入学金３万円（税込）、受講料30万円（税込み）
●スクールの説明会（問い合わせ TEL06-262-4089）
日時　1998年３月20日㈮、４月８日㈬、４月20日㈪のいずれも19：00～20：00
会場　大阪ガスインテリアデザインスクール教室

早川邦彦「建築と色彩」を語る

㈳日本塗装工業会創立50周年記念に、「塗装技術研究表会」にプラスして、早川邦彦氏の記念特別講演「建築と色彩」が併催される。定員300名、受講無料。

日時　1998年 3 月19日㈭　10：30～17：00
会場　建築会館ホール　TEL03-3456-2051
　　東京都港区芝5-26-20
■塗装技術研究発表会　11：05～14：30
戸建て、土木、防かび、環境対応など８つのテーマで研究発表。講師に本橋健司氏（建設省建築研究所）ら。
■記念特別講演　15：30～17：00
建築と色彩／早川邦彦氏（早川建築研究室）

問い合わせは㈳日本塗装工業会（TEL03-3770-9901）。

日本サウンドスケープ協会

1993年６月に設立された日本サウンドスケープ協会は、音の意味や音の成立を支える社会や歴史、環境や文化そのものについて考えていくこと、音に関連する情報交流の場をつくることを目的に、活動している。

この３月７日には「サウンドスケープの世界と地平」と題した研究発表会を行い、翌３月８日には、環境庁で認定した「残したい"日本の音風景"100選」にも選ばれた柴又の音風景を求め、参加者一行は早朝から夕暮れまで"寅さんの柴又"を散策している。

「研究会」「サロン」は毎月１回開かれており、公開されている。問い合わせは、日本サウンドスケープ協会関東本部（TEL03-3486-7381）へ。

建築 Next Phase 研究会「インテリアのトレンドを読む作業」

第35回セミナーでは、インテリアのトレンドの読み方、作品への反映のさせ方に焦点を合わせる。

講演者　栗山礼子氏（インテリア・アーキテクト）
　　日本女子大学住居学科卒業後、川添登建築研究室、石井清水建築設計事務所を経て、1983年栗山礼子建築デザイン事務所を設立。
　　ハウステンボスの住宅エリア「ワッセナー」の内装デザイン、高齢者対応住宅、大規模マンション計画などに従事。
日　時　1998年 3 月17日㈫　18：30～20：30
会　場　東京デザインセンター　TEL03-3445-1121
　　東京都品川区東五反田5-25-19
参加費　2000円（学生1500円）
申　込　必要事項を記入して、東京デザインセンター内建築 Next Phase 研究会（FAX03-3445-1125）へ FAX で。

インテリアプランニング賞'98募集

近年、ユーザーのインテリアに対する要求も高度化・多様化し、快適性・機能性・安全性を満たした総合的な質の高いインテリアが求められている。このような状況に鑑み、建築物の優れたインテリアの設計者を表彰することを通じて、インテリアの質の向上に資することを目的に、「インテリアプランニング賞'98」が下記要領で実施される。

対象　①応募者が設計したインテリア作品で、1996年4月～1998年3月までに完成したもの。
②作品は、公共施設、オフィス、商業施設、住宅等で、現に国内にあるものに限る。
③他の賞を受けているもの、雑誌等にすでに発表されているのもでも可。
④インテリアエレメントのみの設計は対象外。

資格　インテリアプランナー個人、インテリアプランナーを含むグループなど

応募　応募図書作成要領に基づいて「作品概要書」と「作品説明図」を作成し、㈶建築技術教育普及センター「インテリアプランニング賞'98」係（〒107-0052 東京都港区赤坂6-11-1 協栄生命赤坂ビル TEL03-3505-1828）へ。図書作成要領の問い合わせも同所へ。

受付　1998年4月8日㈬～5月13日㈬

審査　菊竹清訓氏（建築家）―委員長―、小原二郎氏（千葉工業大学教授）、那珂正氏（建設省大臣官房審議官）、光藤俊夫氏（昭和女子大学教授）、守屋秀夫氏（昭和音楽大学教授）、山田初江氏（建築家）ほか5名。

賞　建設大臣賞1点100万円ほか

発表　1998年9月上旬

トアロード地区のアーバンデザイン公募

神戸都心部にあって、北野・居留地・南京街をつなぐトアロード地区のめざすべきまちなみイメージの、主として都市景観（アーバンデザイン）の面からできるだけ視覚的に分かりやすい提案を公募している。

コンペは、ビジュアル表現を含むアイディアコンペとし、トアロード地区のまちなみ、まちづくりのグランドデザインを求めるものである。応募資格は問わず。

トアロード地区まちづくり協議会主催。後援は神戸市。

公募作品　一人1点に限る。A1サイズのパネル形式で提出。作品は黒白・カラーいずれも可。

提案内容　①約10年後を想定して、トアロード地区全体の地区機能や空間イメージの提案を。
②トアロード地区の南部ゾーン、北部ゾーンにおけるできる限り具体的なアーバンデザインのイメージプランの提案を。
上記①②の両方を含めた提案とすること。
②についてモデルゾーンは1カ所でも、複数箇所でも可。敷地の固有名称を表現することは不可。

応募方法　・作品裏側に、応募者氏名・年齢・職業・連絡先住所・電話番号を明記した紙を貼付。
・出品に要する費用は応募者負担。
・トアロードまちづくりコーポレーション（〒650-0011 神戸市中央区下山手通2-5-4、深澤ビル TEL078-393-1371）へ、3月2日～3月16日に応募作品を持参・郵送・宅配便で提出すること。

審査委員　嶋田勝次氏（関西学院大学教授）、高田昇氏（立命館大学教授）、竹下聖氏（京都大学教授）ほか4名。

賞　最優秀賞1点30万円、優秀賞1点10万円、佳作2点各5万円

「21世紀・京都の未来」国際コンペ優秀作品決まる

京都市主催の国際コンペ「21世紀・京都の未来」は、昨年10月31日に作品提出を締め切り、海外42カ国からの183点を含む554点の応募作品を受け付けた。

審査は専門審査委員会（委員長：上田篤京都精華大学教授）で34点を選定した後、今年1月の総合審査委員会（委員長：梅原猛氏）で優秀賞5点、佳作10点を決定した。

入選作品15点を含む全作品は、今後の京都のまちづくり「21世紀・京都のグランドビジョン」策定に生かすよう、3月2日～8日に京都市勧業館で展示し、さらに平成10年度中に国際コンペ事業の記録集を兼ねた作品集を刊行する予定。

入選作品中、優秀賞受賞作品は以下のとおり。

●パネル作品「東山エッグ」
作者／田中充子氏（京都精華大学助教授）

●パネル作品「SEEDS A Formation For Wisdom」
作者／富田昌義氏（大林組本店建築設計部）＋共同提案者・牧野雅一氏ほか8名

●論文作品「ウルトラモダニズム　都心再生の指標」
作者／Lim Bon氏（立命館大学産業社会学部助教授）

●論文作品「京の夢浮橋」
作者／Günter Nitchke氏（東アジア建築都市研究所所長）

●論文作品「まちづくり提案 for Syncronism」
作者／小森葉子氏（大成建設開発本部）＋共同提案者・吉本真介氏ほか1名

環境・省エネルギー建築賞入賞作品決定

㈶住宅・建築省エネルギー機構の平成9年度第7回「環境・省エネルギー建築賞」は、昨年8月～10月の募集期間に多数の応募があった。

審査（審査委員長：松尾陽明治大学教授）の結果、建設大臣賞3点、財団理事長賞3点、審査委員会奨励賞5点が決定し、2月27日に東京の東海倶楽部で表彰式が行われた。

【建設大臣賞受賞3作品の講評】

事務所ビル部門――

●ドームシティガスビル（大阪市西区）

個別分散型冷媒自然循環システムの採用、夜間躯体蓄熱、平面計画に合わせた高性能ガラスの採用、地域冷暖房の利用、冷却塔ブロー水の再利用、ペーパーレスとゴミのコンポスト化など環境負荷低減に努めている。また、建築計画、建築デザインの中にオフィスビルの環境制御技術を組み込んでいることや、建築と設備の建設コストのバランスを図った建築デザインなどが評価された。

設計／安井建築設計事務所　施工／竹中工務店

商業・サービスビル部門――

●東京ガス港北ＮＴビル（横浜市都筑区）

タスクアンビエントの概念に基づく自然採光や日射遮蔽ガラスの採用、コージェネレーションシステムの利用、BEMSによるエネルギー管理など、省エネルギーに関する多くの手法を採用し、省エネルギーに関するデータ採取が充実している。

建物全体について熱源、照明、材料と省エネルギー、環境対策を重視した建築物であるとともに、省エネ、長寿命、エコマテリアルの三つの環境親和手法としてプロトタイプオフィスを提案した実例であり、今後の環境共生建築の好事例であることが評価された。

設計／日建設計　施工／熊谷組

その他部門――

●東京電力技術開発センター（横浜市鶴見区）

氷蓄熱を使用した低温冷風空調システムや自動制御によるブラインド内蔵ベンチレーション窓、昼光利用照明制御システム、ソーラーパネルを組み込んだ庇、外ブラインド、雨水利用など多くの省エネルギー手法を取り入れており、今後の環境的建築の典型となり得ること、及び平面・断面計画など建築計画の基本においても巧みにデザインされ、すべてによく検討された建築物として高く評価された。

設計／第一工房、蒼設備設計、鹿島建設、射場本忠彦、井上隆

施工／鹿島建設、関電工、東洋熱工業

日本建築協会

月間の動き

【平成9年12月分】

理事会

第5回定例理事会
12日　4時半～5時半・於太閤園
出席者　市川会長ほか27名
議　事　(1)入退会者承認の件
(2)協賛名義使用承認の件
(3)事業報告
(4)その他

第5回会勢理事会
12日　4時～4時半・於太閤園
出席者　岡本、錢高（代塩脇）各副会長ほか8名
オブザーバー／市川会長、三品副会長
議　事　(1)会員入退会状況
(2)会員入会案内パンフレット作成

編集委員会

第6回「素材と技術が生み出すデザイン」幹事会
2日　6時～8時半・於本会会議室
出席者　遠藤幹事ほか9名
議　事　新シリーズ「素材と技術が生み出すデザイン」の検討

第8回会員企画小委員会
2日　7時～8時半・於本会会議室
出席者　東宮委員ほか3名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について

第10回構造分科会
3日　6時～8時・於本会会議室
出席者　楠本委員ほか2名
議　事　(1)2月号「Concrete」特集の経過報告
(2)「構造の頁」の企画
(3)来年10月号構造特集の企画

第9回施工材料分科会
4日　4時～6時・於本会会議室
出席者　十倉幹事ほか4名
議　事　4月号特集企画の検討

第9回作品作風小委員会
9日　6時半～8時半・於本会会議室
出席者　宮地副委員長ほか8名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定
(2)作品の選定
(3)「gallery」「SKETCH BOOK」欄掲載報告

第2回計画―インテリア・住宅系―分科会
10日　7時～9時・於本会会議室
出席者　畑幹事ほか5名
議　事　7月号「インテリア・住宅」特集企画

第9回編集委員会
11日　6時～8時20分・於本会会議室
出席者　小幡副委員長ほか3名
議　事　(1)1月号「新しいまちづくりの予感」「東畑建築事務所」特集経過報告
(2)2月号「Concrete」「九州」特集経過報告
(3)3月号「東海支部会員作品」「信州―諏訪とその周辺」特集経過報告
(4)4月号「最近の外構材料」特集企画検討
(5)新シリーズ頁経過報告
(6)平成10年1月号～12月号表紙改訂
(7)収支状況報告

第7回広告企画小委員会
11日　5時～6時・於本会会議室
出席者　小幡副委員長ほか4名
議　事　(1)1月号「新しいまちづくりの予感」「東畑建築事務所創立65周年記念」「謹賀新年挨拶」広告経過報告
(2)2月号「コンクリート」「九州」特集広告経過報告
(3)3月号「東海支部会員作品」「信州―諏訪とその周辺」特集広告経過報告
(4)4月号「最近の外構材料」特集広告経過報告
(5)独自特集企画経過報告
(6)平成10年度表紙4面広告紹介方協力要請
(7)作品作風関係報告
(8)収支状況報告

第8回法令分科会
16日　2時～6時・於本会会議室
出席者　城戸幹事ほか3名
議　事　(1)6月号法令特集の企画
(2)「法令コーナー」の企画

事業委員会

第8回若い会員の集い小委員会
9日　7時～8時50分・於本会会議室
出席者　阪田幹事ほか5名
議　事　(1)実施報告
(2)今後の予定

教育委員会

第2回工高生教育小委員会
17日　6時～7時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか7名
議　事　(1)第43回工高生デザインコンクール実施報告
(2)次年度第44回工高生デザインコンクール募集規定の件

出版委員会

第8回出版委員会
18日　5時半～6時半・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか9名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定

建築クラブ

第308回朝食会
9日　8時半～10時・於リーガグランドホテル
演　題　遊びの文化と歌かるた
―小倉百人一首かるた競技―
講　師　澤井敏郎氏（㈳日本かるた協会八段）
参加者　54名

第5回建築クラブ役員会
9日　10時10分～10時40分・於リーガグランドホテル
出席者　田村運営委員長ほか5名
議　事　3月例会および平成10年度上半期のスピーカー候補

建築関係団体合同忘年懇親会

12日　6時～7時半・於太閤園
参加者　303名

◀会員の訃報
正会員　井上　滉（高橋上田設計事務所）1998年2月6日

INAX

KILAMIC

公共トイレは、抗菌トイレ。

INAXの抗菌商品キラミック、価格据置きで大好評発売中!



INAXなら、『トイレ空間をまるごと抗菌化』できます。

現代人は清潔好き。臭いや汚れに敏感です。そこでINAXのキラミック。便器をはじめタイル、目地や洗面器も抗菌化しました。便器の汚れや臭いは、バイキンが主な原因。99%以上の減菌率を誇るキラミックならバイキンが原因で起きる汚れの付着や臭いの発生を抑えます。このためお手入れやお掃除も簡単になりました。そのうえ、INAXはトイレ空間をまるごと抗菌キラミックに。価格は据置き、安全で耐久性に優れ、ユーザーの志向に応えるキラミックのトイレ空間は、多くの方が利用する公衆施設のトイレにピッタリです。

1. 抗菌で清潔

キラミックはオリゴジナミー効果で99%を越える高い減菌率。バイキン汚れの付着を抑え清潔です。そのうえ、効果もながつづきします。釉薬面に損傷がないかぎり抗菌性は持続します。

■ 小便器用脱着トラップの汚れ付着比較試験

公共トイレの並列する2つの小便器で、掃除を行わずに約3週間使用。汚れのつき方にはっきりとした差が確認できます。



2. メンテナンスも簡単!

バイキン汚れが付きにくく、便器のぬめりや排水口汚れなどの清掃がカンタン。清潔感だけでなくメンテナンス作業の低減にも威力を発揮します。

■ 洗面器排水口まわりの汚れ付着比較試験

オフィストイレの並列する2つの洗面器で、掃除を行わずに約1ヵ月間使用。キラミック抗菌仕様と従来仕様とで汚れのつき方に差が現れました。





★お問い合わせはこちらへ★

株式会社INAX　名古屋支社

〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目16番20号

グリーンビル TEL052-201-1717

※一部商品は抗菌ではない場合もあります。
詳しくはカタログにてご確認ください。



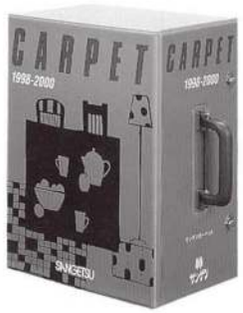
人にやさしい清潔カーペット

防ダニ・抗菌加工カーペットの充実。

無地カーペット57柄中40柄のパイルまたは第1基布に防ダニ・抗菌剤を練り込んでありますので、長期間、安定した効果が持続します。

カーペットはホルマリンを使用していません。

カーペットは製造工程でホルマリンを使用していませんので、室内のホルムアルデヒド濃度に影響を与えません。



新見本帳
発売

人と部屋の間に。
サンゲツ

株式会社サンゲツ
名古屋市西区幅下1-4-1　TEL.052-564-3111

ショールーム

東京	TEL.03-3505-3300	岡山	TEL.086-292-3300
名古屋	TEL.052-564-3225	広島	TEL.082-233-3551
大阪	TEL.06-440-5011	福岡	TEL.092-441-5181

三晃金属工業株式会社
Sanko

屋根を創る
屋根を守る
屋根を活かす



金属屋根工事・防水工事・塗装工事・建材

全国に広がる販売網と施工体制

三晃金属工業株式会社

本　　社　東京都中央区京橋2―9―2 第1ぬり彦ビル　〒104-0031 ☎03(3567)3557

名古屋支店　名古屋市中村区名駅3-25-9堀内ビル4F　〒450-0002 ☎052(582)0311(代表)
静岡営業所　静岡市追手町9-22 読売ビル5F　〒420-0853 ☎054(253)2175～6
浜松営業所　浜松市向宿2-1-7 PURE IIビル3F　〒430-0851 ☎053(462)4330
三重営業所　津市桜橋2-114-1 丸山ビル2F　〒514-0003 ☎0592(26)1011
三河営業所　岡崎市宇頭北町1-4-7　〒444-0906 ☎0564(32)0891～2
岐阜営業所　岐阜市清766-1 飛鳥93ビル1F　〒500-8346 ☎0582(74)9031～2

TOSHIBA

エネルギーとエレクトロニクス
E&Eの東芝

エレメイトニュールミナス 2

NEW LUMINOUS



●人と環境の美しい調和をモチーフに設計された、ゆとり感覚あふれるニューデザイン

●快適な移動のために情報システムで制御された数々のインテリジェント機能を搭載

●ヘリカルギヤを新採用し、大幅な省エネルギー化とランニングコストの低減化を実現

● IGBT の採用と制御回路のデジタル化により、より静粛で滑らかな走行性能を発揮

●お問い合わせは…**東芝エレベータ販売株式会社** 名 古 屋 支 店
名古屋市中村区名駅南 1 —24—30（名古屋三井ビル本館）☎ (052)564—8517

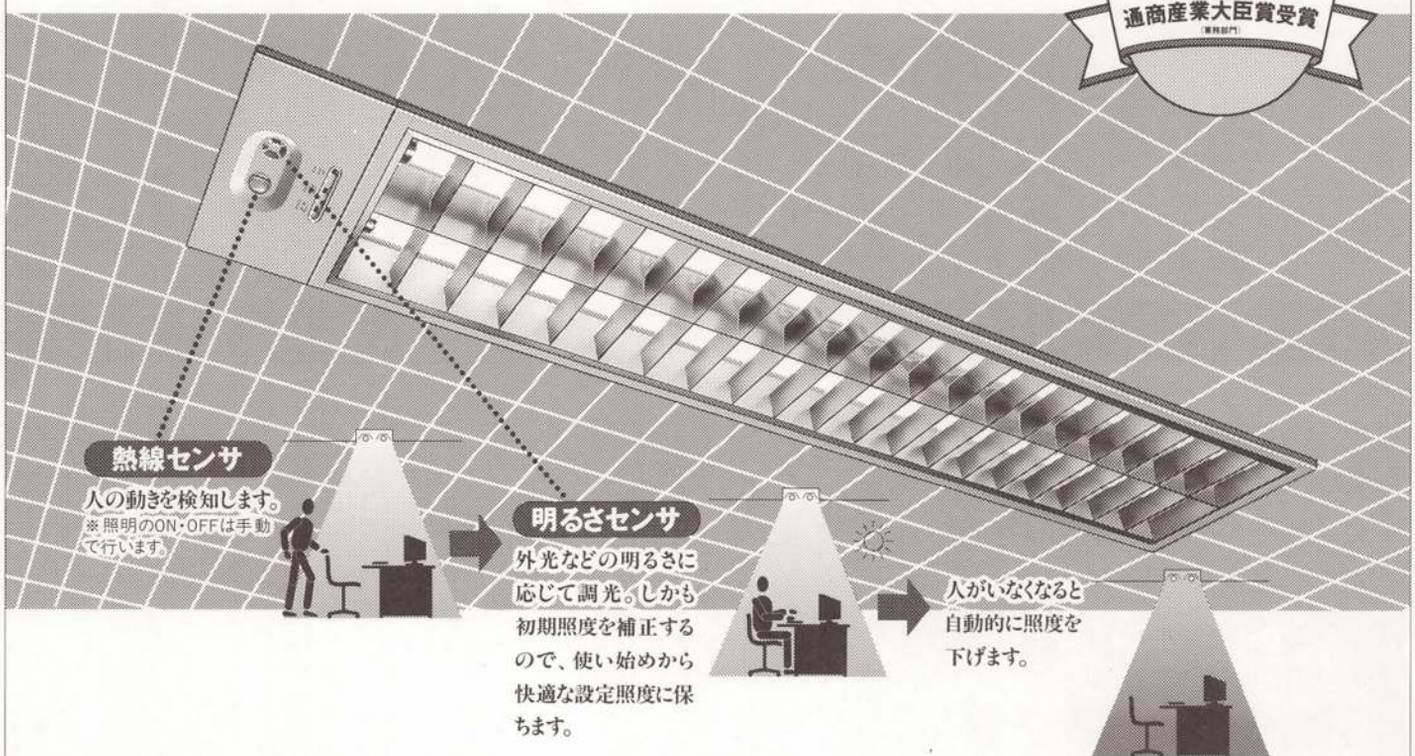
熱線センサ　明るさセンサ

National
松下電工

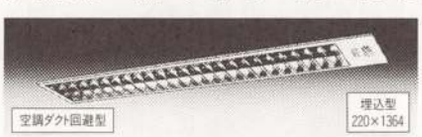
人や光を感じて明るさをコントロールする省エネ照明。

照明器具とセンサ・制御システムを一体化した全く新しいタイプのオフィス照明。器具単独で明るさをコントロールできるため、省エネが可能なほか、制御システムが不要で設計・施工も容易です。

第8回 平成7年度
省エネバンガード21
通商産業大臣賞受賞
[業務部門]



器具単独で明るさコントロール。だから、約42%※も省エネです。



HfフリーコンフォートOA CLASSⅡ Hf蛍光灯32W2灯
フリーF4256HDY標準価格74,500円(税・工事費別)
●セルフコントロール器具1台で、同タイプセンサなし器具(フリーF425HDY)を3台まで制御できます。

※セルフコントロールAN(明るさセンサ・熱線センサ付連続調光タイプ)と当社従来器具(フリーF426CY)との比較の場合

明るさセンサ
●初期光出力の調整による省エネ:約15%
●外光利用による省エネ:約10%

熱線センサ
●不在時調光による省エネ:約15%

(当社シミュレーション条件による比較)

ナショナル Hf セルフコントロール照明器具

※セルフコントロール照明器具は、効果的な省エネを行うため、用途に合わせて4タイプがあります。
詳しくはHf照明専用カタログをご覧ください。

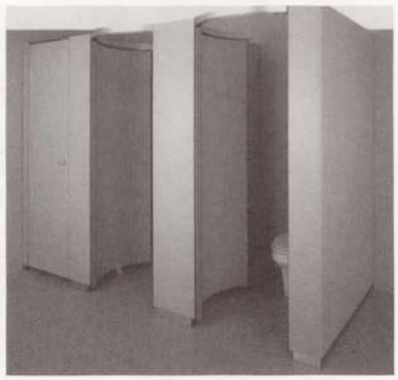
快適照明空間づくりを
松下電工が
お手伝いします

■テクニカル(EC)とデザイニング(D&C)のプロフェッショナル集団をご活用ください。

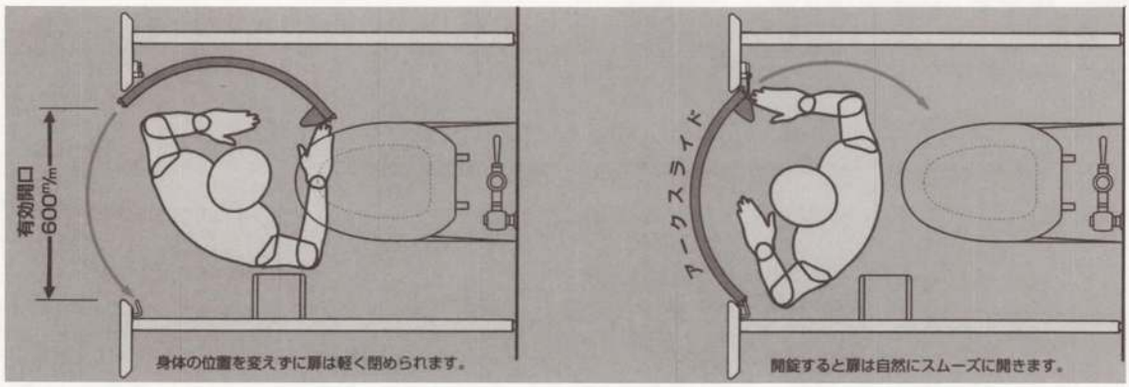
―お問い合わせは ―松下電工株式会社 中部特機営業部　TEL.052-586-2616　FAX.052-561-1688

画期的な扉の開閉(アークスライド)方式を採用した

トイレブース **ウェイブレット**

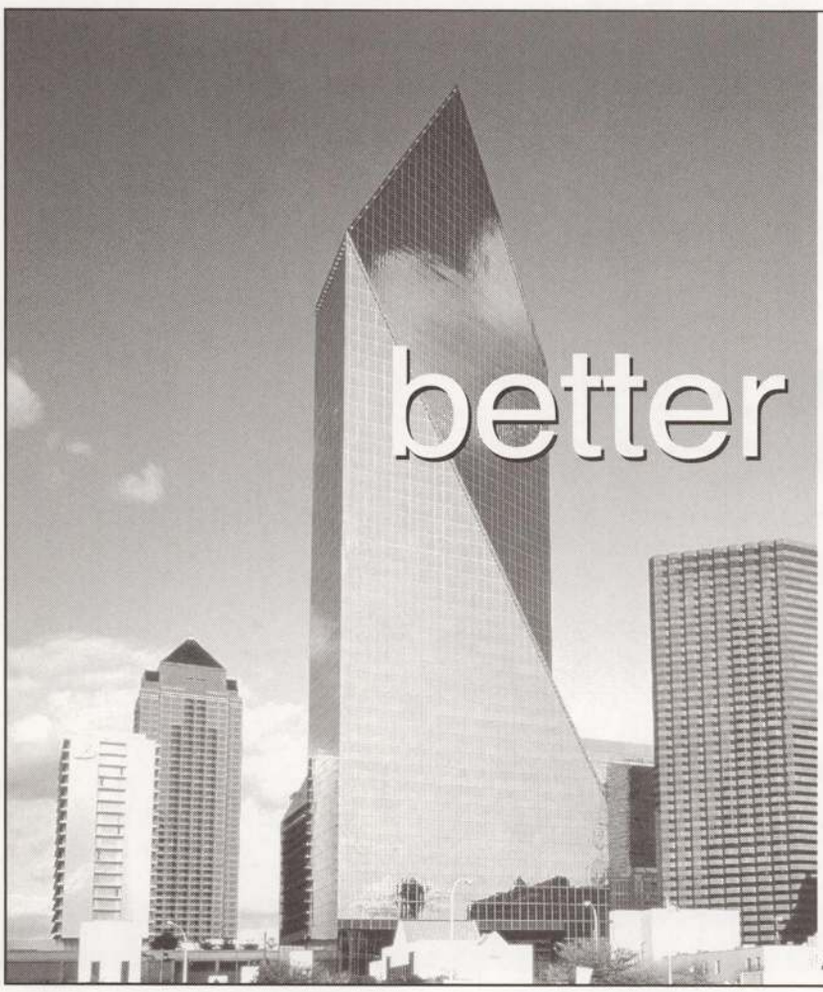


スペースの限られたトイレブースでは、扉の間口寸法が小さい内開き扉が主流ですが、扉の開閉の為に、どうしても使う人の動作が大きくなりますし、外開き扉では、急に扉を開けると通路にいる人と接触する危険があります。そのような問題を解決するために、扉のあるべきカタチと、動きを追及して生まれた（アークスライド）の扉開閉方式。扉は使う人のまわりをとり巻くように動きますので、開け閉めが大変ラクでスムーズに行えます。
操作性と安全性に優れたウェイブレット。やさしく、快適なトイレ空間が構成できます。



よい品は結局おトクです
オカムラ 株式会社 岡村製作所 建材事業本部名古屋南支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-11-30 セントラルビル１Ｆ TEL052(221)6773

お問い合わせ・ご相談は◎お客様サービスセンターへ
フリーダイヤル0120-81-9060 月曜～金曜(祝祭日を除く) 9：00AM～6：00PM



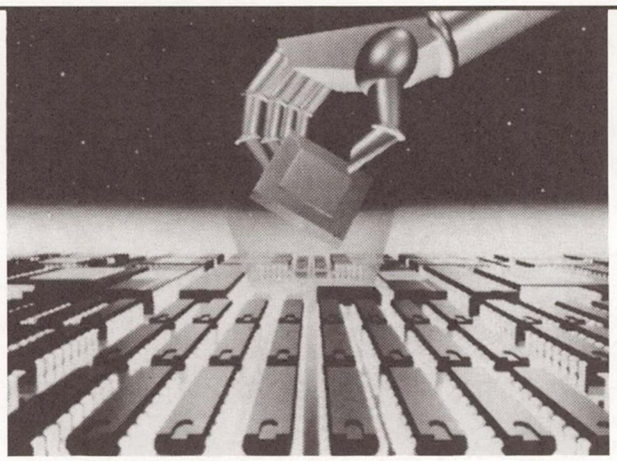
三協アルミ

better to BEST

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。
住宅用建材からビル用建材まで。
三協アルミの技術です。

ALLIED BANK TOWER

三協アルミニウム工業株式会社
〒933-8610 富山県高岡市早川70 広報室 TEL 0766-20-2332
ホームページ http://www.sankyoalumi.co.jp/



業務内容

- 工場設備・ビル設備の販売及び据付
- 産業用電機・電子機器の販売
- 家電製品及び住宅用設備機器の販売
- 情報通信機器、制御システムの開発・製造
- 洗浄装置、検査装置の開発・製造
- 空調設備、クリーンルーム等の設計施工・保守
- 電気工事、通信工事の設計施工・保守

東朋テクノロジー株式会社

取締役社長　富田和夫

本　社／〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目10番22号　TEL(052)251-7211(代)
工　場／〒492-8074 稲沢市下津下町東五丁目1番地　TEL(0587)24-1211(代)
事業所／豊田・名古屋南・大垣・江南・上海駐在員事務所/上海東朋電子技術有限公司

ニチベイは、快適な光空間の創造を目指します。



商品名／電動ウカイ式ロールスクリーン(特殊仕様)

窓装飾と間仕切りの専門メーカーとして、
つねにマーケットニーズを見つめ、
ホームユースからコントラクトユースまで、
幅広い商品づくりを心がけてきました。
これからも、ニチベイは、
機能性とデザイン性に富んだ、
さまざまな商品を通じて
快適空間の創造を目ざします。

株式会社ニチベイ
本社／〒103-0027 東京都中央区日本橋3-15-4
ビル事業部 営業推進室／〒103-0027 東京都中央区日本橋3-15-4 TEL.(03)3272-2233
〒454-0022 名古屋市中川区露橋1-16-19 TEL.(052)354-7011

Panasonic

文化とデザインの新しい情報発信ゾーンで最新AVシステムが活躍

ホーム音響・映像システム／各種AVシステム

ナディア・パーク
(名古屋市青少年文化センター(アートピア))
(国際デザインセンター(デザインホール))



松下電器産業株式会社 公共システム営業本部中部支店
〒461-0001 名古屋市東区泉1丁目23-30 TEL052-962-5345

新登場!

特長
1.屋上のペントハウスが不要のマシンルームレス!
2.ワイドなカゴ室を実現!
3.維持費の低減を可能にした省エネタイプ!
4.乗った方向のまま降りられる二方向出入口が可能!

MITSUBISHI
SOCIO-TECHの三菱電機

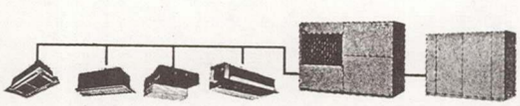
それは、みんなのエレベーターです。
三菱中低層共同住宅用エレベーター

MEL WIDE
メルワイド

三菱電機株式会社 中部支社 ビルシステム部
名古屋市中村区名駅3丁目28番12号(大名古屋ビル内) TEL〈052〉565-3160

おトクな夜間電力を利用して、一気に省コスト冷暖房。
三菱の「氷蓄熱」なら、省エネ時代にふさわしく、夜間電力を昼間の空調に有効利用。だから、年間を通して低コストな冷暖房が実現します。

MITSUBISHI
SOCIO-TECHの三菱電機



室内ユニット
(13・16馬力システム)
室外ユニット
蓄熱槽ユニット

日本冷凍空調学会技術賞 受賞

シティマルチICE Y

三菱電機株式会社 中部支社 冷熱システム部 TEL052—565—3220

●世界のロックメーカー

リモコンキーのボタンを押すだけで、楽楽（らくらく）施解錠！

電池式なので配線不要、取付けも簡単です。

■錠の施解錠は扉に近づいて（1m以内）リモコンキーのボタンを押すだけ、音で確認もできます。
■リモコンキーの登録と抹消は錠本体の制御部で簡単に行え、鍵違い数は約2億6千万通りです。
■錠本体に電源・制御部・アンテナを一体化、安価にリモコンキーシステムが利用できます。
■電源配線工事が不要で取付けも簡単です。
■リモコン錠、リモコンキーの電池寿命は約1年、電池交換はドライバー1本で簡単にできます。

＊その他、エントランスの自動ドア、宅配BOX、駐車場ゲートなどリモコンキーとの連動も可能です。



MIWA

美和ロック株式会社

名古屋支店／名古屋市千種区千種3丁目37番13号 TEL.052(731)0555(代) 〒464-0858
東京本社／東京都港区芝3丁目1番12号 TEL.03(3452)5551(代) 〒105-8510
美和ロックについてはホームページでもご案内しています。http://www.miwa-lock.co.jp/

TOF フッ素樹脂積層被覆鋼板 & COM 耐酸被覆鋼板



ＪＲ東日本東京駅中央線重層化改良工事

「**耐酸被覆鋼板**」のパイオニアとして約半世紀の経験を生かし、新たに「**フッ素樹脂積層被覆鋼板**」を製品群に加えました。
建築物の耐久性と、独創的な色彩と外観をクリエイトします。

■フッ素樹脂積層被覆鋼板
ＴＯＦ（タフフロール）
■耐酸被覆鋼板
ＣＯＭ（ケミカラーオーシマメタル）
ＥＢＭ（エバーブライトメタル）

OSHÍMA OHYO

本社　大阪市旭区太子橋1-15-22　Tel.06(954)6521　Fax.06(954)6480
大島応用化学工業株式会社　●支店 東京、名古屋、新居浜 ●工場 新居浜、寝屋川 ●営業所 四日市、岡山、広島、宇部、福岡

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3 電0720－49－2128

空気調和設備
給排水設備
電気設備

産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530-0047
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・岐阜・三重・鳥取・岡山・高松・下関・大分・熊本・宮崎・鹿児島

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）768－5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）768－1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号（日本生命小石川ビル7階）
〒112-0002　電話（03）5689－2351代表

夢×技=∞（無限大）
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(313)1101
創業1919

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06（361）3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

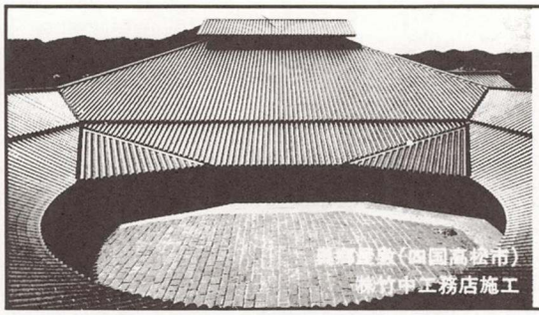
電気設備 ㊅ 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06 (385)1361(代)
大阪営業所　〒564-0062 吹田市垂水町3丁目34－6 電話06 (385)1361(代)
京都営業所　〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所　〒650-0035 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
あかと青があふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社　大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長　伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO 三宝電機株式会社
取締役社長　嘉納秀一
本　社　〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105-0003 東京都港区西新橋3-9-3ランディック第6ビル　TEL.03(5472)3311・FAX03(5472)0085
名古屋支店　〒462-0847 名古屋市北区金城3-12-14　TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657-0035 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル　TEL.078(842)6411・FAX078(842)6416
原研究所　〒590-0906 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス　五六一～七四五四
施工例 徳島県(四国高松市)
徳竹中工務店施工

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(792)5858　FAX06(792)2810

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530-0043 大阪市北区天満2丁目5番15号　TEL.06(352)7502(代)
FAX.2F事務所 06(355)2714 3F制作06(357)7250

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081－2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

特殊壁装材製造販売　和室に最適

●聚楽壁紙 ●ホクシノン（無機質壁紙）

(株)ホクシンクロス

〒583-0881　大阪府羽曳野市島泉８－173－１

TEL（0729）39－3610

工場　〒580-0046 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号

第一　〒639-1042 奈良県大和郡山市小泉町２７４４

第二　〒597-0051 大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.

コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材

高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材

Master Builders Technologies

株式会社 エヌエムビー

株式会社 ポゾリス物産

本　社：東京都港区六本木３－16－26

大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)

TEL06-202-3294

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に

●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに

●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に

●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入

●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220

舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪（06）332－6861

TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社

TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社

TEL 大阪（06）252－6000

東郷化成株式会社

TEL 滋賀・守山（0775）83－2381

TEL 大阪（06）877－1581

快適な明日を提案する
TOYO Shutter

ビルに居たまま、
耐震補強と
外装リニューアル。



日本のビルを生まれ変わらせる新工法『ビルファイン・マーク2』。

外装改修システム『ビルファイン』をさらに発展させて、既存建物の外側構面に補強ブレースやその他の装置を配置することで、耐震補強と外装リニューアルを同時に行う新工法『ビルファイン・マーク2』。工事中も、建物内部はそのまま使用できます。(鹿島建設株式会社との共同開発)

耐震補強・省エネ外装改修システム
BUILFINE®

東洋シヤッター株式会社

本　　社 〒540-0024 大阪市中央区南新町1-2-10ＴＳビル ☎06 (943)6571
名古屋支店 〒454-0851 名古屋市中川区北江町2-12 ☎052(352)8061

三和シャッター

都市アート計画。



ビルの表情を個性ゆたかに彩る、三和のステンレス建材です。

どこまで個性を主張できるか。どれだけ都市に美しく調和できるか。それが、これからの建築に求められる大きなテーマです。三和のステンレス建材なら、建物のイメージにあわせてデザインは自由自在。その高級感あふれる質感と、耐蝕性にすぐれた特性を活かし、ビルのフロントはもちろん、インテリアからエクステリアまでを個性ゆたかに彩ります。ビルに、都市に、アート感覚をプラスする、先進のマテリアルです。

STAINLESS
CONSTRUCTION MATERIAL

三和シヤッター工業株式会社

本社　〒163-0490 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階 ☎03(3346)3011(代表)
中部ビル建材事業部　〒450-0003 名古屋市中村区名駅南3-6-13 ☎052(582)3030

社団法人 日本建築協会　〒530-0001 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634 振替口座〇〇九一〇-九一三九九七五
定価1,200円（●本体1,143円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収